

東京都 学校歯科医会 会誌

創立**70**周年・法人化**40**周年記念号

第82号
平成31年3月



建設中の新国立競技場

創立70周年、法人化40周年を 迎えて



一般社団法人 東京都学校歯科医会

会長 末高 英世

この度、一般社団法人東京都学校歯科医会は、創立70周年、法人化40周年という記念すべき年を迎えることができました。これも関係各位の皆様方のたゆみないご支援とご協力の賜と深く感謝申し上げます。

本会の歴史を紐ときますと、明治維新以降、政府が教育を最重要課題とし取り組んできたなかで、学校歯科保健教育も並行して進んできたように思えます。

- 明治4年、文部省が設置。
- 明治12年、教育令が公布。
- 明治21年、文部省は学生生徒の体格検査の様式を定め直轄学校に対し活力検査を行う（学校身体検査のはじまり）。
- 明治34年、東京市麹町区内6小学校に学校身体検査臨時補助員として歯科医師を委嘱。
- 大正10年、本郷区の学校歯科医によって東京市本郷区学校歯科医会が設立され、本会の始祖となる。
- 昭和2年、東京市学校歯科医会が設立。
- 昭和4年、東京府令で学校歯科医の設置が決定。
- 昭和6年、「学校歯科医及び幼稚園歯科医令」の公布により、国として学校歯科医の制度が開始。

これらの歴史を経て、戦後、新憲法・新教育基本法・学校教育法等が昭和22年に施行され、小学校と同時に新制中学、更に新制高校にも学校歯科医が置かれるようになった昭和23年を機に、東京都全域を範疇とした東京都学校歯科医会が新たに発足しました。それから数えて70周年を迎えたわけです。また、本会は昭和54年に社団法人となり、法人化40周年の節目の年にもなります。

10年前の周年事業から今日まで、目まぐるしく変遷する社会環境に伴い、「学校保健法」は「学校保健安全法」に改題され、学校における安全管理に関する条項が加えられました。凶悪な犯罪や事故から子供たちの安全を守ることは重要な課題となっています。また、新たに子供たちの心身の健康に関する健康相談や保健指導に従事することなども、学校歯科医の職務に加わりました。

また平成30年度には、学校での健康診断時の際、「口腔機能発達不全症」について発達段階に応じたの評価も求められています。このようなことから、かかりつけ歯科医との連携はこれまで以上に重要となり、学校歯科医の役割は今後、ますます広範囲になることが予想され、同時に学校歯科医に対する国民からの期待は増すばかりと思われれます。

そこで、本会はその負託にさらに沿えるよう平成25年に取得した一般社団法人から、平成31年4月には公益社団法人へ移行できるよう準備を整えています。これを機に今後10年、20年先を見越して、子供たちが自分自身で適切な健康管理や生活習慣を習得できるよう、私たち学校歯科医自身もさらなる研鑽を積み、学校保健教育に寄与できる体制を構築しなければなりません。

本会は、先達の学校歯科保健に対する強い思いによって明治・大正・昭和・平成と激動の時代を連綿と受け継がれ、東京は日本の先頭に立ち主導的な役割を果たして参りました。これからも東京都学校歯科医会は、子供たちの健全育成のために、長い歴史と伝統ある団体として名に恥じないよう、さらに鋭意努力して参りたい所存です。

創立70周年、法人化40周年にあたり、今まで本会に対して多大なるご支援、ご協力を頂戴いたしました関係各位に深く謝意を表すとともに、今後とも引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

○創立70周年・法人化40周年を迎えて	1
会長 末高 英世	
○創立70周年・法人化40周年記念式典・祝賀会	3
1. 10年間の歩み	17
2. 地区だより	77
3. 各種事業	103
4. 全国大会	141
5. 表彰受賞者（平成21年度～30年度）	159
6. 歴代役員・委員名簿（平成21年度～30年度）	167
7. 学校保健統計（平成21年度～30年度 DMFT）	185
8. 平成30年度の活動	197
【グラビア】平成30年度 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール	199
第53回東京都学校歯科保健研究大会 特別講演	
パラリンピアンが考えるスポーツの力	203
株式会社電通パブリックリレーションズ シニアコンサルタント	
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 理事	
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 顧問	
渋谷区教育委員会 委員	
大日方邦子	
平成30年度学校保健（学校歯科医）研修会	
小児期の口腔機能と歯列・咬合の育成	213
神奈川歯科大学大学院 口腔統合医療学講座 小児歯科学分野 教授 木本 茂成	
研究発表 平成29・30年度生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業	
望ましい生活習慣の形成を目指す歯・口の健康づくりと	
歯・口の外傷の防止	220
台東区立東浅草小学校 学校歯科医 久保 和彦	
主任養護教諭 菊池えり子	
■ 平成30年度全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校	226
■ 平成30年度東京都学校歯科保健功労者表彰者	227
■ 平成30年度「歯の作文」優秀入賞者	228
■ 平成30年度「歯の作文」優秀作品	229
■ 平成30年度「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」入賞者	244
■ 平成30年度「歯・口の健康啓発標語コンクール」応募者	248
■ 平成29年度収支計算書	249
■ 平成30年度収支予算書	252
■ 編集後記	255

〔東京都学校歯科医会〕 創立70周年・法人化40周年記念 式典・祝賀会

◆日時 平成31年2月28日(木) 18時

◆東京ドームホテル「天空」

大会終了後は、記念式典・祝賀会となり祝賀ムード溢れる楽しい会となった。



末高英世会長挨拶



日本学校歯科医会会長
川本 強 様



東京都教育委員会教育長(代理)
西海哲洋 様



東京都学校保健会会長
尾崎治夫 様



東京都歯科医師会会長
山崎一男 様



東京都歯科医師連盟会長
大越壽和 様



表彰者代表 大橋正昭先生



謝辞 財部 洋先生



開会のことば
鈴木 博副会長



閉会のことば
長沼善美副会長



司会の勝田香子さん



石川文一監事による乾杯







祝賀会場のパノラマ

一般社団法人 東京都学校歯科医会
創立70周年・法人化 40周年記念式典・祝賀会
式 次 第

日 時 平成31年 2月28日 (木) 午後6時～
会 場 東京ドームホテル「天空」

	司 会 勝田 香子
開 会	一般社団法人 東京都学校歯科医会 副会長 鈴木 博
会長挨拶	一般社団法人 東京都学校歯科医会 会長 末高 英世
来賓祝辞	一般社団法人 日本学校歯科医会 会長 川本 強
	東京都教育委員会 教育長 中井 敬三
	一般財団法人 東京都学校保健会 会長 尾崎 治夫
	公益社団法人 東京都歯科医師会 会長 山崎 一男
	東京都歯科医師連盟 会長 大越 壽和

平成30年度 学校歯科医30年勤続者表彰
平成30年度 表彰受賞者顕彰

謝 辞	厚生労働大臣表彰 受賞者 財部 洋
乾 杯	一般社団法人 東京都学校歯科医会 監事 石川 文一
祝 宴	
閉 会	一般社団法人 東京都学校歯科医会 副会長 長沼 善美

(敬称略)

ご招待者名 (順不同・敬称略)

日本学校歯科医会会長	川 本 強	東京都教育庁都立学校教育課学校健康推進課統括課長代理 (保健管理担当) 金子 明 代
日本学校歯科医会副会長	齋 藤 秀 子	
日本学校歯科医会副会長	柘 植 紳 平	東京都福祉保健局医療政策部 三ツ木 浩
日本学校歯科医会副会長	平 塚 靖 規	医療政策課歯科保健担当課長
東京都教育委員会教育長	中 井 敬 三	東京都学校保健会会長 尾 崎 治 夫
東京都教育庁次長	西 海 哲 洋	東京都学校保健会副会長 井 上 優美子
東京都教育庁地域教育支援部部長	太 田 誠 一	東京都学校保健会副会長 高 橋 齊
東京都教育庁都立学校教育課部長	江 藤 巧	東京都学校保健会専務理事 正 木 忠 明
東京都教育庁地域教育支援部健康教育担当課長	吉 井 英 司	東京都歯科医師会会長 山 崎 一 男
東京都教育庁都立学校教育課学校健康推進課課長	石 丸 雄 二	東京都歯科医師会副会長 井 上 恵 司
東京都教育庁地域教育支援部歯科保健担当課長	山 田 善 裕	東京都歯科医師会副会長 勝 俣 正 之
東京都教育庁地域教育支援部義務教育課課長代理 (健康推進担当)	江 頭 正 晃	東京都歯科医師会副会長 阪 柳 敏 春
東京都教育庁地域教育支援部義務教育課課長代理 (学校保健担当)	大 栗 真 一	東京都歯科医師会専務理事 湯 澤 伸 好
		東京都歯科医師会理事 山 本 秀 樹
		東京都歯科医師連盟会長 大 越 壽 和
		東京都歯科医師連盟副会長 石 島 弘 己
		東京都歯科医師連盟副会長 佐 藤 剛

東京都歯科医師連盟専務理事	岡 本 徹	厚生労働大臣表彰受賞者	財 部 洋
東京都歯科医師連盟常任理事	大 沢 明 雄	東京都功労者表彰受賞者	赤 司 幸 勇
文京区区長	成 澤 廣 修	東京都功労者表彰受賞者	臼 井 潔
文京区教育委員会教育長	佐 藤 正 子	東京都功労者表彰受賞者	岩 田 祐 幸
東京都歯科衛生士会会長	富 田 基 子	東京都功労者表彰受賞者	湯 浅 庸 子
東京都養護教諭研究会会長	佐 草 佐恵子	東京都功労者表彰受賞者	長 沼 善 美
東京都立高等学校学校保健研究会幹事	広 瀬 菜々子	東京都功労者表彰受賞者	後 藤 伊都子
東京都学校保健研究会会長	大 田 裕 子	東京都功労者表彰受賞者	駒 津 栄 雄
東京都小学校PTA協議会会長	奥 村 透	東京都功労者表彰受賞者	伊 藤 憲 春
東京都公立中学校PTA協議会会長	井 門 明 洋	東京都功労者表彰受賞者	唐 見 和 男
東京都公立高等学校PTA連合会会長	池 本 義 信	東京都教育委員会表彰受賞者	清 水 浩 一
東京私立初等学校協会会長	小 泉 清 裕	東京都教育委員会表彰受賞者	渡 邊 文 秀
大阪府学校歯科医会会長	田 幡 純	東京都教育委員会表彰受賞者	宮久保 東 秀
明海大学学長	安 井 利 一	東京都教育委員会表彰受賞者	八ッ繁 悟
東京歯科大学生理学講座教授	澁 川 義 幸	東京都教育委員会表彰受賞者	玉 城 肇
日本歯科大学附属病院小児歯科教授	内 川 喜 盛	東京都教育委員会表彰受賞者	佐 藤 仁 彦
東京医科歯科大学健康推進歯学分野教授	川 口 陽 子	東京都教育委員会表彰受賞者	林 健 博
株式会社電通パブリックリレーションズシニアコンサルタント		東京都教育委員会表彰受賞者	久保田 博 康
日本障がい者スポーツ協会理事	大日方 邦 子	東京都教育委員会表彰受賞者	中 山 実
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問		東京都教育委員会表彰受賞者	鈴 木 博
渋谷区教育委員会委員		東京都教育委員会表彰受賞者	宇 美 隆 生
東京学芸大学名誉教授・博士(教育学)	増 田 金 吾	東京都教育委員会表彰受賞者	治 田 晶 彦
千代田区立麹町小学校校長	額 賀 聡	東京都教育委員会表彰受賞者	三 井 博
千代田区立和泉小学校校長・ 千代田区教育会国語部長	渡 辺 裕 之	東京都教育委員会表彰受賞者	吉 田 隆 義
台東区立東浅草小学校校長	伊 東 悌 夫	東京都教育委員会表彰受賞者	山 根 秀 樹
台東区立東浅草小学校主任養護教諭	菊 池 えり子	東京都教育委員会表彰受賞者	三 浦 健 二
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	可 知 和 之	東京都学校歯科医会元会長	櫻 井 善 忠
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	千 川 典 子	東京都学校歯科医会元副会長	磯 部 茂
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	坪 井 秀 介	東京都学校歯科医会元副会長	由 井 孝
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	花 岡 新 八	東京都学校歯科医会前副会長	小 嶋 憲
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	大 橋 正 昭	東京都学校歯科医会元専務理事	小 貫 克
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	景 山 正 登	東京都学校歯科医会元理事	大 谷 修 作
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	塩 津 一 郎	東京都学校歯科医会元理事	船 木 純 三
平成30年度 30年勤続表彰受賞者 (故)	高 橋 利 武	東京都学校歯科医会元理事	澤 正 宏
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	荒 井 雄 一郎	東京都学校歯科医会元理事	弘 中 玲 子
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	鏡 一 郎	東京都学校歯科医会元理事	高 野 直 久
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	對 馬 澄 夫	東京都学校歯科医会元理事	橋 本 健 一
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	松 永 良 治	東京都学校歯科医会元理事	吉 澤 雄 孝
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	高 木 佳 辰	東京都学校歯科医会元理事	東 川 輝 子
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	宮 内 均	東京都学校歯科医会前理事	中 村 卓 志
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	瀬 尾 育 義	東京都学校歯科医会前理事	長 井 博 昭
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	酒 井 克 典	東京都学校歯科医会前理事	牧 野 寛
平成30年度 30年勤続表彰受賞者	笹 川 樹	東京都学校歯科医会前理事	後 藤 有 里
文部科学大臣表彰受賞者	酒 井 克 典	東京都学校歯科医会元監事	難 波 昭 一

東京都学校歯科医会元監事	荒 木 良 子	東京都学校歯科医会参事（東村山）	小 西 勇 人
東京都学校歯科医会前監事	吉 田 慶 造	東京都学校歯科医会参事（西東京）	田 中 大 平
東京都学校歯科医会参事（麹町）	愛 知 徹 也	東京都学校歯科医会参事（武蔵村山）	比留間 修 一
東京都学校歯科医会参事（神田）	今 村 昭二郎	東京都学校歯科医会参事（昭島）	村 山 恒 夫
東京都学校歯科医会参事（日本橋）	吉 成 伴 夫	東京都学校歯科医会参事（調布）	小田切 秀 男
東京都学校歯科医会参事（京橋）	中 村 道	東京都学校歯科医会参事（清瀬）	松 村 猛
東京都学校歯科医会参事（港区芝）	華 岡 眞 幸	東京都学校歯科医会参事（東大和）	黒 米 讓 二
東京都学校歯科医会参事（麻布赤坂）	清 水 浩 一	東京都学校歯科医会参事（狛江）	塩 谷 達 昭
東京都学校歯科医会参事（文京）	高 橋 健 二	東京都学校歯科医会参事（日野）	服 部 保 宏
東京都学校歯科医会参事（下谷）	秋 山 欣 也	東京都学校歯科医会代議員（麹町）	山 林 豊
東京都学校歯科医会参事（浅草）	久 保 和 彦	東京都学校歯科医会代議員（神田）	加賀山 文 雄
東京都学校歯科医会参事（本所）	丸 山 満 博	東京都学校歯科医会代議員（日本橋）	林 準 治
東京都学校歯科医会参事（向島）	高 田 敬 一	東京都学校歯科医会代議員（京橋）	今 村 純一郎
東京都学校歯科医会参事（足立）	岡 谷 進	東京都学校歯科医会代議員（港区芝）	華 岡 眞 幸
東京都学校歯科医会参事（江東）	小 川 仲 子	東京都学校歯科医会代議員（麻布赤坂）	藤 野 瑠 男
東京都学校歯科医会参事（葛飾）	飯 塚 務	東京都学校歯科医会代議員（文京）	竹 内 千 恵
東京都学校歯科医会参事（江戸川）	金 丸 充 徳	東京都学校歯科医会代議員（下谷）	岩 間 隆 洋
東京都学校歯科医会参事（四谷牛込）	磯 谷 亮	東京都学校歯科医会代議員（浅草）	今 村 里千矢
東京都学校歯科医会参事（新宿）	星 野 太 一	東京都学校歯科医会代議員（本所）	丸 山 満 博
東京都学校歯科医会参事（渋谷）	長 田 博 史	東京都学校歯科医会代議員（向島）	高 田 敬 一
東京都学校歯科医会参事（中野）	酒 井 秀 夫	東京都学校歯科医会代議員（足立）	岡 谷 進
東京都学校歯科医会参事（杉並）	山 崎 靖	東京都学校歯科医会代議員（足立）	石 渡 利 幸
東京都学校歯科医会参事（品川）	丸 山 進一郎	東京都学校歯科医会代議員（江東）	小 川 仲 子
東京都学校歯科医会参事（荏原）	辛 島 清 史	東京都学校歯科医会代議員（江東）	杉 山 日出樹
東京都学校歯科医会参事（目黒）	益 山 純 太	東京都学校歯科医会代議員（江東）	齋 藤 秋 人
東京都学校歯科医会参事（大森）	東 昇 一	東京都学校歯科医会代議員（葛飾）	飯 塚 務
東京都学校歯科医会参事（蒲田）	小 林 正 幸	東京都学校歯科医会代議員（葛飾）	嶋 田 直 季
東京都学校歯科医会参事（世田谷）	伊 奈 幹 晃	東京都学校歯科医会代議員（江戸川）	金 丸 充 徳
東京都学校歯科医会参事（玉川）	渡 邊 嗣	東京都学校歯科医会代議員（江戸川）	菊 地 康 宏
東京都学校歯科医会参事（豊島）	長 田 英 生	東京都学校歯科医会代議員（江戸川）	倉 田 牧
東京都学校歯科医会参事（滝野川）	江 口 淳 一	東京都学校歯科医会代議員（四谷牛込）	松 本 一 彦
東京都学校歯科医会参事（北）	渡 邊 和 仁	東京都学校歯科医会代議員（新宿）	星 野 太 一
東京都学校歯科医会参事（荒川）	横 井 伸 洋	東京都学校歯科医会代議員（渋谷）	長 田 博 史
東京都学校歯科医会参事（板橋）	中 山 実	東京都学校歯科医会代議員（中野）	松 尾 公 代
東京都学校歯科医会参事（練馬）	草 柳 英 二	東京都学校歯科医会代議員（杉並）	伊 藤 公 英
東京都学校歯科医会参事（西多摩）	井 上 雄 温	東京都学校歯科医会代議員（杉並）	吉 野 勝 久
東京都学校歯科医会参事（多摩）	久 保 雅 幸	東京都学校歯科医会代議員（品川）	竹 内 正 和
東京都学校歯科医会参事（八王子）	渡 邊 実	東京都学校歯科医会代議員（荏原）	和 栗 範 幸
東京都学校歯科医会参事（町田）	澤 正 宏	東京都学校歯科医会代議員（目黒）	益 山 純 太
東京都学校歯科医会参事（府中）	野 間 秀 郎	東京都学校歯科医会代議員（大森）	村 田 正 夫
東京都学校歯科医会参事（三鷹）	堀 清 貴	東京都学校歯科医会代議員（大森）	吉 田 厚
東京都学校歯科医会参事（国分寺）	島 田 卓	東京都学校歯科医会代議員（蒲田）	中 田 裕 康
東京都学校歯科医会参事（東久留米）	鈴 木 普 久	東京都学校歯科医会代議員（世田谷）	神 田 隆 直
東京都学校歯科医会参事（立川）	竹 崎 秀 人	東京都学校歯科医会代議員（世田谷）	石 井 孝 典

東京都学校歯科医会代議員（玉川）	蒔田裕	東京都学校歯科医会学術研究委員会委員	嘉部曉
東京都学校歯科医会代議員（豊島）	高大松	東京都学校歯科医会学術研究委員会委員	荻原栄和
東京都学校歯科医会代議員（滝野川）	江口淳一	東京都学校歯科医会学術研究委員会委員	金田和彦
東京都学校歯科医会代議員（北）	渡邊和仁	東京都学校歯科医会学術研究委員会委員	峯岸大造
東京都学校歯科医会代議員（荒川）	宮坂芳弘	東京都学校歯科医会予算決算特別委員会委員長	澤正宏
東京都学校歯科医会代議員（板橋）	中山実	東京都学校歯科医会予算決算特別委員会副委員長	華岡眞幸
東京都学校歯科医会代議員（板橋）	鈴木勝	東京都学校歯科医会予算決算特別委員会委員	山林豊
東京都学校歯科医会代議員（練馬）	南誠二	東京都学校歯科医会予算決算特別委員会委員	飯塚務
東京都学校歯科医会代議員（練馬）	草柳英二	東京都学校歯科医会予算決算特別委員会委員	益山純太
東京都学校歯科医会代議員（練馬）	中田郁平	東京都学校歯科医会予算決算特別委員会委員	井上雄温
東京都学校歯科医会代議員（西多摩）	井上雄温	東京都学校歯科医会予算決算特別委員会委員	橋本健一
東京都学校歯科医会代議員（西多摩）	吉成勝海	東京都学校歯科医会選挙管理委員会委員長	和泉一清
東京都学校歯科医会代議員（多摩）	浅井英夫	東京都学校歯科医会選挙管理委員会副委員長	小林正幸
東京都学校歯科医会代議員（八王子）	山内英史	東京都学校歯科医会選挙管理委員会委員	愛知徹也
東京都学校歯科医会代議員（八王子）	岡部浩子	東京都学校歯科医会選挙管理委員会委員	久保和彦
東京都学校歯科医会代議員（八王子）	橋本直樹	東京都学校歯科医会選挙管理委員会委員	三好克則
東京都学校歯科医会代議員（町田）	澤正宏	東京都学校歯科医会選挙管理委員会委員	山口英也
東京都学校歯科医会代議員（町田）	咲間義輝	東京都学校歯科医会選挙管理委員会委員	角田不二彦
東京都学校歯科医会代議員（府中）	高木栄太郎	神田学校歯科医会・千代田区歯科医師会会長	船曳光雄
東京都学校歯科医会代議員（三鷹）	金子純一	港区芝学校歯科医会	片倉修
東京都学校歯科医会代議員（国分寺）	鹿島千佳	港区麻布赤坂学校歯科医会予備評議員	氏家賢明
東京都学校歯科医会代議員（東久留米）	田口耕平	文京区学校歯科医会副会長	山田敏弘
東京都学校歯科医会代議員（立川）	伊東祐太郎	文京区学校歯科医会理事	信森道生
東京都学校歯科医会代議員（東村山）	橋本健一	浅草学校歯科医会副会長	品川尚一
東京都学校歯科医会代議員（西東京）	田中大平	浅草学校歯科医会	小林てい子
東京都学校歯科医会代議員（武蔵村山）	土方靖夫	本所学校歯科医会理事	篠塚嘉昭
東京都学校歯科医会代議員（昭島）	松田武彦	本所学校歯科医会理事	篠崎譲二
東京都学校歯科医会代議員（調布）	小田切秀男	本所学校歯科医会学術	真下裕道
東京都学校歯科医会代議員（清瀬）	倉田琢哉	向島学校歯科医会監事	三好克則
東京都学校歯科医会代議員（東大和）	竹下晴久	向島学校歯科医会専務理事	重井剛
東京都学校歯科医会代議員（狛江）	松浦康文	足立区学校歯科医会理事	平塚武司
東京都学校歯科医会代議員（日野）	木村篤	足立区学校歯科医会理事	菱沼芳雄
東京都学校歯科医会代議員会議長	藤野珣男	足立区学校歯科医会理事	宮坂和志
東京都学校歯科医会代議員会副議長	鈴木勝	江東区学校歯科医会専務理事	一ツ子延大
東京都学校歯科医会広報委員会委員長	草柳英二	葛飾区学校歯科医会副会長	山崎昌彦
東京都学校歯科医会広報委員会委員長代理	水見育夫	江戸川区学校歯科医会専務理事	室岡孝二
東京都学校歯科医会広報委員会委員	柘植琢磨	四谷牛込学校歯科医会会計	中西宏之
東京都学校歯科医会広報委員会委員	黒岩一	四谷牛込学校歯科医会	小澤修
東京都学校歯科医会広報委員会委員	河奈文彦	新宿区歯科医師会	梶原直子
東京都学校歯科医会広報委員会委員	矢野章	新宿区歯科医師会・新宿区学校歯科医会学術委員	福井裕昌
東京都学校歯科医会前会誌・広報委員会委員長	関根正行	渋谷区歯科医師会学校歯科医会小中部部長	鎌田未幾
東京都学校歯科医会学術研究委員会委員長	久保和彦	品川学校歯科医会副会長	竹内正和
東京都学校歯科医会学術研究委員会副委員長	横山いづみ	荏原学校歯科医会専務理事	土佐重義
東京都学校歯科医会学術研究委員会委員	小川仲子	目黒区学校歯科医会副会長	上保基

目黒区学校歯科医会監事	飯 田 良 昭	アサヒブリテック株式会社関東営業所所長	天 野 剛
大田区大森歯科医師会学校 保育園歯科委員会委員	倉 治 ななえ	株式会社日本医療器研究所代表取締役社長	野 崎 哲 郎
大田区大森歯科医師会学校 保育園歯科委員会委員	山 根 良	日陶科学株式会社代表取締役社長	佐 宗 康 浩
大田区蒲田学校歯科医会専務理事	富 樫 敏 夫	株式会社ジーシーデンタルインフォ メーションセンター学術研修課	安 喰 裕 二
玉川学校歯科医会副会長	小 倉 好 美	株式会社ジーシーデンタルインフォ メーションセンター学術研修課課長	岡 田 淳 一
玉川学校歯科医会監事	江 田 博 幸	GIA Inc. 新宿支社	田 中 信 明
豊島区学校歯科医会役員	伏 見 茂	日本保険マネジメント株式会社代表取締役社長	青 野 幸 雄
滝野川学校歯科医会副会長	前 川 俊 介	司会者	勝 田 香 子
北学校歯科医会	山 本 修 己	東京都学校歯科医会会長	末 高 英 世
北学校歯科医会学術理事	難 波 竜 児	東京都学校歯科医会副会長	鈴 木 博
北学校歯科医会	高 橋 敬 人	東京都学校歯科医会副会長	長 沼 善 美
荒川区学校歯科医会専務理事	山 岸 克 彦	東京都学校歯科医会専務理事	澤 田 章 司
板橋区学校歯科医会副会長	吉 野 友 貴	東京都学校歯科医会理事	渡 邊 実
板橋区学校歯科医会理事	居 倉 秀 樹	東京都学校歯科医会理事	箭 本 治
板橋区学校歯科医会理事	武 藤 城 嗣	東京都学校歯科医会理事	高 橋 裕 幸
練馬区学校歯科医会副会長	名古屋 昌 宏	東京都学校歯科医会理事	奥 野 圭 子
練馬区学校歯科医会総務担当理事	石 井 伸 行	東京都学校歯科医会理事	酒 井 克 典
西多摩歯科医師会	鏡 一 郎	東京都学校歯科医会理事	高 橋 文 夫
西多摩歯科医師会専務理事	大 野 博 文	東京都学校歯科医会理事	清 水 浩 一
八南歯科医師会八王子支部副支部長	糠 信 安 宏	東京都学校歯科医会理事	西 村 健
八南歯科医師会八王子支部理事	氷 見 元 治	東京都学校歯科医会理事	山 室 直 子
町田市学校歯科医会監事	赤 田 留 吉	東京都学校歯科医会理事	鈴 木 あい子
府中市歯科医師会学校歯科委員会委員長	早 川 博 之	東京都学校歯科医会理事	山 崎 靖
三鷹市歯科医師会会長	仲 澤 敏	東京都学校歯科医会理事	小 森 幸 道
東久留米市学校歯科医会副会長	北 村 晃	東京都学校歯科医会監事	石 川 文 一
東久留米市学校歯科医会理事	上 升 康 司	東京都学校歯科医会監事	坂 本 眞理子
昭島市学校歯科医会専務理事	松 尾 豊 彦	創立70周年・法人化40周年記念式典 祝賀会実行委員会委員長	小 嶋 憲
調布市歯科医師会学校歯科医部会委員	時 崎 照 彦	創立70周年・法人化40周年記念式典 祝賀会実行委員会副委員長	東 川 輝 子
調布市歯科医師会学校歯科医部会委員	中 村 陽 一	創立70周年・法人化40周年記念式典 祝賀会実行委員会委員	中 村 卓 志
調布市歯科医師会学校歯科医部会委員	森 靖	創立70周年・法人化40周年記念式典 祝賀会実行委員会委員	吉 澤 雄 孝
株式会社日本歯科新聞社株式会社	富 田 真 人	創立70周年・法人化40周年記念式典 祝賀会実行委員会委員	橋 本 健 一
ヒョーロン・パブリッシャーズ	青 木 宏 人	創立70周年・法人化40周年記念式典 祝賀会実行委員会委員	海 保 由美子
一世印刷株式会社代表取締役社長	原 田 育 叔	創立70周年・法人化40周年記念式典 祝賀会実行委員会委員	山 内 近 子
一世印刷株式会社営業部次長	小 泉 俊 博	東京都学校歯科医会事務局長	井 出 知 子
ライオン歯科衛生研究所保健研究部長	関 根 宏 明	東京都学校歯科医会事務局	尾 崎 聡 子
サンスター株式会社研究開発本部担当部長渉外	湯 浅 徹	東京都学校歯科医会事務局	益 田 まゆみ
サンスター株式会社医科歯科営業部課長	渡 辺 忠 弘		
千代田パートナーズ税理士法人代表社員	今 村 正		
相田化学工業株式会社営業本部歯科営業部 兼東日本営業部兼西日本営業部部長	内 田 勝 紀		
相田化学工業株式会社歯科営業部営業二課課長	中 谷 佳 世		

祝 辞

一般社団法人 日本学校歯科医会

会長 川本 強



東京都学校歯科医会創立70周年・法人化40周年おめでとうございます。

日本学校歯科医会は東京在住学校歯科医の先生方のお陰をもって設立され、東京都学校歯科医会のお力を頂いて発展して参りました。全国学校歯科医の皆様はこれに異論の無いことでありましょう。昭和6年、東京において第1回日本学校歯科保健研究大会（当時名称：全国学校歯科医大会）が開催され、昭和7年には第2回全国学校歯科保健研究大会が再び東京において開催されました。そしてその年、東京の奥村鶴吉先生を会長とする日本学校歯科医会（当時名称：日本聯合学校歯科医会）が発足したのであります。まさに東京の力なくして日学歯は生まれなかったのです。巷間言われていることではありますが、「その井戸の水を飲むとき、その井戸を掘った人に感謝しなさい」という格言があります。現在日学歯に席をおく者と致しまして、改めて都学歯に感謝申し上げます。

私は23年前の春、市ヶ谷の駅から左に堤の桜並木を眺めつつ、歯科医師会館で開催される都学歯理事会に初めて参加致しました。多くの先輩役員の助けを頂いて迎えた第60回全国学校歯科保健研究大会（東京開催）や第1回学校歯科保健アジア会議（東京開催）など鮮明に思い出されます。都学歯における会合を終えての若手役員懇親会、これも勉強になりました。いずれ学校歯科医会はこうなるべきではないか、という話題で遅くまで飲み話し合ったものです。その時の思考が現在、私の日本学校歯科医会改革構想の一部になっております。このことを振り返りますと社会学者マクルーハンの「未来の未来は現在である」という言葉が重なり、思い出されます。

私にとって都学歯は故郷のような母校のような存在であります。その故郷母校が発展していることを耳にすることほど嬉しいことはありません。都学歯から出された刊行物を手にした時の本の重み、都学歯の誰かが表彰を受けられる知らせを受けたときの自然に込み上げてくる微笑みは、故郷を離れ母校を巣立っていった者が持ち合わせる感情でしょう。

改めまして創立70周年・法人化40周年おめでとうございます。どうぞこれからも東京都の児童生徒の学校歯科保健にご尽力賜りますように、また日本学校歯科医会にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

祝 辞

東京都教育委員会

教育長 中井 敬三



この度、東京都学校歯科医会が、創立70周年・法人化40周年という記念すべき節目を迎えられましたこと、誠にめでたうございます。

これまでの永きにわたり、貴会が東京都における学校歯科保健の推進にご尽力くださいましたことに、改めまして深甚なる敬意と感謝の意を表します。

また、本年度、荣誉ある文部科学大臣表彰、厚生労働大臣表彰、東京都功労者表彰、東京都教育委員会表彰、そして学校歯科医30年勤続表彰をお受けになられました先生方には、心からお慶び申し上げますとともに、これまでの長年のご功績に対し深く敬意を表します。

さて、東京都教育委員会は、学校、家庭及び地域・社会全体で子供の「知」「徳」「体」を育み、グローバル化の進展など変化の激しい時代において、自ら学び考え行動する力や社会の発展に貢献する力を培うことを基本理念として、教育行政を推進しております。

特に子供たちの健康づくりにおいては、生涯にわたって、健康に対する関心を高め、主体的に保持増進しようとする態度を養うことが重要です。新しい中学校学習指導要領でも、保健体育の保健分野で、生活習慣病の予防が取り上げられ、特にその解説において、具体的に学齢期の歯と口の健康課題である歯周病予防が明記されました。今までも、この点については、むし歯予防とともに取り組まれてきたところではありますが、ますます歯・口から始まる体全体の健康づくりの取組を進めていくことが求められてまいります。

歯や口の健康は、言うまでもなく、食事を食べるということに留まらず、会話などコミュニケーションをとる上でも重要であり、子供たちが、生涯にわたって健やかに生活していくうえでの基盤になります。また、口は鏡を使うなどして自身で直接観察でき、適切な歯みがきで歯肉炎など疾病が改善していくことが認識できることなどから、健康教育の場面で生きた教材として極めて有効です。このような長所を最大限に生かすことができる学校現場での歯科保健活動は、子供たちが自ら健康について考え、好ましい生活習慣を実践し、全身の健康づくりを進める上でなくてはならないものであります。

東京都教育委員会では、これからも、学校歯科保健活動における歯科保健教育、保健管理及び学校保健委員会での講話、指導・助言等の組織活動など、貴会のお力添えをいただいて、学校保健の取組を積極的に進めてまいり所存ですので、皆様方の一層のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

結びになりますが、東京都学校歯科医会の皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、貴会のますますのご発展を祈念しまして、ご挨拶といたします。

祝 辞

一般財団法人 東京都学校保健会

会長 尾崎 治夫



一般社団法人東京都学校歯科医会が創立70周年、ならびに法人化40周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。貴会におかれましては昭和23年の設立以来、70年の長きにわたりまして、東京都の学校保健の向上と発展、とくに学校歯科保健活動にご尽力され、輝かしい業績を積み重ねてまいりました。これもひとえに関係者の皆様方の計り知れない努力の賜物と、ご同慶に存ずる次第であります。

また、一般財団法人東京都学校保健会の構成団体として、役員等の先生方のご派遣や研修会の開催など、会務の推進にあたり多大なるご支援、ご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

本会では貴会をはじめ、東京都医師会学校医会、東京都学校薬剤師会、東京都教育委員会、さらには多くの学校保健関係者の方々のご協力のもと、東京都の学校保健事業を推進しており、幼児ならびに児童生徒の健全な育成を図ることで、次代を担う子どもたちの健やかで豊かな未来を創造すべく活動しております。

学校では現在、がんやがん患者への正しい認識を深めることを目的に「がん教育」が実施されております。さらには禁煙教育、性教育、感染症や生活習慣病に対する教育など、健康に関する教育の充実も求められております。これらの「健康教育」を行うことで、子どもたちがヘルスリテラシーを身に着け、自分自身で健康を守ることができる人間に育つことは非常に重要です。現代社会においては、食生活の西欧化や多様化に伴い「食」の問題が数多く発生しておりますが、「食」と歯・口の健康は密接にかかわりあっております。貴会では長年、「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という『8020運動』を通して、健康な歯を保つことで、生涯を通じて心身ともに豊かで充実した生活を送ることを目的とした活動を行っております。最近では、歯と生活習慣病の関連や、歯を失うことが認知症やフレイルと深くかかわっていることも分かってきております。是非このようなことも含め、引き続き歯の大切さを伝える子どもたちへの健康教育に力を入れていってほしいと思います。今後も学校保健の向上発展にご尽力され、多大な成果につながることを期待しております。

結びになりますが、貴会の今後ますますのご発展と、関係者の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

公益社団法人 東京都歯科医師会

会長 **山崎 一男**



東京都学校歯科医会創立70周年・法人化40周年、誠におめでとうございます。また、記念式典において、各賞受賞された先生方の表彰紹介がありました。重ねてお祝い申し上げます。一口に70年、40年といっても、その道のりはたいへん厳しく先達の苦節がしのばれます。明治31年(1898年)に公立学校に学校医を置くと公布され、学校歯科医の身分が認められたのは30年後(1928年)。更に、学校歯科医が必置制になったのは、昭和33年(1958年)と聞いております。東京都学校歯科医会はそれに先だつこと10年、昭和23年(1948年)に設立されました。

学校歯科医会は、日本国民の歯科口腔保健の一端を担っているだけでなく、児童生徒の全体的成長に大変な役割を果しています。国民皆保険の下、歯や口に対する意識は高まっていますが、やはり幼少の頃からの教育・習慣がその後の人生に大きな影響を与えます。保育園、幼稚園、小・中・高校まで、人生の前半部分に関与する学校歯科医の存在は大きなものといえます。

ここに東京都歯科医師会が行った調査があります。高校卒業後には歯科健康診査が義務づけられていません。その後の歯科保健は本人の自覚によるところが大きいと言えるかもしれません。そこで、都内の大学に通う大学生の歯科口腔保健に関する意識調査と口腔内診査を実施しました。対象は約800名。大学生の実態調査というのはそれまであまり多くなされていなかったもので、どんな結果になるのか、楽しみでもありました。それは私達が考えていたものと少し違っていました。受験勉強のストレス、入学後の生活の変化、部活、アルバイト。それまでとは生活が一変した学生も多くいたと思われます。口腔内にもその影響が現れているのではと予想していました。これは見事に外れ、むし歯、歯肉炎も少なく清掃状態も悪くなく、ほとんどの学生が一日2度以上の歯みがきを行っていました。

これは何を物語っているのか。幼年期からの良い習慣、食後には歯みがきをする。それに加え、歯・口に対する意識を高くもっているということがいえるのです。学校歯科医の役割が如何に大きいかを現わしています。国民病とまでいわれたむし歯が劇的に減少したことは疫学的にも稀有なことです。

これからも学校歯科医の果たす役割は大きく、国民医療にとって、なくてはならないものだといえます。

東京都学校歯科医会は平成31年4月から公益社団法人東京都学校歯科医会としてより充実した活動をされるものと期待しています。

今後の先生方の増々の活躍を願い、挨拶とします。

祝 辞

東京都歯科医師連盟

会長 **大越 壽和**



東京都学校歯科医会が昭和23年の設立からこのたび創立70周年、並びに法人化40周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。また2月28日には記念式典及び祝賀会が開催されるにあたり、表彰をお受けになられる先生方のご功績に対し、あわせてお祝い申し上げます。また、東京都歯科医師連盟に対しまして、日頃から末高会長を始めとしました東京都学校歯科医会の役員の先生方には、多大なご理解・ご協力をいただいておりますこと、この場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。

さて学校保健に関しまして近年、社会環境の変化に伴い、児童・生徒の学校また家庭に於いての生活環境は以前にも増して多様に変化してきております。特にいじめの陰湿化による対応の難しさや、最近ではテレビでよく目にする親の虐待やネグレクト、また、生活習慣病やアレルギー疾患の増加等様々な課題に対し、適切な対応策が求められています。

学校歯科保健に歯科医師が参画する意義、すなわち、担当する歯科健康診断の意義は、学校における唯一の歯科の専門家として、教育の現場であるという観点に立ってスクリーニングを行い、その結果を子供たちの健康行動に結び付けていくことにあると考えますが、現場の学校歯科医としては、早い段階で様々な状況を察知しえる立場にあり、生活改善や行動変容などを促す健康教育の観点からの関与も必要になると思われます。

また、生涯にわたる健康づくりを実践するためにも、子供の頃から自分の歯やお口の健康に関心をもって、自分の課題を把握し、そしてその問題を解決していくといった資質や能力を育てることはとても大切であるといえます。そして、このような健康に対する意識は、大人になって後から自然と作られるものではなく、子供の頃からの生活習慣や生活環境に大きく左右されるとも言われています。そういった意味合いからも学校歯科医の先生方の役割は重要で、今まで以上に学校や地域の医療機関を含めた関係諸機関と緊密に連携し対応する事が望まれていると思います。

東京都学校歯科医会におかれましては、これらの諸問題に対応すべく調査・研究・指導にご尽力されてきたところであると思いますが、多年に渡る実績と経験から、有能な人材を有するなか、更に的確かつ柔軟にこれら諸問題に対して、より密度の高い対応がなされることを期待しております。東京都歯科医師連盟といたしましても、東京都学校歯科医会の事業がより達成できますように、これからもご協力をさせていただく所存でございます。

最後になりますが、現在、公益社団法人への移行に向けて鋭意ご努力のところであると存じますが、その取得を含め、東京都学校歯科医会のこれからの益々のご発展と、役員ならびに会員の皆様が、ご活躍されることを祈念しお祝いの言葉とさせていただきます。

1

10年間の歩み



■■■■■■■ 平成21年度 —— 主な出来事 —— ■■■■■■■

- 「第66回学童歯みがき大会」は、新型インフルエンザ流行の影響のためインターネット配信によって実施。
- 創立60周年・法人化30周年記念誌を発行。
- 新法人制度調査研究委員会が開催され、新法人制度による社団法人への移行について検討し答申書が提出された。
- 「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」を作成・配布。
- 第44回東京都学校歯科保健研究大会（平成22年3月4日（木）・文京シビックホール小ホール）を開催。

貸 借 対 照 表

平成22年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	9,477,809	15,255,959	△ 5,788,150
立 替 金	0	4,293	△ 4,293
流動資産合計	9,477,809	15,260,252	△ 5,782,443
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産引当資産	24,308,326	24,208,326	100,000
基本財産合計	24,308,326	24,208,326	100,000
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	2,166,740	1,171,800	994,940
名簿作成引当資産	800,000	400,000	400,000
運営基金引当資産	29,192,652	29,092,652	100,000
特別事業積立金	1,000,000	5,000,000	△ 4,000,000
特定資産合計	33,159,392	35,664,452	△ 2,505,060
(3) その他固定資産			
什 器 備 品	131,171	233,400	△ 102,229
電 話 加 入 権	72,800	72,800	0
その他固定資産合計	203,971	306,200	△ 102,229
固定資産合計	57,671,689	60,178,978	△ 2,507,289
資産合計	67,149,498	75,439,230	△ 8,289,732
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	0	546,000	△ 546,000
預 り 金	210,203	284,048	△ 73,845
流動負債合計	210,203	830,048	△ 619,845
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,166,740	1,171,800	994,940
固定負債合計	2,166,740	1,171,800	994,940
負債合計	2,376,943	2,001,848	375,095
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	64,772,555	73,437,382	△ 8,664,827
負債及び正味財産合計	67,149,498	75,439,230	△ 8,289,732

事業報告

事業の状況

1. 学校歯科保健に関する大会・研修会・講習会の開催

事業	実施状況
(1) 第44回東京都学校歯科保健研究大会	学校歯科に関し、学校教職員の共通理解と家庭の関心を高めるための実践的歯科保健活動を通し、児童生徒の健康増進に寄与することを目的に毎年開催しているものである。本年度は、平成22年3月4日（木）文京シビックホール小ホールにおいて開催、789名の参加者があった。
(2) 学校保健（学校歯科医）研修会	- 学校歯科医を対象として東京都教育委員会ならびに東京都学校保健会との共催で、下記のように研修会を開催した。 12月10日（木）：歯科医師会館7階会議室 講師：都教委歯科保健担当係長 田村道子 演題：「学校歯科医の職務と期待される役割」 - 講師：本会理事 弘中玲子・吉澤雄孝・中村卓志 - 演題「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」
(3) ブロック別学校歯科医研修会	- 東京都学校保健会の委託事業として開催した。 9／17（木）中央ブロック（当番地区：麻布赤坂） 会場：麻布区民センター 10／22（木）江東ブロック（当番地区：江戸川） 会場：タワーホール船堀 11／19（木）城西ブロック（当番地区：渋谷） 会場：歯科医師会館 講師：東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野 教授 川口陽子 演題：「これからの学校歯科保健活動の展開について」
(4) 学校歯科医基礎研修会	- 学校歯科医が職務を行う上で理解していなければならない基本的な事項の習得を目的として下記のように研修会を開催した。 7月23日（木）：歯科医師会館1階大会議室 講師：日本学校歯科医会専務理事 丸山進一郎 演題：「学校歯科保健の概念」 - 講師：日本学校歯科医会常務理事 赤坂守人 - 演題「学校歯科保健における保健教育」 - 講師：日本学校歯科医会常務理事 赤井淳二 - 演題：「学校歯科保健における保健管理」 - 講師：日本学校歯科医会常務理事 川本 強 - 演題「学校歯科保健における組織活動」
(5) 特別支援学術研修会	- 学校歯科医・養護教諭を対象に下記により開催した。 8月27日（木）：歯科医師会館1階大会議室 講師：都発達障害者支援センター長代行 石橋悦子 演題：「発達障害のある子どもや親とのかかわりから学んだこと」 - 講師：都立しいの木特別支援学校長 堀内省剛 - 演題「特別支援教育における歯・口の健康づくり」

	講師：小金井特別支援学校養護教諭 講師：多摩府中保健所歯科衛生士 演題：「障害特性に応じた歯科指導の取組」	塩満史子 西脇祥子
--	---	--------------

2. 学校歯科保健に関する調査研究

事業	実施状況
(1) 歯・口の健康づくりの推進	◦ 児童・生徒等、歯・口の健康づくり啓発推進事業に協力した。
(2) 学術普及委員会・学術普及研究委員会の開催	◦ 幼・小・中・高・特別支援等の領域別毎の委員会をそれぞれ数回開催し、学校歯科保健指導書の作成に向けて協議検討を行い、「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」の冊子・DVDを発行した。
(3) 地区学校歯科保健活動の実態把握と協力	◦ 各地区ブロックごとに連絡協議会を開催して意見や情報交換を行い地区の実態把握に努めた。
(4) 学校歯科保健調査研究事業実施校への協力	◦ 平成21年度・22年度の2年間にわたり実施校に選定された府中市立小柳幼稚園と府中市および東京都教育委員会との連絡協議会を開催し、円滑な事業の実施のために協力した。
(5) 各種大会・研修会・講習会におけるテーマ及び講師の検討等	◦ 学術・普及部の副会長および担当理事を中心に学術普及研究委員会で検討し理事会において決定、事業の充実に努めた。
(6) 学校（幼・小・中・高・特別支援）歯科保健教育に必要な教材・資料の補充・作成	◦ 学校領域別の指導書「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」を作成し全会員に配布した。その他ビデオ・スライド・書籍等の貸し出しを行い、また「総合的な学習の時間に対応する講話例」や「学校における歯・口の安全―外傷予防と発生時の対応」等の参考資料を増刷し、新入会員や学校、関係団体に配布した。
(7) 学校歯科保健に関する文教施策への協力	◦ 都立高等学校保健研究会ならびに東京都養護教諭研究会等との連絡会を開催、東京都教育委員会関係者を交え学校保健の現状の把握に努め、学校歯科保健事業の活性化を図った。
(8) 私立学校歯科保健活動への協力	◦ 私立学校対応委員会を開催し私立学校への対応を検討した。また私立学校部会設立に向けた私立学校歯科医懇談会を開催し、私立学校の現状と問題点等について検討した。

3. 学校歯科保健教育、保健管理の実践及び保健思想の普及向上

事業	実施状況
(1) 東京都学校歯科保健優良校表彰	◦ 事業の実施にあたり、調査票を都内小・中・高・特別支援学校2,193校に送付。655校の応募を得、慎重に審査した結果655校が入選し、3月4日の第44回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。
(2) 歯・口に関する児童生徒の作文募集及び表彰	◦ 作文募集要項を都内小中学校1,940校に送付、応募作品495点、一次・二次審査を経て入選者105名を決定し、第44回東京都学校歯科保健研究大会において表彰、入選者の作品を大会要項に掲載した。

(3) 島嶼児童生徒、特別支援児童等に対する保健指導管理	◦ 御蔵島教育委員会へ学校歯科保健指導用教材を送付した。
------------------------------	------------------------------

4. 会誌・広報

事業	実施状況
(1) 会誌・広報委員会の開催	◦ 会誌・広報の編集委員会を10回開催した。
(2) 会誌・広報誌の発行	◦ 会誌73号を発刊、広報誌は第95号～97号を発行し全会員に配布した。
(3) ホームページの運営	◦ 会員への啓発及び一般都民への広報活動の一環として、ホームページの内容の充実を図った。

5. ブロック・地区支援

事業	実施状況
(1) ブロック・地区支援委員会の開催	◦ ブロック会および地区会の活動をバックアップし、学校歯科保健の円滑な運営を行うため1月21日に第1回委員会を開催した。

6. 学校歯科保健功労者の表彰・顕彰

事業	実施状況
(1) 学校歯科医30年勤続者の表彰	◦ 該当者28名を3月4日開催の第44回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。
(2) 学校歯科保健功労者への顕彰	◦ 平成21年度叙勲1名、大臣表彰4名、都知事表彰6名、東京都教育委員会表彰25名の受賞者を3月4日開催の同上大会において顕彰した。

7. 歯の衛生週間への協力

事業	実施状況
(1) 歯科保健ポスターの作成	◦ 歯科保健ポスターを都内小・中・高・特別支援学校に配布した。
(2) 関係地区の行事への協力	◦ 関係地区・団体主催の大会、表彰式等の各種行事に役員を派遣した。 ◦ 関係地区・団体主催の研修会・講習会等において講師として役員を派遣した。

8. 各種大会への協力

事業	実施状況
(1) 第66回学童歯みがき大会	◦ 本年度は、新型インフルエンザ流行の影響のためインターネット配信によって実施された。
(2) 健康づくりフォーラム	◦ 7月30日、都庁会議室において開催のフォーラムに参加した。
(3) 歯・口の健康づくり学校歯科保健調査研究事業連絡協議会	◦ 6月3日、歯科医師会館において開催の生活習慣病予防等を目指した連絡協議会に参加した。
(4) 第60回関東甲信越静学校保健大会・歯科職域部会	◦ 8月20日、新潟市において開催された大会に参加した。
(5) 第73回全国学校歯科保健研究大会	◦ 10月29日～30日、京都市において開催の大会に参加した。
(6) 第59回全国学校保健研究大会・全国学校歯科医協議会	◦ 11月10日～11日、広島市において開催の大会に参加した。

9. 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携

事業	実施状況
(1) 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携	◦ 東京都歯科医師会並びに東京都歯科医師連盟が主催する各種委員会・会合・行事等に本会より役員を派遣し連携を図った。

10. 周年事業記念誌発行

事業	実施状況
(1) 創立60周年・法人化30周年記念事業の記念誌発行	◦ 本会創立60周年・法人化30周年記念誌を作成、全会員及び関係団体に配布した。

11. 新法人制度の調査研究

事業	実施状況
(1) 新法人制度調査研究委員会の開催	◦ 本年度は委員会を3回開催、新法人制度による社団法人への移行について検討した。その結果、委員会より2月26日に答申書が提出された。

■ ■ ■ ■ ■ 平成22年度 —— 主な出来事 —— ■ ■ ■ ■ ■

- 第1次川本執行部が発足。
- 生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究事業実施校の府中市立小柳幼稚園に協力。
- 「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」の普及に努める。
- 「個への対応を考慮した時代の新しい学校歯科保健」をテーマとし、今後虐待等の家庭環境を踏まえた健康診断、歯列咬合・う蝕の多い者への事後処置、学校・家庭への情報提供の在り方等について検討した。
- 広報誌100号発行。
- 第45回東京都学校歯科保健研究大会（平成23年2月17日（木）・文京シビックホール小ホール）を開催。

貸 借 対 照 表

平成23年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	11,439,220	9,447,809	1,961,411
流動資産合計	11,439,220	9,447,809	1,961,411
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産引当資産	24,408,326	24,308,326	100,000
基本財産合計	24,408,326	24,308,326	100,000
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	2,941,100	2,166,740	774,360
名簿作成引当資産	1,200,000	800,000	400,000
運営基金引当資産	29,292,652	29,192,652	100,000
特別事業積立金	2,000,000	1,000,000	1,000,000
特定資産合計	35,433,752	35,159,392	2,274,360
(3) その他固定資産			
什器備品	77,750	131,171	△ 53,431
電話加入権	72,800	72,800	0
その他固定資産合計	150,550	203,971	△ 53,421
固定資産合計	59,992,628	57,671,689	2,320,939
資産合計	71,431,848	67,149,498	4,282,350
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	282,190	0	282,190
預り金	237,526	210,203	27,323
流動負債合計	519,716	210,203	309,513
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,941,100	2,166,740	774,360
固定負債合計	2,941,100	2,166,740	774,360
負債合計	3,460,818	2,376,943	1,033,873
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	67,971,032	64,772,555	3,198,477
負債及び正味財産合計	71,431,848	67,149,498	4,282,350

事業報告

事業の状況

1. 学校歯科保健に関する大会・研修会・講習会の開催

事業	実施状況
(1) 第45回東京都学校歯科保健研究大会	○学校歯科に関し、学校教職員の共通理解と家庭の関心を高めるための実践的歯科保健活動を通し、児童生徒の健康増進に寄与することを目的に毎年開催しているものである。本年度は、平成23年2月17日(木)文京シビックホール小ホールにおいて開催、歯科保健優良校、歯の優秀作文及び学校歯科医30年勤続者表彰、学校保健功労者の顕彰特別講演及び研究発表等を行った。特別講演、研究発表の内容は次の通りである。 ☆特別講演 ・講師：都立心身障害者口腔保健センター 診療部長 重枝昭広 ・演題「障害のある児童への歯科的アプローチ」 ☆研究発表 ・講師：府中市立小柳幼稚園 副園長 北村眞治、主任 新井尚子 ・演題「よく噛み よく食べ 元気な園児の育成」 なお、本大会には726名の参加者があった。
(2) 学校保健（学校歯科医）研修会	○学校歯科医を対象として東京都教育委員会ならびに東京都学校保健会との共催で、下記のように研修会を開催した。 ・12月16日（木）：日本青年館大ホール 講師：都教委歯科保健担当課長 田村道子 演題：「学校歯科医の職務と期待される役割」 ・講師：日本口腔衛生学会理事 高柳篤史 演題「学校保健と行動科学」
(3) ブロック別学校歯科医研修会	○東京都学校保健会の委託事業として開催した。 ・9／9（木）城南ブロック（当番地区：蒲田） 会場：蒲田歯科医師会館 ・10／21（木）城北ブロック（当番地区：練馬） 会場：練馬区歯科医師会館 ・11／11（木）多摩ブロック（当番地区：町田） 会場：町田市健康福祉会館 講師：東京都学校歯科医会理事 中村卓司・吉澤雄孝・東川輝子 澤田章司・牧野 寛・長井博昭 演題「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」
(4) 学校歯科医基礎研修会	○学校歯科医が職務を行う上で理解していなければならない基本的な事項の習得を目的として下記のように研修会を開催した。 ・12月16日（木）：日本青年館大ホール 講師：東京都学校歯科医会理事 酒井克典 演題：「学校歯科保健の概念」

	講師：東京都学校歯科医会理事 演題「学校歯科保健における保健教育」	東川輝子
	講師：東京都学校歯科医会理事 演題：「学校歯科保健における保健管理」	吉澤雄孝
	講師：東京都学校歯科医会理事 演題「学校歯科保健における組織活動」	田村道子

2. 学校歯科保健に関する調査研究

事業	実施状況
(1) 歯・口の健康づくりの推進	児童・生徒等、歯・口の健康づくり啓発推進事業に協力した。
(2) 学術研究委員会の開催	委員会を5回開催。テーマを「個への対応を考慮した時代の新しい学校歯科保健」とし、今後虐待等の家庭環境を踏まえた健康診断、歯列咬合・う蝕の多い者への事後処置、学校・家庭への情報提供の在り方等について検討し、小冊子にまとめる予定。
(3) 地区学校歯科保健活動の実態把握と協力	各地区ブロックごとに連絡協議会を開催して意見や情報交換を行い地区の実態把握に努めた。
(4) 学校歯科保健調査研究事業実施校選定への協力	平成21年度・22年度日本学校歯科医会主催の「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究事業実施校」に選定された府中市立小柳幼稚園に対し昨年同様に事業の助成を行うと共に、府中市、東京都教育委員会とも連携して円滑な事業の実施のために協力した。
(5) 学校歯科保健調査研究事業実施校への協力	
(6) 各種大会・研修会・講習会におけるテーマ及び講師の検討等	学術部の副会長および担当理事を中心に学術研究委員会において検討し理事会において決定、事業内容の充実に努めた。
(7) 学校（幼・小・中・高・特別支援）歯科保健教育に必要な教材・資料の補充・作成	- 昨年度作成した学校領域別の指導書「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」の効果的な活用を目ざし、本会理事が各ブロックにおいて開催される研修会に出向き、冊子の利用方法の周知に努めた。 - その他ビデオ・スライド・書籍等の貸し出しを行い、また「総合的な学習の時間に対応する講話例」や「学校における歯・口の安全—外傷予防と発生時の対応」等の参考資料を増刷し、新入会員や学校、関係団体に配布した。
(8) 学校歯科保健に関する文教施策への協力	都立高等学校保健研究会ならびに東京都養護教諭研究会等との連絡会を開催、東京都教育委員会関係者を交え学校保健の現状の把握に努め、学校歯科保健事業の活性化を図った。
(9) 私立学校歯科保健活動への協力	東京都生活文化局の私立学校担当者との打合せ会を行い、私立学校に対する歯科保健活動への協力を依頼した。

3. 学校歯科保健教育、保健管理の実践及び保健思想の普及向上

事業	実施状況
(1) 東京都学校歯科保健優良校表彰	◦事業の実施にあたり、調査票を都内幼・小・中・高・特別支援学校2,358校に送付。684校の応募を得、慎重に審査した結果684校が入選し、2月17日の第45回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。
(2) 歯・口に関する児童生徒の作文募集及び表彰	◦作文募集要項を都内小中学校1,909校に送付、応募作品548点、一次・二次審査を経て入選者105名を決定し、第45回東京都学校歯科保健研究大会において表彰、入選者の作品を大会要項に掲載した。
(3) 島嶼児童生徒、特別支援児童等に対する保健指導管理	◦青ヶ島村教育委員会へ学校歯科保健指導用教材を送付した。

4. 会誌・広報

事業	実施状況
(1) 会誌・広報委員会の開催	◦会誌・広報の編集委員会を8回開催した。
(2) 会誌・広報誌の発行	◦会誌74号を発刊、広報誌は第98号～100号を発行し全会員に配布した。
(3) ホームページの運営	◦会員への啓発及び一般都民への広報活動の一環として、ホームページの内容の充実を図った。

5. ブロック・地区支援

事業	実施状況
(1) ブロック・地区支援担当者会の開催	◦ブロック会および地区会の活動をバックアップし、学校歯科保健の円滑な運営を行うため3月10日に第1回担当者会を開催した。

6. 学校歯科保健功労者の表彰・顕彰

事業	実施状況
(1) 学校歯科医30年勤続者の表彰	◦該当者23名を2月17日開催の第45回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。
(2) 学校歯科保健功労者への顕彰	◦平成22年度叙勲1名、大臣表彰5名、都知事表彰5名、東京都教育委員会表彰20名の受賞者を2月17日開催の同上大会において顕彰した。

7. 歯の衛生週間への協力

事業	実施状況
(1) 歯科保健ポスターの作成 (2) 関係地区の行事への協力	◦ 歯科保健ポスターを都内小・中・高・特別支援学校に配布した。 ◦ 関係地区・団体主催の大会、表彰式等の各種行事に役員を派遣した。 ◦ 関係地区・団体主催の研修会・講習会等において講師として役員を派遣した。

8. 各種大会への協力

事業	実施状況
(1) 第67回学童歯みがき大会 (2) 健康づくりフォーラム (3) 歯・口の健康づくり学校歯科保健調査研究事業連絡協議会 (4) 第61回関東甲信越静学校保健大会・歯科職域部会 (5) 第74回全国学校歯科保健研究大会 (6) 第60回全国学校保健研究大会・歯科医協議会	◦ 6月4日、両国国技館において開催の大会に参加した。 ◦ 7月29日、都庁会議室において開催の「健康づくりフォーラム」に参加した。 ◦ 5月21日、歯科医師会館において日学歯主催の生活習慣病予防等を目指した連絡協議会に出席した。 ◦ 8月19日、茨城県において開催された大会に参加した。 ◦ 10月28日～29日、茨城県において開催の大会に参加した。 ◦ 11月18日～19日、群馬県において開催された協議会に参加した。

9. 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携

事業	実施状況
(1) 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携	◦ 東京都歯科医師会並びに東京都歯科医師連盟が主催する各種委員会・会合・行事等に本会より役員を派遣し相互の連携を図った。

10. 新法人制度への対応

事業	実施状況
(1) 新法人制度・定款諸規則検討臨時委員会の開催	◦ 第63回評議員会において、公益社団法人に向かうことの決定を受けて設置された臨時委員会である。本年度は委員会を5回開催し、新法人移行に係る諸手続き、定款・諸規則等について検討、定款の変更（案）を作成した。

■■■■■■■ 平成23年度 —— 主な出来事 —— ■■■■■■■

- リーフレット『学校歯科保健活動の場での“気づき”から生まれる「個」への対応』を作製・配布。
- 多摩地区の支援を強化するため3地区に分けて活動を支援する体制とした。
- 第46回東京都学校歯科保健研究大会（平成24年2月23日（木）・なかのゼロホール）を開催。
顕彰は中野サンプラザにおいて行なった。

貸 借 対 照 表

平成24年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	12,352,088	11,439,220	912,868
流動資産合計	12,352,088	11,439,220	912,868
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産引当資産	24,508,326	24,408,326	100,000
基本財産合計	24,508,326	24,408,326	100,000
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	2,498,560	2,941,100	△ 442,540
名簿作成引当資産	800,000	1,200,000	△ 400,000
運営基金引当資産	29,392,652	29,292,652	100,000
特別事業積立金	3,000,000	2,000,000	1,000,000
特定資産合計	35,691,212	35,433,752	257,460
(3) その他固定資産			
什器備品	46,301	77,750	△ 31,449
電話加入権	72,800	72,800	0
その他固定資産合計	119,101	150,550	△ 31,449
固定資産合計	60,318,639	59,992,628	326,011
資産合計	72,670,727	71,431,848	1,238,879
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	480,796	282,190	198,606
預り金	262,102	237,526	24,576
流動負債合計	742,898	519,716	223,182
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,498,560	2,941,100	△ 442,540
固定負債合計	2,498,560	2,941,100	△ 442,540
負債合計	3,241,458	3,460,816	△ 219,358
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	69,429,269	67,971,032	1,458,237
負債及び正味財産合計	72,670,727	71,431,848	1,238,879

事業報告

事業の状況

1. 学校歯科保健に関する大会・研修会・講習会の開催

事業	実施状況
(1) 第46回東京都学校歯科保健研究大会	○学校歯科に関し、学校教職員の共通理解と家庭の関心を高めるための実践的歯科保健活動を通し、児童生徒の健康増進に寄与することを目的に毎年開催しているものである。本年度は、平成24年2月23日（木）なかのゼロホールにおいて開催した。 内容は下記の通りである。 ☆表彰状及び記念品授与 (1) 学校歯科保健優良校表彰 (2) 歯の優秀作文表彰 (3) 学校歯科医30年勤続者表彰 ☆優秀作文発表 江東区立南砂小学校6年 藤田海風 文京区立第九中学校1年 宮尾由美 ☆合唱 品川区立鈴ヶ森中学校8年選択音楽 ☆特別講演 ・講師：花園大学客員教授 水谷 修 ・演題「あした、笑顔になあれ」 －夜回り先生からのメッセージ－ なお、本大会には1,002名の参加者があった。
(2) 学校保健（学校歯科医）研修会	○学校歯科医・養護教諭等を対象として東京都教育委員会ならびに東京都学校保健会との共催で、下記のように研修会を開催した。 ・12月8日（木）：都教職員研修センター 講演：「学校歯科医の職務」 講師：東京都学校歯科医会会長 川本 強 講演「食育を理解するための味覚の基礎」 講師：東京歯科大学生理学講座 澁川義幸
(3) ブロック別学校歯科医研修会	○東京都学校保健会の委託事業として開催した。 ・9/15（木）中央ブロック（当番地区：文京） 会場：文京シビックホール ・10/13（木）江東ブロック（当番地区：本所） 会場：すみだ産業会館 ・11/17（木）城西ブロック（当番地区：中野） 会場：中野区歯科医師会館 ・演題「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」 講師：東京都学校歯科医会理事 中村 卓司・吉澤 雄孝・澤田 章司 牧野 寛・長井 博昭
(4) 学校歯科医基礎研修会	○学校歯科医が職務を行う上で理解していなければならない基本的な事項の習得を目的として下記のように研修会を開催した。

	・12月8日（木）：都教職員研修センター 演題：「学校歯科保健の概念」 講師：東京都学校歯科医会専務 鈴木 博 演題「学校歯科保健における保健教育」 講師：東京都学校歯科医会理事 澤田章司 演題：「学校歯科保健における保健管理」 講師：東京都学校歯科医会理事 長井博昭 演題「学校歯科保健における組織活動」 講師：東京都学校歯科医会理事 牧野 寛
--	---

2. 学校歯科保健に関する調査研究

事 業	実 施 状 況
(1) 歯・口の健康づくりの推進	生活習慣病予防等を目指し、児童・生徒や学校保健関係者に対する啓発事業に協力した。
(2) 学術委員会・学術研究委員会の開催	学術研究委員会を7回開催。テーマを「個への対応を考慮した時代の新しい学校歯科保健」とし、虐待等の家庭環境を踏まえた健康診断、歯列咬合・う蝕の多い者への事後処置、また学校・家庭への情報提供の在り方等について協議。『学校歯科保健活動の場での“気づき”から生まれる「個」への対応』というリーフレットにまとめ全会員に配布した。学術委員会は3月8日に開催、上記資料と「食に及ぼす環境ホルモン」について研修を行った。
(3) 地区学校歯科保健活動の実態把握と協力	各地区ブロックごとに連絡協議会を開催して意見や情報交換を行い地区の実態把握に努めた。
(4) 学校歯科保健調査研究事業実施校選定への協力	平成23年度・24年度の2年間にわたり研究事業実施校に選定された文京区立第六中学校の事業の助成を行うと共に、文京区及び東京都教育委員会との連絡協議会を開催し、円滑な事業の実施のために協力した。
(5) 学校歯科保健調査研究事業実施校への協力	
(6) 各種大会・研修会・講習会におけるテーマ及び講師の検討等	学術部の副会長および担当理事を中心に学術研究委員会において検討し理事会において決定、事業内容の充実に努めた。
(7) 学校（幼・小・中・高・特別支援）歯科保健教育に必要な教材・資料の補充・作成	- 本会作成の学校領域別の指導書「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」の効果的な活用を目ざし、本会理事が各ブロックにおいて開催する研修会に出向き、冊子の利用方法の周知に努めた。 - その他ビデオ・スライド・書籍等の貸し出しを行い、学校歯科医及び歯科保健教育関係者への利便に供した。
(8) 学校歯科保健に関する文教施策への協力	都立高等学校保健研究会ならびに東京都養護教諭研究会等との連絡会を開催、東京都教育委員会関係者を交え学校保健の現状の把握に努め、学校歯科保健事業の活性化を図った。
(9) 私立学校歯科保健活動への協力	東京都生活文化局の私立学校担当者との打合せ会を行い、私立学校に対する歯科保健活動への協力を依頼した。

3. 学校歯科保健教育、保健管理の実践及び保健思想の普及向上

事業	実施状況
(1) 東京都学校歯科保健優良校表彰	◦事業の実施にあたり、調査票を都内幼・小・中・高・特別支援学校2,325校に送付。681校の応募を得、慎重に審査した結果681校が入選し、2月23日の第46回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。
(2) 歯・口に関する児童生徒の作文募集及び表彰	◦作文募集要項を都内小中学校1,929校に送付、応募作品633点、一次・二次審査を経て入選者105名を決定し、第46回東京都学校歯科保健研究大会において表彰、入選者の作品を大会要項に掲載した。
(3) 島嶼児童生徒、特別支援児童等に対する保健指導管理	◦三宅村教育委員会へ歯科保健教育充実のため学校歯科保健指導用教材を送付した。

4. 会誌・広報

事業	実施状況
(1) 会誌・広報委員会の開催	◦会誌・広報の編集委員会を9回開催した。
(2) 会誌・広報誌の発行	◦会誌75号を発刊、広報誌は第101号～103号を発行し全会員に配布した。
(3) ホームページの運営	◦会員への啓発及び一般都民への広報活動の一環として、ホームページの内容の充実を図った。

5. ブロック・地区支援

事業	実施状況
(1) ブロック・地区支援担当者会の開催	◦ブロック会との連絡協議会を計5回開催し意見や情報交換を行い地区の実態把握に努めた。なお、本年度から多摩地区の支援を強化するため3地区に分けて活動を支援する体制とした。

6. 学校歯科保健功労者の表彰・顕彰

事業	実施状況
(1) 学校歯科医30年勤続者の表彰 (2) 学校歯科保健功労者への顕彰	◦30年勤続該当者23名を第46回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。また、本年度の叙勲、大臣・都知事・東京都教育委員会表彰等の受賞者を中野サンプラザにおいて顕彰した。

7. 歯の衛生週間への協力

事業	実施状況
(1) 歯科保健ポスターの作成	◦ 歯科保健ポスターを都内小・中・高・特別支援学校に配布した。
(2) 関係地区の行事への協力	◦ 関係地区・団体主催の大会、表彰式等の各種行事に役員を派遣した。 ◦ 関係地区・団体主催の研修会・講習会等において講師として役員を派遣した。

8. 各種大会への協力

事業	実施状況
(1) 第68回学童歯みがき大会	◦ 6月3日インターネット配信によって実施された歯みがき大会に参加した。
(2) 平成23年度健康づくりフォーラム	◦ 7月28日、都庁5階大会議室において開催の「健康づくりフォーラム」に参加した。
(3) 学校歯科保健調査研究事業連絡協議会	◦ 6月23日、歯科医師会館において日学歯主催の歯・口の健康づくり推進事業を目指した連絡協議会に出席した。
(4) 第62回関東甲信越静学校保健大会・歯科職域部会	◦ 8月18日、神奈川県において開催された大会に参加した。
(5) 第75回全国学校歯科保健研究大会	◦ 10月20日～21日、愛媛県において開催の全国大会に参加した。
(6) 第61回全国学校保健研究大会・歯科医協議会	◦ 10月27日～28日、静岡県において開催された大会に参加した。
(7) 関東地区歯科医師会役員連絡協議会	◦ 7月28日、神奈川県において開催された大会にオブザーバーとして出席した。

9. 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携

事業	実施状況
(1) 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携	◦ 東京都歯科医師会並びに東京都歯科医師連盟が主催する各種委員会・会合・行事等に本会より役員を派遣し相互の連携を図った。

10. 新法人制度への対応

事業	実施状況
(1) 新法人制度・定款諸規則検討臨時委員会の開催	◦ 委員会を3回開催し、新法人移行に係る定款・諸規則及び諸手続き等について検討を行った。

■ ■ ■ ■ ■ 平成24年度 —— 主な出来事 —— ■ ■ ■ ■ ■

- 第2次川本執行部発足。
- 東京都学校歯科保健推進校（園）の支援事業への対応。
- 幼・小、中学校、高校及び特別支援学校を対象に味覚についての調査、アンケート調査を実施。
- 学校（幼・小・中・高・特別支援）歯科保健教育に必要な教材・資料の補充・作成。
- 第47回東京都学校歯科保健研究大会（平成25年2月7日（木）・文京シビックホール小ホール）を開催。

貸 借 対 照 表

平成25年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	10,231,617	12,352,088	△ 2,120,471
未 収 金	6,000	0	6,000
流動資産合計	10,237,617	12,352,088	△ 2,114,471
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基 本 財 産 引 当 資 産	24,608,326	24,508,326	100,000
基本財産合計	24,608,326	24,508,326	100,000
(2) 特定資産			
退 職 給 付 引 当 資 産	2,757,980	2,498,560	259,420
名 簿 作 成 引 当 資 産	1,000,000	800,000	200,000
運 営 基 金 引 当 資 産	29,492,652	29,392,652	100,000
特 別 事 業 積 立 金	5,000,000	3,000,000	2,000,000
特定資産合計	38,250,632	35,691,212	2,559,420
(3) その他固定資産			
什 器 備 品	29,747	46,301	△ 16,554
電 話 加 入 権	72,800	72,800	0
その他固定資産合計	102,547	119,101	△ 16,554
固定資産合計	62,961,505	60,318,639	2,642,866
資産合計	73,199,122	72,670,727	528,395
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	547,462	480,796	66,666
預 り 金	229,872	262,102	△ 32,230
流動負債合計	777,334	742,898	34,436
2. 固定負債			
退 職 給 付 引 当 金	2,757,980	2,498,560	259,420
固定負債合計	2,757,980	2,498,560	259,420
負債合計	3,535,314	3,241,458	293,856
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	69,663,808	69,429,269	234,539
正味財産合計	69,663,808	69,429,269	234,539
負債及び正味財産合計	73,199,122	72,670,727	528,395

事業報告

事業の状況

1. 学校歯科保健に関する大会・研修会・講習会の開催

事業	実施状況
(1) 第47回東京都学校歯科保健研究大会	○学校歯科保健を通して、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的に開催しているものである。本年度は、平成25年2月7日（木）文京シビック小ホールにおいて開催した。 内容は下記の通りである。 ☆表彰 (1) 学校歯科保健優良校表彰 (2) 歯の優秀作文表彰 (3) 東京都学校歯科保健功労者表彰 (4) 学校歯科医30年勤続者表彰 ☆優秀作文発表 府中市立白糸台小学校6年 福田麻尋 東村山市立東村山第七中学校1年 西垣玲奈 ☆合唱 文京区立本郷台中学校 ☆特別講演 ・講師：食育研究家・料理研究家 吉原ひろこ ・演題「食事の時間は命の時間」 －真の食事の時間を取り戻す－ ☆研究発表 ・講師：文京区立第六中学校 校長 美谷島正義 主任養護教諭 松村 姫富 ・演題「生徒が自主的に考え実践する 歯と口の健康づくりの推進」 －むし歯予防を通しての生活習慣病の自主的な改善－ 925名参加
(2) 学校保健（学校歯科医）研修会	○学校歯科医・学校保健関係者等を対象として東京都教育委員会ならびに東京都学校保健会との共催で、下記のように研修会を開催した。 ・7月19日（木）：都教職員研修センター 講演：「疫学からみた学校歯科保健活動へのヒント」 講師：神奈川歯科大学 社会歯科学講座 歯科医療社会学分野 准教授 山本龍生 講演「学校歯科医の職務について」 講師：東京都教育庁 地域教育支援部 歯科保健担当 課長 五十里一秋 205名参加
(3) ブロック別学校歯科医研修会	○東京都学校保健会の委託事業として開催した。 ・9/13（木）城南ブロック（当番地区：世田谷） 会場：梅丘パークホール 112名参加

(4) 学校歯科医基礎研修会	・10/18（木）城北ブロック（当番地区：豊島） 会場：豊島区歯科医師会館 72名参加 ・11/15（木）多摩ブロック（当番地区：府中） 会場：府中グリーンプラザ 84名参加 演題『学校歯科保健活動の場での“気づき”から生まれる「個」への対応』 講師：東京都学校歯科医会理事 長井博昭、澤田章司、東川輝子 。学校歯科医が職務を行う上で理解していなければならない基本的な事項の習得を目的として下記のように研修会を開催した。 ・7月19日（木）：都教職員研修センター 演題：「学校歯科保健の概念」 講師：東京都学校歯科医会理事 橋本健一 演題「学校歯科保健における保健教育」 講師：東京都学校歯科医会理事 中村卓志 演題：「学校歯科保健における保健管理」 講師：東京都学校歯科医会副会長 小嶋 憲 演題「学校歯科保健における組織活動」 講師：東京都学校歯科医会理事 高橋文夫 234名参加
-----------------------	---

2. 学校歯科保健に関する調査研究

事業	実施状況
(1) 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくりの推進	。生活習慣病予防等を目指し、児童・生徒並びに学校保健関係者に対する啓発事業に協力した。
(2) 学術委員会・学術研究委員会の開催	。学術研究委員会を3回、学術小委員会4回開催。研究テーマを「味覚」とし、子どもたちの味覚の発達に成人との違いや成長による変化、あるいは地域による違い等についての考察を通して、味覚教育に資することを目的に行う。本年度は幼・小、中学校、高校及び特別支援学校を対象に味覚調査、アンケート調査を実施した。 学術全体委員会は2月28日に開催、地区学術委員に対してのアンケートの報告を行った。
(3) 地区学校歯科保健活動の実態把握と協力	。各地区ブロックごとに連絡協議会を開催して意見や情報交換を行い地区の実態把握に努めた。 (7地区で開催)
(4) 東京都学校歯科保健推進校（園）支援事業への対応	。事業部打合せ会を11回。新規事業として選定校の連絡会を開催し、台東区立東浅草小学校、都立赤羽商業高校の2校を選定。選定校における自律的な健康づくりに資することを目的として次のような点について支援を行った。 (1) 学校保健委員会の活用 (2) 学校保健計画の策定

(5) 学校歯科保健調査研究事業実施校への協力 (6) 各種大会・研修会・講習会におけるテーマ及び講師の検討等 (7) 学校(幼・小・中・高・特別支援)歯科保健教育に必要な教材・資料の補充・作成 (8) 学校歯科保健に関する文教施策への協力 (9) 私立学校歯科保健活動への協力	(3) 歯科健康診断を活用した健康教育により子どもたちが歯・口の健康づくりをめざす (4) 保護者会や学校参観などの機会の活用 - 平成23年度・24年度の2年間にわたり研究事業実施校に選定された文京区立第六中学校の事業の助成を行うと共に、文京区及び東京都教育委員会との連絡協議会を開催し、円滑な事業の実施のために協力した。 - 学術担当の副会長および担当理事を中心に検討し理事会において決定、事業内容の充実に努めた。 『学校歯科保健活動の場での“気づき”から生まれる「個」への対応』というリーフレットの効果的な活用を目指し、本会理事が各ブロックにおいて開催する研修会に出向き、冊子の内容について講演を行った。 - その他ビデオ・スライド・書籍等の貸し出しを行い、学校歯科医及び学校保健関係者への利便に供した。 - 都立高等学校保健研究会ならびに東京都養護教諭研究会等との連絡会を開催、東京都教育委員会関係者を交え学校保健の現状の把握に努め、学校歯科保健事業の活性化を図った。 - 東京都生活文化局を通じ、私立学校に対する歯科保健活動への協力を依頼した。
--	--

3. 学校歯科保健教育、保健管理の実践及び保健思想の普及向上

事業	実施状況
(1) 東京都学校歯科保健優良校表彰 (2) 歯・口に関する児童生徒の作文募集及び表彰 (3) 島嶼児童生徒、特別支援児童等に対する保健指導管理	- 事業の実施にあたり、調査票を都内幼・小・中・高・特別支援学校2,325校に送付。744校の応募を得、慎重に審査した結果742校が入選し、2月7日の第47回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。 - 作文募集要項を都内小中学校1,934校に送付、応募作品605点、一次・二次審査を経て入選者105名を決定し、第47回東京都学校歯科保健研究大会において表彰、入選者の作品を大会要項に掲載した。 - 大島教育委員会へ歯科保健教育充実のため学校歯科保健指導用教材を送付した。

4. 会誌・広報

事業	実施状況
(1) 会誌・広報委員会の開催 (2) 会誌・広報誌の発行 (3) ホームページの運営	- 会誌・広報の編集委員会を9回開催した。 - 会誌76号を発刊、広報誌は第104号～106号を発行し全会員に配布した。 - 会員への啓発及び一般都民への広報活動の一環として、ホームページの内容の充実に努めた。

5. ブロック・地区支援

事業	実施状況
(1) ブロック・地区の活動支援	地区学校歯科保健の活動をバックアップし、学校歯科保健の円滑な運営を行うため、各ブロック地区毎の連絡協議会を計7回開催し実態把握に努めた。なお、広範囲にわたる多摩地区については、3地区に分けて活動を支援する体制とした。

6. 学校歯科保健功労者の表彰・顕彰

事業	実施状況
(1) 学校歯科医30年勤続者の表彰 (2) 学校歯科保健功労者への表彰及び顕彰	30年勤続該当者15名、本年度より学校歯科保健功労者表彰、個人6名、3団体を第47回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。また、本年度の叙勲、大臣・都知事・東京都教育委員会表彰等の受賞者を顕彰した。

7. 歯の衛生週間への協力

事業	実施状況
(1) 歯科保健ポスターの作成 (2) 関係地区の行事への協力	- 歯科保健ポスターを都内幼・小・中・特別支援学校に配布した。 - 関係地区・団体主催の大会、表彰式等の各種行事に役員を派遣した。 - 関係地区・団体主催の研修会・講習会等において講師として役員を派遣した。

8. 各種大会への協力

事業	実施状況
(1) 第69回学童歯みがき大会 (2) 平成24年度健康づくりフォーラム (3) 学校歯科保健調査研究事業 (生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業) 連絡協議会 (4) 第63回関東甲信越静学校保健大会・歯科職域部会 (5) 第76回全国学校歯科保健研究大会 (6) 第62回全国学校保健研究大会・歯科医協議会 (7) 関東地区歯科医師会役員連絡協議会	6月4日インターネット配信によって実施された歯みがき大会に参加した。 12月20日、都庁5階大会議堂において開催の「健康づくりフォーラム」に出席した。 6月21日歯科医師会館において日本学校歯科医会主催の歯・口の健康づくり推進事業を目指した連絡協議会に出席した。 8月2日、埼玉県において開催された大会に出席した。 10月25日～26日、群馬県において開催の全国大会に出席した。 11月8日～9日、熊本県において開催された大会に出席した。 7月26日、埼玉県において開催された協議会にオブザーバーとして出席した。

9. 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携

事業	実施状況
(1) 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携	東京都歯科医師会並びに東京都歯科医師連盟が主催する各種委員会・会合・行事等に本会より役員を派遣し相互の連携を図った。

10. 新法人制度への対応

事業	実施状況
(1) 一般社団法人への移行	8月6日に一般社団法人への移行申請を行い、3月25日に東京都より移行認可書が交付された。

■■■■■■■ 平成25年度 —— 主な出来事 —— ■■■■■■■

- 平成25年4月1日より一般社団法人に移行。
- 東京都で第64回関東甲信越静学校保健大会（平成25年8月1日）が開催された。
歯科職域部会は東京都学校歯科医会が主管として運営。
- 東京都学校歯科保健推進校に台東区立東浅草小学校が選定され、その後、日本学校歯科医会会長賞を受賞。都立赤羽商業高は、文部科学大臣賞を受賞。
- 「味覚とおいしさの科学」の冊子を作成・配布。
- 第48回東京都学校歯科保健研究大会（平成26年2月27日（木）・文京シビックホール大ホール）を開催。

貸 借 対 照 表

平成26年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	10,152,249	10,231,617	△ 79,368
未収金	30,000	6,000	24,000
前払金	706,700	0	706,700
流動資産合計	10,888,949	10,237,617	651,332
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産引当資産	24,708,326	24,608,326	100,000
基本財産合計	24,708,326	24,608,326	100,000
(2) 特定資産			
役員退職慰労引当資産	950,000	0	950,000
退職給付引当資産	3,401,020	2,757,980	643,040
名簿作成引当資産	400,000	1,000,000	△ 600,000
運営基金引当資産	29,592,652	29,492,652	100,000
特別事業積立金	7,000,000	5,000,000	2,000,000
特定資産合計	41,343,672	38,250,632	3,093,040
(3) その他固定資産			
什器備品	22,923	29,747	△ 6,824
電話加入権	72,800	72,800	0
その他固定資産合計	95,723	102,547	△ 6,824
固定資産合計	66,147,721	62,961,505	3,186,216
資産合計	77,036,670	73,199,122	3,837,548
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,835,403	547,462	3,287,941
預り金	213,147	229,872	△ 16,725
流動負債合計	4,048,550	777,334	3,271,216
2. 固定負債			
退職給付引当金	3,401,020	2,757,980	643,040
役員退職慰労引当金	950,000	0	950,000
固定負債合計	4,351,020	2,757,980	1,593,040
負債合計	8,399,570	3,535,314	4,864,256
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	68,637,100	69,663,808	△ 1,026,708
負債及び正味財産合計	77,036,670	73,199,122	3,837,548

事業報告

事業の状況

1. 学校歯科保健に関する大会・研修会・講習会の開催

事業	実施状況
(1) 第48回東京都学校歯科保健研究大会	○学校歯科保健を通して、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的に開催しているものである。本年度は、「学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり～日本の伝統文化にふれて感性をみがこう～」をテーマに、下村博文大臣を迎え、平成26年2月27日（木）文京シビック大ホールにおいて開催した。当日の来会者は、1,500名弱。内容は下記の通りである。 ☆表彰 (1) 学校歯科保健優良校表彰 (2) 歯の優秀作文表彰 (3) 東京都学校歯科保健功労者表彰 (4) 学校歯科医30年勤続者表彰 ☆優秀作文発表 足立区立湊江小学校6年 藤沼 香奈 世田谷区立玉川中学校2年 町塚日向子 ☆音楽演奏 東京都立杉並高等学校 吹奏楽部 ☆特別講演 ・講師：雅楽師 東儀 秀樹 ・演題「雅楽のこころ音楽のちから」 ☆展示 ライオン株式会社による唾液検査体験ブース シエン社 日本臨床矯正歯科医会 ☆ポスター展示 大規模な味覚調査～幼稚園児から高校生まで～
(2) 学校保健（学校歯科医）研修会	○学校歯科医・養護教諭等を対象として東京都教育委員会ならびに東京都学校保健会との共催で、下記のように研修会を開催した。 ・12月5日（木）：歯科医師会館 講演「学校歯科医の職務について」 講師：東京都教育庁 地域教育支援部 歯科保健担当 課長 五十里一秋 講演：「幼児・学童期における機能解剖学的基礎知識」 －咀嚼・嚥下機能、味覚の獲得－ 講師：東京歯科大学 解剖学講座 教授 阿部 伸一 216名参加
(3) ブロック別学校歯科医研修会	○東京都学校保健会の委託事業として開催した。 ・9/19（木）中央ブロック（当番地区：下谷） 会場：台東区歯科医師会館 86名参加 ・10/10（木）城東ブロック（当番地区：向島） 会場：曳舟文化センター 62名参加

(4) 学校歯科医基礎研修会	・11/14(木)城西ブロック(当番地区:杉並) 会場:杉並区歯科医師会館 64名参加 演題『学校歯科保健活動の場での“気づき”から生まれる「個」への対応』 講師:東京都学校歯科医会理事 牧野 寛、東川 輝子、長井博昭 。学校歯科医が職務を行う上で理解していなければならない基本的な事項の習得を目的として下記のように研修会を開催した。 ・12月5日(木):歯科医師会館 演題:「学校歯科保健の概念」 講師:東京都学校歯科医会副会長 由井 孝 演題「学校歯科保健における保健教育」 講師:東京都学校歯科医会理事 渡邊 実 演題:「学校歯科保健における保健管理」 講師:東京都学校歯科医会理事 長沼善美 演題「学校歯科保健における組織活動」 講師:東京都学校歯科医会理事 末高英世 157名参加
----------------	---

2. 学校歯科保健に関する調査研究

事業	実施状況
(1) 歯・口の健康づくりの推進	。望ましい生活習慣の形成を目指し、児童・生徒や学校保健関係者に対する啓発事業に協力した。
(2) 学術委員会・学術研究委員会の開催	。学術研究委員会を2回、学術打合せ会を5回、学術部会を2回開催。研究テーマを「味覚」とし、子供たちの味覚の発達に成人との違いや成長による変化、あるいは地域による違い等についての考察を通して、味覚教育に資することを目的に行う。幼・小、中学校から高校及び特別支援学校を対象に味覚調査、アンケート調査を行った結果等をもとに冊子「味覚とおいしさの科学～和の味を子供たちに伝えるために～」を作成した。 学術全体委員会は3月25日に開催、地区学術委員に対してのアンケートの報告を行った。
(3) 地区学校歯科保健活動の実態把握と協力	。各地区ブロックごとに連絡協議会を開催して意見や情報交換を行い地区の実態把握に努めた。 (5地区で開催)
(4) 東京都学校歯科保健推進校(園)支援事業への対応	。事業部会を11回、選定校の連絡会を開催。台東区立東浅草小学校、都立赤羽商業高校の2校を選定し、選定校における自律的な健康づくりに資することを目的として次のような点について支援を行った。 (1) 学校保健委員会の活用 (2) 学校保健計画の策定

(5) 学校歯科保健調査研究事業実施校選定への協力 (6) 学校歯科保健調査研究事業実施校への協力 (7) 各種大会・研修会・講習会におけるテーマ及び講師の検討等 (8) 学校(幼・小・中・高・特別支援)歯科保健教育に必要な教材・資料の補充・作成 (9) 学校歯科保健に関する文教施策への協力 (10) 私立学校歯科保健活動への協力	(3) 歯科健康診断を活用した健康教育により子供たちが歯・口の健康づくりをめざす (4) 保護者会や学校参観などの機会の活用 両校は、全日本学校歯科保健優良校表彰にて赤羽商校は優秀賞(文部科学大臣賞)、浅草小は日本学校歯科医会会長賞をそれぞれ受賞した。 - 平成25年度・26年度の2年間にわたり研究事業実施校に選定された東京都立志村学園の事業の助成を行うと共に、東京都教育委員会との連絡協議会を開催し、円滑な事業の実施のために協力した。 - 学術担当の副会長および担当理事を中心に学術研究委員会において検討し理事会において決定、事業内容の充実に努めた。 『学校歯科保健活動の場での“気づき”から生まれる「個」への対応』というリーフレットの効果的な活用を目指し、本会理事が各ブロックにおいて開催する研修会に出向き、冊子の内容について講演を行った。 - その他ビデオ・スライド・書籍等の貸し出しを行い、学校歯科医及び歯科保健教育関係者への利便に供した。 - 今年度は幼・小、中学校から高校及び特別支援学校を対象に味覚調査、アンケート調査を行った結果等をもとに冊子「味覚とおいしさの科学～和の味を子供たちに伝えるために～」を作成した。 - 都立高等学校保健研究会ならびに東京都養護教諭研究会等との連絡会を開催、東京都教育委員会関係者を交え学校保健の現状の把握に努め、学校歯科保健事業の活性化を図った。 - 東京都生活文化局を通じ、私立学校に対する歯科保健活動への協力を依頼した。 「私立学校における歯科保健活動推進モデル事業」への協力を行った。実施校は菅生学園初等学校。
--	---

3. 学校歯科保健教育、保健管理の実践及び保健思想の普及向上

事業	実施状況
(1) 東京都学校歯科保健優良校表彰	事業の実施にあたり、調査票を都内幼・小・中・高・特別支援学校2,419校に送付。740校の応募を得、慎重に審査した結果740校全てが入選し、2月27日の第48回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。
(2) 歯・口に関する児童生徒の作文募集及び表彰	作文募集要項を都内小中学校1,935校に送付、応募作品630点、一次・二次審査を経て入選者105名を決定し、第48回東京都学校歯科保健研究大会において表彰、入選者の作品を大会要項に掲載した。
(3) 島嶼児童生徒、特別支援児童等に対する保健指導管理	- 八丈町教育委員会へ歯科保健教育充実のため学校歯科保健指導用教材を送付した。 - 養護教諭・学校歯科医の活動に関する調査アンケートを実施し、島嶼の現状について調査した。

4. 会誌・広報

事業	実施状況
(1) 会誌・広報委員会の開催 (2) 会誌・広報誌の発行 (3) ホームページの運営	◦ 会誌・広報の編集委員会を9回開催した。 ◦ 会誌77号を発刊、広報誌は第107号～109号を発行し全会員に配布した。 ◦ 会員への啓発及び一般都民への広報活動の一環として、ホームページの内容の充実を図った。 ◦ 本年度は、会員名簿をホームページにアップした。

5. ブロック・地区支援

事業	実施状況
(1) ブロック・地区の活動支援	◦ 地区学校歯科保健の活動をバックアップし、学校歯科保健の円滑な運営を行うため、各ブロック地区毎の連絡協議会を計5回開催し実態把握に努めた。なお、広範囲にわたる多摩地区については、3地区に分けて活動を支援する体制とした。

6. 学校歯科保健功労者の表彰・顕彰

事業	実施状況
(1) 学校歯科医30年勤続者の表彰 (2) 学校歯科保健功労者への表彰及び顕彰	◦ 30年勤続該当者21名、学校歯科保健功労者表彰、個人4名、2団体を第48回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。また、本年度の叙勲、大臣・都知事・東京都教育委員会表彰等の受賞者を顕彰した。

7. 歯と口の健康週間への協力

事業	実施状況
(1) 歯科保健ポスターの作成 (2) 関係地区の行事への協力	◦ 歯科保健ポスターを都内幼・小・中・特別支援学校に配布した。 ◦ 関係地区・団体主催の大会、表彰式等の各種行事に役員を派遣した。 ◦ 関係地区・団体主催の研修会・講習会等において講師として役員を派遣した。

8. 各種大会への協力

事業	実施状況
(1) 第70回学童歯みがき大会	◦ 6月4日インターネット配信によって実施された歯みがき大会に参加した。
(2) 平成25年度健康づくりフォーラム	◦ 1月18日、文化学園大学において開催の「健康づくりフォーラム」の運営に協力した。
(3) 学校歯科保健調査研究事業連絡協議会	◦ 5月28日歯科医師会館において日本学校歯科医会主催の歯・口の健康づくり推進事業を目指した連絡協議会に出席した。
(4) 第64回関東甲信越静学校保健大会・歯科職域部会	◦ 8月1日、東京都において開催された大会に出席した。歯科職域部会は都学歯が開催の主管として運営にあたった。歯科職域部会120名参加
(5) 第77回全国学校歯科保健研究大会	◦ 10月17日～18日、熊本県において開催の全国大会に出席した。 ポスター展示 ・大規模な味覚調査～幼稚園児から高校生まで～
(6) 第63回全国学校保健研究大会・歯科医協議会	◦ 11月7日～8日、秋田県において開催された大会に出席した。
(7) 関東地区歯科医師会役員連絡協議会	◦ 8月29日、千葉県において開催された協議会にオブザーバーとして出席した。

9. 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携

事業	実施状況
(1) 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携	◦ 東京都歯科医師会並びに東京都歯科医師連盟が主催する各種委員会・会合・行事等に本会より役員を派遣し相互の連携を図った。

10. 学校歯科保健支援プロジェクト

事業	実施状況
(1) 学校歯科保健支援プロジェクト	◦ いわゆる都学歯ライブラリーを始めとする会員が地区の保健活動に活用出来る資料の収集と公開を行うために3回の打合せ会を開いた。

■■■■■■■ 平成26年度 —— 主な出来事 —— ■■■■■■■

- 第3次川本執行部発足。
- 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」が平成26年度より東京都歯科医師会から移管され、東京都学校歯科医会主催、東京都教育委員会共催で行うこととなった。
- 新宿駅西口プロムナードギャラリーにて「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」の展示を行った。
- 「味覚とおいしさの科学」をパワーポイント教材としてCDの発行。
- 島しょ地区での養護教諭・学校歯科医に関する調査アンケートを実施し、島しょの現状について調査した。
- 第49回東京都学校歯科保健研究大会（平成27年2月12日（木）・文京シビックホール大ホール）を開催。

貸 借 対 照 表

平成27年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	6,756,184	10,152,249	△ 3,396,065
未収金	0	30,000	△ 30,000
前払金	144,180	706,700	△ 562,520
流動資産合計	6,900,364	10,888,949	△ 3,988,585
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産引当資産	24,708,326	24,708,326	100,000
基本財産合計	24,708,326	24,708,326	100,000
(2) 特定資産			
役員退職慰労引当資産	1,950,000	950,000	1,000,000
退職給付引当資産	4,186,600	3,401,020	785,580
名簿作成引当資産	500,000	400,000	100,000
運営基金引当資産	29,592,652	29,592,652	0
特別事業積立金	8,000,000	7,000,000	1,000,000
特定資産合計	44,229,252	41,343,672	2,885,580
(3) その他固定資産			
什器備品	16,099	22,923	△ 6,824
電話加入権	72,800	72,800	0
その他固定資産合計	88,899	95,723	△ 6,824
固定資産合計	69,026,477	66,147,721	2,878,756
資産合計	75,926,841	77,036,670	△ 1,109,829
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	311,288	3,835,403	△ 3,524,115
預り金	267,799	213,147	54,652
流動負債合計	579,087	4,048,550	△ 3,469,463
2. 固定負債			
退職給付引当金	4,186,600	3,401,020	785,580
役員退職慰労引当金	1,950,000	950,000	1,000,000
固定負債合計	6,136,600	4,351,020	1,785,580
負債合計	6,715,687	8,399,570	△ 1,683,883
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	69,211,154	68,637,100	574,054
負債及び正味財産合計	75,926,841	77,036,670	△ 1,109,829

事業報告

事業の状況

1. 学校歯科保健に関する大会・研修会・講習会の開催

事業	実施状況
(1) 第49回東京都学校歯科保健研究大会	。学校歯科保健を通して、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的に開催しているものである。本年度は、「学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり」をテーマに、平成27年2月12日（木）文京シビック大ホールにおいて開催した。当日の来会者は、1,300余名。内容は下記の通りである。 ☆表彰 (1) 学校歯科保健優良校表彰 (2) 歯の優秀作文表彰 (3) 図画ポスターコンクール入選者表彰 (4) 東京都学校歯科保健功労者表彰 (5) 学校歯科医30年勤続者表彰 ☆優秀作文発表・講評 多摩市立東落合小学校6年 原口波奈 渋谷区立原宿外苑中学校3年 屋敷 南 ☆図画ポスターコンクール受賞作品講評 ☆音楽演奏 国立音楽大学創立90周年記念合唱団 ☆研究発表：生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業 「高等部就業技術科における歯と口の健康づくり推進事業 歯と口の健康を通じたQOLの向上を目指して」 ～SGD（Small Group Discussion）の取り組み～ ☆特別講演 ・講師：東京オリンピック・パラリンピック競技大会 組織委員会スポーツディレクター 室伏広治 ・演題「Your Only Limit is You」 ☆展示研究発表 ・豊島区学校歯科医会、北学校歯科医会、練馬区学校歯科医 会、日本臨床矯正歯科医会、東京医科歯科大学歯科東京同 窓会学校歯科保健部、東京都立足立東高等学校、台東区立 東浅草小学校、台東区立富士小学校、東京都立府中けやき の森学園（特別支援学校）、東京都学校歯科医会 ☆企業展示 ・シエン社 ☆広告掲載企業 ・ライオン株式会社、日本臨床矯正歯科医会、長田電気工業 株式会社、GIA INC.、シャンドウソレイユ ☆協賛企業 ・ライオン株式会社、サンスター株式会社、株式会社ジー シー、グラクソ・スミスクライン株式会社、アサヒプリ テック株式会社、相田化学工業株式会社

(2) 学校保健（学校歯科医）研修会	。学校歯科医・養護教諭等を対象として東京都教育委員会ならびに東京都学校保健会との共催で、研修会を開催した。 ・12月11日（木）：歯科医師会館 講演「学校歯科医の職務について」 講師：東京都教育庁 地域教育支援部 歯科保健担当 課長 三ツ木 浩 講演：「児童・生徒へのカスタムメイド マウスガード 応用の利点とその必要性」 講師：東京歯科大学 スポーツ歯学研究室 准教授 武田友孝 148名参加
(3) ブロック別学校歯科医研修会	。東京都学校保健会の委託事業として開催した。 ・9／18（木）城南ブロック（当番地区：玉川） 会場：玉川歯科医師会館 65名参加 ・10／9（木）城北ブロック（当番地区：滝野川） 会場：滝野川歯科医師会館 65名参加 ・11／13（木）多摩ブロック（当番地区：三鷹） 会場：三鷹産業プラザ 92名参加 演題『味覚とおいしさの科学～和の味を子供たちに 伝えるために～』 講師：東京歯科大学 生理学講座 准教授 澁川義幸
(4) 学校歯科医基礎研修会	。学校歯科医が職務を行う上で理解していなければならない基本的な事項の習得を目的として研修会を開催した。 ・12月11日（木）：歯科医師会館 演題：「学校歯科保健の概念」 講師：東京都学校歯科医会理事 東川輝子 演題「学校歯科保健における保健教育」 講師：東京都学校歯科医会理事 長井博昭 演題：「学校歯科保健における保健管理」 講師：東京都学校歯科医会理事 牧野 寛 演題「学校歯科保健における組織活動」 講師：東京都学校歯科医会理事 澤田章司 125名参加 ・今年度は、日本学校歯科医会主催の基礎研修会が東京にて 7月19日（土）に行われた。 東京からは30名参加

2. 学校歯科保健に関する調査研究

事 業	実 施 状 況
(1) 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくりの推進	。望ましい生活習慣の形成を目指し、児童・生徒や学校保健関係者に対する啓発事業に協力した。 。5月21日、日本学校歯科医会主催の生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業を目指した実施校を訪問し、話し合いの場を持った。

(2) 学術委員会・学術研究委員会の開催	学術研究委員会を4回、学術部会を4回開催。研究テーマを「味覚」とし、子供たちの味覚発達の成人との違いや成長による変化、あるいは地域による違い等についての考察を通して、味覚教育に資することを目的に行う。幼・小、中学校から高校及び特別支援学校を対象に味覚調査、アンケート調査を行った結果等をもとに昨年度、冊子「味覚とおいしさの科学～和の味を子供たちに伝えるために～」を作成したが、今年度はその冊子を用いて学校現場で使用できるパワーポイント教材としてCDの制作について検討を行い、3月に発行した。学術全体委員会は3月12日に開催、味覚とおいしさの科学パワーポイント教材としてCDの発行、組織活動についてのアンケートの集計結果について説明を行い、委員から意見を伺うことができた。
(3) 地区学校歯科保健活動の実態把握と協力	各地区ブロックごとに連絡協議会を開催して意見や情報交換を行い地区の実態把握に努めた。 (8地区全地区において開催)
(4) 東京都学校歯科保健推進校(園)支援事業の選定と支援	- 事業部会を10回、選定校の連絡会を開催。町田市立小山田中学校、府中市立小柳幼稚園の2校を選定し、選定校における自律的な健康づくりに資することを目的として次のような点について支援を行った。 (1) 学校保健委員会の活用 (2) 学校保健計画の策定 (3) 歯科健康診断を活用した健康教育により子供たちが歯・口の健康づくりをめざす (4) 保護者会や学校参観などの機会の活用
(5) 学校歯科保健調査研究事業実施校への協力	平成25年度・26年度の2年間にわたり研究事業実施校に選定された東京都立志村学園の事業の助成を行うと共に円滑な事業の実施のために協力した。
(6) 各種大会・研修会・講習会におけるテーマ及び講師の検討等	- 学術担当の副会長および担当理事を中心に学術研究委員会において検討し理事会において決定、事業内容の充実に努めた。 『味覚とおいしさの科学～和の味を子供たちに伝えるために～』という冊子の効果的な活用を目指し、東京歯科大学准教授澁川義幸氏が各ブロックにおいて開催する研修会に出向き、冊子の内容について講演を行った。
(7) 学校歯科保健に関する文教施策への協力	都立高等学校保健研究会ならびに東京都養護教諭研究会等との連絡会を開催、東京都教育委員会関係者を交え学校保健の現状の把握に努め、学校歯科保健事業の活性化を図った。

3. 学校歯科保健教育、保健管理の実践及び保健思想の普及向上

事業	実施状況
(1) 東京都学校歯科保健優良校表彰	事業の実施にあたり、調査票を都内幼・小・中・高・特別支援学校2,419校に送付。717校の応募を得、慎重に審査した結果717校全てが入選し、2月12日の第49回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。

(2) 歯・口に関する児童生徒の作文募集及び表彰	作文募集要項を都内小中学校1,929校に送付、応募作品652点、一次・二次審査を経て入選者105名を決定し、第49回東京都学校歯科保健研究大会において表彰、優秀作文の朗読を行い、入選者の作品を大会要項に掲載した。
(3) 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール及び歯・口の健康啓発標語コンクールの募集及び表彰	- 平成26年度より都学歯主催、東京都教育委員会共催により図画・ポスターコンクールが実施された。 地区学校歯科医会、地区歯科医師会、島しょ学校あてに募集要項を発送し、都教委より地区の教育委員会に協力を要請し募集を行った。 - 幼稚園・保育園・こども園の部8作品、小学校低学年の部47作品、小学校高学年の部45作品、中学校の部32作品、高等学校の部3作品、特別支援学校の部（特別支援学級を含む）3作品、計138作品の応募があった。 9月25日に審査会を開催し、24作品が入選、114作品が佳作となった。第49回東京都学校歯科保健研究大会において24の受賞作品を展示・表彰した。そのうち各部門の1位は、日本学校歯科医会主催の全日本へ推薦した。 - 平成27年1月3日より1月17日にわたり、新宿駅西口プロムナード・ギャラリーに受賞作品24点の展示を行った。 - 標語コンクールでは、14作品の応募の中から、多摩市多摩永山中学校の児童生徒の作品「歯磨きで かめる喜び いつまでも」が選ばれ、日学歯へ推薦した。
(4) 学校歯科保健教育に必要な教材・資料の補充・作成	昨年度、幼、小、中学校から高校及び特別支援学校を対象に味覚調査、アンケート調査を行った結果等をもとに冊子「味覚とおいしさの科学～和の味を子供たちに伝えるために～」を作成したが、さらに今年度は学校現場で使用できるパワーポイント教材としてCDを制作した。 その他ビデオ・DVD等の貸し出しを行い、学校歯科医及び歯科保健教育関係者への利便に供した。
(5) 島しょ地区並びに特別支援児童生徒等に対する保健指導管理	- 養護教諭・学校歯科医の活動に関する調査アンケートを実施し、島しょの現状について調査した。 - 島しょ地区学校歯科保健活動サポートとして大島小学校3校、中学校3校合同の養護教諭部会より「保健活動学習」の希望があり、12月4～5日理事担当者が3名派遣され講演を行い、島しょ地区の歯科保健活動の実情を調査し意見交換を行った。また、1月15日には八丈島に理事が3名派遣され講演を行った。
(6) 私立学校歯科保健活動への協力	日学歯主催の「私立学校における歯科保健活動推進モデル事業」への協力を行った。実施校は菅生学園初等学校。

4. 会誌・広報

事業	実施状況
(1) 会誌・広報委員会の開催 (2) 会誌・広報誌の発行 (3) ホームページの運営	◦ 会誌・広報の編集委員会を10回開催した。 ◦ 会誌78号を発刊、広報誌は第110号～112号を発行し全会員に配布した。 ◦ 会員への啓発及び一般都民への広報活動の一環として、ホームページの内容の充実を図った。 ◦ 会員名簿をホームページにアップし、今後の利便性向上について検討した。

5. ブロック・地区支援

事業	実施状況
(1) ブロック・地区の活動支援	◦ 地区学校歯科保健の活動をバックアップし、学校歯科保健の円滑な運営を行うため、各ブロック地区毎の連絡協議会を計8回開催し実態把握に努めた。なお、広範囲にわたる多摩地区については、3地区に分けて活動を支援する体制とした。

6. 学校歯科保健功労者の表彰・顕彰

事業	実施状況
(1) 学校歯科医30年勤続者の表彰 (2) 学校歯科保健功労者の表彰及び顕彰	◦ 30年勤続該当者15名、学校歯科保健功労者表彰、10名を第49回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。また、本年度の叙勲、大臣・都知事・東京都教育委員会表彰等の受賞者を顕彰した。

7. 歯と口の健康週間への協力

事業	実施状況
(1) 歯科保健ポスターの作成 (2) 関係地区の行事への協力	◦ 図画・ポスターコンクール1位受賞作品を掲載した歯科保健ポスターを都内幼・小・中・高校・特別支援学校に配布した。 ◦ 関係地区・団体主催の大会、表彰式等の各種行事に役員を派遣した。 ◦ 関係地区・団体主催の研修会・講習会等において講師として役員を派遣した。

8. 各種大会への協力

事 業	実 施 状 況
(1) 第71回学童歯みがき大会	◦ 6月4日インターネット配信によって実施された歯みがき大会に参加した。
(2) 平成26年度健康づくりフォーラム	◦ 7月31日、東京都庁において開催の「健康づくりフォーラム」の運営に協力した。
(3) 第65回関東甲信越静学校保健大会・歯科職域部会	◦ 8月21日、千葉県において開催された大会に出席した。歯科職域部会は千葉県が開催の主管として運営にあたった。
(4) 第78回全国学校歯科保健研究大会	◦ 10月23日～24日、島根県において開催の全国大会に出席した。 ☆ポスター発表 ・東京都学校歯科医会 「新たな味覚教育の試み ～冊子「おいしさと味覚の科学」の活用～」
(5) 第64回全国学校保健研究大会・歯科医協議会	◦ 11月6日～7日、石川県において開催された大会に出席した。

9. 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携

事 業	実 施 状 況
(1) 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携	◦ 東京都歯科医師会並びに東京都歯科医師連盟が主催する各種委員会・会合・行事等に本会より役員を派遣し相互の連携を図った。

10. 学校歯科保健支援プロジェクト

事 業	実 施 状 況
(1) 学校歯科保健支援プロジェクト	◦ いわゆる都学歯ライブラリーを始めとする会員が地区の保健活動に活用出来る資料の収集と公開を行うために11回の打合せ会を開いた。 ◦ 都学歯ホームページの会員ページにライブラリーとして名称をあげてデータをアップした。

■■■■■■■ 平成27年度 —— 主な出来事 —— ■■■■■■■

- 「味覚とおいしさの科学」の冊子について東京歯科大学生理学講座の澁川義幸准教授（当時）がブロック別研修会を行なった。
- 学術研究委員会は、島しょ地区事業の報告、私立小学校に対する歯科保健実態調査について報告があった。
- 新宿駅西口プロムナードギャラリー、市ヶ谷プロムナードギャラリーにて「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」の展示を行った。
- 第50回東京都学校歯科保健研究大会（平成28年3月10日（木）・文京シビックホール大ホール）を開催。

貸 借 対 照 表

平成28年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	6,992,384	6,756,184	236,200
未収金	190,000	0	190,000
前払金	144,180	144,180	0
流動資産合計	7,326,564	6,900,364	426,200
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産引当資産	0	24,708,326	△ 24,708,326
基本財産合計	0	24,708,326	△ 24,708,326
(2) 特定資産			
役員退職慰労引当資産	900,000	1,950,000	△ 1,050,000
学術研究引当資産	14,708,326	0	14,708,326
退職給付引当資産	5,019,440	4,186,600	832,840
名簿作成引当資産	500,000	500,000	0
運営基金引当資産	29,592,652	29,592,652	0
特別事業積立金	18,000,000	8,000,000	1,000,000
特定資産合計	68,720,418	44,229,252	24,491,166
(3) その他固定資産			
什器備入品	9,275	16,099	△ 6,824
電話加権	72,800	72,800	0
その他固定資産合計	82,075	88,899	△ 6,824
固定資産合計	68,802,493	69,026,477	△ 223,984
資産合計	16,129,057	75,926,841	202,216
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	252,674	311,288	△ 58,614
預り金	210,759	267,799	△ 57,040
仮払金	50,000	0	50,000
流動負債合計	513,433	579,087	△ 65,654
2. 固定負債			
退職給付引当金	5,019,440	4,186,600	832,840
役員退職慰労引当金	900,000	1,950,000	△ 1,050,000
固定負債合計	5,919,440	6,136,600	△ 217,160
負債合計	6,432,873	6,715,687	△ 282,814
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	69,696,184	69,211,154	485,030
負債及び正味財産合計	76,129,057	75,926,841	202,216

事業報告

事業の状況

1. 学校歯科保健に関する大会・研修会・講習会の開催

事業	実施状況
(1) 第50回東京都学校歯科保健研究大会	○学校歯科保健を通して、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的に開催しているものである。本年度は、「学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり」をテーマに、平成28年3月10日（木）文京シビック大ホールにおいて開催した。当日の来会者は、1,300余名。内容は下記の通りである。 ☆表彰 (1) 学校歯科保健優良校表彰 (2) 歯の優秀作文表彰 (3) 図画ポスターコンクール入選者表彰 (4) 歯・口の健康啓発標語コンクール入選者表彰 (5) 東京都学校歯科保健功労者表彰 (6) 学校歯科医30年勤続者表彰 ☆優秀作文発表・講評 豊島区立朝日小学校6年 市川 凜 練馬区立中村中学校2年 沖原奈津子 ☆図画ポスターコンクール受賞作品講評 ☆研究発表： 平成24・25年度、平成26・27年度 東京都学校歯科保健推進校（園）支援事業実施校4校 府中市立小柳幼稚園、台東区立東浅草小学校、 町田市立小山田中学校、東京都立赤羽商業高等学校 ☆特別講演 ・講師：国立モンゴル医科大学歯学部客員教授 岡崎好秀 ・演題「クイズで語る おもしろ食育最前線」 ☆ポスター展示研究発表 ・練馬区学校歯科医会学術委員会、府中市立小柳幼稚園、町田市立小山田中学校、港区立御成門小学校、東京都立小金井特別支援学校 ・東京都学校歯科医会 「味覚の教室」 「東京都島しょ地区での学校歯科保健活動報告」 ☆企業展示 ・シエン社、(株)日本医療器研究所 ☆広告掲載企業 ・ライオン株式会社、(株)日本医療器研究所、日本臨床矯正歯科医会、相田化学工業株式会社、GIA INC.、シャン ドゥソレイユ ☆協賛企業 ・ライオン株式会社、サンスター株式会社

(2) 学校保健（学校歯科医）研修会	。学校歯科医・養護教諭等を対象として東京都教育委員会ならびに東京都学校保健会との共催で、研修会を開催した。 ・12月10日（木）：歯科医師会館 講演「学校歯科医の職務について」 講師：東京都教育庁 地域教育支援部 歯科保健担当 課長 三ツ木 浩 演題「歯科疾患を有する児童・生徒の特長とその行動 ～親の言い分、子の言い分・・・ そこにアプローチするには～」 講師：東京歯科大学 口腔健康科学講座 障害者歯科・口腔顎顔面痛研究室 准教授 大多和由美 165名参加
(3) ブロック別学校歯科医研修会	。東京都学校保健会の委託事業として開催した。 ・9／10（木）中央ブロック（当番地区：浅草） 会場：台東区生涯学習センター 75名参加 ・10／8（木）城東ブロック（当番地区：足立） 会場：足立区歯科医師会館 59名参加 ・11／12（木）城西ブロック（当番地区：四谷牛込） 会場：歯科医師会館2階 93名参加 演題『味覚とおいしさの科学～和の味を子供たちに 伝えるために～』 講師：東京歯科大学 生理学講座 准教授 澁川義幸
(4) 学校歯科医基礎研修会	。学校歯科医が職務を行う上で理解していなければならない基本的な事項の習得を目的として研修会を開催した。 ・12月10日（木）：歯科医師会館 演題：「学校歯科保健の概念」 講師：東京都学校歯科医会理事 奥野圭子 演題「学校歯科保健における保健教育」 講師：東京都学校歯科医会理事 澤田章司 演題：「学校歯科保健における保健管理」 講師：東京都学校歯科医会専務理事 鈴木 博 演題「学校歯科保健における組織活動」 講師：東京都学校歯科医会理事 高橋文夫 121名参加 ・今年度は、日本学校歯科医会主催の基礎研修会が東京にて 5月24日（日）に行われた。 東京からは18名参加

2. 学校歯科保健に関する調査研究

事業	実施状況
(1) 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくりの推進 (2) 学術委員会・学術研究委員会の開催 (3) 地区学校歯科保健活動の実態把握と協力 (4) 東京都学校歯科保健推進校（園）支援事業の選定と支援 (5) 学校歯科保健調査研究事業実施校への協力 (6) 各種大会・研修会・講習会におけるテーマ及び講師の検討等	◦ 望ましい生活習慣の形成を目指し、児童・生徒や学校保健関係者に対する啓発事業に協力した。 ◦ 5月13日、日本学校歯科医会主催の生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業を目指した実施校（東京都立永福学園）と連絡会の場を持った。 ◦ 学術部会1回、学術研究委員会を4回、学術研究小委員会を1回開催。 ◦ 東京都内の保育所、幼稚園、こども園に通う子供たちがどのような歯科保健指導を受けているか把握するための調査を計画。初めに都内全区市町村の認可保育所、公立幼稚園、認定こども園について管轄、規模、健康診断結果の集計状況等について調査した。アンケートを作成し発送（約2,000通余り）。回収されたアンケートは1,389通。 2年に1度の冊子作成に向け、準備を進めている。 ◦ 学術全体委員会は3月17日に開催、27・28年度学術研究委員会作成の冊子について、烏しょ地区事業の報告、私立小学校に対する歯科保健実態調査についての報告を行った。学術研究委員会副委員長（東浅草小学校学校歯科医）久保和彦先生より「学校歯科医が実践している保健教育の一例について」講演があった。 ◦ 各地区ブロックごとに連絡協議会を開催して意見や情報交換を行い地区の実態把握に努めた。 6回の連絡協議会を開催した。 ◦ 事業部会を8回、学校歯科保健推進校（園）支援事業選定校の連絡会を1回開催。町田市立小山田中学校、府中市立小柳幼稚園の2校を選定し、選定校における自律的な健康づくりに資することを目的として次のような点について支援を行った。 (1) 学校保健委員会の活用 (2) 学校保健計画の策定 (3) 歯科健康診断を活用した健康教育により子供たちが歯・口の健康づくりをめざす (4) 保護者会や学校参観などの機会の活用 ◦ 平成27年度・28年度の2年間にわたり研究事業実施校に選定された東京都立永福学園の事業の助成を行うと共に円滑な事業の実施のために協力した。 ◦ 学術担当の副会長および担当理事を中心に学術研究委員会において検討し理事会において決定、事業内容の充実に努めた。 ◦ 『味覚とおいしさの科学～和の味を子供たちに伝えるために～』という冊子の効果的な活用を目指し、東京歯科大学准教授の澁川義幸氏が各ブロックにおいて開催する研修会に出向き、冊子の内容について講演を行った。

(7) 学校歯科保健に関する文教施策への協力	都立高等学校保健研究会ならびに東京都養護教諭研究会等との連絡会を開催、東京都教育委員会関係者を交え学校保健の現状の把握に努め、学校歯科保健事業の活性化を図った。
------------------------	--

3. 学校歯科保健教育、保健管理の実践及び保健思想の普及向上

事業	実施状況
(1) 東京都学校歯科保健優良校表彰	事業の実施にあたり、調査票を都内幼・小・中・高・特別支援学校2,414校に送付。729校の応募を得、慎重に審査した結果729校全てが入選し、3月10日の第50回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。
(2) 歯・口に関する児童生徒の作文募集及び表彰	作文募集要項を都内小中学校1,915校に送付、応募作品573点、一次・二次審査を経て入選者105名を決定し、第50回東京都学校歯科保健研究大会において表彰、優秀作文の朗読を行い、入選者の作品を大会要項に掲載した。
(3) 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール及び歯・口の健康啓発標語コンクールの募集及び表彰	- 平成26年度より都学歯主催、東京都教育委員会共催により図画・ポスターコンクールが実施された。 - 地区学校歯科医会、地区歯科医師会、島しょ学校あてに募集要項を発送し、都教委より地区の教育委員会に協力を要請し募集を行った。 - 幼稚園・保育園・こども園の部7作品、小学校低学年の部49作品、小学校高学年の部48作品、中学校の部33作品、高等学校の部2作品、特別支援学校の部（特別支援学級を含む）6作品、計145作品の応募があった。 9月24日に審査会を開催し、32作品が入選、113作品が佳作となった。第50回東京都学校歯科保健研究大会において受賞作品を展示・表彰した。そのうち各部門の1位は、日本学校歯科医会主催のコンクールへ推薦した。 - 平成27年11月12日～26日、12月17日～30日、市ヶ谷プロムナード・ギャラリー展示、平成28年1月2日より1月16日にわたり、新宿駅西口プロムナード・ギャラリーに受賞作品32点の展示を行った。 - 標語コンクールでは、18作品の応募の中から、目黒区立八雲小学校児童の作品「きれいな歯 未来のぼくに とどけよう」が選ばれ、日学歯へ推薦し代表賞となった。さらに、本年度より都学歯会長賞が選出されることとなり、台東区立浅草中学校佐藤 望さんの作品「歯みがきは 自分をみがく 第一歩」が表彰された。
(4) 学校歯科保健教育に必要な教材・資料の補充・作成	ビデオ・DVD等の貸し出しを行い、学校歯科医及び歯科保健教育関係者への利便に供した。
(5) 島しょ地区並びに特別支援児童生徒等に対する保健指導管理	島しょ地区学校歯科保健活動サポートとして6月10日～11日、1月14～15日にかけて大島を訪問。学校歯科保健活動が円滑に運営できるように、新任学校歯科医に対する指導を目的としている。つつじ小学校では、1年生に「ブラッシング指導」、6年生に「味覚教室」を講話、また養護部会での研

(6) 私立学校歯科保健活動への協力	修では、「大島の統計から見えた問題点と今後の活動方針について」と「味覚教室」を講話した。3月11日大島教育委員会、大島の小学校・中学校より担当職員、校長、養護教諭が来館し、情報交換を行った。 八丈島・大賀郷中学校が初めて学校保健委員会を開催。島しょ地区児童生徒等に対する保健指導管理の向上に努めた。 ◦日学歯主催の「私立学校における歯科保健活動推進モデル事業」への協力を行った。昨年度に引き続き、実施校は菅生学園初等学校。 ◦東京私立初等学校協会のご協力をいただき、私立小学校に対する歯科保健実態調査を実施した。54校へアンケート送付し、38校からの回答をまとめた。本会の活動を紹介し、情報提供をする等、私立学校に対して具体的な手がかりがついた。 アンケート結果は、学術全体委員会で発表し、平成27年度の会誌に掲載した。アンケートに協力していただいた学校には、冊子の形で送付した。
--------------------	--

4. 会誌・広報

事業	実施状況
(1) 会誌・広報委員会の開催 (2) 会誌・広報誌の発行 (3) ホームページの運営	◦会誌・広報の編集委員会を9回開催した。 ◦会誌79号を発刊、広報誌は第113号～115号を発行し全会員に配布した。 ◦会員への啓発及び一般都民への広報活動の一環として、ホームページの内容の充実を図った。 ◦会員名簿をホームページにアップし、今後の利便性向上について検討した。

5. ブロック・地区協議会

事業	実施状況
(1) ブロック・地区の活動支援	◦地区学校歯科保健の活動をバックアップし、学校歯科保健の円滑な運営を行うため、各ブロック地区毎の連絡協議会を計6回開催し（城東・城北・中央・多摩①・城南・城西）実態把握に努めた。なお、広範囲にわたる多摩地区については、3地区に分けて活動を支援する体制とした。 ◦今回は多摩①地区で連絡協議会を行った。 ◦※多摩①地区は、府中市・三鷹市・東久留米市・東村山市・西東京市・調布市・清瀬市・狛江市・小平市・武蔵野市・小金井市の11地区で構成されている。

6. 学校歯科保健功労者の表彰・顕彰

事業	実施状況
(1) 学校歯科医30年勤続者の表彰 (2) 学校歯科保健功労者の表彰及び顕彰	30年勤続該当者22名、学校歯科保健功労者表彰4名と2団体を第50回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。また、本年度の叙勲、東京都功労者（都知事）表彰、東京都教育委員会表彰等の受賞者を顕彰した。

7. 歯と口の健康週間への協力

事業	実施状況
(1) 歯科保健ポスターの作成 (2) 関係地区の行事への協力	- 図画・ポスターコンクール1位受賞作品を掲載した。歯科保健ポスターを都内幼・小・中・高校・特別支援学校に配布した。 - 標語コンクール都学歯会長賞をポスターに掲載した。 - 関係地区・団体主催の大会、表彰式等の各種行事に役員を派遣した。 - 関係地区・団体主催の研修会・講習会等において講師として役員を派遣した。

8. 各種大会への協力

事業	実施状況
(1) 第72回学童歯みがき大会 (2) 平成27年度健康づくりフォーラム (3) 第66回関東甲信越静学校保健大会・歯科職域部会 (4) 第79回全国学校歯科保健研究大会 (5) 第65回全国学校保健・安全研究大会・歯科医協議会	6月4日インターネット配信によって実施された歯みがき大会に参加した。 7月30日、東京都庁において開催の「健康づくりフォーラム」の運営に協力した。 8月27日、静岡県において開催された大会に出席した。歯科職域部会は静岡県が開催の主管として運営にあたった。 10月29日～30日、長野県において開催の全国大会に出席した。 ☆ポスター発表 - 東京都学校歯科医会「味覚の教室」 「東京都島しょ地区での学校歯科保健活動報告」 12月3日～4日、愛媛県において開催された大会に出席した。

9. 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携

事業	実施状況
(1) 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携	東京都歯科医師会並びに東京都歯科医師連盟が主催する各種委員会・会合・行事等に本会より役員を派遣し相互の連携を図った。

10. 学校歯科保健支援プロジェクト

事業	実施状況
(1) 学校歯科保健支援プロジェクト	。いわゆる都学歯ライブラリーを始めとする。会員が地区の保健活動に活用出来る資料の収集と公開を行うために打合せ会を開いた。 。都学歯ホームページの会員ページにライブラリーとして名称をあげてデータをアップした。 さらなる充実をはかっている。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 平成28年度 ——— 主な出来事 ——— ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

- 第4次川本執行部が発足。
- 「乳幼児から考える学校歯科保健活動」、「学校歯科医が知っておくべき放射線の知識」の冊子を作成・配布。
- 私立小学校に対する歯科保健実態調査を実施。
- 東京都学校歯科医会が主管で第80回全国学校歯科保健研究大会（平成28年11月16日（木）～17日（金）・文京シビックホール大ホール）を開催。「池上 彰氏」大会記念講演。
懇親会をホテルニューオータニで開催。「東儀秀樹秀樹氏」雅楽講演。
- 第51回東京都学校歯科保健研究大会（平成29年2月16日（木）・歯科医師会館）を開催。

貸 借 対 照 表

平成29年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	5,650,360	6,992,384	△ 1,342,024
未収金	0	190,000	△ 190,000
前払金	144,180	144,180	0
流動資産合計	5,794,540	7,326,564	△ 1,532,024
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
役員退職慰労引当資産	1,800,000	900,000	900,000
学術研究引当資産	14,708,326	14,708,326	14,708,326
退職給付引当資産	5,977,800	5,019,440	958,360
名簿作成引当資産	500,000	500,000	0
運営基金引当資産	29,592,652	29,592,652	0
特別事業積立金	10,132,777	18,000,000	△ 7,867,223
特定資産合計	62,711,555	68,720,418	△ 6,008,863
(2) その他固定資産			
什器備品	4,640	9,275	△ 4,635
電話加入権	72,800	72,800	0
その他固定資産合計	77,440	82,075	△ 4,635
固定資産合計	62,788,995	68,802,493	△ 6,013,498
資産合計	68,583,535	76,129,057	△ 7,545,522
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	550,657	252,674	297,983
預り金	213,353	210,759	2,594
仮払金	0	50,000	△ 50,000
流動負債合計	764,010	513,433	250,577
2. 固定負債			
退職給付引当金	5,997,800	5,019,440	958,360
役員退職慰労引当金	1,800,000	900,000	900,000
固定負債合計	7,777,800	5,919,440	1,858,360
負債合計	8,541,810	6,432,873	2,108,937
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	60,041,725	69,696,184	△ 9,654,459
負債及び正味財産合計	68,583,535	76,129,057	△ 7,545,522

事業報告

事業の状況

1. 学校歯科保健に関する大会・研修会・講習会の開催

事業	実施状況
(1) 第51回東京都学校歯科保健研究大会	○学校歯科保健を通して、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的に開催しているものである。本年度は、「学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり」をテーマに、平成29年2月16日（木）歯科医師会館において開催した。当日の来会者は、973名。 内容は下記の通りである。 ☆表彰 (1) 学校歯科保健優良校表彰 (2) 歯の優秀作文表彰 (3) 図画ポスターコンクール入選者表彰 (4) 歯・口の健康啓発標語コンクール入選者表彰 (5) 東京都学校歯科保健功労者表彰 (6) 学校歯科医30年勤続者表彰 ☆優秀作文発表・講評 豊島区立朝日小学校5年 田端恵菜 新宿区立落合第二中学校1年 亀谷七海 ☆図画ポスターコンクール受賞作品講評 ☆研究発表： 「平成27・28年度 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」 東京都立永福学園 ☆特別講演 東京都福祉保健財団 理事長 演題「オリンピック・パラリンピックの価値」 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 元 チーフ・コンプライアンス・オフィサー 総務局長 さいか まこと 雑賀 真 ☆広告掲載企業 ・ライオン株式会社、相田化学工業株式会社、GIA INC. ☆協賛企業 ・ライオン株式会社、サンスター株式会社、相田化学工業株式会社、アサヒブリテック株式会社
(2) 学校保健（学校歯科医）研修会	○学校歯科医・養護教諭等を対象として東京都教育委員会ならびに東京都学校保健会との共催で、研修会を開催した。 ・7月21日（木）：歯科医師会館 講演「学校歯科医の職務について」 講師：東京都教育庁 地域教育支援部 歯科保健担当 課長 三ツ木 浩 演題 「こどもの歯・口の健康の重要性 ー臨床データ・基礎データに基づくー」 講師 日本大学 名誉教授 前田隆秀 128名参加

(3) ブロック別学校歯科医研修会	◦ 東京都学校保健会の委託事業として開催した。 ・ 7／21（木）第1回 会場：歯科医師会館 192名参加 ・ 9／8（木）第2回 会場：立川グランドホテル 107名参加 - 演題『歯と口の外傷—治療と管理の勘所』 - 講師：東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔機能再構築学 小児歯科学分野 准教授 宮新美智世 ※毎年、学校歯科医が職務を行う上で理解していなければなら ない基本的な事項の習得を目的として学校歯科医基礎研修会 を開催しているが、今年度は第80回全国学校歯科保健研究大 会東京開催となっている為、東京都学校歯科医会の主催では なく、日学歯主催の研修会を周知した。 今年度は、日本学校歯科医会主催の基礎研修会が東京にて2 月5日（日）に行われた。 東京からは42名参加
(4) 第80回全国学校歯科保健研究大会	◦ 11月16日（水）～17日（木） - 文京シビック大ホール（大会） - ホテルニューオータニ（懇親会） - 主催団体として東京開催し成功裡に導いた。 - 大会記念イベント：書家 金澤翔子氏 - 大会記念講演：ジャーナリスト 池上 彰氏 - 懇親会特別ゲスト：雅楽師 東儀秀樹氏 - 大会参加者 1,654名 - 懇親会参加者 544名

2. 学校歯科保健に関する調査研究

事業	実 施 状 況
(1) 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくりの推進	◦ 望ましい生活習慣の形成を目指し、児童・生徒や学校保健関係者に対する啓発事業に協力した。 ◦ 5月19日、日本学校歯科医会主催の生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業を目指した実施校（東京都立永福学園）と連絡会の場を持った。
(2) 学術委員会・学術研究委員会の開催	◦ 学術研究委員会を8回、学術研究小委員会を1回開催。 ◦ 東京都内の保育所、幼稚園、こども園に通う子供たちがどのような歯科保健指導を受けているか把握するための調査を計画。昨年度都内全区市町村の認可保育所、公立幼稚園、認定こども園について管轄、規模、健康診断結果の集計状況等について調査したアンケート（1,383通回答）をもとに、2年に1度の冊子を作成した。 タイトル「乳幼児から考える学校歯科保健活動 ～0歳から20歳になるまで 継続的な口腔保健支援を目指して～」

2. 学校歯科保健に関する調査研究

事業	実施状況
(3) 地区学校歯科保健活動の実態把握と協力 (4) 東京都学校歯科保健推進校（園）支援事業の選定と支援 (5) 学校歯科保健調査研究事業実施校への協力 (6) 各種大会・研修会・講習会におけるテーマ及び講師の検討等 (7) 学校歯科保健に関する文教施策への協力 (8) 私立学校歯科保健活動の調査	◦ 「学校歯科医が知っておくべき放射線の知識」～原発事故から5年、子供たちに笑顔を！～を作成し会員へ配布した。 ◦ 学術全体委員会は3月9日に開催、平成27・28年度学術研究委員会作成の新しい冊子について、「放射線」の冊子について説明した後、「島しょ地区事業」の報告を行った。 ◦ 各地区ブロックごとに連絡協議会を開催して意見や情報交換を行い地区の実態把握に努めた。 4回の連絡協議会を開催した。 ◦ 事業部会を8回、学校歯科保健推進校（園）支援事業選定校の連絡会を1回、小連絡会を2回開催。品川区立城南第二小学校、東京都立水元特別支援学校の2校を選定し、選定校における自律的な健康づくりに資することを目的として次のような点について支援を行った。 (1) 学校保健委員会の活用 (2) 学校保健計画の策定 (3) 歯科健康診断を活用した健康教育により子供たちが歯・口の健康づくりをめざす (4) 保護者会や学校参観などの機会の活用 ◦ 平成27年度・28年度の2年間にわたり研究事業実施校に選定された東京都立永福学園の事業の助成を行うと共に円滑な事業の実施のために協力した。 ◦ 学術担当の副会長および担当理事を中心に学術研究委員会において検討し理事会において決定、事業内容の充実に努めた。 ◦ 都立高等学校保健研究会ならびに東京都養護教諭研究会等との連絡会を開催、東京都教育委員会関係者を交え学校保健の現状の把握に努め、学校歯科保健事業の活性化を図った。 ◦ 日学歯主催の「私立学校における歯科保健活動推進モデル事業」への協力を行った。昨年度にひき続き、実施校は菅生学園初等学校。 ◦ 東京私立初等学校協会のご協力をいただき、私立小学校に対する歯科保健実態調査を実施した。54校へアンケート送付し、38校からの回答をまとめた冊子「私立小学校に対する歯科保健実態調査」を、都学歯会誌第79号別刷として会員へ配布、アンケートに協力いただいた私立学校にたいしても、本会の活動を紹介し、情報提供を行った。 ◦ 東京都学校保健会に加入されている私立学校（78校）へも研修会等の周知をした。

3. 学校歯科保健教育、保健管理の実践及び保健思想の普及向上

事業	実施状況
(1) 東京都学校歯科保健優良校表彰	事業の実施にあたり、調査票を都内幼・小・中・高・特別支援学校2,414校に送付。725校の応募を得、慎重に審査した結果725校全てが入選し、2月16日の第51回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。
(2) 歯・口に関する児童生徒の作文募集及び表彰	作文募集要項を都内小中学校1,915校に送付、応募作品495点、一次・二次審査を経て入選者105名を決定し、第51回東京都学校歯科保健研究大会において表彰、優秀作文の朗読を行い、入選者の作品を大会要項に掲載した。
(3) (4)歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール及び歯・口の健康啓発標語コンクールの募集及び表彰	- 平成26年度より都学歯主催、東京都教育委員会共催により図画・ポスターコンクールが実施された。 - 地区学校歯科医会、地区歯科医師会、島しょ学校あてに募集要項を発送し、都教委より地区の教育委員会に協力を要請し募集を行った。 - 保育所・幼稚園・こども園の部10作品、小学校低学年の部48作品、小学校高学年の部49作品、中学校の部31作品、高等学校の部1作品、特別支援学校の部3作品、計142作品の応募があった。 9月21日に審査会を開催し、26作品が入選、116作品が佳作となった。第51回東京都学校歯科保健研究大会において受賞作品を展示・表彰した。そのうち各部門の1位は、日本学校歯科医会主催のコンクールへ推薦した。今年度は全日本図画・ポスターコンクールで中学校の部、特別支援学校の部で優秀賞を受賞した。 - 平成28年11月10日～24日、12月8日～29日、市ヶ谷プロムナード・ギャラリー展示、平成28年12月17日より平成29年1月14日にわたり、新宿駅西口プロムナード・ギャラリーに受賞作品26点の展示を行った。 - 標語コンクールでは、18作品の応募の中から、東大和市立第十小学校児童の作品「健康も にこにこ笑顔も よい歯から」が都学歯会長賞に選ばれ、代表作品として日学歯へ推薦した。
(5) 学校歯科保健教育に必要な教材・資材の補充・作成	ビデオ・DVD等の貸し出しを行い、学校歯科医及び歯科保健教育関係者への利便に供した。
(6) 島しょ地区並びに特別支援児童生徒等に対する保健指導管理	島しょ地区学校歯科保健活動支援として7月9日～10日神津島訪問、10月14日～15日、10月27日～28日にかけて大島を訪問。学校歯科保健活動が円滑に運営できるように、新任学校歯科医に対する指導を目的としている。島しょ地区児童生徒等に対する保健指導管理の向上に努めた。

4. 会誌・広報

事 業	実 施 状 況
(1) 会誌・広報委員会の開催 (2) 会誌・広報誌の発行 (3) ホームページの運営	◦ 会誌・広報の編集委員会を9回開催した。 ◦ 会誌80号を発刊、広報誌は第116号～118号を発行し全会員に配布した。 ◦ 会員への啓発及び一般都民への広報活動の一環として、ホームページの内容の充実を図った。

5. ブロック・地区協議会

事 業	実 施 状 況
(1) 地区学校歯科医連絡協議会の開催	◦ 地区学校歯科保健の活動をバックアップし、学校歯科保健の円滑な運営を行うため、各ブロック地区毎の連絡協議会を計4回開催し（城東・城北・多摩①・城西）実態把握に努めた。なお、広範囲にわたる多摩地区については、3地区に分けて活動を支援する体制とした。 ◦ 今回は多摩①地区で連絡協議会を行った。 ※多摩①地区は、府中市・三鷹市・東久留米市・東村山市・西東京市・調布市・清瀬市・狛江市・小平市・武蔵野市・小金井市の11地区で構成されている。

6. 学校歯科保健功労者の表彰・顕彰

事 業	実 施 状 況
(1) 学校歯科医30年勤続者の表彰 (2) 学校歯科保健功労者の表彰及び顕彰	◦ 30年勤続該当者18名、学校歯科保健功労者表彰7名を第51回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。また、本年度の叙勲、文部科学大臣表彰者、厚生労働大臣表彰、東京都功労者（都知事）表彰、東京都教育委員会表彰等の受賞者を顕彰した。

7. 歯と口の健康週間への協力

事 業	実 施 状 況
(1) 歯科保健ポスターの作成 (2) 関係地区の行事への協力	◦ 図画・ポスターコンクール1位受賞作品を掲載した。歯科保健ポスターを都内幼・小・中・高校・特別支援学校に配布した。 ◦ 標語コンクール都学歯会長賞をポスターに掲載した。 ◦ 関係地区・団体主催の大会、表彰式等の各種行事に役員を派遣した。 ◦ 関係地区・団体主催の研修会・講習会等において講師として役員を派遣した。

8. 各種大会への協力

事業	実施状況
(1) 第73回全国小学生歯みがき大会	◦ 6月3日「インターネット配信」によって実施された歯みがき大会に参加した。
(2) 平成28年度健康づくりフォーラム	◦ 7月28日、東京都庁において開催の「健康づくりフォーラム」の運営に協力した。
(3) 第67回関東甲信越静学校保健大会・歯科職域部会	◦ 8月25日、栃木県において開催された大会に出席した。歯科職域部会は栃木県歯科医師会が開催の主管として運営にあたった。理事者10名参加
(4) 第80回全国学校歯科保健研究大会	◦ 11月16日（水）～17日（木）文京シビック大ホール（大会）・ホテルニューオータニ（懇親会）を主催団体として東京開催し、成功裡に導いた。 大会記念イベント：書家 金澤翔子氏 大会記念講演：ジャーナリスト 池上 彰氏 懇親会特別ゲスト：雅楽師 東儀秀樹氏を招いた。 大会参加者 1,654名 懇親会参加者 544名
(5) 第66回全国学校保健・安全研究大会・歯科医協議会	◦ 10月27日～28日、北海道において開催された大会に出席した。 理事者6名参加

9. 学校歯科保健支援プロジェクト

事業	実施状況
(1) 学校歯科保健支援プロジェクト	◦ いわゆる都学歯ライブラリーを始めとする会員が地区の保健活動に活用出来る資料の収集と公開を行うために打合せ会を5回開いた。 ◦ 都学歯ホームページの会員ページにライブラリーとして名称をあげてデータを更新した。 ◦ 各地区から寄せられた講演会・講習会の演題・演者リストをHPにアップし、さらに地区に配布・周知した。

10. 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携

事業	実施状況
(1) 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携	◦ 東京都歯科医師会並びに東京都歯科医師連盟が主催する各種委員会・会合・行事等に本会より役員を派遣し相互の連携を図った。

■■■■■■■ 平成29年度 —— 主な出来事 —— ■■■■■■■

- 第1次末高執行部が発足。
- 「口臭」をテーマに平成29・30年度にかけてアンケート調査を実施。
- 日学歯主催の「私立学校における歯科保健活動推進モデル事業」への協力を行った。
- 第52回東京都学校歯科保健研究大会（平成30年2月1日（木）・文京シビックホール大ホール）を開催。

貸 借 対 照 表

平成30年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	4,348,473	5,650,360	△ 1,301,887
前 払 金	775,380	144,180	631,200
流動資産合計	5,123,853	5,794,540	△ 1,532,024
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
役員退職慰労引当資産	1,100,000	1,800,000	△ 700,000
学術研究引当資産	14,708,326	14,708,326	0
退職給付引当資産	6,815,260	5,977,800	837,460
名簿作成引当資産	500,000	500,000	0
運営基金引当資産	29,592,652	29,592,652	0
特別事業積立金	10,632,777	10,132,777	500,000
特定資産合計	63,349,015	62,711,555	637,460
(2) その他固定資産			
什 器 備 品	1	4,640	△ 4,639
電 話 加 入 権	72,800	72,800	0
その他固定資産合計	72,801	77,440	△ 4,639
固定資産合計	63,421,816	62,788,995	632,821
資産合計	68,545,669	68,583,535	△ 37,866
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	522,306	550,657	△ 38,351
預 り 金	307,200	213,353	93,847
流動負債合計	829,506	764,010	65,496
2. 固定負債			
退職給付引当金	6,815,260	5,997,800	837,460
役員退職慰労引当金	1,100,000	1,800,000	△ 700,000
固定負債合計	7,915,260	7,777,800	137,460
負債合計	8,744,766	8,541,810	202,956
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	59,800,903	60,041,725	△ 240,822
負債及び正味財産合計	68,545,669	68,583,535	△ 37,866

事業報告

事業の状況

1. 学校歯科保健に関する大会・研修会・講習会の開催

事業	実施状況
(1) 第52回東京都学校歯科保健研究大会	。学校歯科保健を通して、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的に開催しているものである。本年度は、「学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり」をテーマに、平成30年2月1日（木）文京シビック大ホールにおいて開催した。当日の来会者は、1,261名。内容は下記の通りである。 ☆表彰 (1) 学校歯科保健優良校表彰 (2) 歯の優秀作文表彰 (3) 図画ポスターコンクール入選者表彰 (4) 歯・口の健康啓発標語コンクール入選者表彰 (5) 東京都学校歯科保健功労者表彰 (6) 学校歯科医30年勤続者表彰 ☆優秀作文発表・講評 江東区立第二大島小学校6年 渡邊葉月 文京区立茗台中学校3年 佐々木 レヴィ 沙羅 ☆図画ポスターコンクール受賞作品講評 ☆標語コンクール 都学歯会長賞表彰 台東区立桜橋中学校1年 大島美月 「食べ物の おいしさ伝わる じょうぶな歯」 ☆研究発表： 「平成28・29年度 東京都学校歯科保健推進校（園）支援事業」 品川区立城南第二小学校 東京都立水元特別支援学校 ☆特別講演 国立科学博物館 人類研究部 3万年前の航海徹底再現プロジェクト 代表 かいふようすけ 海部陽介 演題「縄文人と現代人の咬合はなぜ違うのか？」 ☆広告掲載企業 ・ライオン株式会社、相田化学工業株式会社、日本保険マネジメント株式会社、GIA INC. ☆協賛企業 ・ライオン株式会社、サンスター株式会社、相田化学工業株式会社、株式会社ジーシー
(2) 学校保健（学校歯科医）研修会	。学校歯科医・養護教諭等を対象として東京都教育委員会の委託を受け、東京都学校保健会と東京都学校歯科医会の共催で、研修会を開催した。

(3) ブロック別学校歯科医研修会	・12月21日（木）：歯科医師会館 講演「学校歯科医の職務について」 講師：東京都教育庁 地域教育支援部 歯科保健担当 課長 山田善裕 演題「スマホ社会の落とし穴 ～子どもの育ちに大切なこと～」 講師：公益社団法人 日本小児科医会理事 (子どもとメディア委員会担当) 吉村小児科院長 ^{うつみ ゆみ} 内海裕美 118名参加 ○東京都学校保健会の委託事業として開催した。 ・9／7（木）城南ブロック 会場：大井町 きゅりあん 73名参加 ・10／12（木）城北ブロック 会場：王子 北とぴあ 67名参加 ・11／30（木）多摩ブロック 会場：国分寺 Lホール 95名参加 演題『乳幼児から考える学校歯科保健活動』 ～0歳から20歳になるまで継続的な 口腔保健支援を目指して～ 講師 日本歯科大学附属病院 小児歯科教授 内川喜盛 ※毎年、学校歯科医が職務を行う上で理解していなければならない基本的な事項の習得を目的として学校歯科医基礎研修会を開催しているが、今年度も東京都学校歯科医会の主催ではなく、日学歯主催の研修会を周知した。 今年度は、日本学校歯科医会主催の基礎研修会が東京にて2月4日（日）に行われた。 東京からは44名参加
-------------------	--

2. 学校歯科保健に関する調査研究

事業	実施状況
(1) 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくりの推進	○望ましい生活習慣の形成を目指し、児童・生徒や学校保健関係者に対する啓発事業に協力した。 ○5月17日、日本学校歯科医会主催の生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業を目指した実施校（台東区立東浅草小学校）と連絡会を開催した。
(2) 学術委員会・学術研究委員会の開催	○学術研究委員会を5回、学術部会を2回開催。 ○平成29・30年度にかけて「口臭」をテーマにした冊子を作成する予定。中学、高等学校を中心に生徒約5,000名を超えるアンケート調査を実施した。 ○学術委員会は2月8日に開催、平成29・30年度学術研究委員会作成の新しい冊子について、「歯と口の健康に関するアンケート」実施状況等を説明した後、「島しょ地区支援事業」の報告を行った。

(3) 地区学校歯科保健活動の実態把握と協力	各地区ブロックごとに連絡協議会を開催して意見や情報交換を行い地区の実態把握に努めた。3回の連絡協議会を開催した。
(4) 東京都学校歯科保健推進校（園）支援事業の選定と支援	- 事業部会を10回、学校歯科保健推進校（園）支援事業選定校の連絡会を1回開催。品川区立城南第二小学校、東京都立水元特別支援学校の2校を選定し、選定校における自律的な健康づくりに資することを目的として次のような点について支援を行った。 (1) 学校保健委員会の活用 (2) 学校保健計画の策定 (3) 歯科健康診断を活用した健康教育により子供たちが歯・口の健康づくりをめざす (4) 保護者会や学校参観などの機会の活用
(5) 学校歯科保健調査研究事業実施校への協力	平成29・30年度の2年間にわたり研究事業実施校に選定された台東区立東浅草小の事業の助成を行うと共に円滑な事業の実施のために協力した。
(6) 各種大会・研修会・講習会におけるテーマ及び講師の検討等	学術担当の副会長および担当理事を中心に学術研究委員会において検討し理事会において決定、事業内容の充実に努めた。
(7) 学校歯科保健に関する文教施策への協力	都立高等学校学校保健研究会ならびに東京都養護教諭研究会、東京都学校保健研究会等との連絡会を開催、東京都教育委員会関係者を交え学校保健の現状の把握に努め、学校歯科保健事業の活性化を図った。
(8) 私立学校歯科保健活動の調査	日学歯主催の「私立学校における歯科保健活動推進モデル事業」への協力を行った。

3. 学校歯科保健教育、保健管理の実践及び保健思想の普及向上

事業	実施状況
(1) 東京都学校歯科保健優良校表彰	事業の実施にあたり、調査票を都内幼・小・中・高・特別支援学校2,423校に送付。720校の応募を得、慎重に審査した結果720校全てが入選し（このうち5校は加筆、追加資料をご提出いただいた）、2月1日の第52回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。
(2) 歯・口に関する児童生徒の作文募集及び表彰	作文募集要項を都内小中学校1,919校に送付、応募作品485点、一次・二次審査を経て入選者105名を決定し、第52回東京都学校歯科保健研究大会において表彰、優秀作文の朗読を行い、入選者の作品を大会要項に掲載した。
(3)(4) 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール及び歯・口の健康啓発標語コンクールの募集及び表彰	- 平成26年度より都学歯主催、東京都教育委員会共催により図画・ポスターコンクールが実施された。 - 地区学校歯科医会、地区歯科医師会、島しょ地区の学校あてに募集要項を発送し、都教委より地区の教育委員会に協力を要請し周知募集を行った。 - 東京都応募総数14,105作品の中から、保育所・こども園・幼稚園の部8作品、小学校低学年の部47作品、小学校高学年の部47作品、中学校の部35作品、高等学校の部4作品、特別支

(5) 学校歯科保健教育に必要な教材・資材の補充・作成 (6) 島しょ地区並びに特別支援児童生徒等に対する保健指導管理	援学校の部5作品、計146作品の応募があった。 9月28日に審査会を開催し、32作品が入選、114作品が佳作となった。第52回東京都学校歯科保健研究大会において受賞作品を展示・表彰した。そのうち各部門の1位は、日本学校歯科医会主催のコンクールへ推薦した。今年度は全日本図画・ポスターコンクール小学校高学年の部で優秀賞を受賞した。 - 平成29年11月9日～12月28日、市ヶ谷プロムナード・ギャラリー展示に受賞作品32点の掲載をおこなった。 - 標語コンクールでは、21作品の応募の中から、台東区立桜橋中学校1年生の作品「食べ物の おいしさ伝わる じょうぶな歯」が都学歯会長賞に選ばれ、代表作品として日学歯へ推薦した。 - ビデオ・DVD等の貸し出しを行い、学校歯科医及び歯科保健教育関係者への利便に供した。 - 島しょ地区学校歯科保健支援事業として11月29日～30日にかけて大島を訪問。島しょ地区児童生徒等に対する保健指導管理の向上に努めた。
---	--

4. 会誌・広報誌

事業	実施状況
(1) 広報委員会の開催 (2) 会誌・広報誌の発行 (3) ホームページの運営	- 広報委員会を8回開催した。 - 会誌81号を発刊、広報誌は第119号～121号を発行し全会員に配布した。 - 会員への啓発及び一般都民への広報活動の一環として、ホームページの内容の充実を図った。 - 会員名簿をホームページにアップし、今後の利便性向上について検討した。

5. ブロック・地区協議会

事業	実施状況
(1) 地区学校歯科医連絡協議会の開催	地区学校歯科保健の活動をバックアップし、学校歯科保健の円滑な運営を行うため、各ブロック地区毎の連絡協議会を計3回開催し（城東・城北・多摩①）実態把握に努めた。なお、広範囲にわたる多摩地区については、3地区に分けて活動を支援する体制とした。 ※多摩①地区は、府中市・三鷹市・東久留米市・東村山市・西東京市・調布市・清瀬市・狛江市・小平市・武蔵野市・小金井市の11地区で構成されている。

6. 学校歯科保健功労者の表彰・顕彰

事業	実施状況
(1) 学校歯科医30年勤続者の表彰 (2) 学校歯科保健功労者の表彰及び顕彰	・30年勤続該当者18名、学校歯科保健功労者表彰6名・1団体を第52回東京都学校歯科保健研究大会において表彰した。また、本年度の叙勲、文部科学大臣表彰者、厚生労働大臣表彰、東京都功労者（都知事）表彰、東京都教育委員会表彰等の受賞者を顕彰した。

7. 歯と口の健康週間への協力

事業	実施状況
(1) 歯科保健ポスターの作成 (2) 関係地区の行事への協力	・図画・ポスターコンクール1位受賞作品を掲載した。歯科保健ポスターを都内幼・小・中・高校・特別支援学校に配布した。 標語コンクール都学歯会長賞をポスターに掲載した。 ・関係地区・団体主催の大会、表彰式等の各種行事に役員を派遣した。 ・関係地区・団体主催の研修会・講習会等において講師として役員を派遣した。

8. 各種大会への協力

事業	実施状況
(1) 第74回全国小学生歯みがき大会 (2) 平成29年度健康づくりフォーラム (3) 第68回関東甲信越静学校保健大会・歯科職域部会 (4) 第81回全国学校歯科保健研究大会 (5) 平成29年度全国学校保健・安全研究大会・第67回歯科医協議会	・6月1日～6月10日まで実施された「DVDで参加する歯みがき大会」に参加した。 ・7月25日（火）、東京都庁において開催の「健康づくりフォーラム」の運営に協力した。 役員出席者 18名 ・8月10日（木）、山梨県において開催された大会に出席した。歯科職域部会は山梨県歯科医師会が開催の主管として運営にあたった。 役員9名参加 ・10月26日（木）～27日（金）リンクステーションホール青森（大会）、ホテル青森（懇親会）開催。 基調講演「健康長寿社会の実現に向けたライフコース・アプローチ」東北大学大学院医学系研究科 教授 辻 一郎 役員10名参加 ・11月16日（木）～17日（金）、三重県において開催された大会に出席した。 役員11名参加

9. 学校歯科保健支援プロジェクト

事業	実施状況
(1) 学校歯科保健支援プロジェクト	◦ 都学歯ライブラリーを始めとする会員が地区の保健活動に活用出来る資料の収集と公開を行うために打合せ会を5回開いた。 ◦ 都学歯ホームページの会員ページにライブラリーとして名称をあげてデータを更新した。 ◦ 各地区から寄せられた講演会・講習会の演題・演者リストをHPにアップし、さらに地区に配布・周知した。

10. 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携

事業	実施状況
(1) 東京都歯科医師会・東京都歯科医師連盟との連携	◦ 東京都歯科医師会並びに東京都歯科医師連盟が主催する各種委員会・会合・行事等に本会より役員を派遣し相互の連携を図った。

■■■■■■■ 平成30年度 —— 主な出来事 —— ■■■■■■■

- 平成31年4月から公益社団法人転換への準備最終段階。
- ホームページのレスポンシブル対応へのリニューアル完了。
- 「口臭」をテーマにした冊子「においの科学」を作成・配布。
- 第53回東京都学校歯科保健研究大会／東京都学校歯科医会創立70周年・法人化40周年記念大会（平成31年2月28日（木）・文京シビックホール大ホール）を開催。
- 東京都学校歯科医会創立70周年・法人化40周年記念式典・祝賀会（平成31年2月28日（木）・東京ドームホテル）を開催。

※貸借対照表及び次年度事業報告等は5月30日の定時代議員会にて議案上程されます。

2

地区だより



・ 魏 町 ・

記念誌に寄稿するにあたり、10年前の東京都学校歯科医会会誌第72号を読み直してみました。そこには就任前の新任園医・学校歯科医への研修システムと園医・学校歯科医が、他の園・校の歯科保健教育に参加するチーム指導システム（当時の記載は集団指導体制）について記されていました。

新任研修システムについては、2018年9月1日に開所する認可保育所の園医の推薦依頼を受け、4月に歯科医師会会員に募集をかけ、応募者1名を半年間研修しました。その内容は、8月を除き毎月開催される魏町学校歯科医会・研修会への参加、園医・学校歯科医が各担当園・校で実施する歯科保健教育の見学・補助、学校保健関連団体が開催する研修会等への参加です。6月に九段小学校2年生歯科保健教育の補助として参加し、9月にブロック別研修会、11月に平成30年度学校保健（学校歯科医）研修会、2019年2月に学校歯科医生涯研修制度「基礎研修」に参加しています。この背景にあるのは、「歯科医師なら誰でも園医・学校歯科医になれるという考え方が過去のもので、研修を受け必要とする知識・技能を身に着けた者が園医・学校歯科医に就任するべきだ」という考え方です。それは教習所に通い免許を取得してから運転するという考え方と同じです。運転免許も学会の認定医も、審査に通ったものに与えられる資格です。そのような社会の常識にそぐわない限り、歯科医師または歯科界として国民の信頼が得られない時代なのです。

チーム指導システムとは、特定の園・校の健康診断や歯科保健教育に他の園医・学校歯科医が参加・補助する体制として10年前には完成していました。今や魏町学校歯科医会が、チームとなってすべての園・校の児童・生徒に対応すること

がごく普通に行われています。4月には、九段中等教育学校と都立日比谷高校の健康診断にそれぞれ3名の園医・学校歯科



医が参加しました。これは、健康診断者のレベルを一致させる効果があります。6月には、魏町小学校4年生歯科保健教育に同幼稚園園医と他校学校歯科医が、魏町幼稚園歯科保健教育に他校学校歯科医が、九段小学校2年生歯科保健教育には同幼稚園園医と研修医が、参加しました。11月の番町小学校2年生への歯科保健教育には他校学校歯科医が、12月の九段小学校5年生への歯科保健教育には他園園医が、参加しました。2019年1月の九段小学校1年生への歯科保健教育には同幼稚園園医が、参加しています。

それぞれの園・校を担当する園医・学校歯科医の役割は、日程を調整し指導計画を作成することです。即ち、カリキュラムの作成です。その要素である一般目標（GIO）・行動目標（SBOs）・学習方略（LS）・教授方略（TS）・評価（EV）が、整っていることが望まれますが、まだ全員がそのレベルに達してはいません。ゆえに、このカリキュラム作成能力を今後の課題・目標にしたいと考えています。日本学校歯科医会には、専門研修の第4弾として「カリキュラム研修」を実施してほしいと思います。（会長 愛知徹也）

・ 神 田 ・

東京都学校歯科医会創立70周年ならびに法人化40周年、誠にありがとうございます。心よりお慶び申し上げます。

神田学校歯科医会は、千代田区歯科医師会（千代田区神田地区）の地域内にある区立幼稚園(3)・こども園(1)・小学校(4)・中学校(1)の学校歯科医9名で構成されています。都心の真ん中ということで、学校の数も子供の人数も他の地区にくらべると大変少ない状況です。地域の特徴として、御家族と子供達の健康意識は非常に高く、春・秋に実施する定期歯科健康診断で口腔内の問題を指摘される子供達はとても少ない状態です。現在の良い口腔内を維持できるように、私達は9名という少人数の利点を活かし、日頃からメール等で緊密に連絡や意見交換を行なっています。本会の特筆すべき活動として、数十年前から毎年「歯と口の健康週間」期間中に千代田区歯科医師会、千代田区教育委員会、日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校と共に、こども



園・幼稚園・小学校を巡回し、「講話」「良い歯の表彰」「歯科健康教育」を行なっています。また近年新たな試みとして、千代田区保健所の歯科衛生士と綿密な打ち合わせを行い「えいきゅうしを守ろう！」をテーマに、小学校2年生を対象に講話と実習を行なっています。このようにさまざまな活動をしていても、子供達はいずれ成長し学校歯科医の職務の範疇から離れていきます。当会の会員全員は、千代田区歯科医師会の会員でもあります。そのため私たちは学校歯科医の活動に留まらず、千代田区民の口腔の健康づくりに末永く貢献していくという意識を持って、今後も活動していきたいと考えております。

（会長 今村昭二郎）



・京橋・

中央区京橋地区には、10幼稚園、11小学校、3中学校、1高校の公立園・学校があり、15名の会員が担当しています。

中央区は、20年前から人口増加に転じ、さらに2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催の影響でしょうか、この傾向は加速されています。

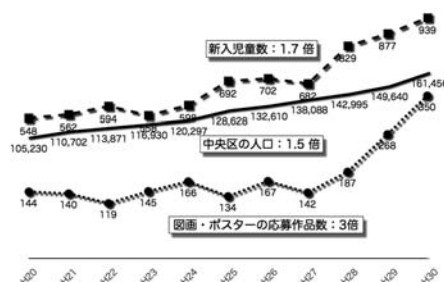
この流れに伴って、当地区では新入児童数が急増して、この10年で1.7倍になり、学童や生徒数のみならず多くの学校でクラス数も増加しました。

そして、歯・口の図画・ポスターの応募件数は、3倍にもなりました。これは、人口増だけでなく、口腔保健への関心の高まりや期待の表れとも考えられますので、歯科健康診断を始めとする学校歯科医の職務は拡大しています。われわれは、最新情報や技術を絶えず取り入れ園児、学童、生徒の健康と成長・発育を支援したいと思います。

京橋学校歯科医会の会員と担当校



平成10年からの中央区の人口と京橋地区の新入児童数、歯と口の図画・ポスター応募作品数の推移



・港区芝・

(公社)東京都港区芝歯科医師会学校歯科医会は、昭和9年に発足した歴史のある学校歯科医会です。昭和59年に部会になった後、平成25年に芝歯科医師会が公益社団になった事を契機に、母子保健の活動も含めた歯科医師会の中の組織としての学校歯科医会になりました。

また当会は、幼稚園、小・中学校だけでなく都立高校や公立・認可保育園の担当医も会員になっており、特に近年保育園の増設に伴い、保育園担当医の数が飛躍的に伸びています。

その中で、単に報酬や名誉だけにその意義を求めるものを排除し、真に子供たちの為に活動しようとする志を持った先生方を集めるため、平成13年より定年制、ポイント制を他の地区に先駆けて導入しました。定年制は、満70歳とし、また勤続年数を24年までとし、いわゆる30年勤続表彰を目的とする事の無いようにしました。ポイント制は、学術研修会や

日学歯、都学歯など他団体の主催する園・学校歯科に関する研究会への参加、小児歯科学会や口腔衛生学会などへの論文投稿や学会発表などにポイントが与えられ、各自の自己研鑽の目標と次年度の推薦の参考にしています。

当会では、従前より園・学校歯科保健活動に関する調査研究をし、その結果を日本口腔衛生学会、日本小児歯科学会、日本医療管理学会、港区学校保健研究発表会等へ発表しています。

これらの活動を通じ、今後も子供たちの健康のため、そして園・学校歯科医の資質向上のため活動していきたいと思っています。

(幹事長 華岡眞幸)



・麻布赤坂・

当会は、港区の麻布・赤坂・青山・六本木の地区にあります。どちらかというと、港区でも住宅地というよりも商業地区に位置しております。

平成24年7月より麻布赤坂学校歯科医会と麻布赤坂保育園医会が合併し、港区麻布赤坂学校歯科医会となっており、平成30年9月現在幼・小・中・高・特別支援の学校歯科医19名と港区内の区立、認可・認証保育園の24名で構成されております。港区での人口増加に伴い、当地区でも保育園が増加しておりますので、今後も会員の増加が見込まれます。合併により、会員数が倍増したことにより会が活性化し、現在はベテランの先生方と新たな先生方とのバランスが良く会務がスムーズに運営できるようになっております

総会や役員会以外の活動では、6の委員会がありそれぞれの活動を行っております。年に1回の会員の歯科健康診断基準の統一化を図るための基礎研修会、また芝歯科医師会学校歯科医部会との合同学術講演会、そして年2回会員それぞれの校・園での活動を発表し、会員の活動の参考とな



るような学校歯科保健活動発表会などを開催しております。さらに、港区教育委員会との委託事業「咀嚼に関する知識の啓発」があり、給食時にかみかみセンサーを使用した指導やアンケート調査などをしており、報告書を毎年提出しております。

このような活動をしている港区麻布赤坂学校歯科医会ですが、今後ともよろしくお願い致します。
(清水浩一)

・文京・

文京区学校歯科医会は、大正9年10月東京市歯科医師会に支部制度ができ、文京区支部（現在の小石川歯科医師会）として発足し、昭和24年文京区学校歯科医会が発足と記されております。現在会員数は43人、区立の幼稚園・小学校・中学校の他に都立中・高校担当者2名、国立筑波大学付属特別支援学校担当者1名で構成されています。

文京区学校歯科医会の一番大きな事業は、毎年6月に開催される『歯と口の健康づくり』です。この事業は、何と昭和38年6月文京区歯科医師会・小石川歯科医師会・文京区学校保健会歯科部会が共催して、「第1回文京区歯の祭典」を文京公会堂にて開催したのが始まりです。当時は、学童3,000人を集め、小・中学校、幼稚園、母と子の良い歯の表彰を行い、学童に「良い歯のバッヂ」を配り始めたことと記されております。その後、昭和44年6月「歯の祭典」に代えて「う歯予防研究会」と名称が変わり、更に平成14年6月に名称を「歯と口の健康づくり」に変えて現在に至ります。そのため、今年も『昭和38年、第1回「文京区歯の祭典」から数えて56回目を迎えます』の一文をプログラムに入れて歴史的背景を文京区民へ



告知しております。現在は文京区学校保健会の企画上程の上、文京区学校歯科医会・文京区歯科医師会・小石川歯科医師会・文京区教育委員会の共催で執り行っております。開催内容は、文京シビック小ホールで講演から始まり、よい歯の表彰として(1)よい歯のバッヂ贈呈（小学校・幼稚園）、(2)個人表彰（中学校）、(3)学校表彰：春の歯科健康診断の結果、よい歯の子供の割合が増えた学校と、予防啓発がしっかりできた学校を表彰します。(4)ポスター表彰：1,400点の応募の中から、小学校低学年・高学年・中学生から金賞・銀賞各1点、銅賞各2点を表彰しております。

(会長 竹内千恵)

・ 下 谷 ・

東京都学校歯科医会70周年おめでとうございます。

当会は、二つに分かれている台東区の下谷地区で、秋葉原・上野御徒町・鶯谷・谷中界隈でございます。台東区は、三社祭・朝顔市・ほうずき市・隅田川花火大会・西の市等々の催しが多い地域です。

現在、区立幼稚園・小学校・中学校で14名の学校歯科医で構成され、40代～80代までの幅広い年齢層です。

バブル経済の頃は、都外近隣住宅地への住み移りにより児童数も減り、学校も余儀なく統廃合や閉校をされました。近年になりマンションの増加に伴い都心部への回帰で児童数も増加し、私の担当している小学校においても、20年前の就任時の就学時健康診断は60名足らずだったのに、今年は120名を遥かに



超えて盛況です。

当会の活動としては、各学期の定期健康診断・保健委員会、就学時健康診断・地区保健協議会・定期総会が主だったものです。また台東区学校保健会においては、浅草地区と合同で医師ならびに薬剤師と年4回の委員会を通して交流し、食育を含め元気な児童を育ていけるように、努めております。

東京都学校歯科医会の向上のために、関係者各位のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に益々の発展をお祈り申し上げます。

(秋山欣也)



・ 浅 草 ・

東京都学校歯科医会 創立70周年・法人化40周年を迎えたこと、誠におめでとうございます。

浅草学校歯科医会は、学校保健の向上に向かって様々な活動を行ってまいりました。浅草学校歯科医会は、現在18名の学校歯科医がいます。11校の小学校、3校の中学校、4校の高等学校などを担当して活動しています。

台東区学校保健会での浅草学校歯科医会会員の研究発表について簡

平成21年度「成長期の咀嚼の重要性について」 鬼久保至彦
平成22年度「松葉小学校における歯・口の外傷の調査」 品川 尚一

平成23年度「駒形中健康診断結果より経年的変化並びに
区内中学校別の比較検討」 江連 雅孝

平成24年度「金竜小学校におけるブラッシング指導」 庄司 博之

平成25年度「歯と口の健康習慣における学校歯科医会の活動について」 安田 亮

平成26年度「東浅草小学校歯科保健活動」
(平成25、26年度全日本学校歯科保健優良校表彰に受賞して) 久保 和彦

平成27年度「浅草小学校第1大臼歯の萌出時期・
う蝕の罹患について」 宮内 良輔

平成28年度「富士小学校の歯科保健活動 ～お口の中の
発達段階に合わせて」 橘樹 秀春

平成29年度「蔵前小学校の歯科保健活動」 山本 明彦

浅草学校歯科医会では、講師を招いての学術講演会と浅草地区の小中高校の校長・養護教諭との合同研修会を隔年で行っています。講師を招いての学術講演会では、新しい知識・エビデンス・情報を得ることで会員の先生方のスキル

アップを図っています。

校長・養護教諭との合同研修会では、隣接する学校でどんな学校保健活動が行われているかなど情報の共有を目的とし、学校長・養護教諭・歯科校医が身近で話せる場を持つことでより親密な学校保健活動が行えることを目指しています。学校側から歯科校医への質問・要望を受け付け、またその逆(歯科校医から学校側への質問・要望)をまとめ、ディスカッションすることで隔たりや勘違いを無くすよう努力しています。

さて本年、全国保険医団体連合会が全国の小中学校などに通う児童の口腔状態や受診状況に関する調査を行い、調査に答えた小学校の約4割(39.7%)で、口腔崩壊(むし歯が10本以上あることなどから咀嚼が困難な状態)の児童がおり、受診の必要があっても未受診のままの児童が半数以上(52.1%)に上がると結果を発表しました。また近年、口腔ケア意識の高まりに伴って子供の口腔状態は大きく改善しているが、こうした状況から取り残された児童がおり、口腔状態が二極化していることを示しております。児童の医療費助成の拡充、貧困対策や親の働き方改善、口腔ケアに対する認識を更に高めることを通じて、受診につなげる取り組みが必要であると思われます。

(東浅草小学校学校歯科医 久保和彦)



・ 本 所 ・

東京都学校歯科医会 創立70年、誠におめでとうございます。

本所学校歯科医師会は、墨田区の南に位置する会員数24名の小さな会で、幼稚園3園・小学校12校・中学校6校・高等学校3校を担当しています。

本所といえば、両国の「良い歯の日」発祥記念碑が有名です。これは大正14年、本所歯科医師会が口腔衛生の啓蒙のために区内学童の口腔検診を日本で最初に実地し、「優良歯牙保持者表彰」を行なったことを記念し、その後昭和43年に有志により建立されたものです。世界でもあまり類のない学校歯科健康診断は、むし歯の急増したその時代において必然のことではあったのかもしれませんが、現在では当然のように行なわれる歯科健康診断を、全国に定着させた先人達の努力を考えると頭が下がる思いがします。

近年の学術講演会の内容を見ると、学童期の外傷の対



応、学校歯科医が行なう健康教育、COとCの判定について等、即実践で役に立つ内容を中心に年に1回の割合で学術講演会を行なっています。

会全体で集まるのは、総会・学術講演会等ですが、それぞれが会員相互の情報交換の場になっており、欠かすことのできない年中行事です。

今後も、日学歯・都学歯の行事にも積極期に参加を促し、子供達の健康発育に貢献できる学校歯科医を育てることを念頭に置き、「良い歯の日」発祥の地に恥じないよう、会の運営に取り組んでまいります。

東京都学校歯科医会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。
(丸山満博)



・ 向 島 ・

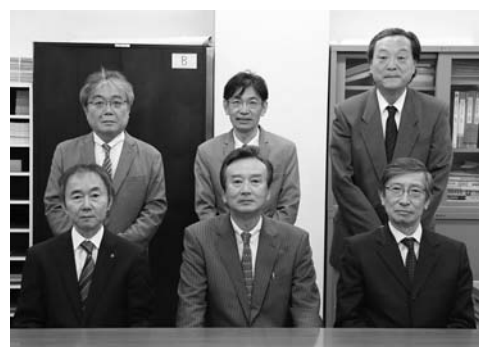
向島学校歯科医会は、墨田区の北部に位置していて、現在総勢49名、小学校13校、中学校6校、高校4校、幼稚園4園、特別支援学校1校の学校歯科医27名と保育園嘱託歯科医40名の延べ67名で活動しております。

春季歯科健康診断が始まる前には、間違えの無い記入と保育担当者の歯科保健に対する知識の向上を目的として保育担当者研修会を行っています。

また、本会には昭和50年から続いている学校巡回指導があり、向島管内の小学校を毎年2～3校訪問して、生徒の口腔衛生に対する意識の向上を目的として実施してきました。平成8年からは、さらに予防の重要性について理解を深められるよう、歯科医師による講話と、歯科衛生士1名につき10名ぐらいの生徒を対象にしたブラッシング指導を実施し、1人1人に対してきめ細や

かな指導が行き届くよう、活動しております。

墨田区には、もう一つ本所学校歯科医会があり、年に一回学術講演会を合同で開催し交流を図っています。また、墨田区教育委員会学務課、福祉保健部児童・保育課と本所・向島学校歯科医会との連絡協議会を開催しており、行政との連携を密にして、これからも本会は、墨田区内の児童・生徒の口腔の健康保持増進に、寄与していく所存でございます。
(会長 高田敬一)



・ 足 立 ・

足立区学校歯科医会は、公益社団法人足立区歯科医師会（会員総数290余名）の中で、現在会員120名で独立した組織となっています。内訳は、小学校67校・中学校35校・高校12校・特別支援3校・こども園3園のみを管轄し、その他私立幼稚校、認可・認証保育園等は歯科医師会で健康診断医扱いとなっています。

役員は、会長・副会長3名・専務・理事7名・監事2名の総勢14名で執行しています。主な職務は、年1回の総会（4月に、役員改選の時は3月に臨時総会も開催）・役員会を年6～8回。日学歯・都学歯主催の行事・城東6地区の行事に参加。区独自のものとしては、学術講演会（昨年度・一昨年度は区の教育長に、本年度は衛生部長を予定）、また本年度は9月8日に足立区医療4団体主催・足立区後援で、『健康まつり』が行われその中の一環として、



小学生を対象としたポスターコンクールを主催し、応募作品の展示、10月20日の表彰式を区役所にて挙行。その際、校内選抜漏れの子供達にも『褒めて育てる』意図を込めて学校歯科医会から賞状を出し、加えて本年度も足立区教育長定野様にもご協力頂き『励ましの言葉』を書いて頂いて応募者全員に配りました。

75歳定年・統廃合等による学校歯科医の新任の振り分けは、歯科医師会入会順であったが、区内を6地区に分けその中で振り分ける形に変更しました。現在、表彰関係と共に学校歯科独自のPCで管理しています。（会長 岡谷 進）



・ 江 東 ・

現在、会員は165名、会長、2名の副会長、専務、5名の理事で会務を執行しております。70歳定年ですが、1年ずつ2年までの延長が認められています。

132の認可保育所・認定こども園、34の区立幼稚園があります。31年度には20の認可保育園が開所予定ですので、31年度からは、全ての学校歯科医が保育所・区立幼稚園の嘱託歯科医になります。「江東区保育所嘱託歯科医設置要綱」があり、江東区保育所（現在は認可保育所のみ）に嘱託歯科医を置くこと、区長が委嘱し、報酬を定めることとともに職務内容が明かにされています。

「歯と口の健康週間」には歯科医師会、学校歯科医会、教育委員会、保健所等が共催する特別講演会が開催され、家族の表彰や優良校の表彰と講演を行います。また、学校保健会と学校歯科医会の共催で「幼児・児童・生徒についての歯科保健講演会」を開催し、学校・園の教職員に啓蒙活動を行っております。

教育委員会、こども未来部、学校歯科医会理事

との連絡協議会を行っており、今年度は「学校保健委員会の通知が遅い、日程調整で歯科保健活動が行いにくい」という会員の声を教育委員会に伝えました。小・中学校養護教諭との連絡協議会も行っており、養護教諭からの「学校歯科健診での用語がわかりにくい」という声を受け、「学校歯科健診用語一覧」を作成し、小・中学校、幼稚園・保育園等に配信予定です。

今後も、幼児・児童・生徒の歯科保健の向上に貢献していく所存です。（小川仲子）



・葛 飾・

東京都学校歯科医会の創立70周年、法人化40周年誠におめでとうございます。

葛飾区学校歯科医会は、昭和4年2月に東京府南葛飾郡に設立された歯科校医会をルーツとし、昭和7年に東京市の市域拡張によって葛飾区が誕生したのを機に、昭和9年2月に10名の先生によって学校歯科医会が設立されました。戦後の学制改革により昭和23年6月に葛飾区学校歯科医会として再設立し、現在の体制の基礎となりました。

昭和61年には、公私立保育園の嘱託歯科医制度の導入、平成元年に私立幼稚園の嘱託歯科医制度の導入（平成4年に全国に先駆けて葛飾区学校歯科医会の中に参入）と、区内における一貫性のある健康診断および口腔衛生指導を行える体制を整え、平成10年には障害者福祉施設嘱託歯科医の参入を果たしました。現在、行政とは教育委員会、子育て支援部、福

祉部と連携して健康診断事業等を行っています。また年1回、学校歯科医会全体会を開催し、歯科健康診断時の留意事項の周知徹底や前年度の健康診断結果の提示と考察を行っています。

口腔衛生習慣の啓蒙活動として、葛飾区学校歯科医会と葛飾区教育委員会の共催、葛飾区歯科医師会の後援を得て、毎年「よい歯の集い」を開催しています。これは、昭和43年6月に葛飾区歯科医師会主催で開催された「葛飾歯の祭典」をルーツとし、昭和45年に第1回大会を葛飾区学校歯科医会主催で開催以来、今年で第50回の節目を迎えた、葛飾区学校歯科医会の重要な活動となっています。（専務理事 塚本裕介）



・江戸川・

江戸川区は、東京都の東の端にあり、江戸川を挟み千葉県と接し、海と3本の川に囲まれた緑豊かな街です。区内には、区立の小学校が71校・中学校が33校・幼稚園が2園合計106校あり、それぞれに一人ずつの学校歯科医が担当しています。江戸川区学校歯科医会としての事業は、大きく2つあり、江戸川区歯科医師会と合同の事業として行われております。1つは、6月に区内8箇所で行われる4歳以上6年生までの区内全域の子供たちを対象にした、イオン導入器を使用したフッ素塗布、スタンプラリー、ならびに区民の歯科健康相談等趣向を凝らし子供も大人も楽しめるイベントです。もう一つは、10月に行われる良い歯の絵のコンクールと、8020の表彰式を合同で行っております。会場には、出品された児

童のポスターも多数展示されており、多くの区民でにぎわっております。そのほかには、10月に行われる江戸川区民まつりにおいて、歯科医師会の先生方と共に区民の方々に歯科の啓蒙活動しております。平成30年現在児童におけるむし歯罹患率は、江戸川区は決して良い状態とは言えませんが、歯科疾患の減少を目指し、活動の幅を深めてゆくよう会員一同努力してまいります。

（会長 金丸充徳）



・四谷牛込・

平成26年4月に旧新宿区四谷学校歯科医会と旧牛込学校歯科医会が合併し、東京都新宿区四谷牛込学校歯科医会となりました。

当地区では、区立小学校に幼稚園、こども園が併設されており小学校の学校歯科医は幼稚園の園医も兼務しています。このような関係でこども園、幼稚園と小学校を兼務する学校歯科医が13名、中学校4名、都立高校が6名で、22施設を23名で担当しています。会務は、会長のほか4人の理事が担当し、理事会のほか総会を年1回開催しています。

当会の活動の1つとして、「良い歯の園児表彰式」があります。四谷牛込歯科医師会と協力し地区の保育園、幼稚園、こども園の年長児を対象に毎年6月に開催されます。早い時期から子供たちに自分の歯の健康に興味をもってもらう目的で、四谷地区から始まり今年で51回を迎えました。今では、20園約500



名の児童を表彰しています。最初は、むし菌のない子が対象でしたが、今はむし菌があっても「早く治そうね」という気持ちも込めて全員表彰しています。可愛い表彰状と賞品を用意し、表彰状は、各園にて先生から園児に渡されます。子供たちは、とても喜び、表彰されることでもっと歯を大切にしようという意識が高まるようです。

会としての歴史は浅いですが、これからも地域の児童、生徒の口腔の健康を守るために、園・学校、保護者、行政等と協力し、新しい会の歴史を刻んでいきたいと思っています。(会長 磯谷 亮)



・新宿・

東京都学校歯科医会創立70周年・法人化40周年おめでとうございます。

新宿区学校歯科医会は、他の地区と少し違って新宿区歯科医師会の中の一組織です。したがって会長は存在せずに、担当理事が会務を行っています。担当地区では23の小学校(幼稚園を含む)中学校と10の保育園、こども園を受け持っています。

本来であれば、最も近い先生に受け持っていたくのが理想的ではありますが、場所が商業地と住宅地がハッキリ別れていますので学校の多い所、一校も無い所もあり現実には難しい面もあります。

学校医は、2年に一度会員の中から希望者を募り研修会を受けていただきます。その後、7名の理事と委員にて様々な条件を検討して選定しております。それを歯科医師会長から区の教育委員会に推薦する形式をとっております。

受けていただいた先生は、日学歯・都学歯はもちろん新宿区や歯科医師会の研修や講演会への出席が義務づけられています。

また、各学校の備え付けの設備は古い物もあり各先生がルーペ、ライト、器具などをご持参いただいて健康診断されているのが現状です。そのた

め次年度には、できるだけ均一な健康診断ができるようにルーペ、ライト等を全校に寄付しようと言う事で予算建てを行っています。

新宿区も少子化、外国籍の児童の割合の増加など様々な問題がありますが、これからは頑張っていこうと思います。

(星野太一)



・ 渋谷 ・

渋谷区学校歯科医会は平成22年に創立60周年を迎え、平成23年11月24日に記念式典と記念講演会を行いました。渋谷区歯科医師会が平成24年4月に公益社団法人に移行し、それに伴い歯科医師会の中で学校歯科医会が地域保健の管轄になりました。平成23年度から委託事業であった保育園健康診断が区立保育園で保育園歯科医としてスタートし、翌年には私立保育園にも拡大されました。27校の小中学校の学校歯科医会が拡大され、地域保健の中に渋谷区学校歯科医会（小中高部27校と幼保部58園）として生まれ変わりました。また、新制度の中で終身制であった担当制度が、6年間の任期制となりました。少人数で学校歯科医同士和気藹々と協力体制が出来ており、いざという時には多方面において助け合えるというメリットは大きかったのですが、反



渋谷区学校歯科医会 60周年記念式典
平成23年11月4日 於渋谷東部ホテル



渋谷区学校歯科医会最後の総会後
(平成24年より歯科医師会傘下)

面、学校歯科の漸進的な制度、例えば、CO・GOに代わっていったときなどは、その考えを学校歯科医以外の先生方に共通認識として理解していただくことに労力を費やさなければなりませんでしたが、今は様変わりをしたように思います。両部会での健康診断の基準を再確認したり、歯科衛生指導の情報交換をして、より効果的な指導を検討しあっています。区学校保健会、学校、幼稚園、保育園、保護者との連携を保ちながら児童、生徒の意識を高めていかれればと努力しています。

(松野修次)

・ 中野 ・

中野区歯科医師会においては、学校歯科医会として独立しておらず、学校歯科常任委員会として事業に組み込まれており、松尾公代担当理事の下、常任委員、担当副会長で構成されています。

少子化で生徒数が減少している中、学校の統廃合が行われ、在校生徒数が200名程の学校もあれば750名を超す学校ができるなど、生徒数の偏りが生じた為、歯科健康診断に際しては生徒数の多い学校に対し、健康診断応援医を設けて対応しています。

また、理事者の職務の見直しが図られ、学校歯科以外に防災、警察歯科協力医会の担当もする事になりました。とりわけ防災に関しては、今後30年の間には70%の確立で起こると予測されている首都直下型地震への備えも課題となっています。東日本大震災において、その対応を誤り、児童に多くの犠牲をもたらしてしまった学校もありました様です。中野区に津波が来る事はおそらくあり



ませんが、火災、家屋倒壊など地域危険度の高い場所に存在する学校もあります。

口腔ケアなどを通じて、児童・生徒の健康管理に貢献する事は勿論ですが、大切な命を守るために学校歯科医として何ができるかを考えて行きたいと思っています。まだ発足間もない委員会ですが、仲良く動いています。

(松尾公代)

・ 杉 並 ・

創立70周年、法人化40周年、誠におめでとうございます。

かつて都学歯と杉学歯の両執行部に在籍した会員として、誇りと懐かしさに感動致します。70周年という、戦後まもなく創立ということですが、荒廃した首都の中で、学童の保健教育と健康管理に、いち早く着手された先輩諸兄の情熱と敏速な行動力に、深く敬意を表すものです。

昭和の時代の子供達の口の中は、まさに、むし歯の洪水でした。せめて半分にしたいということで、むし歯半減運動という活動があったと聞いています。平成になって、12才児のDMFT指数が3になったとき、都学歯の理事会で、これで日本も文明国の仲間入りをしたのかな、という冗談がでたのを思い出します。因みに、その頃北欧やヨーロッパの一部では既に1でした。我々歯科医が日頃学んでいるのは、殆んど治療医学の分野で、学校歯科保健に求められる予防医学の分野は、まだまだ未開の分野です。しかし学校歯科医は、予防の情報を予防の行動に移せるように、子供達を導かなければなりません。

日学歯の全国大会や都学歯大会は、歯科保健活動をするうえでの情報を得るものが多く、特に実践活動の情報は大変貴重です。杉学歯からも、全国大会には毎年10名以上参加していますが、開催地を除けば、全国で一番かも知れません。また、参

加できなかった会員のための伝達講習も欠かしません。むし歯の激減には、普段の地道な活動が成果を上げていると考えています。

人生100年時代を迎えて、フレイルの状態をつくらないために、生涯を通じて健康診断事業の充実が欠かせません。学校健康診断は、その最初の健康診断と位置づけられます。

高齢社会を迎えて、最後まで口から食べることの大切さが注目されています。その一番大切な部分を歯科医が受け持つことになります。正常な口腔機能は、子供の頃に獲得され、人生の最後まで、その機能の維持が続きます。う蝕や歯肉炎の減少傾向は、今後とも続くと思いますが、口腔機能の発達と形態の発育には、切っても切れない関係があります。都学歯も、平成元年より、歯列咬合についての研修会を重ねてきましたが、その予兆を早期に発見し、本人や保護者に理解を求めることは、容易なことではありません。口腔機能の問題は今後の学校歯科保健のテーマとして考えています。東京都学校歯科医会の益々の発展を祈念致します。
(村上元一)



・ 品 川 ・

品川区公立学校の学校数の内訳は、小学校が31校（品川地区17校）・中学校が9校（品川地区5校）・義務教育学校*6校（品川地区3校）あり、幼稚園は9園（品川地区7園）あります。また、公立保育園は43園（品川地区27園）あり、園嘱託歯科医も学校歯科医会の会員として活動を一にしています。全会員数は65名です。

品川学校歯科医会は、公益社団法人東京都品川歯科医師会から委託業務を請け負う独立した組織として存在し、事業はすべて本会事業の中に公益性の高い事業として位置づけられています。創立87周年を迎えました。

役員は8名おり、年間11回（8月は休み）の理事会を開催しています。総会は年に2回、委員会が2つあり、区からの研究委託の特別委員会、給食後の歯みがき実施モデル事業後の給食後の歯みがき実施支援委員会です。特別委員会の結果は、品川区学校保健会において口頭・誌上発表をしています。

品川学校歯科医会規則で会の目的を「本会は、園児、児童、生徒の口腔の健康保持増進を行い、

次代を担う品川区民の健全な心と身体の発育発達に寄与することを目的とする」と謳っています。また、会員には積極的熱意を有することを義務としているので、各種事業の年間を通じた参加状況を各会員ごとに記録して、会員はもとより、執務記録の補填として教育委員会へも報告をしています。それは、会員にとって励みになっているようです。

今後も品川学校歯科医会の歴史と伝統を守り、区内の児童生徒の健康を守るために尽力していく所存です。
(会長 丸山進一郎)

※平成28年度より品川区では小中一貫校を「義務教育学校」として設置した。



・ 荏 原 ・

創立70周年・法人化40周年おめでとうございます。東京都荏原歯科医師会、東京都荏原学校歯科医会も昨年創立70周年を迎えました。その時の役員集合写真を掲載させていただきます。昭和22年、東京都の区域統合により品川区と荏原区が統合され新しい品川区が、誕生しました。旧制度歯科医師会は解散を命ぜられ、新制度歯科医会として、社団法人東京都荏原歯科医師会となり、東京都荏原学校歯科医会もその中に入りました。このような時代の流れで品川区内には、品川学校歯科医会と荏原学校歯科医会があります。



公益社団法人東京都荏原歯科医師会
創立70周年記念式典・祝宴

東京都荏原学校歯科医会は、区立小学校14校・義務教育学校3校・中学校4校・幼稚園2園・保育園16園・都立高校2校を担当し、40名の会員と8名の役員で活動しております。平成29年度か

ら「報告・共有・記録」のスローガンで頑張っています。

最近の活動としては、「品川区給食後の歯みがき実施モデル事業」が、平成22年度から4期（1期2年）、7校1園で実施され、乳児期を含め食事後の

歯みがき習慣が定着、自らの健康保持への意識が高まって来ていることもあり、平成30年度から3年をかけてモデル校の実践を参考にしながら、品川区立全校で「給食後の歯みがき」を実施することになりました。荏原学校歯科医会でも、給食後の歯みがきサポート委員会を立ち上げ、学校歯科医ならびに学校のサポートを行っています。

末筆ながら、東京都学校歯科医会、そして諸先生方の益々の発展をこころからお祈り申し上げます。

（会長 辛島清史）



平成29年度品川区学校保健会・
学校歯科医部会研修会
（当番会 東京都荏原学校歯科医会）

・ 目 黒 ・

目黒区学校医会は昭和62年に発足し31年経過しました。現在は、区立小学校22校・中学校9校・幼稚園及びこども園3園・都立中学高校5校を総勢39名、役員8名により運営しています。その中で「健口づくり、学術、広報」と3つの委員会があります。小・中学校では、年2回の歯科健康診査の他、歯みがき指導や子供達に歯の大切さを知ってもらうための講話を行っています。幼稚園・こども園では、保護者・園児を交えての歯みがき指導を衛生士と共に行っています。また学校保健委員会では、教諭・保護者や他科の学校歯科医を交えて健康診断報告や歯と口のトピックスを紹介しています。さらに行政との繋がりを目的とした連絡協議会を毎年開催し、目黒区教育委員会との意見、情報交換を行っています。

秋には、小・中学生の歯と口の健康啓発図画・標語コンクールの審査を行い、優秀作品は“よい歯の日”11月8日に因んで目黒区役所ロビーに展示されます。

また、小学校5年生と中学1年生にRDテストを行っています。子供

達自身の唾液を採取した後に自分の体温で菌代謝を活発にさせて、う蝕活動性菌度を色で判定します。自分の判定結果から歯みがきの必要性や唾液の重要性を、体験的に学習してもらっています。

学術講演会は毎年養護教諭と学校歯科医との合同研修会として開催しています。これは、学校サイドと学校歯科医が共通認識のもとで問題に対応できることを目的としています。

我々の活動は、子供達が健康に対する知識を身に付けることにより、自分で自分の健康を維持できる子供の育成を目指しています。

（副会長 上保 基）



・大森・

大森歯科医師会学校・保育園歯科委員会は、11名（小学校校医7名、中学校校医2名、定時制高校校医1名、保育園園医1名）で活動しています。

年間の主な事業内容は、新人の学校歯科医・園医を中心とした学校・保育園基礎研修会、講師の先生をお招きして行う学校・保育園歯科講演会、平成30年度は、6月17日（日）に池上会館にて行われました図画ポスター作文コンクール表彰式、展示会があります。

平成30年度の図画ポスター作文コンクール表彰式・展示会は、図画・ポスター488点・作文28点もの応募があり、その中から図画・ポスター114点、作文10点の入賞作品が選ばれました。表彰式には多くの来賓の方々がお祝いに駆けつけてくださいました。また、受賞者のご家族も多数出席され、会場はお祝いムードに包まれました。



学童フッ化物塗布を平成30年度は、18校・952名に対して学校歯科医の先生方で実施しました。

今後も児童・生徒達が、お口の健康に興味を持ち続けてくれるように学校・保育園歯科活動を行っていきたいと思っています。

（理事 東 昇一）

・蒲田・

東京都学校歯科医会創立70周年をむかえられおめでとうございます。蒲田学校歯科医会は、昭和25年に創立し63年の歴史があります。現在、区立小学校26名・中学校12名・都立高校4名・私立高校1名・特別支援学校2名・45名の会員で活動しています。この中には定時制高校・夜間中学校もあり、また蒲田地区は“ものづくりの街”としても知られており、特化された工科高校もあります。いろいろな特色を持つ学校があります。活動状況としては、

歯・口の健康週間の図画・ポスター・作文の審査・表彰及び小学校のフッ素塗布、位相差顕微鏡を使った歯ブラシ指導のほ



か、学校保健会では、喫煙防止教育委員会が設立され、医師と学校歯科医がペアで小学校にて授業を行いました。いじめ・虐待・LGBTなど教育現場においても我々学校歯科医も関与し、それこそ多職種連携がなされなければならない時代になってきているのだと実感しております。これからも東京都学校歯科医会におかれましては、地区学校歯科医会をけん引していただきたく、益々のご発展を祈念いたします。

（会長 小林正幸）



・世田谷・

世田谷区学校歯科医会は会員数77名で、執行部役員は14名です。幼稚園7園、小学校46校、中学校21校、高等学校3校、特別支援学校2校の合計79校（園）を担当しています。

1年間の活動状況として、まずは図画・ポスター展です。以前と比べると応募件数が減少してきてはいますが、本年も3,000点弱の応募がありました。7月初めに1日かけて審査をし、最優秀賞をはじめ、区長賞、区議会議長賞、教育長賞等々を決定し、9月に入ってからその表彰式を行っています。平成29年度の最優秀作品はその年の日本学校歯科医会のコンクールでも最優秀作品に選ばれ、事業を運営している私達としてもモチベーションが上がる思いでした。

また、学校保健会にも理事3名を輩出して、区内医師会、薬剤師会、小

中学校養護教諭との会合を年3回もち、情報交換の場としています。生活習慣病予防委員会や口腔衛生委員会も併設されており、ここにも委員を4名出しています。年を越して2月末から3月はじめにかけて「会員懇談会」と称して、区教育長や学校健康推進課の職員も混じえての会食会を行い、常に区行政との連携を図っています。先人達の築いてこられた業績を次の世代にうまくバトンタッチできるよう、役員一同、心を一つにして進んでいきたいと思っています。（会長 吉田慶造）



・玉川・

玉川学校歯科医会は、東京都の城南地区、世田谷区にあります。世田谷区内には二つの歯科医師会、世田谷区歯科医師会と玉川歯科医師会があり、そのうちの玉川歯科医師会の外郭団体として地区の児童生徒の歯と口の健康のために日々学校歯科医として職務に当たっております。

現在の執行部メンバーは、会長・副会長・専務・監事・理事・総員7名で活動しております。最近では、地区歯科医師会への入会も毎年微増しておりますが近年の新規入会者の年齢が高い傾向もあり、また既存会員の高齢化もあり今後を見据え若手（？）理事者を2名増員し活動しております。会としては、年1回の総会と年2会の研修講演会の開催を企画しています。各学校歯科医はそれぞれの学校での健康診断業務以外に「食育」を通して児童生徒の歯と口の健康に寄与しているものもあります。健康講話もあります。しかしながら近年学校での行事が多いためか、なかなか保健教育への割り当ても限られるのか、歯科講話への機

会が少ないように思います。特に近年は、児童生徒への講話の演題にエイズ、DV、危険薬物などが優先されている感があります。

歯は、いや、口は健康の源です。児童生徒の未来のために学校歯科医として「健口」教育をさらに充実させていければと思います。

（専務理事 齋藤正之）



・豊島・

歯や口の学校

豊島区立池袋第二小学校（昭和49年卒）

『私にはむし歯が一本もありません。歯肉も健康で歯並びもきれいです。』

私の学校では、歯の健康診断だけでなく歯や口に関しての指導や授業や歯みがきの指導が毎年あります。歯の健康診断ではむし歯が無いか、歯肉の状態や歯ならびなどみてもらいました。また歯科講話では学校歯科医の先生が、むし歯や歯肉の話、咬むことの大切さを教えてくれました。みんなの笑いをとろうと保健委員の生徒を巻き込んでコントをしていたのはちょっとイタかったですけど。

歯がはずせるあごの模型を使っの授業はとても印象的で、歯を全部はずして、それをあごにもどす競争をみんなでしたことがすごく楽しく、白熱しました。歯の形や構造、歯にはそれぞれの役割があることを学ぶことができました。

あと東京都歯科衛生士会のおねえさん？たちが歯みがき指導に毎年来てくれます。歯こうを染め出す液を歯にぬってどこに歯こうが残っているか

調べるのですが、自分ではしっかりみがいているつもりでもみがき残しがあり、正しいみがき方と歯ブラシの選び方を学びました。学校歯科医の先生が位相差顕微鏡で歯こうの中の細菌を見せてくれたこともあって、数えきれないくらいの色んな形をした細菌が動いていてびっくりしました。給食後の歯みがきタイムも全校生徒で続けて、むし歯や歯肉炎の原因の細菌を減らすようしっかり歯みがきをしようと思います。

このように歯や口に関して学校で学んだことを忘れずに、これからも健康な歯と口を大切にしてい、一生自分の歯で食べられるようにしたいです。』

こんな「歯の作文」を書いてもらえるよう、私たち豊島区の学校歯科医は、公益社団法人豊島区歯科医師会の一員として、区民の幼児・学齢期という重要なライフステージの健康を維持し、子供たちが自身で学ぶ力をつけられるよう学校歯科保健活動、教育に携わっております。（長田英生）

・滝野川・

東京都滝野川学校歯科医会は、北区滝野川地区の公立幼稚園1園・小学校9校・中学校3校・及び都立高校の14校の学校（園）歯科医より構成されています。

各園・学校では、定期健康診断や小学校での就学児健康診断、歯科講話の実施・学校保健委員会への協力、参加など、各園・学校ごとに必要な歯科保健活動をしています。

行政との協力としては、「北区よい歯の園児・児童・生徒」の選出及び表彰を、北区ならびに滝野川・北各歯科医師会と協力して行っています。東京都学校歯科医会が募集している歯・口の健康に関するポスターや作文を、滝野川地区での取りまとめと審査をして、東京都学校歯科医会に優秀作品を送っています。平成28年からは、11月23日の勤労感謝の日、ポスター表彰式を北学校歯科医会と共催し、優秀な作品を応募してくれた園児・児童・生徒さんと保護者を招待して作品の展示と表彰を行っています。北区長や滝野川・北歯科医師会会長にお越しいただき、みなさまの笑顔あふれる表彰式となっております。

また、毎年2月には、北区学校歯科保健協議会、3月には北区学校歯科医研修会を北学校歯科医会と開催し、保護者・養護教諭・北区・教育委員会・学校歯科医を対象に学校歯科に関する講習会を実施しています。

当会が直面している問題としては、少子高齢化があり、北区との取り決めにより75歳定年制をとっています。また、少子化にともない学校の適正配置計画が進められ、今後児童・生徒の数の減少により会の規模が小さくなるかもしれませんが、園児、児童、生徒の歯と口の健康を守るために、学校歯科医全員で力を合わせていく所存です。（江口淳一）



・ 北 ・

北学校歯科医会は、北区赤羽地区・王子地区の学校歯科保健を担い、会員総数は46名（幼稚園5名・小学校26名・中学校9名・高等学校5名・特別支援学校2名）です。

役員は会長：渡邊和仁、副会長：中村卓志、理事：山本修己（会計）・難波竜児（学術）・鈴木英也（庶務）・高橋敬人（広報）、監事：久保田博康・小滝友一です。

役員会は、北区学校保健活動に対し、会員のご理解・ご協力を賜り、園・児童・生徒の学校（園）歯科保健に真摯に尽力して居ります。

特に、平成28年度から毎年11月23日（祝日）に「歯・口の健康に関するポスター表彰式」を開催しており、区長・教育委員会・受賞者とその家族の参加を賜り、盛大に行われて居ります。

その表彰式は、例年東京都学校歯科医会が開催する「歯・口の健康に関する図画ポスターコンクール」に、北区から多くの児童生徒が参加する



ことを受け、毎年コンクール参加作品を対象に、北学校歯科医会と滝野川歯科医会が、独自の表彰式を行うものです。

毎年、表彰式には多数のご家族の方がお見えになり、大変に喜ばれており、その式の評判も良く、反響が素晴らしいです。

今後も、役員会を中心に、会員が一丸となり、学校歯科保健活動に、真摯に益々尽力を図りたいと思います。
（会長 渡邊和仁）

・ 荒 川 ・

荒川区学校歯科医会の主な事業である「児童・生徒のための歯予防対策事業」は、1967年より開始まり、すでに50年以上の歴史があります。この事業は、小学校1・3・5年生、中学1年生を対象に展開しています。最近、事業の名称を「歯・口の健康づくり事業」に変更し、児童・生徒のむし歯予防だけでなく、文字通り歯・歯肉そして口腔健康を増進維持することを目的にしています。また、2005年に荒川区の12歳児のDMF指数が、都内23区中最下位であったことがきっかけで、荒川区教育委員会、保健所、小・中学校校長会、そして当会で「児童・生徒歯予防関係者研究会」を立ち上げ、むし歯や歯肉炎を予防し歯科保健の向上を図るためには、家庭との連携を深めつつ、学校においても「給食後の歯みがき」を実践していく必要があると考え、具体的な実践方法を検討し、この事業に反映しています。また保護者へのアンケート調査からの要望も取り入れて総合的に実践しています。この委員会は、毎年開催され、前年度の反省を踏まえ次年度の改善を提言

するなど、活発に活動しています。本年度は、この事業の要綱をさらに保護者に活用していただくため、配布時期の変更、事業の復習ポイントを新たに設け、家庭での啓発に取り組んでいます。

また、都学歯城北ブロック協議会が毎年開催され、各学校歯科医会の活動を興味深く拝聴していますが、他区の活動を参考にして更に子供たちのためにこの事業を発展させていきたいと考えています。
（小森 博）



・ 板 橋 ・

昭和21年（1946年）、板橋が区となり板橋区学校歯科医会が新たに発足し、今年で72年になります。それ以前からも学校歯科医としての活動はあったようです。

現在の会員数は、小学校担当51名・中学校担当22名・幼稚園（2園）担当1名・都立高校担当10名の計84名で、全員東京都学校歯科医会の会員でもあります。

理事会は、監事2名を含む14名で構成され、年11回開催しています。

当会の主な活動をご紹介します。

* 「歯と口の健康教室」

小学校4年生と小中の特別支援学級、合計139クラスの全生徒を対象に、板橋区教育委員会の委託事業として、区健康福祉センターの歯科衛生士の協力を得、口腔機能の理解とそのヘルスケアの啓発としての講義、歯垢染色を行ってのブラッシングの実地指導を行ない、成果を得ております。



* 「歯と口の健康ポスター展」

歯と口の健康に関する図画・ポスターコンクール応募作品のうち、優れたものを区役所のホールに展示し、当会や板橋区歯科医師会の情報提供を行っています。

* 「学術講演会」

板橋区教育委員会と共催で年1回、養護教諭を対象とした講演会を行っています。

歯科の情報に接することの少ない方々にとっては、「絶好の機会である」と好評を得ています。

その他、東京都学校歯科保健研究大会、全国大会への参加もしています。（中山 実）



・ 練 馬 ・

明治30年に文部科学省は、学校清潔法の基礎を作成し、東京市で学校歯科検診が行われました。その後、学校歯科医法が明治39年に公布され、大正7年には東京市内の9か所で学童歯牙検診が行われました。昭和2年6月3日、「東京市学校歯科医会」設立総会が開催されました。昭和6年6月22日には学校歯科医および幼稚園歯科医会勅令144号が公布され、東京市を中心に「日本聯合学校歯科医会」が設立し、また東京市で全国学校歯科医大会が開催されました。その後、先輩諸氏のご尽力により昭和54年4月1日から「社団法人東京都学校歯科医会」となり、現在に至っています。まさに一世紀強に及ぶ経時的成果です。東京都学校歯科医会創立70周年ならびに法人化40周年、心からお祝意を申し上げます。

練馬区学校歯科医会の歴史は、練馬区歯科医師会が昭和22年8月1日に設立、学校保健活動も開始されました。昭和30年に練馬区学校歯科医会は、第1回定時総会を開催し正式に学校歯科医会が発足し、約65年もの長い歴史を持つ学校歯科医会です。現在、本会は会員数115名、小学校65学校歯科医・中学校35学校歯科医・高校9学校歯科医・特別支援学級3学校歯科医・幼稚園3園歯科医の構成です。また、本会は練馬区の児童・生徒

の「歯と口の健康」を堅持するために練馬区教育委員会と密に連携を保ち学校保健に関する多くの事業を展開しております。春・秋の歯科健康診断、就学時健康診断、教育委員会と小学校・中学校校長会と学校歯科医会との研修協議会、練馬区学校保健大会等が毎年行なわれております。練馬区役所と練馬区学校歯科医会との合同で偉大な業績を成し遂げた事業「むし歯半減運動」推進事業は、現在「児童・生徒の歯と口の健康推進事業」と改名し「給食後の歯みがきの推奨」を中心に業務を遂行しております。練馬区学校歯科医会のホームページは、最先端の表示システムで常に新情報を更新、レスポンスweb対応しておりますのでご覧ください。

明るい未来、東京都学校歯科医会の更なる飛躍を祈念いたします。（会長 草柳英二）



・西多摩・

創立70周年および法人化40周年誠におめでとうございます。

東京都西多摩歯科医師会は、東京都の西に位置するあきる野市・青梅市・羽村市・福生市・奥多摩町・日の出町・瑞穂町・檜原市の8市町村からなる歯科医師会です。そしてそれに対応する5つの地区歯科医師会（秋川・青梅市・羽村市・福生市・瑞穂町）がお互いに連携を取り合いながら地域歯科保健や歯科医療に努めています。学校歯科保健活動は、西多摩学校歯科医会が会務をより円滑に行うため、平成15年に解散し公衆衛生Ⅱ委員会として本会に帰属されました。その後、母子・学校歯科保健委員会と名称を変更し乳幼児から児童・生徒までの小児に関する歯科保健の活動を担っております。委員会は、担当理事と各地区より選ばれた委員の8名で構成されています。委員会の事業は新任学校歯科医研修会、学校歯科医・

園歯科医研修会、未就学児歯科保健対策研修会の3つの研修会と西多摩地区の8市町村の教育委員会および健康課等の関係者が一堂に会し、小児の口腔の健康についての協議を行う西多摩歯科医療保健連絡協議会の開催があります。また学校歯科保健活動としては、著名な講師をお招きしての西多摩学校歯科保健研究大会があります。学校歯科医ばかりでなく歯科医師・教諭や教育委員会の方々と一緒に研修会や講演会を行っております。

（母子・学校歯科保健委員会
担当理事 井上雄温）



母子・学校歯科保健委員会 委員



平成29年西多摩学校歯科保健研究大会
演者 一般社団法人日本学校歯科医会
元会長 丸山進一郎先生

・多摩・

多摩市学校歯科医会は、会員数30名、理事8名（会長 久保雅幸・副会長 浅井英夫・理事 赤井亮子・新井真澄・川崎和三・北村 新・後藤伊都子・宮川慎二郎〈敬称略〉）で構成されております。

当会員全員は、都学歯に加入しているとともに、多摩市学校保健会にも入会しております。学校保健会には、市教育委員会・学校医・学校薬剤師・校長・養護教諭・栄養士・保健所が参加しており、年に6回理事会を開き各関係者と連携して学校保健活動を行うことができております。理事会以外にも学校保健会を通して、昭和60年以来毎年当会と養護教諭との歯科健康診断についての会合が行われ情報交換をしております。また、昭和58年以来、毎年当会員のみなならず学校保健会全会員対象に歯科講習会を行っております。平成17年度より学校歯科保健推進事業を多摩市と共同で行っており、これにより市の事業として小学一年生は無料でフッ素塗

布を一度受けることができ、また小学四年生、中学一年生に対し学校に赴きブラッシング指導を行うことができるようになりました。

都学歯「歯の作文」「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」にも市内の児童生徒が毎年多数参加して、ときに最優秀賞等を受賞しております。11月には毎年「お口の健幸まつり」を行い、会場では「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」に参加した全作品を展示して、多摩市長、教育長をお招きして表彰式を行っております。

（会長 久保雅幸）



・八王子・

八王子市は、東京都の島嶼部を除く地域の南西部、都心から約40kmに位置している多摩丘陵にある。面積は186.38km²、総人口576,768人(2018年4月1日現在)、都内の23区以外では一番の大所帯である。関東山地の一部である高尾山や陣馬山などの500m～900m 弱の山々を西端とする盆地の為、夏は暑く、冬は寒い。東京区部の中心部と比して、最低気温は5℃ほど低く最高気温は3℃ほど高い、年間平均気温は14℃で熱帯夜は少ない。近年、高尾山はミシュランガイドにも載り都内でも人気の観光スポットになっており、週末は年間を通して登山客が押し寄せる。また大正天皇、昭和天皇が眠る多摩陵、武蔵野陵墓地も高尾山の麓にある。

八王子歯科医会は、公益社団法人東京都八南歯科医師会に属し、197件の歯科診療所があり、学校歯科医数は122名である。学校歯科医の100%が都学歯に加入しており、日学歯・都学歯の研修会等を通じて研鑽を積んでいる。また八王子歯科医会には学校歯科部があり、市立保育園・市立小学



校・中学校・特別支援校・都立高の学校歯科医の推薦を行っている。小学校・中学校に関しては、平成14年度から学校歯科医は輪番制となっており、現在は6年ごとに学校歯科医希望者を募り、担当校を交代し、学校歯科医の機会均等および学校歯科健康診断の平準化を目指している。学校歯科医には毎年度、活動状況を記載した学校歯科年間報告書を提出して頂き、学校歯科部で集計し結果の報告及び意見交換会を開催したり、講師を招いての研修を行う学校歯科医研修会を開催している。(橋本直樹)

・町田・

町田市学校歯科医会は、昭和22年に南多摩群町田町、南村、忠生村、鶴川村の一町三村における10名の歯科校医の活躍に始まり、昭和38年に町田市学校歯科医会と改称して学校保健行政への協力体制を整えました。

当会の年間事業は、年1回の総会、月1回の理事会、学術講演会、新規学校歯科医研修会、春期歯科健康診断集計結果の公表、図画・ポスターコンクール(写真)、町田市学校保健会会誌への投稿、町田市学校保健会の研究大会、総会、役員会への参加、全国及び東京都学校歯科保健研究大会への参加、多摩ブロック別研修会の開催協力と参加などです。

また、町田市学校歯科医会は、春期健康診断の「応援医制度」が特徴です。この制度では、前年度の12月中に次年度の学校歯科医を推薦し、各学校歯科医が担当校と調整して、次年度の健康診断の日程を決めます。町田市では、各学校の健康診断を半日で終了させる

ため、生徒数に応じて応援医数を決めます。例えば、生徒数800人以上の大規模校には、学校歯科医に加え、学校歯科医会会員3名が応援医として参加します。日程表は教育委員会から各校に到達されます。

この制度の利点は、健康診断の結果が平準化されること、規模の異なる学校でも歯科医が診る生徒数を公平に保てることです。役員は、新年早々から日程調整と応援医の振り分けに頭を痛めますが、会員や学校側にも好評なので、今後も、役員一同、力を合わせて参りたいと思います。

(織田聡一郎)



・ 府 中 ・

昭和50年4月、東京都北多摩歯科医師会より社団法人東京都府中市歯科医師会が発足し、昭和53年4月、東京都府中市学校歯科医会として独立いたしました。その母体となるのは、昭和23年、小中学校7校の学校歯科医を中心に、戦後の混乱にもめげず、児童、生徒の口腔衛生向上のため、各学校及び教育委員会を加えての協議会、府中公立学校歯科衛生協議会でありました。

平成23年4月、東京都府中市学校歯科医会は、本会全員が学校歯科保健に携わり、児童生徒の口腔を守るという理念のもと、本会に組織され、府中市歯科医師会学校歯科委員会として活動することになりました。また、平成25年4月には、公益社団法人東京都府中市歯科医師会学校歯科委員会となりました。

現在府中市内には、公立の幼稚園3園、小学校22校、中学校11校、都立高等

学校6校（定時制1校）、都立特別支援学校2校、公立の保育所14所、その他、私立の園、学校に会員の先生方に学校歯科医を依頼しております。最近では、認可保育園等にも、会員を紹介し担当医になっていただいております。また、2年に一度、子ども家庭部保育支援課の依頼により、市立保育所保健担当職員と担当歯科医との懇談会を開催し、歯科保健の講演、意見交換等を行っております。最近、市立保育所、認可保育園の優良校表彰の応募が増え、府中市と協力して、乳幼児、幼児の歯科保健活動に力を入れています。

（高木栄太郎）



・ 国 分 寺 ・

国分寺市は東京都の中心（重心）に位置し、東西約5.68km、南北3.86km、面積11.46km²大部分は、武蔵野段丘上のはほぼ平坦地です。段丘の南端は、急激に降下して国分寺崖線をなし、立川段丘に連なります。この崖線のすぐ下を流れているのが野川で、崖はハケと呼ばれ、各所から豊かな湧き水を野川に注いでいます。市内には、JR中央線・武蔵野線・西武国分寺線・多摩湖線が縦横に走り、中でも国分寺駅は中央線特別快速の停止駅で、多摩地域の交通の要衝となっています。

国分寺市学校歯科医会では、当初から相互扶助の精神に則り、国分寺市歯科医師会会員の全員が責任を負うべきものと考え、ほぼすべての会員が関わるようになっていきます。市内の公立小学校10校、中学校5校、高校1校の学校歯科医は輪番制で、約4年で交代するようになっていきます。そして、学校の生徒数に応じ近隣の会員が協力医として参加し、学校歯科医はもとより協力医も含めたグループで歯科健康診断はもちろん生徒の歯の健康に従事しています。歯科健康診断は、春の一回にとどまらず、歯科健康診断の結果適切に治療が行われたか、通院をしたかを検証するため、秋に



も行われます。歯科健康診断のほかには、春には小学校四年生を対象に小学校全校でブラッシング指導を行います。また、各学校で開かれる他科の学校歯科医、学校の教員、PTAが参加する学校保健委員会には積極的に参加し、年に一回は、行政・教育委員会・各学校の養護教諭・そして当会の学校歯科医が集まり、歯科保健に関する提言、情報交換などを行っています。

また、全国学校歯科保健大会には必ず役員を派遣し、その他の講習会、小児歯科学会等にも参加し歯科校医、協力医も研鑽をはかっています。

（島田 卓）

・東久留米・

西武池袋線で池袋から20分の東京都中北端に位置する東久留米市は、昭和30年代後半からひばりが丘・東久留米・滝山という大型団地が次々に誕生し、東京のベッドタウンとして人口が急増（昭和35年からの10年間で4.1倍）しました。これに伴い、小学校3→16校・中学校1→7校へと急増したのです。この状況下での学校保健、衛生思想の啓発、生徒の健康の保持増進、学校歯科医としての意識向上のために、昭和51年「教育委員会、小中学校、学校歯科医の第1回懇談会」が開催されました。平成元年には、東京都歯科衛生士会とも連携をとり「口腔衛生指導」の小中学校への導入が、決まりました。この懇談会は、毎年2月に催され現在に至ります。教育委員会・養護教諭・東京都歯科衛生士会・歯科校医の総勢50名が一同に介して、健康診断の結果報告・口腔衛生指導の報告が、行われます。そして養護教諭からの要望で、毎回テーマを決めての勉強会も同時に開催しております。「口腔衛生指導」は、毎年市内全ての小中学校の3・6年の2学年を対象とし、本会から児童全員に配布した適正な歯ブラシを用いて、1クラスに2名の歯科衛生士が行います。指導内容、方法の反省点をまとめ2月の懇談会に臨み、次年度に向けてのテーマを決める事となります。また7月には、学校歯科医の意識向上、見解の共有を図る目的で「歯科校医の集い」を開催、活発な意見交換の場と

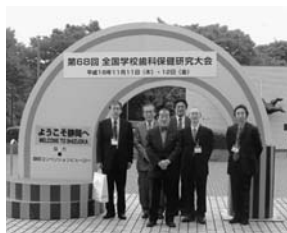
なります。

歯や口の健康づくりに不可欠な生活習慣の確立、生涯を通じての健康の基盤をつくることを目指す保健教育こそが、学校歯科保健活動の中心であることは言うまでもありません。この考えを早くから行政に訴え現在の形に確立してきた先代たちの意志を継承しながら、中学校・高校での口腔衛生指導の導入も検討しております。市内学校歯科医全員が都学歯会員である本会をどうぞよろしくお願い致します。

（副会長 北村 晃）



東久留米市
歯科医師会
イメージ
キャラクター
忠犬みが公



東久留米市学校歯科医会の第2代（前）、第3代（当時）、第4代、第5代会長（現在）と次期候補が揃って参加した研究大会です。



東久留米市学校歯科医会の活動を支える会員です。

・立川・

立川市では、学校保健部会（校長、保健主任、養護教諭、PTA 会長、PTA 保健代表者）と三師会学校保健部会（学校医、歯科校医、学校薬剤師）の二部会からなる立川市学校保健会が組織され、学校保健に関係のある各種団体相互の連絡と研修を目的として、立川市教育委員会内に事務所を置き、市と協力して活動しています。

立川市学校保健会では、健康診断委員会・広報委員会・日光移動教室委員会・研究表彰推薦委員会・保健会誌委員会という各委員会を設けて、健康教育の普及発展、学校保健に関する研修、学校保健行政並びに関係団体への協力、学校保健事業の推進を行なっています。立川市学校歯科医会では、理事が各委員会に参加し、健康診断事業だけでなく、「学校、家庭、行政が連携を密にし、そ

れぞれの立場から児童と生徒の心と体の健康づくりを援助し、推進する」ために、地域に密着した教育活動に対しても積極的に取り組んでおります。

歯と口の健康週間におけるポスター展示、表彰に関する一連の取り組みや、また今年の立川市総合防災訓練では、三師会及び接骨師会と連携し、トリアージの訓練に当たっています。

これからも、立川市学校保健会としっかりと連携を取り、健康診断事業や教育活動を積極的に推進していきたいと考えております。（山崎淳史）



・西東京・

まずは、東京都学校歯科医会創立70周年・法人化40周年おめでとうございます。

西東京市は、平成13年に田無市と保谷市が合併により誕生した21世紀最初の新設合併の市で、人口は20万人強の市です。北は西武池袋線、南は西武新宿線が、蒲焼きの2本の串のように西東京市を貫通してます。

西東京市歯科医師会は、平成16年4月に旧保谷歯科医師会と旧田無市歯科医師会が合併により誕生しました。現在は、時代のニーズとともに市民の歯科健康診断・学校歯科等の重要性が増し、オーラルフレイル予防等地域の医療向上のため、会長はじめ、会員一同努力してる次第であります。

昨年11月に西東京市歯科医師会は、小平市歯科医師会と共催で幹事として都学歯多摩ブロック①地区連絡協議会を、吉祥寺の武蔵野公会堂にて開催いたしました。この時は、東京都学校歯科医会の末高会長はじめ都学歯の理事の先生方の手厚い補助のもと、開催で



き、感謝しております。

毎年2月、西東京市教育委員会後援のもと学校歯科医と養護教諭の研修会を開催しております。今年は、東京歯科大学の大多和由美准教授を講師として迎えました。行政・校長先生・養護教諭の方々から、様々な反響が得られ研修会は盛大に終わりました。

このように、西東京市歯科医師会は行政と連絡をとりながら学校歯科への取り組みをしておりますが、これは上部団体として東京都学校歯科医会のご指導、ご鞭撻があるから、活動できております。東京都学校歯科医会の益々のご発展を祈念して、筆をおきたいと思います。（田中大平）



・武蔵村山・

都学歯70周年、おめでとうございます。

武蔵村山市歯科医師会では、1種会員20名、2種会員1名の構成です。学校歯科医会には7名入っています。市内の公立小学校は9校、公立中学校は5校、都立高校が1校あります。学校歯科医全員が入会すれば15名になります。10年前と比べると1名増加しました。

武蔵村山市の人口は、現在7万1千2百人ぐらいです。10年前は、積極的に学校歯みがき指導に行っている先生は、2・3名でした。7年程前に、教育委員会がむし歯ゼロプランという事業をたちあげてくれました。

現在、そめだし歯みがき指導をしている学校が

6校、フッ素洗口を行っている学校が3校です。市内の学校歯科口腔衛生指導にも活気が出てきている感じがします。歯みがき指導もフッ素洗口も、小学校3・4年生を対象に行なっているのが現状です。これを市内全校、全学年に拡大していきたいと思っています。

東京都の市区町村の中でも、武蔵村山市はむし歯罹患率が悪い方の下位に低迷しています。この歯みがき指導やフッ素洗口が、むし歯罹患率改善に向かっていくことを強く願っています。また、これからも学校歯科医会の会員が増えるように努力していく所存です。（比留間修一）



学校フッ素洗口説明会 八小



学校歯科保健指導 四小

・ 昭 島 ・

昭島市は人口約11万人、都心より約40km 西の多摩川の左岸に位置しており、市北部には玉川上水が流れています。

昭和36年、市内の JR 八高線多摩川橋梁近くでクジラの化石が発見された。同種類のくじらが他に発見されていないため、和名「アキシマクジラ」と命名された。100万年以上前のクジラの全骨格がほぼ完全な形で発掘されたのは、世界でも初めてだと言われている。貴重な資料として国立科学博物館で調査保管され、群馬県立自然史博物館に移されて研究が進み、平成30年新種として学名「エスクリクティウス・アキシマエンシス」と命名された。2020年完成予定の昭島市教育福祉総合センターに全骨格レプリカと化石の一部が、展示される。毎年8月に行われている昭島市民くじら祭は、アキシマクジラの化石が発掘された事に因み開催されている。又都内では唯一、水道水を地下150~200m から汲み上げる地下水で、100%賄っている市営水道を持っているというのが、自慢です。

昭島市学校歯科医会は、昭和46年設立され、以来組織的な活動がされています。現在学校歯科医数は21名、小学校13

名、中学校6名、高校2名であります。昭島市学校保健会の中でも地域の児童・生徒の心身の健康を増加するため、積極的に活動する学校歯科医会として認められています。平成9年から「学校歯科医が目指すむし歯のない学校」という主題のもと市内の学校歯科医による講演会を開催し、以来学校保健会との共催で「歯の保健衛生講演会」として毎年開催しており、今年で第22回を迎え、市民の口腔衛生教育の啓蒙活動として定着しています。都学歯・日学歯会員として早くから会員全員が加盟し、都学歯・日学歯の各種の研修会や研究大会にも多くの会員が、参加しています。特に全国学校歯科保健研究大会には、毎回多くの会員が、参加を続けています。学校歯科医会の活動が教育的な効果を果たすと共に、地域社会にも影響をもたらす組織として今後益々発展することを願っています。

(会長 村山恒夫)



・ 調 布 ・

この度、一般社団法人東京都学校歯科医会が創立70周年および法人化40周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。また、平素は調布市歯科医師会学校歯科医部会の活動に多大なる御支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、調布市歯科医師会学校歯科医部会（以下部会）は、現在44名の会員のもと（登録会員含む）市内児童の口腔内を守るため様々な活動をしております。

毎年6月に市民向けに開催している「歯と健康のつどい」におきまして、市内小・中学生を対象に「図画・ポスター・標語コンクール」を行い、特に優秀な児童・生徒には表彰を行っております。毎年多数の応募があり、学校歯科保健の向上の一助となっております。

現在は、ほぼ全ての小学校におきまして歯科健康診断を春・秋の2回行っており、年間を通した児童の口腔内の管理を可能にしております。

平成16年度には登録歯科衛生士制度を発足し、調布市内の小・中学校並びに保育園での刷掃指導・健康診断補助を行っており、本会独自の誇れる制度となっております。

また、昼食後の歯ブラシにおきましても、市内小・中学校に対し、本部会の働きかけにより少しずつではありますが実施する学校も増えてきております。今後も行政や養護教諭部会などと協議をし、将来的には市内全ての学校において昼食後の歯ブラシを行って頂けるよう努力してまいります。

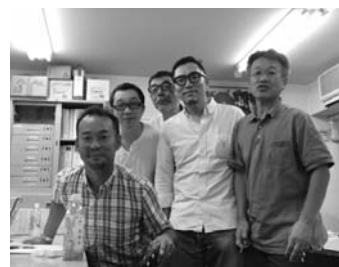
現在、本部会での最重要課題として取り組ん

でいる事項は歯科健康診断後の歯科医院への受診率の調査です。現在調布市内ではこの調査、統計が出されておられません。本部会にとって更なる歯科保健の向上を目指すためにも、市内児童がどの程度歯科医院を受診し、治療を完了しているのかを把握することはとても重要なことだと考えております。しかしながら行政や学校側の都合もあり、何度か協議を重ねておりますが、未だはっきりとした回答が得られていない状況です。今後も、東京都学校歯科医会の先生方のご協力を賜りながら粘り強く交渉してまいりたいと考えております。

未来ある子供たちの健やかな成長のために本部会として、また歯科医師として何ができるのか、また何をしなければならないのかを常に考え、微力ながら尽力していきたいと考えております。

結びに、東京都学校歯科医会の先生方の今後の益々のご発展とご健勝を祈念しましてお祝いの御挨拶とさせていただきます。

(小田切秀男)



・東大和・

東京都学校歯科医会創立70周年・法人化40周年
おめでとうございます。

東大和市は東京の多摩北部にある人口90,000人の街です。東大和市の北側には村山貯水池（多摩湖）という湖があり、市民の憩いの場になっております。

市内には中学校が5校、小学校が10校あり、東大和市歯科医師会より、それぞれ学校歯科医が一人ずつ派遣されております。また歯科医師会の先生方と契約している保育園は13か所、幼稚園が3か所あります。

東大和市の学校歯科の現状ですが、東京都内の市の中でのう蝕被患率はかなり高い方です。まったく自慢にはなりませんが、う蝕被患率が高いことは以前からの問題点であり、我々学校歯科医も把握しているところでございます。数年前から東大和学校歯科委員会を設け、毎年市の教育委員会の方々、小学校の養護の先生方と話し合いを設け、市内の子供たちのう蝕及び歯肉炎を減少させるべく努力しております。

学校におきましては、昼食後のぶくぶく

うがいや歯みがきを行うなど、小さなことの積み重ねが子供たちの口腔環境を良くするのだと考えております。

また、養護教員の先生方の歯科健康診断の受診勧奨通知の数回にわたる回収や、6月の「歯と口の健康週間」では歯の健康に関するDVDを鑑賞したり、我々学校医による講話を聞いてもらうことで、口の健康に対する意識の向上を図っております。当面の東大和学校歯科委員会の目標は、う蝕被患率を都内の市の中で低い方から数えて五本の指に入るようにすることです。

（会長 黒米譲二）



・狛 江 ・

狛江市歯科医師会は、狛江市の小学校6校、中学校4校、その他高校1校を受け持っています。歯科医師会全体の会員数も少ないことから、学校歯科医については個別に担当しています。

狛江市は人口8万人で北多摩地区の最南に位置し、調布市と世田谷区に接しています。地理的には全国で2番目に小さな市で、しかもその4分の1が多摩川の河川敷です。

毎年新学期が始まると各校で学校歯科健康診断が始まります。他の地区と同様、近年ますますむし歯が減ってきております。ただ歯列の乱れは、顎が小さくなってきているせいか、目立つようになりまして。また、少数ながら多くのむし歯を持った子供達がいまして。その子供達を養護の先生と協力しあって、いかに改善していけるかが大きな課題と思っています。

学校歯科医は、子供たちと会話をしたり、歯みがきの方法を指導しなが

ら、和やかに学校歯科健康診断を進めるよう互いに努力しています。健康診断後は結果を集計し、各校で保健委員会を開催して今後の方針を検討します。また、さらに各校のデータを持ち寄り、狛江市全体での話し合いが持たれます。

私たちの会は少人数なので、会合は年に1回の総会ですが、歯科医師会の会合等で意見交換をしており円滑な会運営となっています。

子供達の大切な財産として口腔の健康を守ることに学校歯科医全員とともに努力を重ねてまいります。

（会長 塩谷達昭）



新撰組のふるさと日野市は人口18万人、小学校17校、中学校8校で、中央線沿線に位置しています。清流が豊富な環境に囲まれ、ここで育った児童・生徒は口腔内環境も良好に保たれ、のびのびとした生活を過ごしています。

毎年11月には、歯みがきウィークが行われています。これは、市内の全小中学校で食後のお昼休みに歯みがきソング「歯みがきサンバ」を流し、歯科保健の啓発に取り組むもので、10年以上経過しました。歯・口を再認識するツールとして好評を得ています。また、養護教諭との懇談会や、東邦歯科医療専門学校の協力のもとに養護教諭向研修会、保育園・幼稚園職員向け研修会などを開催し、現場の活動の把握と情報発信を行っています。

学校歯科保健における教育・管

理・組織活動を通して、いかに「生きる力」を身につけてもらうか、自分自身の健康を守るという自己管理能力を自然に身につけてもらうために歯科医師として何が出来るか、これが私たちの課題です。萌出交換から歯列完成というダイナミックな変化をもたらす時期に関わる学校歯科、これからも歯・口を通した児童、生徒の心身の健康を目指す活動を行っていきますので、ご協力よろしく願いいたします。

(木村 篤)



3

各種事業



■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 1. 東京都学校歯科保健研究大会 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

平成21年度 第44回大会要項

1. 主 旨 学校歯科に関する当面の諸問題について学校職員の共通理解を深めるとともに家庭の関心を高める為の実践的歯科保健活動を通して児童生徒の健康の増進に寄与する。
2. 主 題 学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり
3. 主 催 社団法人 東京都学校歯科医会
4. 後 援 東京都教育委員会 (財)東京都学校保健会 (社)日本学校歯科医会 (社)東京都歯科医師会
(社)東京都小学校PTA協議会 東京都公立中学校PTA協議会
東京都公立高等学校PTA連合会 東京都養護教諭研究会
東京都立高等学校学校保健研究会 東京私立初等学校協会
5. 期 日 平成22年3月4日(木) 午後12時30分 受付開始
6. 会 場 文京シビックホール 小ホール
7. 参加者 (1) 学校教職員(校長・学校歯科医・教諭・養護教諭・学校保健関係職員)
(2) 教育委員会事務局 学校保健担当職員
(3) 歯科医師・歯科衛生士・PTA・児童生徒

8. 日 程

12:30 13:00 13:05 14:15 14:20 15:00 15:20 16:05

受付・入場	開 会	特別講演 講師 人間総合科学大学教授 東京医科歯科大学 名誉教授 藤田紘一郎 「免疫をつける生活」 きれい社会の落とし穴 ～アトピーからがんまで～	表彰式 ・会長挨拶 ・学校歯科保健優良校入選校 ・歯の作文入選者 ・学校歯科医30年勤続会員 ・学校保健功労者 ・謝 辞 ・祝 辞	音 楽	優秀作文 発表 ・江戸川区立第二葛西小学校6年 松本 風紗 ・清瀬市立清瀬第三中学校1年 檜崎あゆみ ・講 評 千代田区小学校 国語教育研究部長 関 哲也	閉 会
-------	-----	---	--	-----	--	-----

9. 特別講演 「免疫をつける生活」きれい社会の落とし穴

～アトピーからがんまで～

講師 人間総合科学大学教授

東京医科歯科大学名誉教授

藤田 紘一郎

10. 表 彰 本大会において、平成21年度東京都学校歯科保健優良校入選校、歯の作文入選児童生徒及び30年勤続会員の表彰、学校保健功労者の紹介を行う。

11. 音 楽 町田市立鶴川第二中学校合唱団

12. 優秀作文の発表

(1) 「歯を見せて笑いたい」

江戸川区立第二葛西小学校

6年 松本 風紗

(2) 「歯 —— 積極的に守れるもの」

清瀬市立清瀬第三中学校

1年 檜崎あゆみ

作文講評

千代田区小学校国語教育研究部長

関 哲也

(千代田区立お茶の水小学校副校長)

平成22年度 第45回大会要項

1. 主 旨 学校歯科に関する当面の諸問題について学校職員の共通理解を深めるとともに家庭の関心を高める為の実践的歯科保健活動を通して児童生徒の健康の増進に寄与する。
2. 主 題 学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり
3. 主 催 社団法人 東京都学校歯科医会
4. 後 援 東京都教育委員会 (財)東京都学校保健会 (社)日本学校歯科医会
(社)東京都歯科医師会 (社)東京都小学校 PTA 協議会 東京都公立中学校 PTA 協議会
東京都公立高等学校 PTA 連合会 東京都養護教諭研究会
東京都立高等学校学校保健研究会 東京私立初等学校協会
5. 期 日 平成23年2月10日(木) 午後12時30分 受付開始
6. 会 場 文京シビックホール 小ホール
7. 参加者 (1) 学校教職員(校長・学校歯科医・教諭・養護教諭・学校保健関係職員)
(2) 教育委員会事務局 学校保健担当職員
(3) 歯科医師・歯科衛生士・PTA・児童生徒

8. 日 程

12:30	13:00	13:40	14:10	14:40	15:40	16:10
受付 (入場)	開会式及び表彰式 ・会長挨拶 ・学校歯科保健 優良校入選校 ・歯の作文入選者 ・30年勤続会員 ・学校保健功労者	優秀作文 発表 ・台東区立谷中 小学校6年 木本恵里花 ・町田市立小山田 小学校5年 三谷あかり ・作文講評 千代田区小学校 国語教育研究部長 関 哲也	音 楽	ご挨拶 寛仁親王殿下 特別講演 東京都立心身障害者口 腔保健センター診療部 長 重枝昭広 「障害のある児童への 歯科的アプローチ」	研究発表 平成21・22年度生活習 慣病予防等を目指した 歯・口の健康づくり調 査研究事業推進地域・ 学校研究発表 府中市立小柳幼稚園 副園長 北村眞治 主任 新井尚子	閉 会

9. 表 彰 本大会において、平成22年度東京都学校歯科保健優良校入選校、歯の作文入選児童生徒及び30年勤続会員の表彰、学校保健功労者の紹介を行う。

10. 優秀作文の発表

- (1) 「おばあちゃんのような歯をめざして」 台東区立谷中小学校 6年 木本恵里花
- (2) 「大好きな歯医者さん」 町田市立小山田小学校 5年 三谷あかり
- 作文講評 千代田区小学校国語教育研究部長 関 哲也
(千代田区立お茶の水小学校副校長)

11. 音楽演奏 東京都立白鷗高等学校附属中学校
邦楽部門入学者による長唄(勸進帳)
CoCo 華：音楽舞踊アーティスト
12. ご 挨拶 寛仁親王殿下
13. 特別講演 「障害のある児童への歯科的アプローチ」
講師 東京都立心身障害者口腔保健センター 診療部長 重枝 昭広
14. 研究発表 研究発表 平成21・22年度 生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり
調査研究事業推進校
「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり
～よく噛み よく食べ 元気な園児の育成～」
府中市立小柳幼稚園 副園長 北村 眞治
主 任 新井 尚子

平成23年度 第46回大会要項

1. 主 旨 学校歯科に関する当面の諸問題について学校職員の共通理解を深めると共に家庭の関心を高めるための実践的歯科保健活動を通して、児童生徒の健康の増進に寄与する。
2. 主 題 学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり
3. 主 催 社団法人 東京都学校歯科医会
4. 後 援 東京都教育委員会 (財)東京都学校保健会 (社)日本学校歯科医会 (社)東京都歯科医師会
(社)東京都小学校 PTA 協議会 東京都公立中学校 PTA 協議会
東京都公立高等学校 PTA 連合会 東京都養護教諭研究会
東京都立高等学校学校保健研究会 東京私立初等学校協会 中野区教育委員会
5. 期 日 平成24年 2月23日 (木) 午後12時30分 受付開始
6. 会 場 なかの ZERO 大ホール
7. 参加者 (1) 学校教職員 (校長・学校歯科医・教諭・養護教諭・学校保健関係職員)
(2) 教育委員会事務局 学校保健担当職員
(3) 歯科医師・歯科衛生士・PTA・児童生徒

8. 日 程

12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	16:00
受 付 (入 場)	開 会 ・会長挨拶 表彰式 ・学校歯科保健優良校 入選校 ・歯の作文入選者 ・学校歯科医30年勤続 会員	優秀作文 発表 ・江東区立南砂小学校 6年 藤田海風 ・文京区立第九中学校 1年 宮尾由美 ・作文講評 千代田区小学校 国語教育研究部長 豊田純子	音 楽	特別講演 花園大学客員教授 水谷 修 「あした、笑顔に なあれ」 ～夜回り先生からの メッセージ～	閉 会

9. 表 彰 本大会において、平成23年度東京都学校歯科保健優良校入選校、歯の作文入選児童生徒及び学校歯科医30年勤続会員の表彰を行う。

10. 優秀作文の発表

- | | | |
|--------------------|------------------|----------|
| (1) 「自まんの歯」 | 江東区立南砂小学校 | 6年 藤田 海風 |
| (2) 「ダイヤモンドよりも・・・」 | 文京区立第九中学校 | 1年 宮尾 由美 |
| 作文講評 | 千代田区小学校国語教育研究部長 | 豊田 純子 |
| | (千代田区立千代田小学校副校長) | |

11. 音 楽 品川区立鈴ヶ森中学校 8年選択音楽

12. 特別講演 『あした、笑顔になあれ』

～夜回り先生からのメッセージ～

講師 花園大学客員教授

水谷 修

平成24年度 第47回大会要項

1. 主 旨 学校歯科保健をととして、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的とする。
2. 主 題 学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり
3. 主 催 社団法人 東京都学校歯科医会
4. 後 援 東京都教育委員会 (助)東京都学校保健会 (社)日本学校歯科医会 (社)東京都歯科医師会
(一社)東京都小学校 PTA 協議会 東京都公立中学校 PTA 協議会
東京都公立高等学校 PTA 連合会 東京都養護教諭研究会
東京都立高等学校学校保健研究会 東京私立初等学校協会
5. 期 日 平成25年 2 月 7 日 (木) 午後12時30分 受付開始
6. 会 場 文京シビックホール 小ホール
7. 参加者 (1) 学校教職員 (校長・学校歯科医・教諭・養護教諭・学校保健関係職員)
(2) 教育委員会事務局 学校保健担当職員
(3) 歯科医師・歯科衛生士・PTA・児童生徒

8. 日 程

12:30	13:00	13:50	14:10	14:40	15:40	16:10
受付 (入場)	開会式 ・会長挨拶 表彰式 ・学校歯科保健 優良校入選校 ・歯の作文入選者 ・東京都学校歯科 保健功労者 ・学校歯科医 30年勤続会員	優秀作文 発表 ・府中市立 白糸台小学校 6年 福田 麻尋 ・東村山市立 東村山第七中学校 1年 西垣 玲奈 ・作文講評 千代田区小学校 国語教育研究部長 山下 理恵	音 楽 演 奏	特別講演 食育研究家・ 料理研究家 吉原ひろこ 「食事の時間は命の時 間」 ～真の食事の時間を取 り戻す～	研究発表 平成23・24年度 生きる力をはぐくむ 歯・口の健康づくり推 進事業 ～望ましい生活習慣の 形成を目指して～ 文京区立第六中学校	閉 会

9. 表 彰 本大会において、平成24年度東京都学校歯科保健優良校入選校、歯の作文入選児童生徒、学校歯科保健功労者及び30年勤続会員の表彰を行う。

10. 優秀作文の発表

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------|----|----|----|
| (1) 「良い歯こそおいしい料理の立役者」 | 府中市立白糸台小学校 | 6年 | 福田 | 麻尋 |
| (2) 「歯の健康と体の健康の関係」 | 東村山市立東村山第七中学校 | 1年 | 西垣 | 玲奈 |
| 作文講評 | 千代田区小学校国語教育研究部長 | | 山下 | 理恵 |
| | (千代田区立富士見小学校校長) | | | |

11. 音楽演奏 文京区立本郷台中学校合唱部

12. 特別講演 「食事の時間は命の時間」～真の食事の時間を取り戻す～
講師 食育研究家・料理研究家 吉原ひろこ

13. 研究発表 平成23・24年度 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業
～望ましい生活習慣の形成を目指して～
「生徒が自主的に考え実践する歯と口の健康づくりの推進」
－むし歯予防を通しての生活習慣病の自主的な改善－

文京区立第六中学校 校 長 美谷島正義
主任養護教諭 松村 妃富

平成25年度 第48回大会要項

1. 主 旨 学校歯科保健をととして、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的とする。
2. 主 題 学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり
－日本の伝統文化にふれて感性をみがこう－
3. 主 催 一般社団法人 東京都学校歯科医会
4. 後 援 東京都教育委員会 一般財団法人東京都学校保健会 社団法人日本学校歯科医会
社団法人東京都歯科医師会 一般社団法人東京都小学校 PTA 協議会
東京都公立中学校 PTA 協議会 東京都公立高等学校 PTA 連合会
東京都養護教諭研究会 東京都立高等学校学校保健研究会 東京私立初等学校協会
文京区教育委員会
5. 期 日 平成26年 2月27日（木） 午後13時30分 受付開始
6. 会 場 文京シビックホール 大ホール
7. 参加者 (1) 学校教職員（校長・学校歯科医・教諭・養護教諭・学校保健関係職員）
(2) 教育委員会事務局 学校保健担当職員
(3) 科医師・歯科衛生士・PTA・児童生徒

8. 日 程

13:30	14:00	14:30	15:00	16:40	17:00
受付 (入場)	開 会 ・会長挨拶 ・来賓挨拶 文部科学大臣 教育再生担当大臣 東京オリンピック・ パラリンピック担当大臣 下村 博文 ・学校歯科保健優良校入選校 ・歯の作文入選者 ・東京都学校歯科保健功労者 ・30年勤続会員	優秀作文 発表 「私の大切な歯」 足立区立渕江小学校 6年 藤沼 香奈 「失って気づくもの」 世田谷区立玉川中学校 2年 町塚日向子 ※作文講評 千代田区小学校 国語教育研究部長 額賀 聡	音 楽 特別講演 雅楽師 東儀 秀樹 「雅楽のこころ 音楽のちから」	閉 会	

9. 表 彰 本大会において、平成25年度東京都学校歯科保健優良校入選校、歯の作文入選児童生徒、学校歯科保健功労者及び30年勤続会員の表彰を行う。

10. 優秀作文の発表

- | | | |
|----------------|-----------------|----------|
| (1) 「私の大切な歯」 | 足立区立渕江小学校 | 6年 藤沼 香奈 |
| (2) 「失って気づくもの」 | 世田谷区立玉川中学校 | 2年 町塚日向子 |
| 作文講評 | 千代田区小学校国語教育研究部長 | 額賀 聡 |
| | (千代田区立番町小学校校長) | |

11. 音 楽 東京都立杉並高等学校 吹奏楽部

12. 特別講演 『雅楽のこころ 音楽のちから』 雅楽師 東儀 秀樹

平成26年度 第49回大会要項

1. 主 旨 学校歯科保健をととして、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的とする。
2. 主 題 学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり
3. 主 催 一般社団法人 東京都学校歯科医会
4. 後 援 東京都教育委員会 一般財団法人東京都学校保健会 一般社団法人日本学校歯科医会
公益社団法人東京都歯科医師会 一般社団法人東京都小学校 PTA 協議会
東京都公立中学校 PTA 協議会 東京都公立高等学校 PTA 連合会
東京都養護教諭研究会 東京都立高等学校学校保健研究会 東京私立初等学校協会
5. 期 日 平成27年2月12日(木) 午後1時30分 受付開始
6. 会 場 文京シビックホール 大ホール
7. 参加者 (1) 学校教職員(校長・学校歯科医・教諭・養護教諭・学校保健関係職員)
(2) 教育委員会事務局 学校保健担当職員
(3) 歯科医師・歯科衛生士・PTA・児童生徒

8. 日 程

13:30 14:00 14:45 15:15 16:00 16:30 17:30

受付 (入場)	開会式 ・会長挨拶 表彰式 ・学校歯科保健 優良校入選校 ・歯の作文入選者 ・図画ポスター入選者 ・東京都学校歯科 保健功労者 ・30年勤続会員	優秀作文 発表 「予防歯科の実践を目 指して」 多摩市立東落合小学校 6年 原口 波奈 「笑顔がコインに変わ るまで」 渋谷区立原宿外苑中学校 3年 屋敷 南 作文講評 千代田区小学校 国語教育研究部長 額賀 聡 図画ポスターコンクール画評 東京学芸大学理事・副学長 美術科教育学教授 増田 金吾	音楽 演奏	研究発表 平成25・26年度 生きる力をはぐくむ 歯・口の健康づくり 推進事業 東京都立志村学園 校長 堀内 省剛 主任養護教諭 赤池 杏奈 「高等部就業技術科に おける歯と口の健康づ くり推進事業 歯と口の健康を通じた QOLの向上を目指して ～SGD (Small Group Discussion) の取り組 み～」	特別講演 東京オリンピック・ パラリンピック 競技大会組織委員会 スポーツディレクター 室伏 広治 氏 「Your Only Limit is You」	閉 会
------------	---	--	----------	---	---	--------

9. 表 彰 本大会において、平成26年度東京都学校歯科保健優良校入選校、歯の作文・図画ポスターコンクール入選児童生徒、学校歯科保健功労者及び30年勤続会員の表彰を行う。

10. 優秀作文の発表

- (1) 「予防歯科」の実践をめざして 多摩市立東落合小学校 6年 原口 波奈
- (2) 「笑顔がコインに変わるまで」 渋谷区立原宿外苑中学校 3年 屋敷 南
- 作文講評 千代田区小学校国語教育研究部長 額賀 聡
(千代田区立番町小学校校長)

11. 図画ポスター画評

- ・図画ポスターコンクール画評 東京学芸大学理事・副学長(美術科教育学教授) 増田 金吾

12. 音楽演奏 国立音楽大学創立90周年記念合唱団

13. 研究発表 平成25・26年度 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業

「高等部就業技術科における歯と口の健康づくり推進事業

歯と口の健康を通じた QOL の向上を目指して

～SGD (Small Group Discussion) の取り組み～」

東京都立志村学園

校 長 堀内 省剛
主任養護教諭 赤池 杏奈

14. 特別講演 「Your Only Limit is You」

一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
スポーツディレクター

室伏 広治

平成27年度 第50回大会要項

1. 主 旨 学校歯科保健をととして、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的とする。
2. 主 題 学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり
3. 主 催 一般社団法人 東京都学校歯科医会
4. 後 援 東京都教育委員会 一般財団法人東京都学校保健会 一般社団法人日本学校歯科医会
公益社団法人東京都歯科医師会 一般社団法人東京都小学校 PTA 協議会
東京都公立中学校 PTA 協議会 東京都公立高等学校 PTA 連合会
東京都養護教諭研究会 東京都立高等学校学校保健研究会 東京私立初等学校協会
5. 期 日 平成28年3月10日（木） 午後1時30分 受付開始
6. 会 場 文京シビックホール 大ホール
7. 参加者 (1) 学校教職員（校長・学校歯科医・教諭・養護教諭・学校保健関係職員）
(2) 教育委員会事務局 学校保健担当職員
(3) 歯科医師・歯科衛生士・PTA・児童生徒

8. 日 程

13:30	14:00	14:30	15:15	16:30	17:30
受付 (入場)	開会式 ・会長挨拶 表彰式 ・学校歯科保健 優良校入選校 ・東京都学校歯科 保健功労者 ・学校歯科医 30年勤続会員	図画ポスター入選者表彰 標語入選者表彰 図画ポスター講評 東京学芸大学理事・副学長 美術科教育学教授 増田 金吾 優秀作文発表 優秀作文講評 千代田区小学校 国語教育研究部長 額賀 聡 優秀作文入選者表彰	研究発表 平成24・25年度 平成26・27年度 東京都学校歯科保健 推進校(園)支援事業 府中市立小柳幼稚園 台東区立東浅草小学校 町田市立小山田中学校 東京都立赤羽商業高等学校	特別講演 「クイズで語る おもしろ食育最前線」 国立モンゴル医科大学 歯学部 客員教授 岡崎 好秀	閉 会

9. 表 彰 本大会において、平成27年度東京都学校歯科保健優良校入選校、歯の作文・図画ポスター・標語コンクール入選児童生徒、学校歯科保健功労者及び30年勤続会員の表彰を行う。
10. 図画ポスター講評 東京学芸大学理事・副学長（美術科教育学教授） 増田 金吾
11. 優秀作文の発表
(1) 「むし歯になりにくい歯を育てる」 豊島区立朝日小学校 6年 市川 凜
(2) 「小さいころに出会った『恩人』」 練馬区立中村中学校 2年 沖原奈津子
作文講評 千代田区小学校国語教育研究部長 額賀 聡
(千代田区立番町小学校校長)
12. 研究発表 平成24・25年度 平成26・27年度 東京都学校歯科保健推進校(園)支援事業
府中市立小柳幼稚園
台東区立東浅草小学校
町田市立小山田中学校
東京都立赤羽商業高等学校
13. 特別講演 「クイズで語る おもしろ食育最前線」
国立モンゴル医科大学 歯学部 客員教授 岡崎 好秀

平成28年度 第51回大会要項

1. 主 旨 学校歯科保健をととして、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的とする。
2. 主 題 学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり
3. 主 催 一般社団法人 東京都学校歯科医会
4. 後 援 東京都教育委員会 一般財団法人東京都学校保健会 一般社団法人日本学校歯科医会
公益社団法人東京都歯科医師会 公益社団法人東京都歯科衛生士会
一般社団法人東京都小学校 PTA 協議会 東京都公立中学校 PTA 協議会
東京都公立高等学校 PTA 連合会 東京都養護教諭研究会
東京都立高等学校学校保健研究会 東京都学校保健研究会 東京私立初等学校協会
5. 期 日 平成29年2月16日（木） 午後1時30分 受付開始
6. 会 場 歯科医師会館
7. 参加者 (1) 学校教職員（校長・学校歯科医・教諭・養護教諭・学校保健関係職員）
(2) 教育委員会事務局 学校保健担当職員
(3) 歯科医師・歯科衛生士・PTA・児童生徒

8. 日 程

13:30	14:00	14:30	15:30	16:00	16:30
受付 (入場)	開会式 ・会長挨拶 表彰式 ・学校歯科保健 優良校入選校 ・東京都学校歯科 保健功労者 ・学校歯科医 30年勤続会員	図画・ポスター標語 入選者表彰 図画・ポスターコンクール画評 東京学芸大学名誉教授 増田 金吾 優秀作文発表 優秀作文講評 千代田区小学校 国語教育研究部長 額賀 聡 優秀作文入選者表彰	研究発表 「平成27・28年度 生 きる力をはぐくむ 歯・口の健康づくり 推進事業」 東京都立永福学園	特別講演 「オリンピック・パラ リンピックの価値」 公益財団法人 東京都福祉保健財団 理事長 元東京オリンピック・ パラリンピック競技大 会組織委員会 チーフ・コンプライア ンス・オフィサー 総務局長 さいが 雑賀 真	閉 会

9. 表 彰 本大会において、平成28年度東京都学校歯科保健優良校入選校、歯の作文・図画ポスター・標語コンクール入選児童生徒、学校歯科保健功労者及び30年勤続会員の表彰を行う。

10. 図画・ポスターコンクール画評

図画・ポスター画評 東京学芸大学 名誉教授 増田 金吾

11. 優秀作文の発表

(1) 「医者ぎらいの私の歯」 豊島区立朝日小学校 5年 田端 恵菜
(2) 「日本の技術」 新宿区立落合第二中学校 1年 亀谷 七海
作文講評 千代田区小学校国語教育研究部長 額賀 聡
(千代田区立番町小学校校長)

12. 研究発表 「平成27・28年度 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」
東京都立永福学園

13. 特別講演 公益財団法人 東京都福祉保健財団 理事長
元 一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
チーフ・コンプライアンス・オフィサー 総務局長 さいが 雑賀 真

平成29年度 第52回大会要項

1. 主 旨 学校歯科保健をととして、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的とする。
2. 主 題 学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり
3. 主 催 一般社団法人 東京都学校歯科医会
4. 後 援 東京都教育委員会 一般財団法人東京都学校保健会 一般社団法人日本学校歯科医会
公益社団法人東京都歯科医師会 公益社団法人東京都歯科衛生士会
一般社団法人東京都小学校 PTA 協議会 東京都公立中学校 PTA 協議会
東京都公立高等学校 PTA 連合会 東京都養護教諭研究会
東京都立高等学校学校保健研究会 東京都学校保健研究会 東京私立初等学校協会
5. 期 日 平成30年2月1日(木) 午後1時30分 受付開始
6. 会 場 文京シビックホール 大ホール
7. 参加者 (1) 学校教職員(校長・学校歯科医・教諭・養護教諭・学校保健関係職員)
(2) 教育委員会事務局 学校保健担当職員
(3) 歯科医師・歯科衛生士・PTA・児童生徒

8. 日 程

13:30	14:00	14:30	15:15	15:45	17:00
受付 (入場)	開会式 ・会長挨拶 表彰式 ・学校歯科保健 優良校入選校 ・東京都学校歯科 保健功労者 ・学校歯科医30年勤続 会員	図画・ポスター、標語 入選者表彰 図画・ポスター コンクール画評 東京学芸大学名誉教授 増田 金吾 優秀作文発表 優秀作文講評 千代田区小学校 国語教育研究部長 額賀 聡 優秀作文入選者表彰	研究発表 平成28・29年度 東京都学校歯科保健 推進校(園)支援事業 品川区立 城南第二小学校 東京都立 水元特別支援学校	特別講演 「縄文人と現代人の 咬合はなぜ違うのか？」 国立科学博物館 人類研究部 3万年前の航海徹底再 現プロジェクト 代表 海部 陽介	閉 会

9. 表 彰 本大会において、平成29年度東京都学校歯科保健優良校入選校、歯の作文・図画ポスター・
標語コンクール入選児童生徒、学校歯科保健功労者及び30年勤続会員の表彰を行う。
10. 図画ポスター講評 国立大学法人東京学芸大学名誉教授 増田 金吾
11. 優秀作文の発表
(1) 「ライバルのおかげ」 江東区立第二大島小学校 6年 渡邊 葉月
(2) 「美しい歯で笑顔をきれいに」 文京区立茗台中学校 3年 佐々木 レヴィ 沙羅
作文講評 千代田区小学校国語教育研究部長(千代田区立麹町小学校校長) 額賀 聡
12. 研究発表 平成28・29年度 東京都学校歯科保健推進校(園)支援事業
品川区立城南第二小学校
東京都立水元特別支援学校
13. 特別講演 「縄文人と現代人の咬合はなぜ違うのか？」
国立科学博物館 人類研究部
3万年前の航海徹底再現プロジェクト代表 海部 陽介

平成30年度 第53回大会要項（創立70周年・法人化40周年記念大会）

1. 主 旨 学校歯科保健をととして、次代の日本国民の健全な発育発達に寄与することを目的とする。
2. 主 題 学校と家庭が連携して行う児童生徒の歯・口の健康づくり
3. 主 催 一般社団法人 東京都学校歯科医会
4. 後 援 東京都教育委員会 一般財団法人東京都学校保健会 一般社団法人日本学校歯科医会
公益社団法人東京都歯科医師会 公益社団法人東京都歯科衛生士会
一般社団法人東京都小学校 PTA 協議会 東京都公立中学校 PTA 協議会
東京都公立高等学校 PTA 連合会 東京都養護教諭研究会
東京都立高等学校学校保健研究会 東京都学校保健研究会 東京私立初等学校協会
文京区 文京区教育委員会
5. 期 日 平成31年2月28日（木） 午後1時30分 受付開始
6. 会 場 文京シビックホール 大ホール
7. 参加者 (1) 学校教職員（校長・学校歯科医・教諭・養護教諭・学校保健関係職員）
(2) 教育委員会事務局 学校保健担当職員
(3) 歯科医師・歯科衛生士・PTA・児童生徒

8. 日 程

13:30	14:00	14:30	15:10	15:45	17:00
受付 (入場)	開会式 ・会長挨拶 表彰式 ・学校歯科保健 優良校入選校 ・東京都学校歯科保健 功労者	図画・ポスター 入選者表彰 標語 入選者表彰 図画・ポスター コンクール画評 東京学芸大学名誉教授 博士（教育学） 増田 金吾 優秀作文発表 優秀作文講評 千代田区教育会 国語部長 渡辺 裕之 優秀作文入選者表彰	研究発表 平成29・30年度 「生きる力をはぐくむ 歯・口の健康づくり推 進事業」 台東区立東浅草小学校 感謝状贈呈	特別講演 「パラリンピアンが考 えるスポーツの力」 株電通パブリックリレー シヨonzシニアコンサル タント （公財）日本障がい者ス ポーツ協会理事 東京オリンピック・ パラリンピック競技大会 組織委員会顧問 渋谷区教育委員 大日方邦子 感謝状贈呈	閉 会

9. 表 彰 本大会において、平成30年度東京都学校歯科保健優良校入選校、歯の作文・図画ポスター・
標語コンクール入選児童生徒、学校歯科保健功労者の表彰を行う。
10. 図画・ポスターコンクール画評 国立大学法人東京学芸大学名誉教授 博士（教育学） 増田 金吾
11. 優秀作文の発表
(1) 「小さな歯がつくる輝く笑顔」 文京区立明化小学校 6年 中村紋百佳
(2) 「歯に対する感謝の気持ち」 目黒区立第九中学校 3年 柿崎 良太
作文講評 千代田区教育会国語部長（千代田区立和泉小学校校長） 渡辺 裕之
12. 研究発表 平成29・30年度 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業
台東区立東浅草小学校
13. 特別講演 「パラリンピアンが考えるスポーツの力」
株式会社電通パブリックリレーションズシニアコンサルタント
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会理事
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問
渋谷区教育委員
大日方 邦子

■■■■■■■■■■ 2. 会誌・広報出版活動 ■■■■■■■■■■

10年前「会誌72号」の記念号に活動状況を報告したが、今回はそれ以後の「10年の流れ」について報告する。この10年間の途中で私が委員長を退いたので、多少様式が変わってきているが、10年分一括ということなので私が報告する。

「会誌」は年1回発行で現在に至っている。そして表紙写真は会誌第80号の「博物館めぐり⑳ 大森 海苔のふるさと館」でこのシリーズは終了し、会誌第81号は「標語コンクールの書」に変わっている。「広報」は年3回発行が継続され、表紙写真は「ポスター」が年1回と「発祥地シリーズ」を年2回掲載してきたが、これも広報第118号の「都内発祥地シリーズ㉑ 民営機械製粉発祥の地」で終了し、次の広報第119号からは全号「ポスター作品」となっている。上記「博物館めぐり」と「発祥地シリーズ」の写真は全号とも関根が担当してきた。また、広報第120号から「表紙デザイン」も新しくなっている。

実際、お隣の会がどのような活動をしているのか、なかなか把握できないのが実情である。電子媒体による広報が広まりつつあるが、まだ「紙」による広報活動は重要であり、人の眼に触れる割合はかなり高いものと思われる。

(前・会誌広報委員会委員長 関根 正行)

一般社団法人東京都学校歯科医会創立70周年 広報委員会の歩み

明治39年に文部科学省は、学校歯科医法を公布、大正7年に東京市内9か所で学童歯牙検診が行われた。昭和2年6月3日には「東京市学校歯科医会」設立総会が、開催された。昭和6年6月22日に学校歯科医および幼稚園歯科医会勅令144号が公布され、全国学校歯科医大会も東京市で開催された。その後、幾多の経緯をたどり、昭和54年4月1日から一般社団法人東京都学校歯科医会となり現在に至る。また、東京都学校歯科医会会報創刊号は、昭和33年1月10日に多くの先人達のご尽力により発刊され、昭和39年4月には特集号として東京都学校歯科医会会誌1号が発刊された。その年の9月には東京都学校歯科医師会会報第13号が発行されている。その後、昭和60年6月に会務事業の情報と学校歯科保健活動の資料提供等の目的で新しい冊子「都学歯広報」の創刊号が、発刊された。年間に「会誌」と「都学歯広報」が、発行されこととなった。そののち、関根正行先生が委員長に就任し、委員長と共に多くの先輩諸氏委員からなる広報委員会が構築され、見識・情報等による「会誌」「都学歯広報」が長期にわたり発行され、「会誌」80号・「都学歯広報」第118号の発行まで広報委員会は、関根委員長のもと年表に匹敵する永久保存の長期連載冊子を編集・校正してきた。「会誌」「都学歯広報」の表紙写真は、委員長自ら企画したシリーズ作品である。平成30年12月末日の現在、「会誌」第81号・「都学歯広報」第123号まで発行され、引き続き大きな実績を継続中である。近年ホームページが普及している現在では、レスポンス web 対応に移行し、簡単にスマホ・タブレットで見ることができるが、冊子としての価値観からは、習慣性における視覚と紙媒体に依存する広報提供活動が必要であり、後世にも歴史資料の足跡として、「会誌」「都学歯広報」を継承してゆくのが使命と考えております。

最後に、東京都学校歯科医会広報委員会の更なる飛躍を祈念いたします。

(広報委員会委員長 草柳 英二)

会誌

[73号] 平成22年3月発行

- 主な記事
- 巻頭言 「国会 還暦(創立60周年)後の新たなスタートを期して」
(会長 櫻井善忠)
- 平成20・21年度ブロック別学校歯科医研修会
これからの学校歯科保健活動の展開について
(東京医科歯科大学大学院 健康推進歯学分野 教授 川口陽子)
- 寄稿
歯・口に関する字源と語源 (東京都学校歯科医会 専務理事 小貫 克)
- 投稿
スポーツ外傷対策としてのマウスガード使用に関する調査
(練馬区学校歯科医会 学術委員 石井伸行)
葛飾区学校歯科医会が行なった歯科健康診断の結果と考察
(葛飾区学校歯科医会)
- 平成21年度全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校
- 平成21年度「歯の作文」優秀入選者氏名一覧表
- 平成21年度「歯の作文」優秀作品



- 表紙写真
東京農業大学
「食と農」博物館

会誌

[74号] 平成23年3月発行

- 主な記事
- 巻頭言 「心を磨く」(会長 川本 強)
- 第44回東京都学校歯科保健研究大会 特別講演
「免疫をつける生活」きれい社会の落とし穴
～アトピーからがんまで～
(人間総合科学大学教授／東京医科歯科大学名誉教授 藤田紘一郎)
- 研究発表
平成21・22年度生活習慣病予防等をめざす歯・口の健康づくり
調査研究事業
「よく噛みよく食べ元気な園児の育成」
(府中市立小柳幼稚園副園長 北村眞治)
(主任 新井尚子)
- 平成22年度全日本学校歯科保健優良校表彰
- 平成22年度「歯の作文」優秀入選者氏名一覧表
- 平成22年度「歯の作文」優秀作品



- 表紙
物流博物館

会誌

[75号] 平成24年3月発行



●表紙

先端技術館@
TEPIA

●主な記事

- 巻頭言「振り返って」(会長 川本 強)
- 第45回東京都学校歯科保健研究大会 特別講演
「障害のある児童への歯科的アプローチ」
(東京都立心身障害者口腔保健センター 診療部長 重枝昭広)
- 平成23年度学校保健(学校歯科医)研修会
「食育を理解するための味覚の基礎」
(東京歯科大学生理学講座 講師 澁川義幸)
- 平成23年度全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校
- 平成23年度「歯の作文」優秀入選者氏名一覧表
- 平成23年度「歯の作文」優秀作品

会誌

[76号] 平成25年3月発行



●表紙

東京みなと館

●主な記事

- 巻頭言「お力添えを」(会長 川本 強)
- 平成24年度学校保健(学校歯科医)研修会
「疫学からみた学校歯科保健活動へのヒント」
(神奈川歯科大学 社会歯科学講座歯科医療社会学分野
准教授 山本龍生)
- 第47回東京都学校歯科保健研究大会 特別講演
「食事の時間は命の時間 ～真の食事の時間を取り戻す～」
(食育研究家・料理研究家 吉原ひろこ)
- 研究発表
平成23・24年度 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業
～望ましい生活習慣の形成を目指して～
「生徒が自主的に考え実践する歯と口の健康づくりの推進」
～むし歯予防を通しての生活習慣病の自主的な改善～
(文京区立第六中学校 校長 美谷島正義)
(主任養護教諭 松村 妃富)
- 平成24年度全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校
- 平成24年度「歯の作文」優秀入選者氏名一覧表
- 平成24年度「歯の作文」優秀作品

会誌

[77号] 平成26年3月発行

- 主な記事
 - 巻頭言「お力添えを」(会長 川本 強)
 - 平成25年度学校保健(学校歯科医)研修会
 幼児・学童期における機能解剖学的基礎知識
 -咀嚼・嚥下機能、味覚の獲得-
 (東京歯科大学 解剖学講座 教授 阿部伸一)
 - 投 稿
 日本人小児における顎関節症の自覚症状と生活習慣・性格傾向との関連性
 (杉並区学校歯科医会 米津光将)
 学校歯科健康診断における顎関節調査法の検討とその疫学的特徴
 (台東区桜橋中学校 学校歯科医 佐藤文明)
 - 平成25年度全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校
 - 平成25年度「歯の作文」優秀入選者氏名一覧表
 - 平成25年度「歯の作文」優秀作品

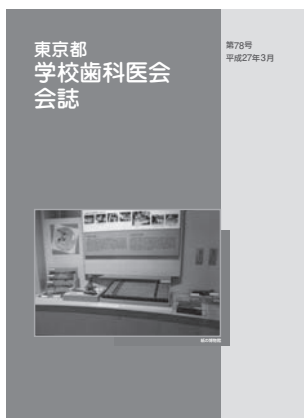


- 表紙
 秩父宮記念
 スポーツ博物館

会誌

[78号] 平成27年3月発行

- 主な記事
 - グラビア 平成26年度 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール
 - 巻頭言「お力添えを」(会長 川本 強)
 - 平成26年度学校保健(学校歯科医)研修会
 児童・生徒へのカスタムメイドマウスガード応用の利点とその必要性
 (東京歯科大学 スポーツ歯学研究室 准教授 武田友孝)
 - 第49回東京都学校歯科保健研究大会 特別講演 聴講報告
 室伏広治氏「Your Only Limit is You」(専務理事 鈴木 博)
 - 研究発表 平成25・26年度生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり
 推進事業
 「高等部就業技術科における歯と口の健康づくり推進事業
 歯と口の健康を通じた QOL の向上を目指して
 ～SGD (Small Group Discussion) の取り組み～」
 (東京都立志村学園)
 - 投 稿
 「子どもの成長と口腔疾患の予防」—学校歯科保健を考える—
 (東京都板橋区立三園小学校 学校歯科医 早川 龍)
 - 平成26年度全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校
 - 平成26年度東京都学校歯科保健功労者表彰者
 - 平成26年度30年勤続表彰者
 - 平成26年度受賞者
 - 平成26年度「歯の作文」優秀入賞者
 - 平成26年度「歯の作文」優秀作品
 - 平成26年度「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」入賞者



- 表紙
 紙の博物館

会誌

[79号] 平成28年3月発行



●表紙

第50回東京都学校
歯科保健研究大会

●主な記事

- グラビア 平成27年度 歯・口の健康に関する図画ポスターコンクール
- 巻頭言「お力添えを」(会長 川本 強)
- 第50回東京都学校歯科保健研究大会 特別講演
「クイズで語る おもしろ食育最前線」
(国立モンゴル医科大学 歯学部 客員教授 岡崎好秀)
- 平成27年度学校保健(学校歯科医)研修会
「歯科疾患を有する児童・生徒の特長とその行動
～親の言い分、子の言い分…そこにアプローチするには～」
(東京歯科大学 口腔健康科学講座 障害者歯科・口腔顎顔面痛研究室 准教授 大多和由美)
- 学術報告
「私立小学校に対する歯科保健実態調査」
- 研究発表
平成24・25年度 東京都学校歯科保健推進校(園)支援事業
「歯科保健活動から取り組む健康づくり」(台東区立東浅草小学校)
「多角的なアプローチによる歯科保健活動 ～食育を中心に～」
(東京都立赤羽商業高等学校)
- 平成26・27年度 東京都学校歯科保健推進校(園)支援事業
「幼稚園においての学校歯科保健活動の取り組みについて」
(府中市立小柳幼稚園)
- 「自ら「歯と口の健康」を守る意識改革
～生徒参加型の歯科講話と歯みがき習慣を通して～」
(町田市立小山田中学校)
- 平成27年度全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校
- 平成27年度東京都学校歯科保健功労者表彰者
- 平成27年度30年勤続表彰者
- 平成27年度受賞者
- 平成27年度「歯の作文」優秀入賞者
- 平成27年度「歯の作文」優秀作品
- 平成27年度「歯・口に関する図画ポスターコンクール」入賞者

会誌

[80号] 平成29年3月発行



●表紙

大森 海苔のふる
さと館

●主な記事

- グラビア 平成28年度 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール
- 巻頭言「お力添えを」(会長 川本 強)
- 第51回東京都学校歯科保健研究大会 特別講演
「オリンピック・パラリンピックの価値」
(公益財団法人東京都福祉保健財団 理事長
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
元チーフ・コンプライアンス・オフィサー 総務局長 雑賀 真)
- 平成28年度学校保健(学校歯科医)研修会
「こどもの健康に歯・口が重要 –臨床データ・基礎データに基づく–」
(日本大学 名誉教授 前田隆秀)
- 平成28年度ブロック別学校歯科医研修会
「歯と口の外傷 –治療と管理の勘所」
(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
口腔機能再構築学 小児歯科学分野 准教授 宮新美智世)
- 研究発表 平成27・28年度生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり
推進事業
「食べる力は生きる力」食べる機能や食べ方の発達を通じての実践的な歯・口の健康づくり
(東京都立永福学園)
- 平成28年度全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校
- 平成28年度東京都学校歯科保健功労者表彰者
- 平成28年度30年勤続表彰者
- 平成28年度受賞者
- 平成28年度「歯の作文」優秀入賞者
- 平成28年度「歯の作文」優秀作品
- 平成28年度「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」入賞者

●主な記事

- グラビア 平成29年度 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール
- 巻頭言「新しいスタート」(会長 末高英世)
- 第52回東京都学校歯科保健研究大会 特別講演
「縄文人と現代人の咬合はなぜ違うのか？」
(国立科学博物館人類研究部 3万年前の航海徹底再現プロジェクト 代表 海部陽介)
- 平成29年度学校保健(学校歯科医)研修会
「子どもと電子映像メディアの問題 ～スマホ社会の落とし穴～」
(公益財団法人日本小児科医会理事(子どもとメディア委員会担当) 吉村小児科 院長 内海 裕美)
- 研究発表
平成28・29年度東京都学校歯科保健推進校(園)支援事業
「歯・口の健康づくりの日常化を目指す歯科保健活動」
(品川区立城南第二小学校 校長 森嶋尚子)
(養護教諭 小林あづさ)
(学校歯科医 東川輝子)
- 平成28・29年度東京都学校歯科保健推進校(園)支援事業
「知的障害特別支援学校の歯科保健活動について」
～歯みがき指導と摂食指導を中心に～
(東京都立水元特別支援学校 校長 田邊陽一郎)
(主任養護教諭 曾根涼子)
(主任養護教諭 相澤美佳)
(学校歯科医 根岸浩二)
- 平成29年度全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校
- 平成29年度東京都学校歯科保健功労者表彰者
- 平成29年度30年勤続表彰者
- 平成29年度受賞者
- 平成29年度「歯の作文」優秀入賞者
- 平成29年度「歯の作文」優秀作品
- 平成29年度「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」入賞者

●表紙

平成29年度 歯・口の健康啓発標語コンクール 東京都学校歯科医会 会長賞 作品
台東区立桜橋中学校
1年 大島 美月さん
書: 小木 弘子氏

広 報

〈95号〉2009年 6月発行



〈96号〉2009年11月発行



〈97号〉2010年 3月発行



表 紙 ポスター
主な記事 学校保健安全法における学校歯科医の役割 その1
小貫 克
日本スポーツ振興センターへの請求について
小貫 克

表 紙 日本最初の喫茶店発祥の地
主な記事 学校保健安全法における学校歯科医の役割 その2
小貫 克
口腔保健指導後のアンケート調査
ー杉並区学校歯科保健指導 8年目を迎えてー
第44回都学歯大会予告

表 紙 江戸港発祥跡
主な記事 第44回都学歯大会
学校保健安全法における学校歯科医の役割 その3
小貫 克
すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル

〈98号〉2010年6月発行



表紙
主な記事

ポスター
新会長挨拶 川本 強
新役員就任挨拶
平成22年度事業計画・職務分掌
第3回城南七歯会学校歯科
保健担当連絡協議会
杉並区の給食後の歯みがき推進
運動と洗面環境の改善について
こんなことも「学校歯科医
執務記録」になります

〈99号〉2010年11月発行



表紙
主な記事

「たきび」のうた発祥の地
「不正咬合」について矯正
専門医としてお話します
鈴木 博
第3回東京都城北地区学校
歯科医会連絡協議会
都学歯各種委員会
第45回都学歯大会予告

〈100号〉2011年3月発行



表紙
主な記事

東京水道発祥の地
会長メッセージ 川本 強
いつの間にか「広報第100
号」－創刊号から携わって
きて－ 関根正行
歴代編集委員にきく
第45回都学歯大会
矯正専門医としてお話し
す その2 鈴木 博

〈101号〉2011年6月発行



表紙
主な記事

ポスター
インタビュー① 役員人物
探訪 川本 強会長・
鈴木 博専務理事
地区学校歯科医会会長からの
メッセージ 板橋区・練馬区
新役員就任この1年
平成22年度江東七地区学校
歯科医会 役員連絡協議会
こんなことが「学校歯科医
執務記録」になります

〈102号〉2011年11月発行



表紙
主な記事

梶谷浦海苔漁業発祥の地
インタビュー② 役員人物
探訪 由井 孝副会長・
小嶋 憲副会長
地区学校歯科医会会長からの
メッセージ 杉並区・足立区
多摩ブロック学校歯科医連
絡協議会について
第46回都学歯大会予告

〈103号〉2012年3月発行



表紙
主な記事

紙製荷造函創始之地
第46回都学歯大会
インタビュー③ 役員人物
探訪 難波監事・荒木監事
地区学校歯科医会会長からの
メッセージ 麹町・豊島区

〈104号〉2012年6月発行



表紙 ポスター
主な記事 会長挨拶 川本 強
平成24年度 役員職務分掌
矯正専門医としてお話し
す その3 鈴木 博
地区学校歯科医会会長からの
メッセージ 渋谷区・滝野川
学校歯科医執務記録

〈105号〉2012年11月発行



表紙 自動電話交換発祥の地
主な記事 学校歯科医の職務について
五十里一秋
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 世田谷区・調布市
インターネットでの第69回学
童歯みがき大会に参加して
食後の歯みがきのタイミン
グについて
第47回都学歯大会予告

〈106号〉2013年3月発行



表紙 日本銀行創業の地
主な記事 第47回都学歯大会
学校(教育)に関わる用語①
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 港区芝・江東区
各種委員会名簿

〈107号〉2013年6月発行



表紙 ポスター
主な記事 会長挨拶 川本 強
平成25年度 役員職務分掌
新役員就任挨拶
学校(教育)に関わる用語②
最近、気になること その1
ダウン症や自閉症 澤田章司
地区学校歯科医会からの
メッセージ 町田市・向島
こんなことが「学校歯科医
執務記録」になります

〈108号〉2013年11月発行



表紙 地震学発祥記念碑
主な記事 学校(教育)に関わる用語③
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 新宿牛込・八南
最近、気になること その2
前田小学校稲作日誌 澤田章司

〈109号〉2014年3月発行



表紙 都市型保健所発祥の地
主な記事 第48回都学歯大会
最近、気になること その3
食物アレルギー 澤田章司
地区学校歯科医会からの
メッセージ 北・浅草

〈110号〉2014年6月発行



表紙
主な記事

ポスター
味覚とおいしさの科学
～和の味を子供たちに伝える
ために～ 長井博昭
東京都教育庁 歯科保健担
当課長 三ツ木 浩
最近、気になること その4
『いただきます』の大切さ
澤田章司
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 新宿・東大和市
こんなことが「学校歯科医
執務記録」になります
学校歯科医執務記録

〈111号〉2014年11月発行



表紙
主な記事

生コンクリート工場発祥の地
新・島しょ地区支援事業について
の経過報告と事業予定 牧野 寛
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 下谷・東久留米市
最近、気になること その5
小児糖尿病キャンプに参加し
て 澤田章司
歯科衛生士から見た口腔保
健指導の実際 齊藤敦子
第49回都学歯大会予告

〈112号〉2015年3月発行



表紙
主な記事

献血発祥の地
第49回都学歯大会
最近、気になること その6
島しょ地区学校歯科保健支援
事業（大島・八丈島）報告書
澤田章司

〈113号〉2015年6月発行



表紙
主な記事

ポスター
会長挨拶 川本 強
平成27・28年度 役員職務分掌
退任役員・新役員就任挨拶
卒業しました大好きな特別
支援学校を 難波昭一
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 日本橋・府中市
こんなことが「学校歯科医
執務記録」になります

〈114号〉2015年11月発行



表紙
主な記事

川柳発祥の地
インタビュー 役員人物探訪
石川監事・吉田監事
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 葛飾区・文京
(続)卒業しました大好きな
特別支援学校を 難波昭一
最近、気になること その7
学校給食を考える 澤田章司
第50回都学歯大会予告

〈115号〉2016年3月発行



表紙
主な記事

純国産写真フィルム発祥の地
第50回都学歯大会
地区学校歯科医会からのメ
ッセージ 江戸川区

〈116号〉2016年6月発行



表紙
主な記事

ポスター
島しょ地区支援事業について
の経過報告と事業予定
その2 牧野 寛
新役員就任この一年
最近、気になること その8
命のいただき方 澤田章司
地区学校歯科医会からのメ
ッセージ 西多摩・蒲田
こんなことが「学校歯科医
執務記録」になります

〈117号〉2016年11月発行



表紙
主な記事

鉛筆製造発祥の地
第80回日学歯大会
インタビュー 役員人物探訪
末高副会長
最近、気になること その9
子供の貧困6人に1人
澤田章司
第51回都学歯大会予告

〈118号〉2017年3月発行



表紙
主な記事

民営機械製粉業発祥の地
第51回都学歯大会
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 三鷹市・麻布赤坂

〈119号〉2017年6月発行



表紙
主な記事

ポスター
会長挨拶 末高英世
平成29・30年度 役員職務分掌
退任役員・新役員就任挨拶
最近、気になること その10
民生委員・児童委員とは？
澤田章司
地区学校歯科医会からのメ
ッセージ 荒川区・京橋
こんなことが「学校歯科医
執務記録」になります

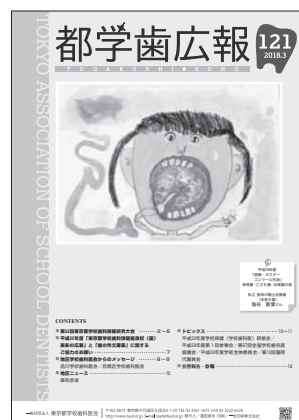
〈120号〉2017年11月発行



表紙
主な記事

ポスター
インタビュー 役員人物探訪
長沼副会長・澤田専務
地区学校歯科医会からの
メッセージ 玉川・本所
第9回学校歯科保健アジア会議
第81回日学歯大会
第52回都学歯大会予告

〈121号〉2018年3月発行



表紙
主な記事

ポスター
第52回都学歯大会
地区学校歯科医会からの
メッセージ 品川・目黒区

〈122号〉2018年6月発行



表紙
主な記事

ポスター
平成29年度島嶼地区歯科保健
支援事業報告 鈴木あい子
公益法人移行への歩み 箭本 治
最近、気になること その11
子供の自転車事故 澤田章司
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 大田区大森・中野区
「ホームベージリニューア
ル」についてのお知らせ
こんなことが「学校歯科医
執務記録」になります

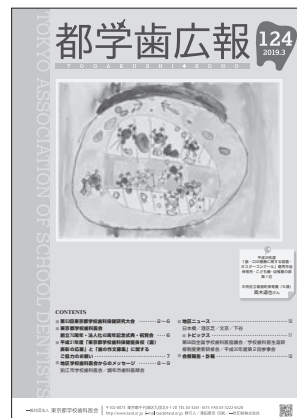
〈123号〉2018年11月発行



表紙
主な記事

ポスター
インタビュー 役員人物探訪
鈴木副会長・坂本監事
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 日野市・東大和市
「口臭」をテーマとした学
術研究について
第69回関東甲信越静学校保
健大会及び歯科職域部会に
参加して
第53回都学歯大会・予告

〈124号〉2019年3月発行



表紙
主な記事

ポスター
第53回都学歯大会
創立70周年・法人化40周年
記念式典・祝賀会
地区学校歯科医会からのメッ
セージ 狛江市・調布市

東京都学校歯科医会ホームページ

<http://www.tasd.or.jp>

東京都学校歯科医会では平成18年1月からホームページを開設しました（図1）。

それから10年の間に会員の皆様からいただいたご意見を生かしてマイナーチェンジを加えております（図2）。

さらに近年ではメディアの技術革新に伴い、ホームページもパソコンよりもタブレットPCやスマートフォンで閲覧する時代となりました。

そのため、より簡便な検索と、画面サイズに捉われない最適な閲覧環境を提供すべくレスポンシブweb対応を行うこととなりました（図3）。

ホームページのトップページを開くと笑顔の子供たちの横顔が出てきます。画面上部右上のリンクボタンをタップしますと、一覧および会員入口が展開されて各ページへ、より簡便にたどり着くことができます。「お知らせ」「学校保健統計/Q&A」「都学歯ライブラリー」「概要」「アクセス」までは一般の方も閲覧が可能ですが、「都学

歯会員」については会員向け内容で、ユーザー名とパスワードを入力しなければ、内容を閲覧することができません。

お知らせ

お知らせには「トピックス」「各種大会案内」「東京都学校歯科保健優良表彰」「歯の作文」「歯・口の健康に関する図画ポスター」「歯・口の健康に関する標語」「功労者関係」をそれぞれ掲載しています。

学校保健統計/Q&A

平成17年度からの学校保健統計を掲載しています。一般向けの学校歯科に関するQ&Aを掲載しています。特にお問い合わせいただく「歯・口の安全／外傷予防と発生時の対応」（東京都学校歯科医会）についてもリンク先を掲載しました。



図1 第一世代トップページ



図2 第二世代トップページ



図3 スマホトップページ

都学歯ライブラリー

出版物では過去の都学歯監修の出版物一覧を掲載しました。有料の書籍についてはご注文も受けたまわっております。FAX 注文書のダウンロードも可能ですのでご利用ください。過去の発行物は随時ダウンロード化を進めています。有償の発行物は残部が少なくなっていますのでご注意ください。

また、無料の出版物についてはPDF形式のファイルに変換して掲載しております。新任で資料のない先生方や歯科講話に利用する場合など、有効に活用していただけます。

広報誌バックナンバーでは第100号から、会誌バックナンバーでは第81号から収載しております。ペーパーレスで広報誌を閲覧できますので、診療時お忙しい合間の時間にも眺めていただきたいと表紙のデザインについても検討してまいりました。

概 要

サブメニューを見ていただくとわかる通り、「会長挨拶」「沿革」「事業概要」「組織」「定款」「事業計画・収支予算・決算報告」「関連団体サイト」が掲載されています。

サブメニューの中の項目をタップすると、それぞれの内容が表示されるようになっています。「関連団体サイト」の中には地区の学校歯科医会名が

掲載されていますし、ホームページをお持ちの学校歯科医会にはリンクをしています。もしホームページをお持ちでリンクの貼られていない地区学校歯科医会がございましたら、事務局までご連絡をいただくようお願いします。また、今後、地区学校歯科医会のホームページを立ち上げられた際には、ご一報いただきますようお願いいたします。

アクセス

グーグルマップの機能を利用した歯科医師会館までの交通機関や所要時間も検索が可能です。ご利用ください。



リニューアルした都学歯のホームページを各担当校の校長、養護教諭に是非ご紹介ください。優良校表彰や歯の作文など、各校の口腔衛生活動の指針の参考や自動・生徒の励みとなり、学校と学校歯科医の円滑な意思の疎通を図る助けにもなると思います。

また、都学歯では一般の方の閲覧もさることながら、会員の皆様の活動に役立つような内容のホームページ作りを心がけています。私たち広報委員会の活動がより多くの皆様の助けとなることを願い、運営してまいりますので、ご意見・ご希望等ございましたら、事務局までご一報ください。

■■■■■■■■■■ 3. 調査・研究・普及活動 ■■■■■■■■■■

○学校歯科保健活動における“気づき” 2011年度（平成23年度）

近ごろ子供たちのむし歯は減ってきたが、一方で、歯周疾患や歯列・咬合の問題、顎関節の問題に関心が高まっている。そこで必要となってきたのが集団への対応のみならず「個」への対応であろう。健康診断の時のみならず、学校歯科保健活動の様々な場面において、学校歯科医がちょっとした“気づき”から子供たち一人一人が抱える問題点を見つけ出して指摘できれば、「個」への対応を考慮した、より効果的な歯科保健教育・管理ができると考えられる。そこで『学校歯科保健活動の場での“気づき”から生まれる「個」への対応』というリーフレットを作成した。



○東京都内における味覚調査と味覚の冊子 2012～2014年度（平成24～26年度）

子供たちの食生活の乱れが指摘され、子供たちの味覚がおかしくなっている可能性が疑われている。特に濃い味に慣れてしまい、和食の特徴である出汁の味がわからなくなっているのではないかという疑問が生じている。そこで、東京都内の幼稚園児・保育園児から高校生まで、味覚に関して調査することになり、アンケートと簡単な味覚の実験を行った。東京都内の全18の園・学校の協力を得て2,918名に行った調査結果について、考察を加えて全国学校歯科保健研究大会等で報告した。

そして、味覚に関する最新の情報を提供するために、また、世界が注目し2013年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された和食の素晴らしさを紹介するために、『味覚とおいしさの科学 ～和の味を子供たちに伝えるために～』を発刊した。さらに、保健指導に使用できる教材としてのCDを作成した。



○東京都内の母子歯科保健活動に関する調査と冊子 2015～2016年度（平成27～28年度）

東京都内の各区市町村では幼稚園が減少し、保育所と認定こども園が増加している。特に待機児童の問題から保育所の増設が急速に進んでいる地区が見受けられる。そこで保育所や認定こども園における歯科保健活動の実態を把握するために、東京都の全区市町村の行政に対して認可保育所・公立幼稚園・認定こども園にしほり、施設数や規模、歯科健康診断等に関する予備調査を行った。そして各施設（2,458ヶ所）に対して歯科保健活動に関するアンケート調査を実施した。

子供たちが乳幼児期から成人に至るまで、学校歯科医が縦の連携を取り、また、各地区において行政・各施設・学校歯科医会等が横に連携しながら歯科保健活動を組織的に展開していく上で参考となるように、先の調査および



各地区での特長ある歯科保健活動をまとめて、冊子『乳幼児から考える学校歯科保健活動 ～0歳から20歳になるまで継続的な口腔保健支援を目指して～』を発刊した。

○学校歯科医が知っておくべき放射線の基礎知識 2016年度（平成28年度）

2011年（平成23年）3月11日の東日本大震災発生から5年間の被災地の歩み、福島第一原発事故による被ばくと歯科用エックス線などの医療被ばく、そして放射線の人体影響などさまざまな視点から推考し作成した。学校関係者は、子供たちへの健康教育の観点からもこの原発事故を決して忘れてはならず、今後も常に現状を注視して、正しい放射線の知識を持ち備えていなければならない。

学校歯科医として知っておくべき放射線線の基礎知識をまとめて作成した。



○東京都内における中学生と高校生を対象とした学校歯科保健調査と口臭に関する冊子 2017～2018年度（平成29～30年度）

小学生を対象とした学校歯科保健調査は数多く行われているが、中学生・高校生を対象とした調査報告は少なく、今後の中学校や高等学校で学校歯科保健活動を効果的に実施していくにあたり、その課題はあまり明らかになっていない。そこで、東京都内の中学生や高校生の実態を把握するために、歯科保健調査を実施し、その結果について分析を行った。区立中学校9校、都立高等学校8校の協力を得て、中学生2,581（男子1,323名、女子1,258名）、高校生3,203名（男子1,844名、女子1,359名）、計5,784名に行った調査結果について、考察を加えて第82回全国学校歯科保健研究大会等で報告した。

調査によって、生徒の生活習慣や口腔保健行動の課題がいくつか提示され、これまで学校歯科保健活動は小学生を対象に「むし菌予防」をテーマに多く行われたが、今後、中学生や高校生を対象とした健康教育や保健指導を充実していく必要性が明らかとなった。調査の中で関心が高かった「口臭」に対して、適切な情報を提供していくことも必要であるということで、「口臭」をテーマとした「においの科学－知っておきたい口臭のABC－」を作成した。



4. ブロック別研修会

東京都学校保健会の委託事業の一つとして、昭和60年から本会事業の主な行事として毎年開催している。その目的は、学校歯科医の研修と地区の学校歯科医会と本会との緊密な連携および情報交換を通して、東京都における学校歯科保健活動の充実と活性化を図ることにあつた。実施にあたっては役員の就任期にテーマを定め、都内6ブロック（中央、江東、城西、城南、城北、多摩）を年間3地区ずつに分けて実施してきた。10年間の実施状況は以下のとおりである。

平成21年度

・演 題 「これからの学校歯科保健活動の展開について」

講 師 東京医科歯科大学大学院 健康推進歯学分野教授 川口 陽子先生

開催日及び会場

平成21年9月17日(木)	麻布区民センター(中央)
平成21年10月22日(木)	タワーホール船堀(江東)
平成21年11月19日(木)	歯科医師会館(城西)

平成22年度・平成23年度

・演 題 「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」

講 師 東京都学校歯科医会 理事

開催日及び会場

平成22年9月9日(木)	蒲田歯科医師会館(城南)	平成23年9月15日(木)	文京シビックセンター(中央)
平成22年10月21日(木)	練馬区歯科医師会館(城北)	平成23年10月13日(木)	すみだ産業会館(江東)
平成22年11月11日(木)	町田市健康福祉会館(多摩)	平成23年11月17日(木)	中野区歯科医師会館(城西)

平成24年度・平成25年度

・演 題 「学校歯科保健活動の場での“気づき”から生まれる「個」への対応」

講 師 東京都学校歯科医会 理事

開催日及び会場

平成24年9月13日(木)	梅丘パークホール(城南)	平成25年9月19日(木)	台東区歯科医師会館(中央)
平成24年10月18日(木)	豊島区歯科医師会館(城北)	平成25年10月10日(木)	曳舟文化センター(城東)
平成24年11月15日(木)	府中グリーンプラザ(多摩)	平成25年11月14日(木)	杉並区歯科医師会館(城西)

平成26年度・平成27年度

・演 題 「味覚とおいしさの科学～和の味を子供たちに伝えるために～」

講 師 東京歯科大学 生理学講座 澁川 義幸

開催日及び会場

平成26年9月18日(木)	玉川歯科医師会館(城南)	平成27年9月10日(木)	台東区生涯学習センター(中央)
平成26年10月9日(木)	滝野川歯科医師会館(城北)	平成27年10月8日(木)	足立区歯科医師会館(城東)
平成26年11月13日(木)	三鷹産業プラザ(多摩)	平成27年11月12日(木)	歯科医師会館(城西)

平成28年度(全6ブロック対象)

- ・演 題 「歯と口の外傷－治療と管理の勘所」
 講 師 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔機能再構築学講座
 小児歯科学分野 准教授 宮新 美智世

開催日及び会場

平成28年7月21日(木)	歯科医師会館(中央、江東、城西、城南、城北、多摩)
平成28年9月8日(木)	立川グランドホテル(中央、江東、城西、城南、城北、多摩)

平成29年度・平成30年度

- ・演 題 「乳幼児から考える学校歯科保健活動」
 ～0歳から20歳になるまで継続的な口腔保健支援を目指して～
 講 師 日本歯科大学附属病院副院長 小児歯科教授 内川 喜盛

開催日及び会場

平成29年9月7日(木)	品川区立総合区民会館(城南)	平成30年9月27日(木)	歯科医師会館(中央)
平成29年10月12日(木)	北とぴあ(城北)	平成30年10月18日(木)	江東区歯科医師会館(城東)
平成29年11月30日(木)	国分寺Lホール(多摩)	平成30年11月22日(木)	歯科医師会館(城西)

■ ■ ■ ■ ■ 5. 学校保健(学校歯科医)研修会 ■ ■ ■ ■ ■

東京都学校保健会は東京都教育委員会の委託を受け、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の三師会に対し、研修とその指導力を高めるため、指導者研修会を各部会ごとに行っている。東京都学校歯科医会はそれを受けて毎年、各地区の学校歯科保健の活動で指導的役割を担っていく会員に対し、東京都学校保健会と共に以下のように研修会を実施してきた。

平成21年度

- 日 時 平成21年12月10日（木）
 会 場 歯科医師会館7階会議室
 ・演 題 「学校歯科医の職務と期待される役割」
 講 師 東京都教育庁地域教育支援部義務教育課歯科保健担当係長 田村 道子
 ・演 題 「すぐに役立つ学校歯科医の活動マニュアル」
 講 師 東京都学校歯科医会理事 中村 卓志、吉澤 雄孝、弘中 玲子

平成22年度

- 日 時 平成22年12月16日（木）
 会 場 日本青年館大ホール
 ・演 題 「学校歯科医の職務について」
 講 師 東京都教育庁地域教育支援部義務教育課歯科保健担当課長 田村 道子
 ・演 題 「学校保健と行動科学」
 講 師 日本口腔衛生学会理事歯学博士 高柳 篤史

平成23年度

- 日 時 平成23年12月8日（木）
 会 場 東京都教職員研修センター
 ・演 題 「学校歯科医の職務」
 講 師 東京都学校歯科医会会長 川本 強
 ・演 題 「食育を理解するための味覚の基礎」
 講 師 東京歯科大学生理学講座講師 澁川 義幸

平成24年度

- 日 時 平成24年7月19日（木）
 会 場 東京都教職員研修センター
 ・演 題 「学校歯科医の職務について」
 講 師 東京都教育庁地域教育支援部歯科保健担当課長 五十里一秋
 ・演 題 「疫学からみた学校歯科保健活動へのヒント」
 講 師 神奈川歯科大学社会歯科学講座歯科医療社会学分野准教授 山本 龍生

平成25年度

- 日 時 平成25年12月5日（木）
会 場 歯科医師会館 1階大会議室
・演 題 「学校歯科医の職務について」
講 師 東京都教育庁 地域教育支援部 歯科保健担当課長 五十里一秋
・演 題 「幼児・学童期に必要な解剖学的知識・味覚の解剖も含めて・・・」
講 師 東京歯科大学解剖学講座教授 阿部 伸一

平成26年度

- 日 時 平成26年12月11日（木）
会 場 歯科医師会館 1階大会議室
・演 題 「学校歯科医の職務について」
講 師 東京都教育庁 地域教育支援部 歯科保健担当課長 三ツ木 浩
・演 題 「児童・生徒へのカスタムメイドマウスガード応用の利点とその必要性」
講 師 東京歯科大学 スポーツ歯学研究室 准教授 武田 友孝

平成27年度

- 日 時 平成27年12月10日（木）
会 場 歯科医師会館 1階大会議室
・演 題 「学校歯科医の職務について」
講 師 東京都教育庁 地域教育支援部 歯科保健担当課長 三ツ木 浩
・演 題 「歯科疾患を有する児童・生徒の特長とその行動
－親の言い分、子の言い分・・・そこにアプローチするには－」
講 師 東京歯科大学口腔健康科学講座障害者歯科・口腔顎顔面痛研究室准教授
大多和由美

平成28年度

- 日 時 平成28年7月21日（木）
会 場 歯科医師会館 1階大会議室
・演 題 「学校歯科医の職務について」
講 師 東京都教育庁地域教育支援部歯科保健担当課長 三ツ木 浩
・演 題 こどもの歯・口の健康の重要性 －臨床データ・基礎データに基づく－
講 師 日本大学 名誉教授 前田 隆秀

平成29年度

- 日 時 平成29年12月21日（木）
会 場 歯科医師会館 1階大会議室
・演 題 「学校歯科医の職務について」
講 師 東京都教育庁地域教育支援部歯科保健担当課長 山田 善裕
・演 題 「スマホ社会の落とし穴 ～子どもの育ちに大切なこと～」
講 師 公益社団法人日本小児科医会理事（子どもとメディア委員会担当）
吉村小児科院長 内海 裕美

平成30年度

日 時 平成30年11月15日（木）
会 場 歯科医師会館 1階大会議室
・演 題 「学校歯科医の職務について」
講 師 東京都教育庁地域教育支援部歯科保健担当課長 山田 善裕
・演 題 「小児期の口腔機能と歯列・咬合の育成」
講 師 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔統合医療学講座小児歯科学分野教授
公益社団法人日本小児歯科学会理事長 木本 茂成

■■■ 6. 東京都学校歯科保健優良校表彰および歯の作文 ■■■

○東京都学校歯科保健優良校表彰

人々が生涯を通じて健康であるためにはバランスのとれた食生活が基本であります。食生活に直接関係する歯・口の健康は、成長発育や心の発達途上にある児童・生徒にとって、最も重要な今日的課題と言わねばなりません。

学校保健における歯・口腔の実態は資料に即応して分析され、科学的に展開すべき歯科保健活動の生きた教材であります。東京都学校歯科医会は、この趣旨に基づいて「東京都よい歯の学校表彰」を計画し、1983年（昭和58年）を第1回とし、現在は「東京都学校歯科保健優良校表彰」として事業を展開しています。

平成21年度

応募総数 655校 受賞校 655校

その中で、全日本学校歯科保健優良校表彰を受賞した学校は以下の通りです。

墨田区立中川小学校	江戸川区立平井第二小学校	江戸川区立小岩小学校
立川市立第七小学校	江東区立第二亀戸中学校	多摩市立多摩中学校
東京都立小金井特別支援学校		

平成22年度

応募総数 686校 受賞校 686校

（全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校）

新宿区立戸塚第三小学校	江東区立第二大島小学校	江東区立辰巳小学校
町田市立南成瀬小学校	私立青梅あけぼの幼稚園	東京都立羽村特別支援学校

平成23年度

応募総数 681校 受賞校 681校

（全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校）

品川区立城南第二小学校	北区立稲田小学校	板橋区立徳丸小学校
足立区立上沼田小学校	東京都立大泉特別支援学校	

平成24年度

応募総数 742校 受賞校 742校

（全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校）

青梅あけぼの幼稚園	新宿区立牛込仲之小学校	板橋区立志村第五小学校
足立区立江北中学校	東京都立墨田特別支援学校	

平成25年度

応募総数 740校

受賞校 740校

(全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校)

豊島区立要小学校

台東区立東浅草小学校

足立区立第一中学校

多摩市立多摩中学校

東京都立赤羽商業高等学校

東京都立八王子東特別支援学校

平成26年度

応募総数 717校

受賞校 717校

(全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校)

江東区立平久幼稚園

台東区立東浅草小学校

台東区立富士小学校

足立区立加賀中学校

東京都立足立東高等学校

東京都立府中けやきの森学園(特別支援学校)

平成27年度

応募総数 729校

受賞校 729校

(全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校)

府中市立小柳幼稚園

港区立御成門小学校

豊島区立千早小学校

荒川区立瑞光小学校

町田市立小山田中学校

東京都立小金井特別支援学校

平成28年度

応募総数 725校

受賞校 725校

(全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校)

台東区立富士小学校

江東区立第二大島小学校

町田市立南成瀬小学校

荒川区立第三中学校

東京都立武蔵野北高等学校

東京都立大泉特別支援学校

平成29年度

応募総数 720校

受賞校 720校

(全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校)

江戸川区立下鎌田小学校

品川区立城南第二小学校

足立区立第十三中学校

東京都立大山高等学校(定時制)

東京都立水元特別支援学校

東京都立南花畑特別支援学校

平成30年度

応募総数 713校

受賞校 713校

(全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校)

府中市立みどり幼稚園

目黒区立緑ヶ丘小学校

豊島区立朝日小学校

豊島区立巢鴨北中学校

東京都立大山高等学校(定時制)

東京都立石神井特別支援学校

○歯の作文

東京都学校歯科医会では子どもたちの歯の健康づくり教育の一環として、小・中学校の児童生徒を対象に、毎年「歯の作文」の募集を行っております。この事業は、昭和36年度歯の衛生週間特別事業として口腔衛生の普及と啓発を目的として始められたものであり、現在まで半世紀近い歴史を有しております。

応募作品を通して家庭での歯・口の健康に対する考え方や、学校における歯科保健活動を垣間見ることができます。熱心に健康づくりに取組まれている保護者、教職員の方々や学校歯科医などの姿が映し出されており、彼らを取り巻く素晴らしい環境があることが歯科保健活動の実践につながっていることを実感しております。

歯に関する作文募集にご協力いただきました関係各位のご尽力に感謝し、以下に10年間の応募状況等を記載します。

平成21年度

応募数

小学校（70校）5年 6年	377点
中学校（23校）	118点
合 計	495点

第一次審査 平成21年9月17日

第二次審査結果

学年 評価	小5	小6	中1	中2	中3
優	0	10	3	2	0
良	4	16	4	3	3
佳	13	27	16	3	1
計	17	53	23	8	4

平成22年度

応募数

小学校（75校）5年 6年	448点
中学校（26校）	100点
合 計	548点

第一次審査 平成22年9月9日

第二次審査結果

学年 評価	小5	小6	中1	中2	中3
優	3	7	1	2	2
良	6	14	4	3	3
佳	12	28	9	4	7
計	21	49	14	9	12

平成23年度

応募数

小学校（90校）5年 6年	484点
中学校（26校）	149点
合 計	633点

第一次審査 平成23年9月15日

第二次審査結果

学年 評価	小5	小6	中1	中2	中3
優	3	7	3	1	1
良	5	15	2	1	7
佳	12	28	6	4	10
計	20	50	11	6	18

平成24年度

応募数

小学校（84校）5年 6年	409点
中学校（32校）	196点
合 計	605点

第一次審査 平成24年9月13日

第二次審査結果

学年 評価	小5	小6	中1	中2	中3
優	2	8	2	3	0
良	3	17	1	2	7
佳	11	29	10	5	5
計	16	54	13	10	12

平成25年度

応募数

小学校（84校）5年 6年	404点
中学校（30校）	226点
合 計	630点

第一次審査 平成25年9月19日

第二次審査結果

学年 評価	小5	小6	中1	中2	中3
優	1	9	1	4	0
良	5	15	5	3	2
佳	9	31	5	10	5
計	15	55	11	17	7

平成26年度

応募数

小学校（81校）5年 6年	418点
中学校（36校）	234点
合 計	652点

第一次審査 平成26年9月18日

第二次審査結果

学年 評価	小5	小6	中1	中2	中3
優	4	6	2	1	2
良	9	11	3	2	5
佳	12	28	9	7	4
計	25	45	14	10	11

平成27年度

応募数

小学校（77校）5年 6年	388点
中学校（33校）	185点
合 計	573点

第一次審査 平成27年9月10日

第二次審査結果

学年 評価	小5	小6	中1	中2	中3
優	1	9	0	4	1
良	7	13	1	4	5
佳	13	27	7	5	8
計	21	49	8	13	14

平成28年度

応募数

小学校（69校）5年 6年	339点
中学校（29校）	156点
合 計	495点

第一次審査 平成28年9月8日

第二次審査結果

学年 評価	小5	小6	中1	中2	中3
優	4	6	1	2	2
良	7	13	3	5	2
佳	15	25	8	8	4
計	26	44	12	15	8

平成29年度

応募数

小学校（64校）5年 6年	307点
中学校（31校）	178点
合 計	485点

第一次審査 平成29年9月7日

第二次審査結果

学年 評価	小5	小6	中1	中2	中3
優	3	7	1	1	3
良	9	11	4	5	1
佳	15	25	7	9	4
計	27	43	12	15	8

平成30年度

応募数

小学校（66校）5年 6年	290点
中学校（32校）	171点
合 計	461点

第一次審査 平成30年9月6日

第二次審査結果

学年 評価	小5	小6	中1	中2	中3
優	2	8	1	1	3
良	4	16	2	3	5
佳	13	27	4	7	9
計	19	51	7	11	17

4

全国大会



■ ■ 1. 関東甲信越静学校保健大会・歯科職域部会 ■ ■

本大会は、幼児・児童生徒の心身の健全な発達と健康・安全の確保を図るため、学校保健が当面する課題について研究協議を行い、その具体的な方策を明らかにすると共に、学校保健・安全の充実と発展に資することを趣旨として毎年開催されている。なお、本大会に併設して歯科職域部会が行われた。

平成21年度 第60回関東甲信越静学校保健大会

1. 主 題 「生涯を通じ、豊かな心をもち、心身ともに健やかな子どもの育成」
2. 主 催 新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、新潟県学校保健会、(財)日本学校保健会
後 援 文部科学省、他関連団体
3. 開 催 日 平成21年 8 月20日 (木)
4. 会 場 新潟県民会館、新潟市民芸術文化会館

第60回歯科職域部会

1. 日 時 平成21年 8 月20日 (木) 16 : 30
2. 会 場 チサンホテル&コンファレンスセンター新潟
3. 主 催 新潟県歯科医師会
講 演 「噛むことはひとがすき」
～新潟市立二田小学校における学校歯科保健の取組み～
- 講 師 新潟市立二田小学校歯科校医 犬井 正
長岡市立大川津小学校養護教諭 小黒 真子
村上市立村上第一中学校栄養職員 神田 美保

平成22年度 第61回関東甲信越静学校保健大会

1. 主 題 「思考力・判断力・表現力を高める健康教育を目指して」
2. 主 催 茨城県教育委員会、水戸市教育委員会、茨城県学校保健会、(財)日本学校保健会
後 援 文部科学省、他関連団体
3. 開 催 日 平成22年 8 月19日 (木)
4. 会 場 茨城県立県民文化センター

第61回歯科職域部会

1. 日 時 平成22年 8 月19日 (木) 16 : 30
2. 会 場 ホテルテラス・ザ・ガーデン水戸
3. 主 催 茨城県歯科医師会
講 演 「『食』をキーワードとしたヘルスプロモーションの展開」
～食のユニバーサルデザインから健康づくりを考える～
- 講 師 茨城県歯科医師会東西茨城支部 塙 章一

平成23年度 第62回関東甲信越静学校保健大会

1. 主 題 「心ふれあうしなやかな子どもの育成を目指した健康教育」
2. 主 催 神奈川県学校保健連合会、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、(財)日本学校保健会
- 後 援 文部科学省、他関連団体
3. 開 催 日 平成23年8月18日(木)
4. 会 場 神奈川県立青少年センターホール

第62回歯科職域部会

1. 日 時 平成23年8月18日(木) 16:30
2. 会 場 パンパシフィック横浜ベイホテル東急
3. 主 催 神奈川県県歯科医師会
- 講 演 「SAS(無呼吸症候群)」
- 講 師 東京医科歯科大学咬合機能矯正学分野教授 小野 卓史

平成24年度 第63回関東甲信越静学校保健大会

1. 主 題 「生きる力を育て 絆を深める健康教育を目指して」
2. 主 催 埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、埼玉県学校保健会、(公財)日本学校保健会
- 後 援 文部科学省、他関連団体
3. 開 催 日 平成24年8月2日(木)
4. 会 場 大宮ソニックシティ

第63回歯科職域部会

1. 日 時 平成24年8月2日(木) 16:30
2. 会 場 パレスホテル大宮
3. 主 催 埼玉県歯科医師会
- 講 演 「摂食嚥下を理解するための解剖学」
- 講 師 東京歯科大学学長(東京歯科大学解剖学講座教授)井出 吉信

平成25年度 第64回関東甲信越静学校保健大会

1. 主 題 「心と体をはぐくみ、未来をひらく健康教育」
2. 主 催 東京都教育委員会、(一財)東京都学校保健会、(公財)日本学校保健会
- 後 援 文部科学省、他関連団体
3. 開 催 日 平成25年8月1日(木)
4. 会 場 ハイアットリージェンシー東京

第64回歯科職域部会

1. 日 時 平成25年8月1日(木) 16:10
2. 会 場 ハイアットリージェンシー東京
3. 主 催 東京都学校歯科医会
- 講 演 「東京都児童・生徒の大規模味覚感受性調査から見えること」
- 講 師 東京歯科大学 口腔科学研究センター・生理学講座 講師 澁川 義幸

平成26年度 第65回関東甲信越静学校保健大会

1. 主 題 「『生きる力』をはぐくむ健康教育を目指して」
2. 主 催 千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県学校保健会、(公財)日本学校保健会
後 援 文部科学省、他関連団体
3. 開 催 日 平成26年8月21日(木)
4. 会 場 幕張メッセ 国際会議場

第65回歯科職域部会

1. 日 時 平成26年8月21日(木) 16:10
2. 会 場 ホテルニューオータニ幕張
3. 主 催 一般社団法人千葉県歯科医師会
- 講 演 I 「幼児・学童期における機能解剖学的基础知識
－咀嚼・嚥下機能、味覚の獲得－」
講 師 東京歯科大学解剖学講座主任教授 阿部 伸一
- 講 演 II 「子どもの口腔機能の発達とその支援
－食べ方を育て、心身の健康を支援する－」
講 師 昭和大学歯学部小児育成歯科学教室主任教授 井上美津子

平成27年度 第66回関東甲信越静学校保健大会

1. 主 題 健やかで たくましい心と体の育成を目指して
2. 主 催 静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、静岡県県学校保健会、(公財)日本学校保健会
後 援 文部科学省、他関連団体
3. 開 催 日 平成27年8月27日(木)
4. 会 場 静岡コンベンションアーツセンター

第66回歯科職域部会

1. 日 時 平成27年8月27日(木) 16:10
2. 会 場 ホテルセンチュリー静岡
3. 主 催 一般社団法人 静岡県歯科医師会
- 講 演 I 「学校歯科医の立場から食育を考える」
講 師 国立モンゴル医科大学歯学部客員教授 岡崎 好秀
- 講 演 II 「食育と口腔機能健全育成に関するモデル事業について
～歯と口の健康づくりは食習慣と生活習慣から～」
講 師 沼津市立長井崎中学校 学校歯科医 桑原 聡
沼津市立大平中学校(元沼津市立長井崎中学校)養護教諭 山田 忍

平成28年度 第67回関東甲信越静学校保健大会

1. 主 題 「豊かな心と健やかな体を育む教育の充実を目指して」
2. 主 催 栃木県教育委員会、栃木県連合学校保健会、宇都宮市教育委員会、
（公財）日本学校保健会
後 援 文部科学省、他関連団体
3. 開 催 日 平成28年 8月25日（木）
4. 会 場 栃木県総合文化センター

第67回歯科職域部会

1. 日 時 平成28年 8月25日（木） 16：10
2. 会 場 宇都宮東武ホテルグランデ
3. 主 催 一般社団法人栃木県歯科医師会
講 演 「学校歯科保健が担うこれからの食育」
講 師 昭和大学名誉教授・ムカイ口腔機能研究所所長 向井 美恵

平成29年度 第68回関東甲信越静学校保健大会

1. 主 題 「生きる力」を育てる健康教育の充実を目指して
2. 主 催 山梨県教育委員会、山梨県学校保健会、甲府市教育委員会、（公財）日本学校保健会
後 援 文部科学省、他関連団体
3. 開 催 日 平成29年 8月10日（木）
4. 会 場 コラニー文化ホール

第68回歯科職域部会

1. 日 時 平成29年 8月10日（木） 16：15
2. 会 場 ベルクラシック甲府 3F「エリザベート」
3. 主 催 一般社団法人山梨県歯科医師会
講 演 「高齢者の口腔機能低下の評価とその対応」
講 師 「東京歯科大学老年歯科補綴学補綴学講座准教授 上田貴之

平成30年度 第69回関東甲信越静学校保健大会

1. 主 題 未来を創造し、たくましく生きる力をはぐくむ健康教育を目指して
2. 主 催 群馬県教育委員会、群馬県学校保健会、高崎市教育委員会、（公財）日本学校保健会
後 援 文部科学省、他関連団体
3. 開 催 日 平成30年 8月23日（木）
4. 会 場 群馬音楽センター

第69回歯科職域部会

1. 日 時 平成30年 8月23日（木） 15：30
2. 会 場 ホテル グランビュー高崎
3. 主 催 一般社団法人群馬県歯科医師会、群馬県学校歯科医会
1）代表者協議
2）全体協議
協議題「各団体の会員入会率の向上について」
協議題「歯科の就学時健康診断における「う蝕多発傾向者」の判定について」
3）懇親会

■ ■ ■ 2. 全国学校保健研究大会・全国学校歯科医協議会 ■ ■ ■

平成21年度 第59回全国学校保健研究大会

1. 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進
－自ら健やかな心と体をはぐくむ子どもの育成－
2. 主 催 文部科学省、広島県教育委員会、広島市教育委員会、日本学校保健会、
広島県学校保健会
3. 開 催 日 平成21年11月10日（火）～11日（水）：広島市

第59回全国学校歯科医協議会

1. 主 催 広島県歯科医師会
2. 後 援 日本学校歯科医会、広島県教育委員会、広島市教育委員会
3. 開 催 日 平成21年11月10日（火）16：30
4. 記念講演 「学校歯科保健の現状と将来」
講師：日本学校歯科医会会長 中田 郁平 先生

平成22年度 第60回全国学校保健研究大会

1. 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進
－健康的な生活習慣や安全のための行動を実践できる子どもの育成－
2. 主 催 文部科学省、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、日本学校保健会、
群馬県学校保健会
3. 開 催 日 平成22年11月18日（木）～19日（金）：前橋市

第60回全国学校歯科医協議会

1. 主 催 群馬県学校歯科医会、日本学校歯科医会
2. 後 援 群馬県教育委員会、群馬県学校保健会
3. 開 催 日 平成21年11月18日（木）16：30

平成23年度 第61回全国学校保健研究大会

1. 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進
－自ら健やかな心と体をはぐくむ子どもの育成－
2. 主 催 文部科学省、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、日本学校保健会、
静岡県学校保健会
3. 開 催 日 平成23年10月27日（木）～28日（金）：静岡市

第61回全国学校歯科医協議会

1. 主 催 静岡県学校歯科医会、日本学校歯科医会
2. 後 援 静岡県教育委員会、静岡県学校保健会、静岡市教育委員会
3. 開 催 日 平成23年10月27日（木）16：30
さいたま市立宮原小学校栄養主査 若林 美子 先生
沼津市立ときわ保育所歯科医師、日学歯・静岡県歯会理事
竹内 純子 先生

平成24年度 第62回全国学校保健研究大会

1. 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進
－ 健康的かつ安全な生活を送るため主体的に行動できる子どもの育成－
2. 主 催 文部科学省、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、日本学校保健会、
熊本県学校保健会
3. 開 催 日 平成24年11月8日（木）～9日（金）：熊本市

第62回全国学校歯科医協議会

1. 主 催 熊本県学校歯科医会、日本学校歯科医会
2. 後 援 熊本県教育委員会、熊本県学校保健会、熊本市教育委員会
3. 開 催 日 平成24年11月8日（木）16：30

平成25年度 第63回全国学校保健研究大会

1. 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
－ 健やかな心と体をつくり、健康・安全な生活を送るために
主体的に行動できる子どもの育成－
2. 主 催 文部科学省、秋田県教育委員会、秋田市教育委員会、日本学校保健会、
秋田県学校保健連合会
3. 開 催 日 平成25年11月7日（木）～8日（金）：秋田市

第63回全国学校歯科医協議会

1. 主 催 秋田県学校歯科医会、日本学校歯科医会
2. 後 援 秋田県教育委員会、秋田県学校保健会、秋田市教育委員会
3. 開 催 日 平成25年11月7日（木）16：30

平成26年度 第64回全国学校保健研究大会

1. 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
－ 健康で安全な生活を送る子供たちの育成－
2. 主 催 文部科学省、石川県教育委員会、金沢市教育委員会、日本学校保健会、
石川県学校保健会
3. 開 催 日 平成26年11月6日（木）～7日（金）：金沢市

第64回全国学校歯科医協議会

1. 主 催 石川県学校歯科医会、日本学校歯科医会
2. 後 援 石川県教育委員会、石川県学校保健会、金沢市教育委員会
3. 開 催 日 平成26年11月6日（木）16：30

平成27年度 平成27年度全国学校保健・安全研究大会

1. 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
－健康で安全な生活を送るために自ら実践できる子供の育成－
2. 主 催 文部科学省、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、
公益財団法人日本学校保健会、愛媛県学校保健会
3. 開 催 日 平成27年12月3（木）～4日（金）：松山市

全国学校歯科医協議会

1. 主 催 愛媛県学校歯科医会、日本学校歯科医会
2. 後 援 愛媛県教育委員会、愛媛県学校保健会、松山市教育委員会
3. 開 催 日 平成27年12月3日（木）17：00

平成28年度 平成28年度全国学校保健・安全研究大会

1. 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
－生涯にわたり、自ら心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成－
2. 主 催 文部科学省、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、公益財団法人日本学校保健会、
北海道学校保健会
3. 開 催 日 平成28年10月27（木）～28日（金）：北海道札幌市

全国学校歯科医協議会

1. 主 催 北海道歯科医師会、日本学校歯科医会
2. 後 援 北海道教育委員会、北海道学校保健会、札幌市教育委員会、札幌歯科医師会
3. 開 催 日 平成28年10月27日（木）16：00

平成29年度 平成29年度全国学校保健・安全研究大会

1. 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
－自ら心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成－
2. 主 催 文部科学省、三重県教育委員会、津市教育委員会、公益財団法人日本学校保健会、
三重県学校保健会
3. 開 催 日 平成29年11月16（木）～17日（金）：三重県津市

全国学校歯科医協議会

1. 主 催 三重県歯科医師会、日本学校歯科医会
2. 後 援 三重県教育委員会、三重県学校保健会、津市教育委員会
3. 開 催 日 平成29年11月16日（木）15：30

平成30年度 平成30年度全国学校保健・安全研究大会

1. 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
－自ら健康で安全な活力ある生活を送ることができる子供の育成－
2. 主 催 文部科学省、鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、
公益財団法人日本学校保健会、鹿児島県学校保健会
3. 開 催 日 平成30年10月25（木）～26日（金）：鹿児島県鹿児島市

全国学校歯科医協議会

1. 主 催 鹿児島県歯科医師会、日本学校歯科医会
2. 後 援 鹿児島県教育委員会、鹿児島県学校保健会、鹿児島市教育委員
3. 開 催 日 平成30年10月25日（木）16：00

■■■■■■■ 3. 全国学校歯科保健研究大会・ ■■■■■■■■ 全国学校歯科保健研究協議会

毎年各地で開催される本大会において「21世紀の学校歯科保健」、「変革に向けての学校歯科保健の飛躍」及び「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」等の学校歯科保健に関するテーマについて、数年にわたって研究協議を行い学校歯科保健の発展に側面から協力している。なお、大会第2日目には「学校歯科保健研究協議会」を併せて開催している。

平成21年度 (第73回)

1. 主 題 歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して
－「はぐくむ」を考える…子どもたちへの支援的教育活動の確立に向けて－
2. 主 催 文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、京都府歯科医師会、
京都府・京都市・京都府教育委員会・京都府教育委員会
後援団体 厚生労働省・日本歯科医師会、他開催地関連諸団体
3. 開 催 日 平成21年10月29日（木）～30日（金）：京都府

<学校歯科保健研究協議会>

期 日 平成21年10月30日（金）
会 場 ウエスティン都ホテル京都

平成22年度 (第74回)

1. 主 題 歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して
－「生きる力」を考える…学校・家庭・地域社会の連携の在り方－
2. 主 催 文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、茨城県歯科医師会、茨城県、
茨城県教育委員会
後援団体 厚生労働省・日本歯科医師会、他開催地関連諸団体
3. 開 催 日 平成22年10月28日（木）～29日（金）：茨城県

<学校歯科保健研究協議会>

期 日 平成22年10月29日（金）
会 場 つくば国際会議場

平成23年度 (第75回)

1. 主 題 「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
－自らわかる！自らできる！健康行動への道しるべ－
2. 主 催 文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、愛媛県歯科医師会、愛媛県、愛媛
県教育委員会
後援団体 厚生労働省・日本歯科医師会、他開催地関連諸団体
3. 開 催 日 平成23年10月20日（木）～21日（金）：愛媛県

<学校歯科保健研究協議会>

期 日 平成23年10月21日（金）
会 場 ひめぎんホール（愛媛県県民文化会館）

平成24年度 (第76回)

1. 主 題 「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
－子どもたちの未来を築く望ましい生活習慣の形成を見据えて－
2. 主 催 文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、群馬県歯科医師会、
群馬県学校歯科医会、群馬県、群馬県教育委員会、高崎市、高崎市教育委員会
後援団体 厚生労働省・日本歯科医師会、他開催地関連諸団体
3. 開 催 日 平成24年10月25日（木）～26日（金）：群馬県

<学校歯科保健研究協議会>

期 日 平成24年10月26日（金）
会 場 群馬音楽センター

平成25年度 (第77回)

1. 主 題 「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
－学校歯科保健で取り組む食育と口腔機能の健全な発達支援を考える－
2. 主 催 文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、熊本県、熊本県教育委員会、
熊本県歯科医師会、熊本市、熊本市教育委員会
後援団体 厚生労働省・日本歯科医師会、他開催地関連諸団体
3. 開 催 日 平成25年10月17日（木）～18日（金）：熊本県

<学校歯科保健研究協議会>

期 日 平成25年10月18日（金）
会 場 熊本市国際交通会館

平成26年度 (第78回)

1. 主 題 「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
－学校歯科保健を通して学校・家庭・地域が取り組む健康な心と体の育成－
2. 主 催 文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、島根県、島根県教育委員会、
島根県歯科医師会、松江市、松江市教育委員会
後援団体 厚生労働省・日本歯科医師会、他開催地関連諸団体
3. 開 催 日 平成26年10月23日（木）～24日（金）：島根県

<学校歯科保健研究協議会>

期 日 平成26年10月24日（金）
会 場 島根県民会館

平成27年度 (第79回)

1. 主 題 「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
－学校歯科保健を通して学校・家庭・地域が取り組む健康な心と体の育成－
2. 主 催 文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、長野県、長野県教育委員会、
長野県歯科医師会、長野市、長野市教育委員会
後援団体 厚生労働省・日本歯科医師会、他開催地関連諸団体
3. 開 催 日 平成27年10月29日（木）～30日（金）：長野県

<学校歯科保健研究協議会>

期 日 平成27年10月30日（金）
会 場 ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）
ホテルメトロポリタン長野

平成28年度 (第80回)

1. 主 題 「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
－明るい笑顔で未来をつくる学校歯科保健活動－
2. 主 催 文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、東京都教育委員会、
東京都学校歯科医会
後援団体 厚生労働省・日本歯科医師会、他開催地関連諸団体
3. 開 催 日 平成28年11月16日（水）～17日（木）：東京都文京区

<学校歯科保健研究協議会>

期 日 平成28年11月16日（水）
会 場 文京シビックホール
ホテルニューオータニ

平成29年度 (第81回)

1. 主 題 「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
－学校歯科保健からはじまる8020健康社会－
2. 主 催 文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、青森県歯科医師会、青森県、
青森県教育委員会、青森市、青森市教育委員会
後援団体 厚生労働省・日本歯科医師会、他開催地関連諸団体
3. 開 催 日 平成29年10月26日（木）～27日（金）：青森県青森市

<学校歯科保健研究協議会>

期 日 平成29年10月27日（金）
会 場 リンクステーションホール青森
ホテル青森

平成30年度 (第82回)

1. 主 題 「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
－学校歯科保健活動のもつ教育力を考える－
2. 主 催 文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、沖縄県歯科医師会、沖縄県、
沖縄県教育委員会、宜野湾市、宜野湾市教育委員会
後援団体 厚生労働省・日本歯科医師会、他開催地関連諸団体
3. 開 催 日 平成30年12月6日（木）～7日（金）
沖縄コンベンションセンター

<学校歯科保健研究協議会>

- 期 日 平成30年12月7日（金）
会 場 沖縄コンベンションセンター
沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ

■ ■ ■ ■ 4. 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり ■ ■ ■ ■ 推進事業実施校

文部省（文部科学省）は昭和53年度より「むし歯予防推進指定校事業」を設け、都道府県教育委員会が推薦する学校を推進校に指定し、児童の心身の健康づくりに資する目的でむし歯及び歯肉炎予防について家庭と地域社会の連携の在り方、保健指導の方法及びその成果等の調査研究事業を行ってきました。

この事業の名称は、平成9年度から「歯・口の健康づくり推進指定校事業」と改められ、平成17年度からは「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究事業」として行われてきましたが、平成19年度に日本学校歯科医会に事業が移管され、平成23年度からは「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」として現在に至っています。

東京都学校歯科医会は、当初から東京都教育委員会と共に事業に協力し、その成果をあげています。

○「歯・口の健康づくり推進指定校」（平成11・12年度）

・ 狛江市立狛江第八小学校

学 校 長	宮 澤 義 一	養 護 教 諭	原 口 静 子
研 究 主 任	富 田 逸 夫	学校歯科医	長谷川 泰
研究副主任	谷田部 晴 男		

【研究発表】

「豊かな人間性をもち、健やかに21世紀を生きる子どもの育成」

－歯と口の健康づくりを緒にして－

・ 葛飾区立清和小学校

学 校 長	向 山 行 雄	学校歯科医	武 井 秀 光
養 護 教 諭	富 永 洋 子		

【研究発表】

「自ら進んで健康づくりに励む子」

－歯と口の健康づくりの日常化を目指して－

○「歯・口の健康づくり推進指定校」（平成13・14年度）

・ 江東区立南陽小学校

学 校 長	富 田 鎮 雄	学校歯科医	薄 井 要 治
養 護 教 諭	戸 田 良 江		

【研究発表】

「健康づくりに進んで取り組む児童の育成」

－歯・口の健康づくりを通して－

・ 日野市立平山台小学校

学 校 長	五十嵐 公 宣	養 護 教 諭	丸 山 幸 江
研 究 主 任	植 松 久美子	学校歯科医	染 谷 綾 子

【研究発表】

「追求し 学び合い 実践できる児童の育成」

－歯・口の健康づくりを通して－

○「歯・口の健康づくり推進指定校」(平成15・16年度)

・大田区立池上第二小学校

学 校 長	佐 野 光 昭	養 護 教 諭	小 澤 理 恵
研 究 主 任	坂 木 啓 一	学 校 歯 科 医	五十嵐 靖 武
養 護 教 諭	宮 越 由 美		

【研究発表】

「自らの健康に関心をもち、進んで実践する子どもの育成」

－歯と口から広がる健康づくり－

・足立区立西保木間小学校

学 校 長	木 下 功 子	養 護 教 諭	佐 藤 諒 子
研 究 主 任	時 枝 智 美	学 校 歯 科 医	黒 子 光 雄

【研究発表】

「すこやかな心と体づくりに取り組む子の育成」

－歯・口の健康づくりを通して－

○「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究事業実施校」(平成17・18年度)

・都立足立東高等学校

学 校 長	星 野 喜代美	養 護 教 諭	井 出 知 子
研 究 主 任	西川路 由紀子	学 校 歯 科 医	上 田 豊

【研究発表】

「自ら生活習慣を見直し健康な生活習慣を実践できる生徒の育成」

－歯肉炎予防の保健教育を通して－

○「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究事業実施校」(平成19・20年度)

・中野区立第五中学校

学 校 長	嶋 治 行	学 校 歯 科 医	大 竹 徹
養 護 教 諭	神 棒 砂知子		

【研究発表】

「生徒自ら取り組んだ HEALTH PROGRES」

－歯肉炎予防の保健教育を通して－

○「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究事業実施校」(平成21・22年度)

・府中市立小柳幼稚園

主 任	新 井 尚 子	主 任 教 諭	渡 辺 玲 子
園 歯 科 医	石 井 修		
府中市教育委員会	副参事・学務保健課長	田 中 陽 子	
府中市教育委員会	学務保健課学務係長	市 川 直 次	
府中市教育委員会	学務保健課学務係	松 山 範 子	

【研究発表】

「よく噛み よく食べ 元気な園児の育成」

○「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業実施校」

～望ましい生活習慣の形成を目指して～

(平成23・24年度)

・文京区立第六中学校

学 校 長 美谷島 正義

学校歯科医 近 藤 寿 哉

主 任 新 井 尚 子

【研究発表】

「生徒が自主的に考え実践する歯と口の健康づくりの推進」

－むし歯予防を通しての生活習慣病の自主的な改善－

○「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業実施校」(平成25年・26年度)

・東京都立志村学園

学 校 長 堀 内 省 剛

副 校 長 花 田 妙 子

主任養護教諭 赤 池 杏 奈

学校歯科医 昭和大学歯学部名誉教授 向 井 美 恵

【研究発表】

高等部就業技術科における歯と口の健康づくり推進事業

歯と口の健康を通じた QOL の向上を目指して

～SGD (Small Group Discussion) の取り組み～

○「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業実施校」(平成27年・28年)

・東京都立永福学園

学 校 長(統括校長) 朝 日 滋 也

副 校 長 中 村 典 男

副 校 長 阿 部 智 子

主 任 教 諭 勝 村 千 枝

主任養護教諭 正 木 里 佳

学校歯科医 原 田 晴 海

【研究発表】

「食べる力は 生きる力」

食べる機能や食べ方の発達を通じての実践的な歯・口の健康づくり

○「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業実施校」(平成29年・30年)

・台東区立東浅草小学校

学 校 長 伊 東 梯 夫

養 護 教 諭 菊 池 えり子

学校歯科医 久 保 和 彦

【研究発表】

「望ましい生活習慣の形成を目指す歯・口に健康づくりと歯・口の外傷の防止」

5

表彰受賞者



学校保健功労者

平成21年度

(旭日双光章 (春))

小幡哲夫 (清瀬)

(文部科学大臣表彰)

高木洋子 (足立)

藤本佳正 (世田谷)

(厚生労働大臣表彰)

国光隆史 (麹町)

池田恒彦 (八王子)

(東京都功労者表彰 (都知事表彰))

鈴木富雄 (下谷)

塚本亨 (葛飾)

箕浦芳美 (滝野川)

酒井孝文 (立川)

小川学 (杉並)

渡邊儀一郎 (東村山)

(東京都教育委員会表彰)

村岡清孝 (日本橋)

木村充 (港区芝)

河野正勝 (文京)

坂本清也 (下谷)

村田英世 (浅草)

林重輝 (向島)

土手秀三 (足立)

青木満 (城東)

白井潔 (葛飾)

長谷部方彦 (江戸川)

矢作真大 (江戸川)

寺岡康利 (荏原)

風間詔一 (大森)

岩田祐幸 (蒲田)

齋藤正之 (玉川)

有泉俊朗 (豊島)

岡野裕之 (豊島)

中村卓志 (北)

高山忠彦 (北)

村松重徳 (板橋)

小池一道 (練馬)

小山貞夫 (練馬)

木幡篤 (府中)

真山孝 (昭島)

島田陽一郎 (狛江)

平成22年度

(旭日双光章 (秋))

倉田幸男 (板橋)

(文部科学大臣表彰)

川本強 (葛飾)

佐藤貞彦 (練馬)

(厚生労働大臣表彰)

渡邊洋夫 (深川)

根岸哲夫 (葛飾)

田中秀夫 (世田谷)

(東京都功労者表彰 (都知事表彰))

内藤征男 (京橋)

醍醐毅 (足立)

河谷興隆 (深川)

丸山進一郎 (品川)

河村秀生 (世田谷)

(東京都教育委員会表彰)

鈴木則雄 (文京)

坪井秀介 (足立)

薄井要治 (深川)

高橋文夫 (葛飾)

根岸哲夫 (葛飾)

小野寺昭三 (江戸川)

児玉剛之 (江戸川)

斉藤一人 (品川)

永井宏文 (大森)

村田正夫 (大森)

高岡彰 (蒲田)

立川泰生 (豊島)

花香政人 (豊島)

奥寺元 (北)

大橋勝広 (板橋)

杉田廣 (練馬)

永田英美 (立川)

佐々木稔郎 (昭島)

真山優子 (昭島)

南清美 (調布)

平成23年度

(旭日双光章 (秋))

松浦康文 (狛江)

(文部科学大臣表彰)

山本道也 (下谷)

難波昭一 (向島)

荒木良子 (足立)

山田英夫 (城東)

川島一伸 (葛飾)

福田徳治 (葛飾)

増田清治 (葛飾)

小菅良章 (江戸川)

田中淳一 (江戸川)

村上元一 (杉並)

由井孝 (品川)

大岡紀一郎 (荏原)

大曾根正史 (世田谷)

高橋利武 (北)

小嶋憲 (板橋)

中田郁平 (練馬)

森山憲一 (練馬)

渡邊享 (練馬)

市川泰右 (練馬)

吉野英文 (西多摩)

赤田留吉 (町田)

(厚生労働大臣表彰)

高野直久 (足立)

浮地文夫 (八王子)

(東京都功労者表彰 (都知事表彰))

平瀬明夫 (葛飾)

金子初枝 (荒川)

澁谷國男 (板橋)

(東京都教育委員会表彰)

山本康一 (日本橋)

氏家賢明 (麻布赤坂)

前島伸一郎 (文京)

石山文子 (浅草)

難波凉二 (向島)

山崎喜之 (城東)

榎谷憲敬 (城東)

塚本亨 (葛飾)

児玉信之 (江戸川)

吉田好輝 (江戸川)

齋藤祐一 (江戸川)

関保仁 (荏原)

山口清邦 (蒲田)

西尾一男 (蒲田)

田中教順 (世田谷)

小倉好美 (玉川)

中川紀子 (北)

山岸克彦 (荒川)

山口英也 (板橋)

咲間義輝 (町田)

佐藤吉夫 (府中)

唐見和男 (東村山)

寺村豊通 (昭島)

関三樹夫 (昭島)

岡本莞爾 (調布)

平成24年度

(旭日双光章(秋))

武井宏之(本所)

(文部科学大臣表彰)

小林俊春(江東)

小川学(杉並)

(厚生労働大臣表彰)

内藤征男(京橋)

渡邊儀一郎(東村山)

(東京都功労者表彰(都知事表彰))

橘樹俊英(浅草)

山崎一男(葛飾)

佐々木康(荏原)

寺田誠(豊島)

宮内均(町田)

鈴木普久(東久留米)

(東京都教育委員会表彰)

古畑升(麻布赤坂)

鈴木康夫(文京)

小林てい子(浅草)

永倉貴子(向島)

河口博和(江東)

小泉信隆(江東)

松野修次(渋谷)

稲葉惣一(品川)

東川輝子(品川)

梅本祐司(大森)

寺野治彦(蒲田)

湯浅庸子(世田谷)

二木肇(豊島)

長沼善美(北)

三上晃一(板橋)

中野潤三郎(府中)

折笠広樹(東村山)

中北三代子(調布)

平成25年度

(旭日双光章(春))

北村晴彦(東久留米)

由井孝(品川)

(旭日双光章(秋))

丸山進一郎(品川)

河村秀生(世田谷)

(厚生労働大臣表彰)

澁谷國男(板橋)

(東京都功労者表彰(都知事表彰))

難波昭一(向島)

釜我克正(江東)

武井秀光(葛飾)

北村一(牛込)

野田純久(世田谷)

高取眞史(西多摩)

(東京都教育委員会表彰)

中崎俊克(日本橋)

牧野寛(港区芝)

川又邦夫(文京)

江里口彰(下谷)

品川尚一(浅草)

寺岡通博(本所)

吉田三郎(足立)

田村純治(江戸川)

嘉藤隆昭(江戸川)

米田豊(荏原)

荒川仁(大森)

澤辺正樹(北)

澤田章司(西多摩)

吉澤雄孝(西多摩)

原彰宏(東村山)

平成26年度

(旭日小綬章(春))

近藤勝洪(練馬)

(旭日双光章(春))

國光隆史(麹町)

(文部科学大臣表彰)

関根正行(麻布赤坂)

(厚生労働大臣表彰)

塚本亨(葛飾)

山崎一男(葛飾)

(東京都功労者表彰(都知事表彰))

大越壽和(向島)

鈴木康仁(町田)

(東京都教育委員会表彰)

鶴岡雅子(京橋)

松原真(文京)

庄司博之(浅草)

津田義夫(江東)

大津順(江戸川)

金子和司(江戸川)

塩津一郎(品川)

小林正幸(蒲田)

鎌田孝(世田谷)

高草木章(豊島)

大谷一好(北)

須田希(板橋)

清水進(板橋)

金澤正彦(練馬)

金田和彦(練馬)

高田治(西多摩)

川崎和三(多摩)

竹崎秀人(立川)

橋本健一(東村山)

伊藤哲夫(東村山)

比留間修一(武蔵村山)

平成27年度

(旭日双光章(春))

浮地文夫(八王子)

(旭日双光章(秋))

渡邊洋夫(江東)

(東京都功労者表彰(都知事表彰))

酒井克典(府中)

中山行雄(豊島)

久保和彦(浅草)

森山憲一(練馬)

(東京都教育委員会表彰)

福澤洋一(港区芝)

楯野英實(下谷)

今村里千矢(浅草)

奥野圭子(足立)

馬越章夫(足立)

室伏聡(江東)

飯塚務(葛飾)

大村賢治(江戸川)

笠原眞知子(江戸川)

米山博巳(荏原)

西澤公人(大森)

椎原成章(世田谷)

山口正之(豊島)

及川澄江(北)

浅井智司(板橋)

浅田博之(練馬)

村上順二(練馬)

弘中玲子(調布)

安村治國(調布)

長谷川泰(狛江)

平成28年度

(瑞宝双光章(春))

澁谷國男(板橋)

佐藤貞彦(練馬)

(瑞宝双光章(秋))

朝比奈敏行(江戸川)

(文部科学大臣表彰)

石川文一(京橋)

藤野珥男(麻布赤坂)

大越壽和(向島)

梶谷憲敬(江東)

川本黄石(葛飾)

根岸哲夫(葛飾)

飯塚 務 (葛 飾)
 武井 秀光 (葛 飾)
 齋藤 祐一 (江戸川)
 山内 幸司 (中 野)
 三上 周二 (中 野)
 佐々木 康 (荏 原)
 寺田 誠 (豊 島)
 花島 靖雄 (板 橋)
 小林 繁樹 (板 橋)
 末高 英世 (板 橋)
 葉山 裕 (西多摩)
 山崎 康夫 (東大和)
 香田 忠正 (狛 江)
 (厚生労働大臣表彰)
 鈴木 康仁 (町 田)
 (東京都功労者表彰(都知事表彰))
 石川 文一 (京 橋)
 三井 安治 (京 橋)
 片桐 博陽 (足 立)
 財部 洋 (江 東)
 倉治 ななえ (大 森)
 中村 卓志 (北 国)
 小玉 剛 (東久留米)
 (東京都教育委員会表彰)
 今村 純一郎 (京 橋)
 長井 博昭 (港区芝)
 華岡 眞幸 (港区芝)
 土居 浩 (文 京)
 荻原 芳樹 (足 立)
 財部 克彦 (江 東)
 嶋田 直季 (葛 飾)
 川野 浩一 (江戸川)
 野村 良治 (品 川)
 山根 良 (大 森)
 内藤 大 (世田谷)
 高橋 利武 (北 国)
 三浦 みつ子 (荒 川)
 鈴木 勝 (板 橋)
 森岡 俊介 (板 橋)
 笹川 洋一 (練 馬)

角田 俊一 (西多摩)
 山中 治 (西多摩)
 松田 克一 (府 中)
 土方 節也 (東村山)
 細野 好春 (昭 島)
 本田 健 (調 布)
 山崎 康夫 (東大和)

平成29年度

(旭日双光章 (秋))
 塚本 亨 (葛 飾)
 (瑞宝双光章 (秋))
 川本 強 (葛 飾)
 (文部科学大臣表彰)
 釜我 克正 (江 東)
 野田 純久 (世田谷)
 鈴木 普久 (東久留米)
 (厚生労働大臣表彰)
 高取 眞史 (西多摩)
 (東京都功労者表彰(都知事表彰))
 高橋 文夫 (葛 飾)
 杉田 廣 (練 馬)
 木所 義博 (小金井)
 (東京都教育委員会表彰)
 船曳 光雄 (神 田)
 高橋 健二 (文 京)
 秋山 欣也 (下 谷)
 宮内 良輔 (浅 草)
 木村 利男 (足 立)
 小山 主之 (江 東)
 白橋 知幸 (葛 飾)
 横山 建介 (葛 飾)
 岡村 徹 (江戸川)
 広田 政司 (荏 原)
 吉田 厚 (大 森)
 神田 隆直 (世田谷)
 新井 洋 (北 国)
 田中 進一 (板 橋)
 河奈 文彦 (練 馬)
 草柳 英二 (練 馬)

井上 雄温 (西多摩)
 上田 義博 (西多摩)
 渡邊 実 (八王子)
 伊東 祐太郎 (立 川)
 小西 勇人 (東村山)
 大谷 哲也 (昭 島)
 川崎 潤一 (調 布)

平成30年度

(文部科学大臣表彰)
 酒井 克典 (府 中)
 (厚生労働大臣表彰)
 財部 洋 (江 東)
 (東京都功労者表彰(都知事表彰))
 赤司 幸勇 (文 京)
 白井 潔 (葛 飾)
 岩田 祐幸 (蒲 田)
 湯浅 庸子 (世田谷)
 長沼 善美 (北 国)
 後藤 伊都子 (多 摩)
 駒津 栄雄 (八王子)
 伊藤 憲春 (立 川)
 唐見 和男 (東村山)
 (東京都教育委員会表彰)
 清水 浩一 (麻布赤坂)
 中山 実 (板 橋)
 渡邊 文秀 (文 京)
 鈴木 博 (板 橋)
 宮久保 東秀 (足 立)
 宇美 隆生 (板 橋)
 八ッ繁 悟 (江 東)
 治田 晶彦 (練 馬)
 玉城 肇 (江戸川)
 三井 博 (青 梅)
 佐藤 仁彦 (品 川)
 吉田 隆義 (東村山)
 久保田 博康 (北 国)
 三浦 健二 (小金井)

30年勤続表彰者

平成21年度

高 木 勝 憲 (文 京)
 鈴 木 富 雄 (下 谷)
 難 波 涼 二 (向 島)
 林 重 輝 (向 島)
 大 越 壽 和 (向 島)
 白 根 茂 光 (深 川)
 河 口 博 和 (深 川)
 川 島 一 伸 (葛 飾)
 海老原 保 夫 (葛 飾)
 山 崎 芳 夫 (中 野)
 稲 葉 惣 一 (品 川)
 高 山 忠 彦 (北 川)
 小 林 繁 樹 (板 橋)
 小 山 貞 夫 (練 馬)
 宮 原 有 義 (練 馬)
 船 坂 玄 次 (練 馬)
 金 田 弘 (八 王 子)
 佐 藤 邦 彦 (八 王 子)
 竹 島 弘 道 (八 王 子)
 濱 田 三 郎 (町 田)
 立 石 直 樹 (町 田)
 武 田 慎 午 (府 中)
 天 谷 規 生 (立 川)
 山 崎 州 也 (立 川)
 岡 本 莞 爾 (調 布)
 南 清 美 (調 布)
 中 北 三代子 (調 布)
 塩 谷 達 昭 (狛 江)

平成22年度

遠 藤 隆 一 (下 谷)
 赤 坂 輝 道 (向 島)
 佐々木 智 康 (足 立)
 田 村 朝 英 (足 立)
 林 秀 樹 (城 東)
 梅 田 健 児 (葛 飾)
 小野寺 昭 三 (江 戸 川)
 児 玉 剛 之 (江 戸 川)
 三 上 周 二 (中 野)
 木 嶋 博 人 (蒲 田)
 日 下 禮 子 (世 田 谷)
 渡 辺 幸 男 (世 田 谷)
 川 崎 博 (北 川)
 奥 寺 元 (北 川)
 植 村 繁 夫 (板 橋)
 葉 山 裕 (西 多 摩)
 上 田 義 博 (西 多 摩)

武 田 文 雄 (八 王 子)
 山 下 直 樹 (八 王 子)
 丸 山 史 郎 (八 王 子)
 武 居 英 夫 (八 王 子)
 川 越 信 行 (町 田)
 香 田 忠 正 (狛 江)

平成23年度

新 井 洋 子 (京 橋)
 熊 谷 京 一 (向 島)
 小 林 晴 美 (足 立)
 林 春 雄 (城 東)
 岡 村 良 美 (葛 飾)
 鈴 木 富士雄 (葛 飾)
 山 田 繁 (葛 飾)
 金 子 和 司 (江 戸 川)
 黒 木 瑞 夫 (江 戸 川)
 大 岡 紀 一 郎 (荏 原)
 佐々木 康 (荏 原)
 佐 藤 浩 (世 田 谷)
 小 倉 好 美 (玉 川)
 久保寺 徳 利 (練 馬)
 大 町 邦 夫 (練 馬)
 森 山 憲 一 (練 馬)
 飯 舘 衛 (練 馬)
 山 中 宏 三 (練 馬)
 古 賀 利 津 子 (西 多 摩)
 根 岸 秀 治 (西 多 摩)
 入 戸 野 正 康 (八 王 子)
 稲 数 文 夫 (東 村 山)
 村 山 恒 夫 (昭 島)

平成24年度

青 木 満 (江 東)
 瓜 生 善 夫 (江 東)
 横 山 建 介 (葛 飾)
 新 井 謙 寿 (中 野)
 澤 正 久 (玉 川)
 清 水 勇 (練 馬)
 関 口 幸 治 (練 馬)
 横 田 惇 (練 馬)
 高 取 眞 史 (西 多 摩)
 犬 飼 茂 久 (八 王 子)
 浦 崎 聡 明 (八 王 子)
 山 本 清 (八 王 子)
 内 田 茂 広 (国 分 寺)
 海老原 高 志 (立 川)
 真 山 孝 (昭 島)

平成25年度

山 田 俊 治 (足 立)
 川 本 黄 石 (葛 飾)
 矢 作 稔 (渋 谷)
 永 井 隆 雄 (渋 谷)
 山 内 幸 司 (中 野)
 北 村 和 則 (荏 原)
 栗 屋 せつ子 (玉 川)
 澤 辺 正 樹 (北 川)
 丹 野 研 (荒 川)
 雨 宮 都 彦 (荒 川)
 磯 部 銅 一 (荒 川)
 清 水 進 (板 橋)
 三 木 邦 正 (板 橋)
 高 田 治 (西 多 摩)
 大 塚 秀 男 (西 多 摩)
 井 上 雄 温 (西 多 摩)
 小 島 誠 (八 王 子)
 志 村 和 秀 (八 王 子)
 赤 瀬 眞 五 (八 王 子)
 早 川 博 之 (府 中)
 真 山 優 子 (昭 島)

平成26年度

村 岡 清 孝 (日 本 橋)
 花 田 安 弘 (足 立)
 大 野 弘 行 (足 立)
 大 久 保 和 久 (中 野)
 角 田 道 彦 (中 野)
 斎 藤 一 人 (品 川)
 木 下 優 (品 川)
 長 嶋 健 吉 (品 川)
 西 東 公 彦 (板 橋)
 田 中 志 朗 (練 馬)
 佐 牟 田 和 康 (練 馬)
 三 井 博 (西 多 摩)
 古 谷 眞 (八 王 子)
 山 田 忍 (八 王 子)
 櫻 井 秀 夫 (日 野)

平成27年度

本 内 充 雄 (足 立)
 津 田 義 夫 (江 東)
 薄 井 要 治 (江 東)
 安 斎 平 治 (葛 飾)
 増 喜 禮 義 (中 野)
 立 花 司 (中 野)

湯 浅 庸 子 (世 田 谷)
 上 野 秀 夫 (北)
 武 田 久 慶 (北)
 大 谷 一 好 (北)
 新 井 洋 (北)
 市 川 豊 (板 橋)
 助 川 滋 (板 橋)
 中 田 郁 平 (練 馬)
 渡 邊 亨 (練 馬)
 麻 沼 惠 (西 多 摩)
 沖 倉 功 (西 多 摩)
 布 田 博 (西 多 摩)
 山 崎 文 子 (西 多 摩)
 市 川 和 博 (八 王 子)
 河 西 宗 一 郎 (八 王 子)
 長 野 治 孝 (八 王 子)
 寺 村 豊 通 (昭 島)

平成28年度

小 林 てい子 (浅 草)
 大 崎 義 弘 (葛 飾)
 桑 島 馨 (葛 飾)
 武 井 秀 光 (葛 飾)
 増 田 清 治 (葛 飾)
 矢 作 眞 大 (江 戸 川)
 田 村 純 治 (江 戸 川)

笠 原 眞知子 (江 戸 川)
 山 田 正 一 (中 野)
 古 澤 博 行 (荏 原)
 富 永 ミト子 (荒 川)
 佐々木 征 男 (練 馬)
 岩 永 克 美 (西 多 摩)
 塚 本 浩 二 (西 多 摩)
 本 間 祥 継 (西 多 摩)
 鈴 木 佐 (東 久 留 米)
 鈴 木 普 久 (東 久 留 米)
 関 三 樹 夫 (昭 島 市)

平成29年度

市 川 邦 彦 (江 東)
 鈴 木 雅 幹 (江 東)
 財 部 克 彦 (江 東)
 續 益 展 (江 東)
 豊 村 登 志 男 (江 東)
 長 谷 川 均 (江 東)
 梶 谷 憲 敬 (江 東)
 室 伏 聡 (江 東)
 横 田 裕 (江 東)
 白 橋 知 幸 (葛 飾)
 伊 能 曉 (江 戸 川)
 倉 治 ななえ (大 森)
 森 岡 俊 介 (板 橋)

森 田 勉 (西 多 摩)
 田 辺 稔 (西 多 摩)
 中 村 篤 (八 王 子)
 武 田 久 美 子 (八 王 子)
 佐々木 稔 郎 (昭 島)

平成30年度

可 知 和 之 (麻 布 赤 坂)
 千 川 典 子 (足 立)
 坪 井 秀 介 (足 立)
 花 岡 新 八 (中 野)
 大 橋 正 昭 (中 野)
 景 山 正 登 (中 野)
 塩 津 一 郎 (品 川)
 (故) 高 橋 利 武 (北)
 荒 井 雄 一 郎 (荒 川)
 鏡 一 郎 (西 多 摩)
 對 馬 澄 夫 (西 多 摩)
 松 永 良 治 (西 多 摩)
 高 木 佳 辰 (多 摩)
 宮 内 均 (町 田)
 瀬 尾 育 義 (府 中)
 酒 井 克 典 (府 中)
 笹 川 樹 (三 鷹)

6

歴代役員・委員名簿



■■■■■■■■ 東京都学校歯科医会歴代会長 ■■■■■■■■

- 初代会長 磯 仙 策
昭和23年4月～昭和31年8月
- 2代会長 原 一 学
昭和31年8月～昭和33年3月
- 3代会長 渡 部 重 徳（世田谷・明治20年生）
昭和33年4月～昭和35年3月
- 4代会長 亀 澤 シズエ（荒川・明治39年生）
昭和35年4月～昭和45年3月
- 5代会長 関 口 龍 雄（練馬・明治37年生）
昭和45年4月～昭和58年3月
（昭和54年4月2日 社団法人認可）
- 6代会長 咲 間 武 夫（町田・大正7年生）
昭和58年4月～昭和63年3月
- 7代会長 高 橋 一 夫（文京・大正4年生）
昭和63年4月～平成2年3月
- 8代会長 西連寺 愛 憲（練馬・大正14年生）
平成2年4月～平成18年3月
- 9代会長 櫻 井 善 忠（荒川・昭和10年生）
平成18年4月～平成22年3月
- 10代会長 川 本 強（葛飾・昭和20年生）
平成22年4月～平成29年6月
（平成25年4月1日 一般社団法人認可）
- 11代会長 末 高 英 世（板橋・昭和24年生）
平成29年6月～現 在

東京都学校歯科医会歴代役員名簿

平成21年度

—役員—

会長	櫻井善忠
副会長	由井孝茂
専務理事	磯部克久
理事	小貫直作
〃	高野修強
〃	大谷善美
〃	川本実博
〃	長沼浩一
〃	渡邊典三
〃	鈴木宏子
〃	清水純子
〃	酒井克三
〃	船木純三
〃	澤正宏
〃	弘中玲子
〃	吉澤雄志
〃	中村卓志
監事	小嶋憲一
〃	難波昭一

—選挙管理会委員—

荒川金子初枝
下谷山本道也
本所和泉一清
渋谷飯野正臣
麹町愛知徹也
豊島寺田誠
多摩後藤伊都子

—予備委員—

中野増喜禮義
城東青木満夫
昭島村山恒彦
大森山崎晃彦
蒲田小林正幸

—予算決算特別委員—

粕江◎松浦康文
城東○山田英夫
神田船曳光雄
足立米澤聡光
葛飾武井秀吉
町田赤田留吉

—会誌・広報委員—

麻布赤坂◎関根正行
府中松田克一
足立米澤聡
杉並米津光将
板橋神林秀昭
練馬草柳英二

—定款諸規則検討委員—

下谷◎山本道也
杉並○村上元一
深川四方田哲
荏原佐々木康
北坪井温
町田咲間義輝
昭島村山恒夫

—新法人制度調査研究委員—

目黒◎堀内哲
中野○小林香
京橋前野長
足立片桐博陽
豊島岡野啓一
東村山橋本健了

—学術研究委員—

荒川三浦みつ子
府中高木栄太郎
葛飾高橋文夫
北百瀬保一
東村山橋本健久
杉並吉野勝直
世田谷神田正和
品川竹内正之
玉川齊藤勝海
西多摩吉成仲子
深川小川健司
葛飾柳原邦彦
八王子泉坂守人
〃川口陽隆
〃松久保美恵
〃向井雅臣
〃福田義弘
〃木暮義省
学識堀内剛

—ブロック・地区支援委員—

豊島◎高草木章
麹町○愛知徹也
麻布赤坂朝倉健太郎
深川四方田哲
江戸川大藪知孝
中野小林香
杉並小川学
品川東川輝子
蒲田富樫敏夫
北百瀬保
立川永田英美
調布宮木了
日野森田高広
西多摩◎澤田章
麻布赤坂○古畑升
渋谷小野田繁
蒲田中田裕康
豊島平嶺小百合
立川伊東祐太郎

平成22年度

—役員—

会長	川本強
副会長	由井孝憲
〃	小嶋博
専務理事	鈴木直久
理事	高野実
〃	渡邊美
〃	長沼健一
〃	橋本英世
〃	末高孝
〃	吉澤典
〃	酒井克志
〃	中村卓夫
〃	高橋文子
〃	東川輝昭
〃	澤田章司
〃	長井博寛
〃	牧野昭一
〃	難波良子
監事	荒木

—選挙管理会委員—

下谷◎山本道也
豊島○寺田誠

麹町愛知徹也
本所和泉正臣
渋谷飯金子初枝
多摩後藤伊都子

—予備委員—

中野増喜禮義
城東青木満夫
昭島村山恒彦
大森山崎晃彦
蒲田小林正幸

—予算決算特別委員—

粕江◎松浦康文
城東○山田英夫
神田船曳光雄
中野大竹徹
玉川小林昭彦
練馬佐藤貞彦
町田赤田留吉

—予備委員—

調布弘中玲子
本所加藤孝彦

—会誌・広報委員—

麻布赤坂◎関根正行
〃清水浩一
足立米澤聡
杉並吉野勝久
板橋神林秀昭
練馬草柳英二

—新法人制度・定款諸規則検討臨時委員—

本所◎小貫克
目黒○堀内哲
京橋前野長
深川四方田哲
中野小林香
杉並村上元一
練馬箭本治
町田咲間義輝

—学術研究委員—

荒川◎横井伸洋
江戸川○石川一郎

葛 飾 高 野 博 子
品 川 竹 内 正 和
北 百 瀬 保
練 馬 山 本 智 彦
八 王 子 泉 邦 彦
学 識 者 赤 坂 守 人

—ブロック・地区支援委員—

麴 町 愛 知 徹 也
麻布赤坂 朝 倉 健太郎
深 川 四方田 哲
江 戸 川 大 藪 知 孝
中 野 小 林 香
杉 並 小 川 学
品 川 高 品 幸 明
蒲 田 富 樫 敏 夫
北 百 瀬 保 章
豊 島 高 草 木 英 美
立 川 永 田 了 広
調 布 宮 木 高
日 野 森 田 高 広

平成23年度

—役員—

会 長 川 本 強
副 会 長 由 井 孝
〃 小 嶋 憲
専務理事 鈴 木 博
理 事 高 野 直 久
〃 渡 邊 実
〃 長 沼 善 美
〃 橋 本 健 一
〃 末 高 英 世
〃 吉 澤 雄 孝
〃 酒 井 克 典
〃 中 村 卓 志
〃 高 橋 文 夫
〃 東 川 輝 子
〃 澤 田 章 司
〃 長 井 博 昭
〃 牧 野 寛
監 事 難 波 昭 一
〃 荒 木 良 子

—選挙管理委員会—

下 谷 ◎山 本 道 也
豊 島 ○寺 田 誠
麴 町 愛 知 徹 也
本 所 和 泉 一 清
洪 谷 飯 野 正 臣

荒 川 金 子 初 枝
多 摩 後 藤 伊都子

—予備委員—

中 野 増 喜 禮 義
城 東 青 木 満
昭 島 村 山 恒 夫
大 森 山 崎 晃 彦
蒲 田 小 林 正 幸

—予算決算特別委員—

粕 江 ◎松 浦 康 文
城 東 ○山 田 英 夫
神 田 船 曳 光 雄
中 野 大 竹 徹
玉 川 小 林 昭
練 馬 佐 藤 貞 彦
町 田 赤 田 留 吉

—予備委員—

調 布 弘 中 玲 子

—会誌・広報委員—

麻布赤坂 ◎関 根 正 行
〃 ○清 水 浩 一
足 立 米 澤 聡
杉 並 吉 野 勝 久
板 橋 神 林 秀 昭
練 馬 草 柳 英 二

—新法人制度・定款諸規則
検討臨時委員—

本 所 ◎小 貫 克
目 黒 ○堀 内 哲
京 橋 前 野 長
深 川 四方田 哲
中 野 小 林 香
杉 並 村 上 元 一
練 馬 箭 本 治
町 田 咲 間 義 輝

—学術研究委員—

荒 川 ◎横 井 伸 洋
江 戸 川 ○石 川 一 郎
葛 飾 高 野 博 子
品 川 竹 内 正 和
北 百 瀬 保
練 馬 山 本 智 彦
八 王 子 泉 邦 彦
学 識 赤 坂 守 人

—ブロック・地区支援委員—

麴 町 愛 知 徹 也
麻布赤坂 朝 倉 健太郎
深 川 四方田 哲
江 戸 川 大 藪 知 孝
中 野 小 林 香
杉 並 小 川 学
品 川 高 品 幸 明
蒲 田 富 樫 敏 夫
北 百 瀬 保 章
豊 島 高 草 木 英 美
立 川 永 田 了 広
調 布 宮 木 高
日 野 森 田 高 広

平成24年度

—役員—

会 長 川 本 強
副 会 長 由 井 孝
〃 小 嶋 憲
専務理事 鈴 木 博
理 事 高 野 直 久
〃 渡 邊 実
〃 長 沼 善 美
〃 橋 本 健 一
〃 末 高 英 世
〃 吉 澤 雄 孝
〃 酒 井 克 典
〃 中 村 卓 志
〃 高 橋 文 夫
〃 東 川 輝 子
〃 澤 田 章 司
〃 長 井 博 昭
〃 牧 野 寛
監 事 難 波 昭 一
〃 荒 木 良 子

—選挙管理委員会—

下 谷 ◎山 本 道 也
豊 島 ○寺 田 誠
麴 町 愛 知 徹 也
本 所 和 泉 一 清
洪 谷 飯 野 正 臣
荒 川 金 子 初 枝
多 摩 後 藤 伊都子

—予備委員—

中 野 増 喜 禮 義
江 東 青 木 満

昭 島 村 山 恒 夫
大 森 山 崎 晃 彦
蒲 田 小 林 正 幸

—予算決算特別委員—

粕 江 ◎松 浦 康 文
港区 芝 華 岡 眞 幸
足 立 片 桐 博 陽
中 野 大 竹 徹
目 黒 堀 内 哲
練 馬 佐 藤 貞 彦
調 布 弘 中 玲 子

—予備委員—

世 田 谷 神 田 隆 直
葛 飾 武 井 秀 光

—会誌・広報委員—

麻布赤坂 ◎関 根 正 行
〃 ○清 水 浩 一
足 立 米 澤 聡
杉 並 吉 野 勝 久
板 橋 神 林 秀 昭
練 馬 草 柳 英 二

—学術研究委員—

学 識 澁 川 義 幸
文 京 松 原 真
江 東 小 川 仲 子
江 戸 川 ◎石 川 一 郎
洪 谷 小野田 繁
目 黒 嘉 部 暁
荒 川 ○三 浦 みつ子
八 王 子 泉 邦 彦

平成25年度

—役員—

会 長 川 本 強
副 会 長 由 井 孝
〃 小 嶋 憲
専務理事 鈴 木 博
理 事 高 野 直 久
〃 渡 邊 実
〃 橋 本 健 一
〃 末 高 英 世
〃 長 沼 善 美
〃 高 橋 裕 幸
〃 吉 澤 雄 孝
〃 酒 井 克 典
〃 高 橋 文 夫

〃 中 村 卓 志
〃 長 井 博 昭
〃 東 川 輝 子
〃 澤 田 章 司
〃 牧 野 寛 一
監 事 難 波 昭 一
〃 荒 木 良 子

—選挙管理会委員—

豊 島 ◎寺 田 誠
本 所 ○和 泉 一 清
麴 町 愛 知 徹 也
洪 谷 飯 野 正 臣
中 野 増 喜 禮 義
蒲 田 小 林 正 幸
多 摩 後 藤 伊都子

—予備委員—

江 東 青 木 満
昭 島 村 山 恒 夫
練 馬 角 田 不二彦
浅 草 久 保 和 彦
板 橋 山 口 英 也

—予算決算特別委員—

狛 江 ◎松 浦 康 文
港 区 芝 華 岡 眞 幸
足 立 ○片 桐 博 陽
世 田 谷 神 田 隆 直
練 馬 箭 本 治
町 田 澤 正 宏
調 布 弘 中 玲 子

—予備委員—

武蔵村山 土方 靖 夫
杉 並 小 川 学

—会誌・広報委員—

麻布赤坂 ◎関 根 正 行
〃 ○清 水 浩 一
足 立 米 澤 聡 久
杉 並 吉 野 勝 久
板 橋 神 林 秀 昭
練 馬 草 柳 英 二

—学術研究委員—

学 識 澁 川 義 幸
文 京 松 原 真 子
江 東 小 川 仲 子
江 戸 川 ◎石 川 一 郎
目 黒 嘉 部 暁

荒 川 ○三 浦 みつ子
八 王 子 泉 邦 彦

平成26年度

—役員—

会 長 川 本 強
副 会 長 由 井 孝 憲
〃 小 嶋 博
専務理事 鈴木 博
理 事 高 野 直 久
〃 渡 邊 実 一
〃 橋 本 健 世
〃 末 高 英 美
〃 長 沼 善 幸
〃 高 橋 裕 孝 典
〃 吉 澤 雄 夫
〃 酒 井 克 夫
〃 高 橋 文 志
〃 中 村 卓 昭
〃 長 井 博 子
〃 東 川 輝 子
〃 澤 田 章 司
〃 牧 野 寛 一
監 事 難 波 昭 一
〃 荒 木 良 子

—選挙管理会委員—

豊 島 ◎寺 田 誠
本 所 ○和 泉 一 清
麴 町 愛 知 徹 也
洪 谷 飯 野 正 臣
中 野 増 喜 禮 義
蒲 田 小 林 正 幸
多 摩 後 藤 伊都子

—予備委員—

江 東 青 木 満
昭 島 村 山 恒 夫
練 馬 角 田 不二彦
浅 草 久 保 和 彦
板 橋 山 口 英 也

—予算決算特別委員—

狛 江 ◎松 浦 康 文
港 区 芝 華 岡 眞 幸
足 立 ○片 桐 博 陽
世 田 谷 神 田 隆 直
練 馬 箭 本 治
町 田 澤 正 宏
調 布 弘 中 玲 子

—予備委員—

武蔵村山 土方 靖 夫
杉 並 小 川 学

—会誌・広報委員—

麻布赤坂 ◎関 根 正 行
〃 ○清 水 浩 一
足 立 米 澤 聡 久
杉 並 吉 野 勝 久
板 橋 神 林 秀 昭
練 馬 草 柳 英 二
学 識 澁 川 義 幸
文 京 松 原 真 子
江 東 小 川 仲 子
江 戸 川 ◎石 川 一 郎
目 黒 嘉 部 暁
荒 川 ○三 浦 みつ子
八 王 子 泉 邦 彦

—学術研究委員—

学 識 澁 川 義 幸
文 京 松 原 真 子
江 東 小 川 仲 子
江 戸 川 ◎石 川 一 郎
目 黒 嘉 部 暁
荒 川 ○三 浦 みつ子
八 王 子 泉 邦 彦

平成27年度

—役員—

会 長 川 本 強
副 会 長 小 嶋 憲
〃 末 高 英 世
専務理事 鈴木 博
理 事 渡 邊 実 治
〃 箭 本 圭 子
〃 長 沼 善 美
〃 高 橋 裕 幸
〃 酒 井 克 典
〃 高 橋 文 夫
〃 中 村 卓 志
〃 澤 田 章 司
〃 牧 野 寛 一
理 事 後 藤 有 里
〃 石 川 文 一
監 事 吉 田 慶 造
〃

—選挙管理会委員—

豊 島 ◎寺 田 誠
本 所 ○和 泉 一 清
麴 町 愛 知 徹 也
江 東 青 木 満
中 野 増 喜 禮 義
蒲 田 小 林 正 幸

多 摩 後 藤 伊都子

—予備委員—

昭 島 村 山 恒 夫
練 馬 角 田 不二彦
浅 草 久 保 和 彦
板 橋 山 口 英 也
品 川 片 岡 正 行

—予算決算特別委員—

町 田 ◎澤 正 宏
港 区 芝 ○華 岡 眞 幸
杉 並 小 川 学
世 田 谷 神 田 隆 直
練 馬 河 奈 文 彦
西 多 摩 井 上 雄 温
武蔵村山 土方 靖 夫

—予備委員—

東 村 山 橋 本 健 一
東久留米 田 口 耕 平

—会誌・広報委員—

麻布赤坂 ◎関 根 正 行
〃 ○清 水 浩 一
杉 並 吉 野 勝 久
北 濱 野 晶 子
板 橋 氷 見 育 夫
練 馬 河 奈 文 彦

—学術研究委員—

学 識 内 川 喜 盛
浅 草 ○久 保 和 彦
江 東 小 川 仲 子
中 野 横 山 いづみ
目 黒 嘉 部 暁
豊 島 鈴木 あい子
荒 川 ◎三 浦 みつ子
多 摩 北 村 新

平成28年度

—役員—

会 長 川 本 強
副 会 長 小 嶋 憲
〃 末 高 英 世
専務理事 鈴木 博
理 事 渡 邊 実 治
〃 箭 本 圭 子
〃 奥 野 圭 子
〃 長 沼 善 美

〃 高橋裕幸
〃 酒井克典
〃 高橋文夫
〃 中村卓志
〃 長井博昭
〃 澤田章司
〃 牧野寛
〃 後藤有里
監事 石川文一
〃 吉田慶造

—選挙管理会委員—

本所 ◎和泉一清
蒲田 ○小林正幸
麴町 愛知徹也
浅草 久保和彦
江東 青木満
豊島 寺田誠
練馬 角田不二彦

—予備委員—

品川 片岡正行
板橋 山口英也

—予算決算特別委員—

町田 ◎澤正宏
港区芝 ○華岡眞幸
杉並 小川学直
世田谷 神田隆彦
練馬 河奈文彦
西多摩 井上雄温
武蔵村山 土方靖夫

—予備委員—

東村山 橋本健一
東久留米 田口耕平

—会誌・広報委員—

麻布赤坂 ◎関根正行
〃 ○清水浩一
杉並 吉野勝久
北 濱野晶子
板橋 氷見育夫
練馬 河奈文彦

—学術研究委員—

荒川 ◎三浦みつ子
浅草 ○久保和彦
江東 小川仲子

中野 横山 いづみ
目黒 嘉部 暁
豊島 鈴木 あい子
多摩 北村 新盛
学識 内川 喜盛

平成29年度

—役員—

会長 末高英世
副会長 鈴木博美
〃 長沼善美
専務理事 澤田章司
理事 渡邊実治
〃 箭本治幸
〃 高橋裕幸
〃 奥野圭子
〃 酒井克典
〃 高橋文夫
〃 清水浩一
〃 西村健子
〃 山室直子
〃 鈴木あい子
〃 山崎靖道
〃 小森幸道
監事 石川文一
〃 坂本眞理子

—選挙管理会委員—

本所 ◎和泉一清
蒲田 ○小林正幸
麴町 愛知徹也
浅草 久保和彦
向島 三好克則
板橋 山口英也
練馬 角田不二彦

—予備委員—

玉川 渡邊嗣成
北 末廣達
新宿 後藤有里
府中 早川博之
三鷹 竹下敦

—予算決算特別委員—

町田 ◎澤正宏
港区芝 ○華岡眞幸
西多摩 井上雄温
東村山 橋本健一

葛飾 飯塚 務
麴町 山林 豊
目黒 益山 純太

—予備委員—

新宿 星野太一
西東京 田中大平

—広報委員—

練馬 ◎草柳英二
板橋 ○氷見育夫
麴町 柘植琢磨
蒲田 黒岩一彦
練馬 河奈文彦
布 矢野章

—学術研究委員—

浅草 ◎久保和彦
中野 ○横山 いづみ
江東 小川 仲子
目黒 嘉部 暁
荒川 萩原 栄和
練馬 金田 和彦
日野 峯岸 大造
学識 川口陽子

平成30年度

—役員—

会長 末高英世
副会長 鈴木博美
〃 長沼善美
専務理事 澤田章司
理事 渡邊実治
〃 箭本治幸
〃 高橋裕幸
〃 奥野圭子
〃 酒井克典
〃 高橋文夫
〃 清水浩一
〃 西村健子
〃 山室直子
〃 鈴木あい子
〃 山崎靖道
〃 小森幸道
監事 石川文一
〃 坂本眞理子

—選挙管理会委員—

本所 ◎和泉一清
蒲田 ○小林正幸
麴町 愛知徹也
浅草 久保和彦
向島 三好克則
板橋 山口英也
練馬 角田不二彦

—予備委員—

玉川 渡邊嗣成
北 末廣達
新宿 後藤有里
府中 早川博之
三鷹 竹下敦

—予算決算特別委員—

町田 ◎澤正宏
港区芝 ○華岡眞幸
麴町 山林 豊
葛飾 飯塚 務
目黒 益山 純太
西多摩 井上雄温
東村山 橋本健一
新宿 星野太一
西東京 田中大平

—広報委員—

練馬 ◎草柳英二
板橋 ○氷見育夫
麴町 柘植琢磨
蒲田 黒岩一彦
練馬 河奈文彦
調布 矢野章

—学術研究委員—

浅草 ◎久保和彦
中野 ○横山 いづみ
江東 小川 仲子
目黒 嘉部 暁
荒川 萩原 栄和
練馬 金田 和彦
日野 峯岸 大造
学識 川口陽子

※◎委員長 ○副委員長

※広報委員は ○委員長代理

歴代参事・評議員・学術委員名簿

平成21年度

地 区	(参 事)	(評 議 員)	(予備評議員)	(学術普及委員)
麴 町	愛知 徹也	山林 豊	田中 久仁	久保田智也
神 田	小熊 朝秀	船曳 光雄	中川 守正	橋本 雅之
日 本 橋	中崎 俊克	塙 卓明	山本 康一	南部 弘実
京 橋	今村純一郎	前野 長	今村純一郎	山田 隆久
港 区 芝	栗原 眞幸	長井 博昭	牧野 寛	吉澤 忠夫
麻布赤坂	氏家 賢明	藤野 珥男	朝倉健太郎	朝倉健太郎
文 京	鈴木 康夫	松原 真	土居 浩	竹内 千恵
下 谷	山本 道也	小野 圭一	坂本 清也	小野 圭一
浅 草	橋樹 俊英	久保 和彦	品川 尚一	山本 明彦
本 所	小貫 克	加藤 孝彦	神部 正佳	蛭間 重能
向 島	三好 克則	三好 克則	新井 泰弘	新井 泰弘
足 立	米澤 聡	片桐 博陽、米澤 聡	尾崎 圭子、岡谷 進	平塚 武司
深 川	四方田 哲	四方田 哲	鈴木 昌夫	斎藤 秋人
城 東	ハッ繁 悟	山田 英夫、ハッ繁 悟	四方 茂一、鈴木 雅幹	一ツ子延大
葛 飾	高橋 文夫	武井 秀光、高橋 文夫	柳原 健司、古宮 秀記	高橋 文夫
江 戸 川	小野寺昭三	小野寺昭三、斉藤 祐一	芦澤 達雄、加藤 昌美	大藪 知孝
牛 込	渡辺 吉明	堀内 伸一	永井 朋輔	加藤 愛子
四 谷	松本 一彦	伊吹 光	川又 幸和	小島 理沙
新 宿	石川 博基	長谷川郁夫	池田 作	村井 正彦
渋谷	松野 修次	斎藤 茂雄	熊倉 正和	小野田 繁
中 野	浜田 常二	松野 修次	中平 正臣	林 昭彦
杉 並	小川 学	大竹 徹	藤森 理	米津 光将
品 川	丸山進一郎	小川 学、北村 滋	伊藤 公英、吉野 勝久	東川 輝子
荏 原	佐々木 康	丸山進一郎	高品 幸明	白田 和彦
目 黒	堀内 哲	高橋 昭一	米山 博巳	石持 東吾
大 森	山崎 晃彦	堀内 哲	秋草 裕民	山根 良
蒲 田	小林 正幸	高山 英昭、梅本 祐司	吉田 厚、村田 正夫	小濱 哲彦
世 田 谷	内藤 大	中田 裕康	富樫 敏夫	平山 順邦
玉 川	永田 良宏	吉田 慶造、荒木 信清	河瀬 勝、田中 教順	齋藤 正之
豊 島	白倉 章	小林 昭	齋藤 正之	青山 訓康
滝 野 川	江口 淳一	高橋 卓哉	中山 行雄	小林 力
北 川	坪井 温	江口 淳一	山野井 修	百瀬 保
荒 板 橋	金子 初枝	坪井 温	澤部 正樹	三浦みつ子
練 馬	須田 希	菊田 礼夫	三浦みつ子	神林 秀昭
西 多 摩	佐藤 貞彦	須田 希、田中 進一	中村 秀亘、助川 滋	杉田 廣
西 多 摩	吉澤 雄孝	佐藤 貞彦、望月 兵衛	杉田 廣、加藤 さつき	波多野敬二
八 王 子	後藤伊都子	鏡 一郎、小澤 庄二	渡辺 享	有間 英生
町 田	田中 宏美	北村 新	岩永 克美、高取 眞史	山田 幸英
府 中	咲間 義輝	奎代 好照、氷見 元治	岡部 浩子、小島 茂	鈴木 政義
三 鷹	酒井 克典	横山 邦雄	小島 誠	矢代 譲治
国 分 寺	竹下 敦	赤田 留吉、咲間 義輝	石川 義洋、佐藤 勝巳	平原 定昭
東 久 留 米	内田 茂広	高木 栄太郎	黒田 尚文	鈴木 潤一
立 川	鈴木 普久	金子 純一	馬場 登	田口 耕平
東 村 山	永田 英美	李 常信	富山 正治	竹崎 秀人
西 武 蔵 村 山	小西 勇人	鈴木 普久	石塚 直治	橋本 健一
昭 島	奥村 雅子	富野 俊彦	竹崎 秀人	奥村 雅子
調 布	呉 一	橋本 健一	細野 正博	宮田健太郎
清 瀬	村山 恒夫	井出 憲二	奥村 雅子	松田 武彦
東 大 和	宮木 了	比留間修一	宮田健太郎	本田 健
狛 江	島田 尚範	寺村 豊通	大谷 哲也	小幡 哲夫
日 野	平井良嗣(逝去)	宮木 了	森末 裕行	平井良嗣(逝去)
	早川 嘉彦	加藤 淳	天川 博史	塩谷 達昭
	森田 高広	平井 良嗣 (逝去)		染谷 匡
		松浦 康文	早川 嘉彦	
		佐々木智史	森田 高広	

地 区	(参 事)	(評 議 員)	(予備評議員)	(学術委員)
麹 町	愛知 徹也	山林 豊	田中 久仁	奥蘭 卓也
神 田	小熊 朝秀	船曳 光雄	中川 守正	橋本 雅之
日 本 橋	村岡 清孝	中村 章生	南部 弘実	南部 弘実
京 橋	今村純一郎	前野 長	今村純一郎	山田 隆久
港 区 芝	栗原 眞幸	栗原 眞幸	福沢 洋一	奥村 英治
麻 布 赤 坂	氏家 賢明	藤野 珥男	朝倉健太郎	朝倉健太郎
文 京	鈴木 康夫	松原 真	土居 博	竹内 千恵
下 谷	山本 道也	小野 圭一	坂本 清也	小野 圭一
浅 草	橘樹 俊英	久保 和彦	品川 尚一	山本 明彦
本 所	小貫 克	寺岡 通博	丸山 満博	蛭間 重能
向 島	三好 克則	三好 克則	永倉 貴子	新井 泰弘
足 立	志村 圭子	片桐 博陽、志村 圭子 渡邊 哲	飯塚 徹、岡谷 進 上田 豊	平塚 武司
深 川	四方田 哲	四方田 哲	鈴木 昌夫	斎藤 秋人
城 東	八ッ繁 悟	山田 英夫、八ッ繁 悟	四方 茂一、鈴木 雅幹	一ツ子延大
葛 飾	高橋 文夫	武井 秀光、柳原 健司	飯塚 務、古宮 秀記	柳原 健司
江 戸 川	長谷部方彦	伊能 暁、斉藤 祐一 長谷部方彦	川野 浩一、宮山 英之 目々澤雅子	大藪 知孝
牛 込	栗原 眞人	臼井 久雄	磯谷 亮	加藤 愛子
四 谷	松本 一彦	長谷川郁夫	池田 作	小島 理沙
新 宿	石川 博基	斉藤 茂雄	熊倉 正和	村井 正彦
渋谷	松野 修次	松野 修次	中平 正臣	小野田 繁
中 野	濱田 常二	大竹 徹	藤森 理	林 明彦
杉 並	小川 学	小川 学、北村 滋	伊藤 公英、吉野 勝久	米津 光将
品 川	丸山進一郎	丸山進一郎	高品 幸明	東川 輝子
荏 原	佐々木 康	高橋 昭一	米山 博巳	白田 和彦
目 黒	堀内 哲	堀内 哲	飯田 良昭	川井 洋一
大 森	山崎 晃彦	吉田 厚、梅本 祐司	中村 浩之、村田 正夫	荒木 俊樹
蒲 田	小林 正幸	中田 裕康	富樫 敏夫	小濱 哲彦
世 田 谷	内藤 大	吉田 慶造、荒木 信清	河瀬 勝、田中 教順	平山 順邦
玉 川	永田 良宏	小林 昭	齋藤 正之	齋藤 正之
豊 島	白倉 章	高橋 卓哉	中山 行雄	青山 訓康
滝 野 川	江口 淳一	江口 淳一	山野井 修	小林 力
北 川	坪井 温	坪井 温	森永 和明	百瀬 保
荒 板 橋	三浦みつ子	菊田 礼夫	荻原 栄和	荻原 栄和
練 馬	須田 希	須田 希、田中 進一	早川 龍、助川 滋	神林 秀昭
練 馬	佐藤 貞彦	佐藤 貞彦、望月 兵衛	杉田 廣、加藤さつき	杉田 廣
西 多 摩	井上 雄温	鏡 一郎、小澤 庄二	渡辺 享	波多野敬二
多 摩	北村 新	宮川 慎二郎	岩永 克美、高取 眞史	後藤伊都子
八 王 子	渡邊 実	横山 嘉信、氷見 元治 田中 宏美	岡部 浩子、小島 茂 横山 邦雄	山田 幸英
町 田	咲間 義輝	赤田 留吉、咲間 義輝	佐藤 勝己、石川 義洋	鈴木 政義
府 中	酒井 克典	高木栄太郎	黒田 尚文	矢代 譲治
三 鷹	竹下 敦	金子 純一	馬場 登	平原 定昭
国 分 寺	内田 茂広	李 常信	富山 正治	鈴木 潤一
東 久 留 米	鈴木 普久	鈴木 普久	石塚 直治	田口 耕平
立 川	永田 英美	富野 俊彦	竹崎 秀人	竹崎 秀人
東 村 山	小西 勇人	小西 勇人	細野 正博	細野 正博
西 東 京	奥村 雅子	井出 憲二	奥村 雅子	奥村 雅子
武 蔵 村 山	呉 一	比留間修一	宮田健太郎	宮田健太郎
昭 島	村山 恒夫	松田 武彦	大谷 哲也	松尾 豊
調 布	弘中 玲子	弘中 玲子	澤 悦夫	川崎 潤一
清 瀬	島田 尚範	加藤 淳	天川 博史	小幡 哲夫
東 大 和	黒米 譲二	黒米 譲二	林 弘明	黒米 譲二
狛 江	早川 嘉彦	松浦 康文	早川 嘉彦	塩谷 達昭
日 野	森田 高広	佐々木智史	森田 高広	染谷 匡

平成23年度

地 区	(参 事)	(評 議 員)	(予備評議員)	(学術委員)
麹 町	愛知 徹也	山林 豊	田中 久仁	奥蘭 卓也
神 田	故・小熊朝秀	船曳 光雄	中川 守正	橋本 雅之
日 本	村岡 清孝	中村 章生	南部 弘実	南部 弘実
橋 本	今村純一郎	前野 長	今村純一郎	山田 隆久
京 都	華岡 眞幸	華岡 眞幸	木村 充	華岡 眞幸
港 区	氏家 賢明	藤野 珥男	朝倉健太郎	朝倉健太郎
麻 布	松原 真	土居 浩	山田 敏弘	岩波 行紀
赤 坂	山本 道也	大村 隆司	秋山 欣也	小野 圭一
文 京	久保 和彦	今村里千矢	品川 尚一	小林てい子
下 谷	小貫 克	寺岡 通博	丸山 満博	蛭間 重能
浅 草	三好 克則	三好 克則	高田 敬一	長澤 太郎
本 所	志村 圭子	片桐 博陽、志村 圭子	岡谷 進、上田 豊	平塚 武司
向 島	渡邊 哲	渡邊 哲	飯塚 徹	
足 立	金子 雄治	金子 雄治、井上 幸一	幸阪 保雄、岸田 宏二	斎藤 秋人
深 川	八ッ繁 悟	山田 英夫、八ッ繁 悟	四方 茂一、鈴木 雅幹	一ツ子延大
城 東	高橋 文夫	武井 秀光、柳原 健司	飯塚 務	古宮 秀記
葛 飾		齋藤 祐一、伊能 暁	川野 浩一、宮山 英之	大藪 知孝
江 戸	長谷部方彦	長谷部方彦	目々澤雅子	
牛 込	栗原 眞人	臼井 久雄	磯谷 亮	加藤 愛子
四 谷	松本 一彦	長谷川郁夫	池田 作	小島 理沙
新 宿	石川 博基	石川 博基	中川 哲夫	五十嵐英祐
渋谷	松野 修次	松野 修次	伊藤 知周	小野田 繁
中 野	濱田 常二	大竹 徹	横山いづみ	藤森 理
杉 並	小川 学	小川 学、北村 滋	伊藤 公英、吉野 勝久	米津 光将
品 川	丸山進一郎	丸山進一郎	高品 幸明	柴田 純弘
荏 原	米山 博己	井口 裕一	白田 和彦	皆川 淳
目 黒	堀内 哲	堀内 哲	飯田 良昭	川井 洋一
大 森	山崎 晃彦	吉田 厚、梅本 祐司	中村 浩之、村田 正夫	中村 浩之
蒲 田	小林 正幸	中田 裕康	富樫 敏夫	小濱 哲彦
世 田 谷	吉田 慶造	吉田 慶造、神田 隆直	河瀬 勝、田中 教順	平山 順邦
玉 川	永田 良宏	小林 昭	齋藤 正之	齋藤 正之
豊 島	花香 政人	鈴木あい子	岡野 裕之	高橋 卓哉
滝 野 川	江口 淳一	江口 淳一	山野井 修	小林 力
北 川	百瀬 保	坪井 温	末廣 達成	日吉 賢次
荒 川	三浦みつ子	菊田 礼夫	荻原 栄和	荻原 栄和
板 橋	早川 龍	早川 龍、神林 秀昭	鈴木 勝、児玉 一成	石井 明
練 馬	佐藤 貞彦	佐藤 貞彦、望月 兵衛	金田 和彦、加藤さつき	金田 和彦
西 多 摩	吉澤 雄孝	河奈 文彦	箭本 治	
多 摩	北村 新	鏡 一郎、小澤 庄二	岩永 克美、高取 眞史	波多野敬二
八 王 子	渡邊 実	宮川慎二郎	白井 弘三	後藤伊都子
町 田	横山 嘉信、水見 元治	横山 嘉信、水見 元治	岡部 浩子、横山 邦雄	山田 幸英
府 中	田中 宏美	田中 宏美	小島 茂	
三 鷹	石川 義洋、澤 正宏	石川 義洋、澤 正宏	鈴木 政義	鈴木 政義
国 分 寺	矢代 譲治	矢代 譲治	平山 伸	平山 伸
東 久 留 米	馬場 登	馬場 登	李 常信	長谷 步
立 川	高畑 整	高畑 整	高畑 整	上升 康司
東 村 山	竹崎 秀人	竹崎 秀人	竹崎 秀人	伊東祐太郎
西 東 京	細野 正博	細野 正博	細野 正博	細野 正博
武 蔵 村 山	田中 大平	田中 大平	田中 大平	田中 大平
昭 島	土方 靖夫	土方 靖夫	土方 靖夫	土方 靖夫
調 布	大谷 哲也	大谷 哲也	大谷 哲也	松尾 豊
清 瀬	澤 悦夫	澤 悦夫	澤 悦夫	川崎 潤一
東 大 和	天川 博史	天川 博史	天川 博史	小幡 哲夫
狛 江	林 弘明	林 弘明	林 弘明	黒米 譲二
日 野	早川 嘉彦	早川 嘉彦	早川 嘉彦	塩谷 達昭
	森田 高広	森田 高広	森田 高広	下山 学章

地 区	(参 事)	(評 議 員)	(予備評議員)	(学術委員)
麹 町	愛知 徹也	山林 豊	田中 久仁	奥蘭 卓也
神 田	船曳 光雄	今村昭二郎	甲斐 哲也	橋本 雅之
日 本 橋	村岡 清孝	中村 章生	南部 弘実	南部 弘実
京 橋	今村純一郎	前野 長	今村純一郎	山田 隆久
港 区 芝	華岡 眞幸	華岡 眞幸	木村 充	奥村 英治
麻布赤坂	氏家 賢明	藤野 珥男	朝倉健太郎	朝倉健太郎
文 京	松原 真	土居 浩	山田 敏弘	岩波 行紀
下 谷	山本 道也	大村 隆司	秋山 欣也	小野 潤
浅 草	久保 和彦	今村里千矢	品川 尚一	小林てい子
本 所	小貫 克	寺岡 通博	丸山 満博	蛭間 重能
向 島	三好 克則	三好 克則	高田 敬一	長澤 太郎
足 立	志村 圭子	片桐 博陽、志村 圭子 渡邊 哲	岡谷 進、上田 豊 飯塚 徹	平塚 武司
江 東	小泉 信隆	小泉 信隆、ハッ繁 悟 金子 雄治	幸阪 保雄、梶山 晃 鈴木 雅幹	斎藤 秋人
葛 飾	高橋 文夫	武井 秀光、柳原 健司 齋藤 祐一、伊能 暁	飯塚 務、古宮 秀記 川野 浩一、宮山 英之	柳原 健司
江 戸 川	長谷部方彦	長谷部方彦	目々澤雅子	大藪 知孝
牛 込	栗原 眞人	臼井 久雄	磯谷 亮	加藤 愛子
四 谷	松本 一彦	長谷川郁夫	池田 作	小島 理沙
新 宿	石川 博基	石川 博基	中川 哲夫	五十嵐英祐
渋谷	松野 修次	松野 修次	伊藤 知周	小野田 繁
中 野	濱田 常二	大竹 徹	横山いづみ	藤森 理
杉 並	小川 学	小川 学、北村 滋	伊藤 公英、吉野 勝久	米津 光将
品 川	丸山進一郎	丸山進一郎	高品 幸明	柴田 純弘
荏 原	米山 博己	井口 裕一	白田 和彦	皆川 淳
目 黒	堀内 哲	堀内 哲	飯田 良昭	川井 洋一
大 森	山崎 晃彦	吉田 厚、梅本 祐司	中村 浩之、村田 正夫	中村 浩之
蒲 田	小林 正幸	中田 裕康	富樫 敏夫	小濱 哲彦
世 田 谷	吉田 慶造	吉田 慶造、神田 隆直	河瀬 勝、田中 教順	平山 順邦
玉 川	永田 良宏	小林 昭	齋藤 正之	齋藤 正之
豊 島	花香 政人	鈴木あい子	岡野 裕之	高橋 卓哉
滝 野 川	江口 淳一	江口 淳一	山野井 修	小林 力
北	百瀬 保	坪井 温	末廣 達成	日吉 賢次
荒 川	三浦みつ子	菊田 礼夫	荻原 栄和	荻原 栄和
板 橋	早川 龍	早川 龍、神林 秀昭	鈴木 勝、児玉 一成	石井 明
練 馬	佐藤 貞彦	佐藤 貞彦、望月 兵衛 河奈 文彦	金田 和彦、加藤さつき 箭本 治	金田 和彦
西 多 摩	吉澤 雄孝	鏡 一郎、小澤 庄二	岩永 克美、高取 眞史	波多野敬二
多 摩	北村 新	宮川慎二郎	久保 雅幸	後藤伊都子
八 王 子	渡邊 実	横山 嘉信、氷見 元治 岡部 浩子	山田 幸英、横山 邦雄 糠信 安宏	山田 幸英
町 田	澤 正宏	澤 正宏、咲間 義輝	石川 義洋、山田 潔	山田 潔
府 中	杉田 廣己	高木栄太郎	平山 伸	矢代 譲治
三 鷹	竹下 敦	金子 純一	馬場 登	平原 定昭
国 分 寺	内田 茂広	村田 典子	李 常信	長谷 歩
東 久 留 米	鈴木 普久	田口 耕平	高畑 整	上升 康司
立 川	富野 俊彦	富野 俊彦	竹崎 秀人	伊東祐太郎
東 村 山	小西 勇人	小西 勇人	細野 正博	細野 正博
西 東 京	田中 大平	井出 憲二	田中 大平	田中 大平
武 蔵 村 山	比留間修一	伊東 良之	土方 靖夫	土方 靖夫
昭 島	村山 恒夫	松田 武彦	大谷 哲也	松尾 豊
調 布	弘中 玲子	弘中 玲子	澤 悦夫	星野 吉計
清 瀬	島田 尚範	加藤 淳	倉田 琢哉	井植 温
東 大 和	黒米 譲二	黒米 譲二	林 弘明	黒米 譲二
狛 江	早川 嘉彦	松浦 康文	早川 嘉彦	塩谷 達昭
日 野	森田 高広	高品 和哉	森田 高広	下山 学章

平成25年度

地 区	(参 事)	(代 議 員)	(予備代議員)	(学術委員)
麹 町	愛知 徹也	山林 豊	田中 久仁	奥蘭 卓也
神 田	船曳 光雄	今村昭二郎	甲斐 哲也	橋本 雅之
日 本 橋	村岡 清孝	中村 章生	中崎 俊克	南部 弘実
京 橋	今村純一郎	浜中 裕、(故)前野 長	今村純一郎	山田 隆久
港 区 芝	華岡 眞幸	華岡 眞幸	木村 充	斎藤 淳
麻 布 赤 坂	氏家 賢明	藤野 珥男	清水 浩一	朝倉健太郎
文 京	松原 真	松原 真	土居 浩	岩波 行紀
下 谷	大村 隆司	秋山 欣也	岩間 隆洋	小野 潤
浅 草	久保 和彦	今村里千矢	小林てい子	品川 尚一
本 所	寺岡 通博	寺岡 通博	丸山 満博	吉江 保隆
向 島	三好 克則	三好 克則	高田 敬一	長澤 太郎
足 立	岡谷 進	片桐 博陽、岡谷 進 渡邊 哲	上田 豊、倉沢 洋一 仲谷 敦	平塚 武司
江 東	河口 博和	河口 博和、鈴木 雅幹 幸阪 保雄	梶山 晃、金子 雄治 一ツ子延大	斎藤 秋人
葛 飾	飯塚 務	飯塚 務、柳原 健司	嶋田 直季、古宮 秀記	小宮 秀紀
江 戸 川	長谷部方彦	阪上 泰彦、伊能 暁 長谷部方彦	川野 浩一、宮山 英之 目々澤雅子	熊谷 英一
牛 込	栗原 眞人	臼井 久雄	磯谷 亮	加藤 愛子
四 谷	松本 一彦	長谷川郁夫	松本 一彦	小島 理沙
新 宿	石川 博基	石川 博基	中川 哲夫	菊池 重成
渋谷	松野 修次	松野 修次	伊藤 知周	齋藤 敬太
中 野	土田 和彦	横山いづみ	藤森 理	藤巻 秀夫
杉 並	小川 学	小川 学、山崎 靖	伊藤 公英、吉野 勝久	成田 文雄
品 川	丸山進一郎	丸山進一郎	高品 幸明	柴田 純弘
荏 原	米山 博己	井口 裕一	白田 和彦	皆川 淳
目 黒	堀内 哲	堀内 哲	飯田 良昭	川井 洋一
大 森	山崎 晃彦	村田 正夫、梅本 祐司	板井 文治、山崎 晃彦	中村 浩之
蒲 田	小林 正幸	中田 裕康	富樫 敏夫	小濱 哲彦
世 田 谷	吉田 慶造	長谷部俊二、神田 隆直	河瀬 勝、田中 教順	石井 孝典
玉 川	渡邊 嗣	蒔田 裕	齋藤 正之	齋藤 正之
豊 島	中山 行雄	岡野 裕之	高橋 卓哉	鈴木あい子
滝 野 川	江口 淳一	江口 淳一	山野井 修	小林 力
北	百瀬 保	百瀬 保	山本 修己	難波 竜児
荒 川	三浦みつ子	小形 浩司	荻原 栄和	荻原 栄和
板 橋	早川 龍	早川 龍、神林 秀昭	鈴木 勝、児玉 一成	石井 明
練 馬	望月 兵衛	望月 兵衛、河奈 文彦 箭本 治	金田 和彦、南 誠二 金澤 正彦	金田 和彦
西 多 摩	井上 雄温	井上 雄温、小澤 庄二	吉成 勝海、鏡 一郎	波多野敬二
多 摩	北村 新	久保 雅幸	溝口 孝三	後藤伊都子
八 王 子	渡邊 実	横山 嘉信、氷見 元治 岡部 浩子	山田 幸英、横山 邦雄 糠信 安宏	山田 幸英
町 田	澤 正宏	澤 正宏、咲間 義輝	石川 義洋、山田 潔	原田 洋好
府 中	杉田 廣己	高木栄太郎	平山 伸	矢代 譲治
三 鷹	竹下 敦	金子 純一	竹下 敦	竹下 敦
国 分 寺	杉谷 裕	鹿島 千佳	松井 典子	李 常信
東 久 留 米	鈴木 普久	田口 耕平	宮崎 至洋	上升 康司
立 川	富野 俊彦	富野 俊彦	竹崎 秀人	伊東祐太郎
東 村 山	小西 勇人	小西 勇人	細野 正博	細野 正博
西 東 京	田中 大平	井出 憲二	田中 大平	田中 大平
武 蔵 村 山	比留間修一	土方 靖夫	伊東 良之	伊東 良之
昭 島	村山 恒夫	松田 武彦	大谷 哲也	松尾 豊
調 布	杉本 明	弘中 玲子	澤 悦夫	佐藤 一人
清 瀬	島田 尚範	加藤 淳	倉田 琢哉	井植 温
東 大 和	竹下 晴久	竹下 晴久	今井 恒夫	大川 延也
狛 江	香田 忠正	松浦 康文	香田 忠正	塩谷 達昭
日 野	森田 高広	高品 和哉	森田 高広	下山 学章

平成26年度

地 区	(参 事)	(代 議 員)	(予備代議員)	(学術委員)
麹 町	愛知 徹也	山林 豊	田中 久仁	奥蘭 卓也
神 田	船曳 光雄	今村昭二郎	甲斐 哲也	橋本 雅之
日 本 橋	村岡 清孝	中村 章生	中崎 俊克	南部 弘実
京 橋	今村純一郎	浜中 裕、故 前野 長	今村純一郎	山田 隆久
港 区 芝	華岡 眞幸	華岡 眞幸	木村 充	斎藤 淳
麻布赤坂	氏家 賢明	藤野 珥男	清水 浩一	朝倉健太郎
文 京	松原 真	土居 浩	高橋 健二	渡辺 文秀
下 谷	大村 隆司	秋山 欣也	岩間 隆洋	小野 潤
浅 草	久保 和彦	今村里千矢	品川 尚一	小林てい子
本 所	寺岡 通博	丸山 満博	戸嶋 誠司	吉江 保隆
向 島	三好 克則	三好 克則	高田 敬一	長澤 太郎
足 立	岡谷 進	片桐 博陽、岡谷 進 渡邊 哲	上田 豊、倉沢 洋一 仲谷 敦	平塚 武司
江 東	河口 博和	河口 博和、鈴木 雅幹 幸阪 保雄	梶山 晃、小川 伸子 一ッ子延大	斎藤 秋人
葛 飾	飯塚 務	飯塚 務、柳原 健司	嶋田 直季、古宮 秀記	古宮 秀紀
江 戸 川	阪上 泰彦	阪上 泰彦、伊能 暁 川野 浩一	金丸 充徳、宮山 英之 川口 安子	室岡 孝二
四谷牛込	磯谷 亮	栗原 眞人	松本 一彦	石川 雅朗
新 宿	石川 博基	石川 博基	伊藤 智章	後藤 有里
渋谷	坂本真理子	長田 博史	伊藤 知周	斎藤 敬太
中 野	土田 和彦	横山いづみ	藤森 理	中島 陽
杉 並	小川 学	小川 学、山崎 靖	伊藤 公英、吉野 勝久	成田 文雄
品 川	丸山進一郎	丸山進一郎	竹内 正和	柴田 純弘
荏 原	米山 博己	井口 裕一	白田 和彦	皆川 淳
目 黒	川井 洋一	堀内 哲	川井 洋一	井上 崇
大 森	吉田 厚	村田 正夫、梅本 祐司	板井 文治、山崎 晃彦	中村 浩之
蒲 田	小林 正幸	中田 裕康	富樫 敏夫	小濱 哲彦
世 田 谷	吉田 慶造	長谷部俊二、神田 隆直	石井 孝典、田中 教順	石井 孝典
玉 川	渡邊 嗣	蒔田 裕	齋藤 正之	齋藤 正之
豊 島	中山 行雄	岡野 裕之	山口 正之	鈴木あい子
滝 野 川	江口 淳一	江口 淳一	前川 俊介、故 山野井 修	小林 力
北	百瀬 保	百瀬 保	村上 義和	難波 竜児
荒 川	三浦みつ子	小形 浩司	荻原 栄和	荻原 栄和
板 橋	早川 龍	早川 龍、神林 秀昭	鈴木 勝、児玉 一成	石井 明
練 馬	望月 兵衛	望月 兵衛、河奈 文彦 箭本 治	金田 和彦、南 誠二 金澤 正彦	金田 和彦
西 多 摩	井上 雄温	井上 雄温、小澤 庄二	吉成 勝海、鏡 一郎	波多野敬二
多 摩	浅井 英夫	久保 雅幸	溝口 孝三	北村 新
八 王 子	渡邊 実	山内 英史、橋本 直樹 岡部 浩子	山田 幸英、横山 邦雄 氷見 元治	山田 幸英
町 田	澤 正宏	澤 正宏、咲間 義輝	石川 義洋、山田 潔	原田 洋好
府 中	杉田 廣己	高木栄太郎	平山 伸	矢代 譲治
三 鷹	竹下 敦	金子 純一	竹下 敦	竹下 敦
国 分 寺	杉谷 裕	鹿島 千佳	松井 典子	李 常信
東久留米	鈴木 普久	田口 耕平	宮寄 至洋	上升 康司
立 川	富野 俊彦	富野 俊彦	竹崎 秀人	伊東祐太郎
東 村 山	小西 勇人	小西 勇人	細野 正博	細野 正博
西 東 京	田中 大平	田中 大平	奥村 雅子	田中 大平
武 蔵 村 山	比留間修一	土方 靖夫	伊東 良之	伊東 良之
昭 島	村山 恒夫	松田 武彦	大谷 哲也	松尾 豊
調 布	杉本 明	弘中 玲子	澤 悦夫	佐藤 一人
清 瀬	島田 尚範	加藤 淳	倉田 琢哉	井植 温
東 大 和	竹下 晴久	竹下 晴久	大原 哲也	小川 善徳
狛 江	香田 忠正	松浦 康文	香田 忠正	塩谷 達昭
日 野	峯岸 大造	佐々木智史	高品 和哉	森田 高広

平成27年度

地 区	(参 事)	(代 議 員)	(予備代議員)	(学術委員)
麹 町	愛知 徹也	山林 豊	田中 久仁	奥蘭 卓也
神 田	船曳 光雄	今村昭二郎	甲斐 哲也	橋本 雅之
日 本 橋	中村 章生	大野 健	鹿野 久代	鹿野 久代
京 橋	今村純一郎	浜中 裕	今村純一郎	山田 隆久
港 区 芝	華岡 眞幸	華岡 眞幸	木村 充	斎藤 淳
麻 布 赤 坂	氏家 賢明	藤野 珥男	清水 浩一	朝倉健太郎
文 京	松原 真	土居 浩	高橋 健二	渡辺 文秀
下 谷	秋山 欣也	岩間 隆洋	脇野 仁	小野 潤
浅 草	久保 和彦	今村里千矢	小林てい子	品川 尚一
本 所	丸山 満博	丸山 満博	戸嶋 誠司	真下 裕道
向 島	三好 克則	高田 敬一	長澤 太郎	野村家 清
足 立	岡谷 進	片桐 博陽、岡谷 進 小倉 雅光	宮坂 和志、古庄 研策 仲谷 敦	平塚 武司
江 東	室伏 聡	室伏 聡、小川 伸子 幸阪 保雄	杉山日出樹、斉藤 秋人 一ッ子延大	斎藤 秋人
葛 飾	飯塚 務	飯塚 務、柳原 健司	嶋田 直季、古宮 秀記	古宮 秀紀
江 戸 川	阪上 泰彦	阪上 泰彦、伊能 暁 川野 浩一	金丸 充徳、宮山 英之 川口 安子	室岡 孝二
四 谷 牛 込	磯谷 亮	栗原 真人	松本 一彦	石川 雅朗
新 宿	星野 太一	星野 太一	佐藤 俊仁	福井 裕昌
澁 谷	坂本眞理子	長田 博史	伊藤 知周	齋藤 敬太
中 野	土田 和彦	横山いづみ	藤森 理	河合洋嗣人
杉 並	小川 学	小川 学、山崎 靖	若井 現、吉野 勝久	成田 文雄
品 川	丸山進一郎	丸山進一郎	竹内 正和	柴田 純弘
荏 原	米山 博己	寺岡 康利	井口 裕一	皆川 淳
目 黒	川井 洋一	川井 洋一	野村 良二	井上 崇
大 森	梅澤 宏亘	吉田 厚、村田 正夫	田沼 洋平、東 昇一	山村 慎二
蒲 田	小林 正幸	中田 裕康	富樫 敏夫	小濱 哲彦
世 田 谷	吉田 慶造	石井 孝典、神田 隆直	小森 幸道、田中 教順	高野 秀幸
玉 川	渡邊 嗣	蒔田 裕	齋藤 正之	齋藤 正之
豊 島	野口 賢治	中島 陽州	鈴木 章敬	柳澤 達雄
滝 野 川	江口 淳一	江口 淳一	前川 俊介	小林 力
北	百瀬 保	百瀬 保	難波 竜二	難波 竜児
荒 川	横井 伸洋	山岸 克彦	菊田 礼夫	荻原 栄和
板 橋	田中 進一	田中 進一、鈴木 勝	高橋 正行、氷見 育夫	中山 行夫
練 馬	草柳 英二	望月 兵衛、河奈 文彦 草柳 英二	金田 和彦、南 誠二	金田 和彦
西 多 摩	井上 雄温	井上 雄温、小澤 庄二	吉成 勝海、鏡 一郎	波多野敬二
多 摩	浅井 英夫	久保 雅幸	後藤伊都子	北村 新
八 王 子	渡邊 実	山内 英史、橋本 直樹 岡部 浩子	山田 幸英、横山 邦雄 氷見 元治	山田 幸英
町 田	澤 正宏	澤 正宏、咲間 義輝	石川 義洋、山田 潔	原田 洋好
府 中	野間 秀郎	高木栄太郎	矢代 譲治	桑田 徹
三 鷹	竹下 敦	金子 純一	竹下 敦	杉井 章子
国 分 寺	杉谷 祐	鹿島 千佳	松井 典子	神原 学
東 久 留 米	鈴木 普久	田口 耕平	宮寄 至洋	北村 晃
立 川	竹崎 秀人	伊東祐太郎	片岡 滋	勝沼 正明
東 村 山	小西 勇人	橋本 健一	小西 勇人	細野 正博
西 東 京	田中 大平	田中 大平	奥村 雅子	田中 大平
武 蔵 村 山	比留間修一	土方 靖夫	伊東 良之	伊東 良之
昭 島	村山 恒夫	松田 武彦	村山 恒夫	松尾 豊
調 布	矢野 章	矢野 章	宮木 了	古仙 芳樹
清 瀬	島田 尚範	加藤 淳	倉田 琢哉	井植 温
東 大 和	片山 均	小池 剛	片山 均	齋藤 寛
狛 江	香田 忠正	松浦 康文	香田 忠正	塩谷 達昭
日 野	峯岸 大造	佐々木智史	高品 和哉	森田 高広

平成28年度

地 区	(参 事)	(代 議 員)	(予備代議員)	(学術委員)
麹 町	愛知 徹也	山林 豊	田中 久仁	奥蘭 卓也
神 田	船曳 光雄	今村昭二郎	甲斐 哲也	橋本 雅之
日 本 橋	中村 章生	大野 健	吉成 伴夫	鹿野 久代
京 橋	中村 道	今村純一郎	大山 貴司	山田 隆久
港区 芝	華岡 眞幸	華岡 眞幸	木村 充	斎藤 淳
麻布赤坂	氏家 賢明	藤野 瑠男	清水 浩一	朝倉健太郎
文 京	土居 浩	高橋 健二	竹内 千恵	岩波 行紀
下 谷	秋山 欣也	岩間 隆洋	脇野 仁	小野 潤
浅 草	久保 和彦	今村里千矢	小林てい子	品川 尚一
本 所	丸山 満博	丸山 満博	戸嶋 誠司	真下 裕道
向 島	三好 克則	高田 敬一	長澤 太郎	野苺家 清
足 立	岡谷 進	片桐 博陽、岡谷 進 小倉 雅光	宮坂 和志、古庄 研策 仲谷 敦	平塚 武司
江 東	室伏 聡	室伏 聡、小川 伸子 幸阪 保雄	杉山日出樹、斉藤 秋人 一ッ子延大	斎藤 秋人
葛 飾	飯塚 務	飯塚 務、柳原 健司	嶋田 直季、古宮 秀記	古宮 秀紀
江 戸 川	伊能 暁	伊能 暁、菊池 康宏	金丸 充徳、宮山 英之 川口 安子	室岡 孝二
四谷牛込	磯谷 亮	栗原 眞人	松本 一彦	石川 雅朗
新 宿	星野 太一	星野 太一	佐藤 俊仁	福井 裕昌
渋谷 谷	長田 博史	長田 博史	風間 久徳	武田 康篤
中 野	土田 和彦	横山いづみ	中島 陽	藤巻 秀夫
杉 並	小川 学	小川 学、山崎 靖	若井 現、吉野 勝久	成田 文雄
品 川	丸山進一郎	竹内 正和	安部 光洋	東川 輝子
荏 原	米山 博己	寺岡 康利	和栗 範幸	皆川 淳
目 黒	川井 洋一	川井 洋一	野村 良二	井上 崇
大 森	梅澤 宏亘	吉田 厚、村田 正夫	田沼 洋平、東 昇一	山村 慎二
蒲 田	小林 正幸	中田 裕康	富樫 敏夫	小濱 哲彦
世 田 谷	吉田 慶造	石井 孝典、神田 隆直	小森 幸道、平山 順邦	平山 順邦
玉 川	渡邊 嗣	蒔田 裕	齋藤 正之	齋藤 正之
豊 島	野口 賢治	中島 陽州	鈴木 章敬	柳澤 達雄
滝 野 川	江口 淳一	江口 淳一	前川 俊介	小林 力
北	百瀬 保	百瀬 保	難波 竜児	難波 竜児
荒 川	横井 伸洋	山岸 克彦	菊田 礼夫	萩原 栄和
板 橋	田中 進一	田中 進一、鈴木 勝	高橋 正行、氷見 育夫	中山 行夫
練 馬	草柳 英二	望月 兵衛、河奈 文彦 草柳 英二	金田 和彦、南 誠二	金田 和彦
西 多 摩	井上 雄温	井上 雄温、吉成 勝海	大野 博文、鏡 一郎	波多野敬二
多 摩	浅井 英夫	久保 雅幸	後藤伊都子	北村 新
八 王 子	渡邊 実	山内 英史、橋本 直樹 岡部 浩子	山田 幸英、横山 邦雄 氷見 元治	山田 幸英
町 田	澤 正宏	澤 正宏、咲間 義輝	原田 洋好、今西 徹	原田 洋好
府 中	野間 秀郎	高木栄太郎	矢代 譲治	桑田 徹
三 鷹	竹下 敦	金子 純一	竹下 敦	杉井 章子
国 分 寺	杉谷 祐	鹿島 千佳	松井 典子	小玉 珠美
東久留米	鈴木 普久	田口 耕平	宮寄 至洋	北村 晃
立 川	竹崎 秀人	伊東祐太郎	片岡 滋	勝沼 正明
東 村 山	小西 勇人	橋本 健一	細野 正博	細野 正博
西 東 京	田中 大平	田中 大平	奥村 雅子→堀	田中 大平
武蔵村山	比留間修一	土方 靖夫	伊東 良之	伊東 良之
昭 島	村山 恒夫	松田 武彦	村山 恒夫	松尾 豊
調 布	矢野 章	矢野 章	宮木 了	古仙 芳樹
清 瀬	松村 猛	加藤 淳	倉田 琢哉	井植 温
東 大 和	内野 新平	田中 秀明	内野 新平	古瀬 健一
狛 江	塩谷 達昭	松浦 康文	長谷川 泰	塩谷 達昭
日 野	佐々木智史	内山 誠也	峯岸 大造	森田 高広

平成29年度

地 区	(参 事)	(代 議 員)	(予備代議員)	(学術委員)
麹 町	愛知 徹也	山林 豊	田中 久仁	奥蘭 卓也
神 田	今村昭二郎	加賀山文雄	甲斐 哲也	橋本 雅之
日 本 橋	吉成 伴夫	林 準治	金子 正利	二宮 健司
京 橋	中村 道	今村純一郎	大山 貴司	山田 隆久
港 区 芝	華岡 眞幸	華岡 眞幸	片倉 修	山中 秀
麻 布 赤 坂	清水 浩一	藤野 珥男	氏家 賢明	田島 一滋
文 京	土居 浩	高橋 健二	山田 敏弘	岩波 行紀
下 谷	秋山 欣也	岩間 隆洋	脇野 仁	小野 潤
浅 草	久保 和彦	今村里千矢	品川 尚一	小林てい子
本 所	丸山 満博	丸山 満博	戸嶋 誠司	真下 裕道
向 島	高田 敬一	高田 敬一	長澤 太郎	田口 清児
足 立	岡谷 進	片桐 博陽、岡谷 進 石渡 利幸	宮坂 和志、山本 隆章 仲谷 敦	平塚 武司
江 東	小川 伸子	杉山日出樹、小川 伸子 齋藤 秋人	植田 圭、若山 昭一 一ツ子延大	若山 昭一
葛 飾	飯塚 務	飯塚 務、嶋田 直季	古宮 秀記	古宮 秀紀
江 戸 川	伊能 暁	伊能 暁、菊池 康宏 川野 浩一	金丸 充徳、宮山 英之 川口 安子	室岡 孝二
四 谷 牛 込	磯谷 亮	松本 一彦	中西 宏之	石川 雅朗
新 宿	星野 太一	星野 太一	佐藤 俊仁	福井 裕昌
澁 谷	長田 博史	長田 博史	風間 久徳	武田 康篤
中 野	酒井 秀夫	松尾 公代	中島 陽	藤森 理
杉 並	山崎 靖	吉野 勝久、伊藤 公英	若井 現、小柳 達矢	成田 文雄
品 川	丸山進一郎	竹内 正和	安部 光洋	東川 輝子
荏 原	辛島 清史	和栗 範幸	土佐 重義	皆川 淳
目 黒	益山 純太	益山 純太	上保 基	杉江 弘
大 森	東 昇一	吉田 厚、村田 正夫	田沼 洋平、山村 慎二	倉治ななえ
蒲 田	小林 正幸	中田 裕康	富樫 敏夫	笹原 裕介
世 田 谷	伊奈 幹晃	石井 孝典、神田 隆直	伊奈 幹晃、平山 順邦	平山 順邦
玉 川	渡邊 嗣	蒔田 裕	齋藤 正之	齋藤 正之
豊 島	高草木 章	高 大松	伏見 茂	仙田 直樹
滝 野 川	江口 淳一	江口 淳一	前川 俊介	小林 力
北	渡邊 和仁	渡邊 和仁	難波 竜児	難波 竜児
荒 川	横井 伸洋	宮坂 芳弘	佐藤 節子	佐藤 節子
板 橋	中山 実	中山 実、鈴木 勝	吉野 友貴、氷見 育夫	中山 行夫
練 馬	草柳 英二	南 誠二、中田 郁平 草柳 英二	河奈 文彦、石井 伸行 名古屋昌宏	名古屋正宏
西 多 摩	井上 雄温	井上 雄温、吉成 勝海	大野 博文、鏡 一郎	波多野敬二
多 摩	浅井 英夫	久保 雅幸	後藤伊都子	北村 新
八 王 子	渡邊 実	山内 英史、橋本 直樹 岡部 浩子	山田 幸英、横山 邦雄 氷見 元治	今富 敦子
町 田	澤 正宏	澤 正宏、咲間 義輝	原田 洋好、今西 徹	原田 洋好
府 中	野間 秀郎	高木栄太郎	矢代 譲治	桑田 徹
三 鷹	堀 清貴	金子 純一	堀 清貴	杉井 章子
国 分 寺	島田 卓	鹿島 千佳	松井 典子	平出 光一
東 久 留 米	鈴木 普久	田口 耕平	宮寄 至洋	宮寄 至洋
立 川	竹崎 秀人	伊東祐太郎	勝沼 正明	勝沼 正明
東 村 山	小西 勇人	橋本 健一	細野 正博	細野 正博
西 東 京	田中 大平	田中 大平	堀 明宏	田中 大平
武 蔵 村 山	比留間修一	土方 靖夫	伊東 良之	伊東 良之
昭 島	村山 恒夫	松田 武彦	村山 恒夫	松尾 豊
調 布	小田切秀男	小田切秀男	時崎 照彦	中村 陽一
清 瀬	松村 猛	倉田 琢哉	加藤 淳	井植 温
東 大 和	山崎 康夫	深堀 正夫	山崎 康夫	与謝野 聡
狛 江	塩谷 達昭	松浦 康文	長谷川 泰	塩谷 達昭
日 野	佐々木智史	内山 誠也	峯岸 大造	森田 高広

平成30年度

地 区	(参 事)	(代 議 員)	(予備代議員)	(学術委員)
麹 町	愛知 徹也	山林 豊	田中 久仁	奥蘭 卓也
神 田	今村昭二郎	加賀山文雄	甲斐 哲也	橋本 雅之
日 本	吉成 伴夫	林 準治	金子 正利	二宮 健司
橋 本	中村 道	今村純一郎	大山 貴司	山中 隆久
芝 区	華岡 眞幸	華岡 眞幸	片倉 修	山中 秀
麻布赤坂	清水 浩一	藤野 珥男	氏家 賢明	田島 一滋
文 京	高橋 健二	竹内 千恵	渡辺 文秀	信森 道生
下 谷	秋山 欣也	岩間 隆洋	脇野 仁	高松 信博
浅 草	久保 和彦	今村里千矢	小林てい子	品川 尚一
本 所	丸山 満博	丸山 満博	戸嶋 誠司	真下 裕道
向 島	高田 敬一	高田 敬一	長澤 太郎	田口 清児
足 立	岡谷 進	岡谷 進、宮坂 和志 石渡 利幸	仲谷 敦、宮坂 和志 山本 隆章	平塚 武司
江 東	小川 伸子	小川 伸子、杉山日出樹 齋藤 秋人	一ッ子延大、半藤 有視 若山 昭一	若山 昭一
葛 飾	飯塚 務	飯塚 務、嶋田 直季	佐藤 浩一、高見 哲	氏家 久
江 戸 川	金丸 充徳	金丸 充徳、菊地 康宏 倉田 牧	室岡 孝二、宮山 英之 川野 浩一	森島 孔
四谷牛込	磯谷 亮	松本 一彦	中西 宏之	石川 雅朗
新 宿	星野 太一	星野 太一	佐藤 俊仁	福井 裕昌
渋谷 谷	長田 博史	長田 博史	風間 久徳	武田 康篤
中 野	酒井 秀夫	松尾 公代	小池 紳文	生原 直希
杉 並	山崎 靖	伊藤 公英、吉野 勝久	小柳 達矢、若井 現	成田 文雄
品 川	丸山進一郎	竹内 正和	安部 光洋	東川 輝子
荏 原	辛島 清史	和栗 範幸	土佐 重義	皆川 淳
目 黒	益山 純太	益山 純太	上保 基	杉江 弘
大 森	東 昇一	村田 正夫、吉田 厚	田沼 洋平、山村 慎二	倉治ななえ
蒲 田	小林 正幸	中田 裕康	富樫 敏夫	下田祐里江
世 田 谷	伊奈 幹晃	神田 隆直、石井 孝典	萩原 正秀、渡辺 一博	平山 順邦
玉 川	渡邊 嗣	蒔田 裕	齋藤 正之	齋藤 正之
豊 島	長田 英生	高 大松	伏見 茂	仙田 直樹
滝 野 川	江口 淳一	江口 淳一	前川 俊介	小林 力
北	渡邊 和仁	渡邊 和仁	難波 竜児	難波 竜児
荒 川	横井 伸洋	宮坂 芳弘	佐藤 節子	佐藤 節子
板 橋	中山 実	中山 実、鈴木 勝	吉野 友貴、氷見 育夫	中山 行夫
練 馬	草柳 英二	南 誠二、草柳 英二 中田 郁平	河奈 文彦、名古屋昌宏 石井 伸行	名古屋昌宏
西 多 摩	井上 雄温	井上 雄温、吉成 勝海	鏡 一郎	波多野敬二
多 摩	久保 雅幸	浅井 英夫	大野 博文、久保 雅幸	北村 新
八 王 子	渡邊 実	山内 英史、岡部 浩子 橋本 直樹	山田 幸英、横山 邦雄 氷見 元治	今富 敦子
町 田	澤 正宏	澤 正宏、咲間 義輝	依田 一峰、江原 佳奈	山口 夏央
府 中	野間 秀郎	高木栄太郎	矢代 譲治	桑田 徹
三 鷹	堀 清貴	金子 純一	堀 清貴	杉井 章子
国 分 寺	島田 卓	鹿島 千佳	松井 典子	平出 光一
東久留米	鈴木 普久	田口 耕平	上升 康司	宮崎 至洋
立 川	竹崎 秀人	伊東祐太郎	勝沼 正明	勝沼 正明
東 村 山	小西 勇人	橋本 健一	小西 勇人	細野 正博
西 東 京	田中 大平	田中 大平	堀 明宏	田中 大平
武蔵村山	比留間修一	土方 靖夫	伊東 良之	伊東 良之
昭 島	村山 恒夫	松田 武彦	村山 恒夫	松尾 豊
調 布	小田切秀男	小田切秀男	時崎 照彦	中村 陽一
清 瀬	松村 猛	倉田 琢哉	加藤 淳	井植 温
東 大 和	黒米 譲二	竹下 晴久	黒米 譲二	今井 恒夫
狛 江	塩谷 達昭	松浦 康文	長谷川 泰	塩谷 達昭
日 野	服部 保宏	木村 篤	森田 高広	森田 高広

7

学校保健統計



東京都の学校保健統計(平成21年度 DMFT)

平成21年4月～6月
DMFT 指数

		中 学 校 第 1 学 年											
		総 数				男 子				女 子			
		一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数
区 部		0.41	0.01	0.81	1.23	0.38	0.01	0.71	1.10	0.44	0.01	0.92	1.37
1	千代田区	0.10	0.00	0.23	0.33	0.10	0.00	0.16	0.26	0.11	0.00	0.30	0.41
2	中央区	0.11	0.00	0.38	0.49	0.13	0.00	0.20	0.32	0.10	0.00	0.61	0.70
3	港区	0.24	0.00	0.54	0.79	0.22	0.00	0.46	0.68	0.26	0.00	0.64	0.91
4	新宿区	0.40	0.02	0.97	1.39	0.42	0.02	0.89	1.32	0.39	0.02	1.06	1.46
5	文京区	0.31	0.00	0.93	1.24	0.36	0.01	0.69	1.05	0.26	0.00	1.22	1.48
6	台東区	0.51	0.00	0.50	1.01	0.54	0.00	0.45	0.99	0.48	0.01	0.55	1.04
7	墨田区	0.44	0.00	0.86	1.31	0.35	0.00	0.79	1.14	0.55	0.00	0.95	1.50
8	江東区	0.30	0.00	0.76	1.07	0.26	0.00	0.71	0.97	0.36	0.00	0.83	1.18
9	品川区	0.27	0.03	0.76	1.05	0.26	0.01	0.75	1.02	0.27	0.05	0.77	1.09
10	目黒区	0.25	0.00	1.03	1.28	0.22	0.00	0.93	1.15	0.29	0.00	1.15	1.45
11	大田区	0.55	0.02	0.90	1.47	0.50	0.02	0.77	1.29	0.62	0.02	1.06	1.70
12	世田谷区	0.31	0.05	0.77	1.13	0.26	0.04	0.66	0.97	0.37	0.06	0.90	1.33
13	渋谷区	0.52	0.01	0.95	1.48	0.45	0.00	0.84	1.30	0.59	0.03	1.07	1.69
14	中野区	0.17	0.01	0.78	0.97	0.19	0.01	0.80	1.01	0.15	0.01	0.76	0.92
15	杉並区	0.36	0.00	0.79	1.15	0.34	0.00	0.68	1.02	0.38	0.00	0.93	1.31
16	豊島区	0.27	0.01	0.73	1.02	0.26	0.00	0.72	0.98	0.29	0.02	0.74	1.05
17	北区	0.58	0.00	0.81	1.39	0.47	0.00	0.76	1.24	0.70	0.00	0.86	1.56
18	荒川区	0.28	0.01	0.97	1.25	0.19	0.01	0.84	1.04	0.38	0.00	1.11	1.50
19	板橋区	0.38	0.00	0.94	1.32	0.35	0.00	0.81	1.16	0.40	0.00	1.09	1.49
20	練馬区	0.35	0.01	0.69	1.04	0.33	0.01	0.54	0.88	0.37	0.01	0.84	1.22
21	足立区	0.58	0.00	0.93	1.51	0.56	0.00	0.82	1.38	0.60	0.00	1.05	1.65
22	葛飾区	0.53	0.03	0.69	1.26	0.51	0.04	0.60	1.15	0.55	0.03	0.79	1.37
23	江戸川区	0.43	0.00	0.83	1.27	0.44	0.00	0.73	1.17	0.42	0.00	0.95	1.37
市 部		0.46	0.01	0.83	1.29	0.43	0.00	0.73	1.17	0.49	0.01	0.94	1.43
24	八王子市	0.35	0.00	0.78	1.13	0.32	0.00	0.64	0.96	0.38	0.01	0.91	1.30
25	立川市	0.44	0.00	0.82	1.27	0.37	0.00	0.87	1.24	0.51	0.01	0.78	1.30
26	武蔵野市	0.68	0.00	0.90	1.58	0.73	0.00	0.83	1.56	0.62	0.00	0.97	1.59
27	三鷹市	0.42	0.01	0.85	1.28	0.43	0.01	0.80	1.24	0.41	0.01	0.91	1.33
28	青梅市	0.32	0.00	0.75	1.07	0.22	0.00	0.62	0.84	0.43	0.00	0.91	1.34
29	府中市	0.32	0.01	0.95	1.28	0.29	0.01	0.83	1.13	0.35	0.02	1.08	1.44
30	昭島市	0.43	0.00	0.71	1.13	0.35	0.00	0.60	0.95	0.50	0.00	0.82	1.31
31	調布市	0.56	0.03	0.69	1.28	0.52	0.02	0.64	1.18	0.61	0.04	0.75	1.40
32	町田市	0.44	0.00	0.82	1.27	0.40	0.00	0.77	1.18	0.49	0.00	0.88	1.37
33	小金井市	0.59	0.00	0.71	1.30	0.58	0.00	0.62	1.20	0.59	0.00	0.82	1.41
34	小平市	0.53	0.01	0.68	1.21	0.54	0.01	0.60	1.16	0.50	0.01	0.77	1.29
35	日野市	0.30	0.02	0.76	1.08	0.28	0.03	0.61	0.92	0.32	0.02	0.91	1.24
36	東村山市	0.61	0.01	0.67	1.29	0.44	0.01	0.67	1.11	0.80	0.01	0.68	1.49
37	国分寺市	0.26	0.00	0.79	1.05	0.29	0.00	0.79	1.08	0.23	0.00	0.79	1.02
38	国立市	0.28	0.00	1.19	1.48	0.23	0.00	1.06	1.29	0.34	0.00	1.34	1.68
39	福生市	0.20	0.00	0.47	0.67	0.18	0.00	0.28	0.47	0.22	0.00	0.69	0.91
40	狛江市	0.36	0.00	0.51	0.87	0.36	0.00	0.49	0.85	0.36	0.00	0.53	0.89
41	東大和市	0.62	0.02	1.26	1.90	0.53	0.01	1.13	1.67	0.72	0.02	1.39	2.13
42	清瀬市	0.53	0.00	0.72	1.24	0.66	0.00	0.58	1.25	0.37	0.00	0.86	1.24
43	東久留米市	0.92	0.00	0.99	1.92	0.96	0.00	0.82	1.78	0.88	0.00	1.17	2.06
44	武蔵村山市	0.85	0.00	1.56	2.42	0.74	0.00	1.42	2.16	0.96	0.00	1.72	2.68
45	多摩市	0.53	0.00	0.82	1.36	0.49	0.00	0.64	1.12	0.58	0.00	1.01	1.59
46	稲城市	0.55	0.01	0.91	1.47	0.56	0.01	0.80	1.37	0.53	0.01	1.05	1.59
47	羽村市	0.53	0.00	0.97	1.50	0.60	0.00	0.84	1.44	0.46	0.00	1.09	1.56
48	あきる野市	0.48	0.00	1.02	1.50	0.41	0.00	0.89	1.30	0.54	0.00	1.15	1.70
49	西東京市	0.45	0.00	0.84	1.29	0.45	0.00	0.74	1.19	0.44	0.00	0.96	1.41
郡 部		0.81	0.00	1.29	2.10	0.94	0.00	1.09	2.03	0.69	0.00	1.48	2.17
50	瑞穂町	0.73	0.00	1.15	1.88	1.04	0.00	1.01	2.06	0.45	0.00	1.28	1.73
51	日の出町	0.92	0.01	1.67	2.59	0.69	0.00	1.22	1.91	1.15	0.02	2.12	3.29
52	檜原村	0.73	0.00	1.41	2.14	0.55	0.00	1.00	1.55	0.91	0.00	1.82	2.73
53	奥多摩町	1.10	0.00	1.00	2.10	1.24	0.00	1.24	2.48	0.95	0.00	0.74	1.68
島 部		0.79	0.00	1.16	1.95	0.78	0.00	1.06	1.83	0.80	0.00	1.28	2.08
54	大島町	0.62	0.00	0.78	1.40	0.61	0.00	0.68	1.29	0.63	0.00	0.89	1.52
55	利島村	0.00	0.00	2.00	2.00	0.00	0.00	2.00	2.00	...	...	...	...
56	新島村	0.16	0.00	1.00	1.16	0.22	0.00	1.33	1.56	0.10	0.00	0.70	0.80
57	神津島村	0.81	0.00	1.94	2.75	0.80	0.00	2.90	3.70	0.83	0.00	0.33	1.17
58	三宅村	2.31	0.00	5.00	7.31	2.60	0.00	4.40	7.00	2.13	0.00	5.38	7.50
59	御蔵島村	0.33	0.00	0.67	1.00	0.50	0.00	1.00	1.50	0.00	0.00	0.00	0.00
60	八丈町	0.94	0.00	0.75	1.69	0.90	0.00	0.62	1.52	0.97	0.00	0.91	1.89
61	青ヶ島村	0.50	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00
62	小笠原村	0.31	0.00	0.94	1.25	0.44	0.00	0.11	0.56	0.14	0.00	2.00	2.14
都立中学校・中等 教育学校(前期課程)		0.31	0.00	0.61	0.93	0.20	0.00	0.54	0.74	0.42	0.00	0.67	1.10
東 京 都		0.43	0.01	0.82	1.26	0.40	0.01	0.72	1.13	0.46	0.01	0.93	1.40

東京都の学校保健統計(平成22年度 DMFT)

平成22年4月～6月
DMFT 指数

区 部		中 学 校 第 1 学 年											
		総 数				男 子				女 子			
		一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数
区 部		0.38	0.01	0.74	1.13	0.36	0.00	0.64	1.00	0.41	0.01	0.85	1.27
1	千代田区	0.14	0.01	0.24	0.39	0.11	0.01	0.15	0.26	0.18	0.01	0.34	0.53
2	中央区	0.24	0.00	0.71	0.95	0.18	0.00	0.46	0.64	0.30	0.00	1.01	1.31
3	港区	0.25	0.01	0.50	0.75	0.25	0.00	0.43	0.69	0.24	0.01	0.57	0.82
4	新宿区	0.46	0.02	0.87	1.35	0.44	0.03	0.80	1.27	0.48	0.02	0.97	1.46
5	文京区	0.33	0.00	0.86	1.20	0.31	0.00	0.75	1.06	0.35	0.01	1.01	1.37
6	台東区	0.34	0.00	0.57	0.92	0.42	0.00	0.47	0.88	0.27	0.00	0.68	0.95
7	墨田区	0.63	0.01	0.83	1.46	0.54	0.01	0.69	1.24	0.74	0.01	0.99	1.73
8	江東区	0.30	0.01	0.71	1.02	0.27	0.01	0.61	0.89	0.33	0.01	0.83	1.16
9	品川区	0.29	0.02	0.77	1.08	0.28	0.00	0.68	0.97	0.31	0.04	0.86	1.21
10	目黒区	0.20	0.03	0.95	1.18	0.20	0.03	0.90	1.12	0.21	0.02	1.02	1.25
11	大田区	0.48	0.01	0.83	1.32	0.42	0.00	0.73	1.15	0.55	0.01	0.95	1.51
12	世田谷区	0.27	0.03	0.71	1.01	0.24	0.02	0.63	0.89	0.31	0.05	0.80	1.16
13	渋谷区	0.37	0.00	0.73	1.10	0.36	0.00	0.61	0.97	0.39	0.00	0.87	1.25
14	中野区	0.33	0.01	0.93	1.26	0.35	0.01	1.00	1.36	0.30	0.00	0.86	1.15
15	杉並区	0.32	0.00	0.70	1.02	0.25	0.00	0.57	0.82	0.40	0.00	0.85	1.25
16	豊島区	0.24	0.00	0.77	1.01	0.23	0.00	0.60	0.83	0.25	0.00	0.93	1.19
17	北区	0.46	0.00	0.66	1.12	0.48	0.00	0.66	1.15	0.44	0.00	0.65	1.09
18	荒川区	0.37	0.00	0.78	1.15	0.26	0.00	0.64	0.90	0.50	0.00	0.93	1.43
19	板橋区	0.33	0.00	0.81	1.13	0.32	0.00	0.71	1.03	0.34	0.00	0.91	1.25
20	練馬区	0.33	0.00	0.67	1.00	0.32	0.00	0.52	0.84	0.35	0.00	0.84	1.19
21	足立区	0.41	0.00	0.80	1.22	0.42	0.00	0.69	1.11	0.41	0.00	0.93	1.34
22	葛飾区	0.54	0.00	0.67	1.21	0.49	0.00	0.56	1.05	0.60	0.00	0.79	1.39
23	江戸川区	0.45	0.00	0.71	1.16	0.43	0.00	0.63	1.06	0.48	0.00	0.80	1.28
市 部		0.45	0.00	0.82	1.27	0.42	0.00	0.72	1.15	0.48	0.00	0.91	1.40
24	八王子市	0.44	0.00	0.77	1.21	0.40	0.00	0.74	1.14	0.48	0.00	0.80	1.28
25	立川市	0.46	0.00	0.89	1.36	0.52	0.00	0.77	1.29	0.41	0.00	1.02	1.43
26	武蔵野市	0.52	0.00	0.77	1.30	0.48	0.00	0.69	1.17	0.57	0.00	0.88	1.45
27	三鷹市	0.44	0.00	0.69	1.13	0.46	0.00	0.67	1.14	0.41	0.00	0.71	1.12
28	青梅市	0.28	0.00	0.76	1.04	0.28	0.00	0.77	1.05	0.28	0.00	0.74	1.03
29	府中市	0.29	0.00	0.80	1.09	0.25	0.00	0.67	0.92	0.34	0.00	0.95	1.29
30	昭島市	0.43	0.00	0.64	1.07	0.41	0.00	0.63	1.04	0.45	0.01	0.65	1.10
31	調布市	0.38	0.00	0.70	1.08	0.35	0.00	0.63	0.98	0.42	0.00	0.79	1.20
32	町田市	0.45	0.00	0.84	1.29	0.40	0.00	0.70	1.10	0.50	0.00	0.98	1.48
33	小金井市	0.57	0.00	0.83	1.40	0.55	0.00	0.75	1.30	0.58	0.00	0.91	1.50
34	小平市	0.57	0.00	0.60	1.17	0.45	0.00	0.47	0.92	0.70	0.00	0.74	1.45
35	日野市	0.30	0.01	0.78	1.10	0.33	0.01	0.62	0.97	0.27	0.01	0.95	1.23
36	東村山市	0.87	0.00	0.66	1.53	0.74	0.00	0.59	1.33	1.01	0.00	0.73	1.74
37	国分寺市	0.26	0.00	0.71	0.97	0.25	0.00	0.57	0.82	0.26	0.00	0.89	1.15
38	国立市	0.45	0.00	1.14	1.58	0.41	0.00	1.24	1.65	0.49	0.00	1.03	1.52
39	福生市	0.15	0.00	0.56	0.70	0.16	0.00	0.43	0.59	0.13	0.00	0.71	0.84
40	狛江市	0.55	0.00	0.63	1.18	0.44	0.00	0.58	1.02	0.65	0.00	0.68	1.33
41	東大和市	0.45	0.00	1.00	1.45	0.46	0.00	1.00	1.46	0.44	0.01	1.00	1.44
42	清瀬市	0.54	0.00	0.53	1.07	0.66	0.00	0.55	1.21	0.42	0.00	0.52	0.93
43	東久留米市	0.53	0.00	0.97	1.49	0.42	0.00	0.77	1.19	0.64	0.00	1.17	1.80
44	武蔵村山市	0.80	0.02	1.44	2.26	0.87	0.02	1.32	2.21	0.74	0.01	1.56	2.30
45	多摩市	0.55	0.00	0.81	1.37	0.50	0.00	0.65	1.16	0.61	0.01	0.97	1.59
46	稲城市	0.54	0.01	1.09	1.63	0.46	0.00	1.01	1.47	0.62	0.01	1.19	1.82
47	羽村市	0.33	0.00	1.14	1.47	0.30	0.00	0.84	1.13	0.37	0.00	1.45	1.83
48	あきる野市	0.47	0.00	1.13	1.60	0.45	0.00	0.90	1.35	0.50	0.00	1.35	1.86
49	西東京市	0.33	0.00	0.90	1.23	0.37	0.00	0.85	1.22	0.28	0.00	0.96	1.24
郡 部		1.05	0.00	1.35	2.40	0.67	0.00	1.04	1.72	1.47	0.00	1.67	3.14
50	瑞穂町	1.11	0.01	1.26	2.37	0.62	0.01	0.96	1.59	1.62	0.01	1.57	3.20
51	日の出町	0.98	0.00	1.67	2.65	0.66	0.00	1.43	2.09	1.33	0.00	1.92	3.25
52	檜原村	1.18	0.00	1.18	2.36	0.83	0.00	1.50	2.33	1.60	0.00	0.80	2.40
53	奥多摩町	0.76	0.00	1.22	1.97	1.05	0.00	0.50	1.55	0.41	0.00	2.06	2.47
島 部		0.60	0.00	0.95	1.56	0.55	0.00	0.85	1.40	0.67	0.00	1.08	1.76
54	大島町	0.90	0.00	0.77	1.67	0.86	0.00	0.46	1.32	0.96	0.00	1.13	2.08
55	利島村	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
56	新島村	0.40	0.00	0.80	1.20	0.47	0.00	0.67	1.13	0.20	0.00	1.20	1.40
57	神津島村	0.00	0.00	0.37	0.37	0.00	0.00	0.30	0.30	0.00	0.00	0.44	0.44
58	三宅村	1.00	0.00	2.44	3.44	0.00	0.00	2.20	2.20	2.25	0.00	2.75	5.00
59	御蔵島村	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
60	八丈町	0.85	0.00	1.29	2.14	0.90	0.00	1.40	2.30	0.79	0.00	1.17	1.97
61	青ヶ島村	0.00	0.00	0.25	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.50
62	小笠原村	0.15	0.00	0.93	1.07	0.13	0.00	0.94	1.06	0.18	0.00	0.91	1.09
都立中学校・中等 教育学校(前期課程)		0.26	0.00	0.62	0.89	0.16	0.01	0.55	0.71	0.36	0.00	0.69	1.05
東 京 都		0.41	0.00	0.77	1.19	0.38	0.00	0.67	1.06	0.45	0.01	0.88	1.33

東京都の学校保健統計(平成23年度 DMFT)

平成23年 4月～6月
DMFT 指数

		中 学 校 第 1 学 年											
		総 数				男 子				女 子			
		一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数
区 部		0.33	0.01	0.72	1.06	0.30	0.01	0.64	0.94	0.37	0.01	0.82	1.20
1	千代田区	0.28	0.00	0.35	0.62	0.19	0.00	0.20	0.39	0.38	0.00	0.51	0.88
2	中央区	0.19	0.00	0.58	0.77	0.18	0.00	0.41	0.59	0.21	0.00	0.78	0.98
3	港区	0.25	0.00	0.70	0.95	0.28	0.00	0.64	0.92		0.01	0.78	0.99
4	新宿区	0.34	0.03	0.71	1.08	0.29	0.04	0.65	0.98	0.39	0.03	0.77	1.20
5	文京区	0.24	0.00	0.78	1.02	0.22	0.00	0.72	0.93	0.27	0.00	0.86	1.12
6	台東区	0.22	0.02	0.45	0.69	0.23	0.02	0.35	0.60	0.21	0.01	0.57	0.80
7	墨田区	0.37	0.01	0.71	1.09	0.41	0.00	0.66	1.07	0.32	0.02	0.77	1.12
8	江東区	0.25	0.00	0.73	0.98	0.25	0.00	0.67	0.92	0.25	0.01	0.80	1.05
9	品川区	0.27	0.00	0.63	0.90	0.27	0.00	0.59	0.87	0.27	0.00	0.67	0.94
10	目黒区	0.26	0.01	0.73	1.01	0.25	0.01	0.56	0.81	0.28	0.02	0.96	1.26
11	大田区	0.53	0.01	0.79	1.33	0.47	0.01	0.68	1.16	0.60	0.02	0.90	1.52
12	世田谷区	0.21	0.02	0.62	0.85	0.19	0.02	0.54	0.74	0.24	0.04	0.71	0.98
13	渋谷区	0.22	0.00	1.02	1.24	0.21	0.00	1.03	1.24	0.23	0.00	1.00	1.23
14	中野区	0.28	0.01	0.68	0.97	0.30	0.00	0.64	0.94	0.25	0.01	0.74	1.00
15	杉並区	0.33	0.01	0.67	1.00	0.28	0.00	0.61	0.89	0.38	0.01	0.74	1.13
16	豊島区	0.24	0.00	0.72	0.96	0.18	0.00	0.59	0.77	0.31	0.00	0.86	1.17
17	北区	0.30	0.01	0.65	0.96	0.27	0.02	0.57	0.85	0.34	0.00	0.74	1.08
18	荒川区	0.33	0.01	0.98	1.32	0.31	0.01	0.78	1.10	0.36	0.00	1.22	1.58
19	板橋区	0.27	0.01	0.75	1.02	0.26	0.00	0.71	0.97	0.28	0.01	0.79	1.08
20	練馬区	0.29	0.00	0.79	1.09	0.27	0.00	0.64	0.92	0.32	0.00	0.95	1.27
21	足立区	0.32	0.01	0.75	1.08	0.27	0.00	0.65	0.92	0.38	0.01	0.86	1.25
22	葛飾区	0.52	0.00	0.66	1.18	0.47	0.00	0.59	1.06	0.57	0.00	0.74	1.32
23	江戸川区	0.41	0.00	0.76	1.17	0.35	0.00	0.69	1.05	0.47	0.00	0.83	1.30
市 部		0.42	0.00	0.78	1.20	0.39	0.00	0.69	1.09	0.44	0.01	0.87	1.31
24	八王子市	0.43	0.00	0.78	1.20	0.39	0.00	0.70	1.09	0.47	0.00	0.86	1.32
25	立川市	0.42	0.01	0.92	1.35	0.40	0.01	0.74	1.15	0.44	0.00	1.11	1.56
26	武蔵野市	0.32	0.03	0.84	1.20	0.32	0.00	0.72	1.04	0.32	0.07	1.00	1.39
27	三鷹市	0.31	0.01	0.72	1.04	0.32	0.01	0.71	1.03	0.30	0.01	0.74	1.05
28	青梅市	0.24	0.00	0.77	1.01	0.23	0.00	0.67	0.90	0.26	0.00	0.87	1.12
29	府中市	0.38	0.01	0.75	1.14	0.31	0.01	0.60	0.91	0.47	0.01	0.93	1.41
30	昭島市	0.38	0.00	0.56	0.95	0.42	0.00	0.52	0.94	0.34	0.00	0.61	0.95
31	調布市	0.42	0.00	0.50	0.92	0.39	0.00	0.42	0.82	0.44	0.00	0.59	1.03
32	町田市	0.42	0.00	0.74	1.17	0.37	0.00	0.67	1.04	0.49	0.00	0.82	1.30
33	小金井市	0.45	0.00	0.72	1.17	0.48	0.00	0.64	1.12	0.43	0.00	0.81	1.24
34	小平市	0.47	0.01	0.75	1.22	0.43	0.01	0.66	1.10	0.50	0.00	0.85	1.35
35	日野市	0.26	0.00	0.64	0.91	0.25	0.00	0.61	0.87	0.27	0.01	0.66	0.94
36	東村山市	0.76	0.03	0.55	1.33	0.71	0.02	0.42	1.15	0.80	0.03	0.69	1.53
37	国分寺市	0.61	0.00	1.06	1.67	0.57	0.00	0.92	1.49	0.67	0.00	1.25	1.91
38	国立市	0.47	0.01	1.25	1.73	0.38	0.01	1.18	1.57	0.58	0.02	1.33	1.93
39	福生市	0.29	0.00	0.58	0.88	0.34	0.00	0.56	0.90	0.23	0.00	0.62	0.85
40	狛江市	0.23	0.00	0.54	0.77	0.22	0.00	0.50	0.73	0.24	0.00	0.59	0.83
41	東大和市	0.50	0.00	1.19	1.69	0.54	0.00	0.94	1.48	0.47	0.00	1.44	1.91
42	清瀬市	0.53	0.01	0.55	1.08	0.61	0.00	0.55	1.17	0.44	0.01	0.54	0.99
43	東久留米市	0.49	0.00	0.92	1.42	0.53	0.00	0.90	1.42	0.46	0.00	0.95	1.41
44	武蔵村山市	0.37	0.00	1.14	1.51	0.37	0.00	1.05	1.42	0.37	0.00	1.22	1.59
45	多摩市	0.33	0.00	0.68	1.01	0.36	0.00	0.57	0.92	0.30	0.00	0.79	1.09
46	稲城市	0.52	0.01	0.95	1.47	0.43	0.01	0.88	1.32	0.62	0.01	1.02	1.64
47	羽村市	0.24	0.01	0.92	1.17	0.28	0.01	0.90	1.20	0.19	0.01	0.94	1.13
48	あきる野市	0.42	0.00	1.17	1.59	0.46	0.00	1.01	1.46	0.38	0.01	1.35	1.73
49	西東京市	0.41	0.00	0.71	1.13	0.33	0.00	0.65	0.98	0.50	0.00	0.78	1.28
郡 部		0.74	0.02	1.14	1.89	0.43	0.00	1.13	1.56	1.04	0.03	1.14	2.22
50	瑞穂町	0.70	0.02	1.18	1.90	0.41	0.00	1.24	1.66	0.96	0.05	1.12	2.13
51	日の出町	0.99	0.00	1.15	2.14	0.55	0.00	1.05	1.59	1.44	0.00	1.25	2.70
52	檜原村	0.93	0.00	0.80	1.73	0.63	0.00	1.13	1.75	1.29	0.00	0.43	1.71
53	奥多摩町	0.03	0.00	0.84	0.87	0.06	0.00	0.50	0.56	0.00	0.00	1.31	1.31
島 部		0.49	0.00	0.87	1.36	0.50	0.00	0.85	1.36	0.46	0.00	0.89	1.35
54	大島町	0.49	0.00	1.00	1.49	0.64	0.00	0.95	1.59	0.32	0.00	1.05	1.38
55	利島村	0.00	0.00	0.50	0.50	0.00	0.00	0.50	0.50	...	...	...	...
56	新島村	0.32	0.00	0.21	0.53	0.00	0.00	0.13	0.13	0.55	0.00	0.27	0.82
57	神津島村	0.50	0.00	1.33	1.83	0.78	0.00	1.56	2.33	0.22	0.00	1.11	1.33
58	三宅村	0.85	0.00	1.54	2.38	0.56	0.00	2.11	2.67	1.50	0.00	0.25	1.75
59	御蔵島村	0.00	0.00	2.00	2.00	0.00	0.00	1.50	1.50	0.00	0.00	3.00	3.00
60	八丈町	0.60	0.00	0.81	1.41	0.60	0.00	0.66	1.26	0.61	0.00	1.00	1.61
61	青ヶ島村	0.33	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.50
62	小笠原村	0.16	0.00	0.32	0.47	0.08	0.00	0.17	0.25	0.29	0.00	0.57	0.86
都立中学校・中等 教育学校(前期課程)		0.20	0.00	0.49	0.69	0.19	0.00	0.49	0.68	0.21	0.00	0.50	0.71
東 京 都		0.37	0.01	0.74	1.11	0.34	0.00	0.66	1.00	0.40	0.01	0.83	1.24

東京都の学校保健統計(平成24年度 DMFT)

平成24年4月～6月
DMFT 指数

区 部		中 学 校 第 1 学 年											
		総 数				男 子				女 子			
		一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数
区 部		0.31	0.01	0.64	0.96	0.28	0.01	0.57	0.86	0.33	0.01	0.73	1.07
1	千代田区	0.11	0.00	0.69	0.81	0.12	0.1	0.72	0.84	0.10	0.00	0.67	0.77
2	中央区	0.18	0.00	0.27	0.44	0.18	0.00	0.15	0.33	0.17	0.00	0.37	0.54
3	港区	0.20	0.01	0.33	0.54	0.17	0.01	0.31	0.49	0.24	0.00	0.35	0.60
4	新宿区	0.34	0.02	0.80	1.16	0.28	0.01	0.68	0.96	0.42	0.02	0.93	1.38
5	文京区	0.24	0.00	0.74	0.99	0.24	0.00	0.64	0.88	0.24	0.00	0.87	1.12
6	台東区	0.16	0.02	0.42	0.60	0.16	0.02	0.37	0.55	0.15	0.02	0.49	0.66
7	墨田区	0.35	0.01	0.78	1.15	0.28	0.01	0.73	1.02	0.42	0.02	0.84	1.28
8	江東区	0.22	0.01	0.60	0.83	0.23	0.01	0.55	0.79	0.21	0.01	0.64	0.87
9	品川区	0.29	0.00	0.51	0.80	0.28	0.01	0.41	0.69	0.30	0.00	0.63	0.93
10	目黒区	0.21	0.02	0.60	0.83	0.21	0.02	0.47	0.71	0.21	0.01	0.76	0.98
11	大田区	0.41	0.01	0.65	1.08	0.38	0.01	0.59	0.99	0.45	0.02	0.72	1.19
12	世田谷区	0.20	0.02	0.65	0.88	0.20	0.01	0.54	0.75	0.21	0.03	0.79	1.04
13	渋谷区	0.31	0.01	0.68	1.00	0.29	0.00	0.58	0.87	0.34	0.01	0.81	1.16
14	中野区	0.26	0.00	0.65	0.92	0.27	0.01	0.59	0.87	0.26	0.00	0.72	0.98
15	杉並区	0.25	0.00	0.59	0.85	0.24	0.00	0.56	0.80	0.27	0.00	0.63	0.91
16	豊島区	0.15	0.00	0.57	0.73	0.20	0.00	0.46	0.67	0.10	0.00	0.69	0.79
17	北区	0.26	0.01	0.57	0.85	0.24	0.02	0.55	0.80	0.29	0.01	0.60	0.90
18	荒川区	0.29	0.01	0.73	1.03	0.26	0.01	0.72	0.99	0.32	0.00	0.74	1.07
19	板橋区	0.27	0.01	0.74	1.03	0.22	0.01	0.64	0.88	0.32	0.02	0.85	1.19
20	練馬区	0.29	0.00	0.80	1.09	0.27	0.00	0.66	0.93	0.31	0.00	0.96	1.26
21	足立区	0.30	0.01	0.72	1.03	0.29	0.01	0.68	0.98	0.31	0.00	0.77	1.08
22	葛飾区	0.56	0.00	0.55	1.11	0.50	0.00	0.51	1.00	0.62	0.01	0.60	1.23
23	江戸川区	0.38	0.00	0.56	0.94	0.34	0.00	0.49	0.82	0.43	0.00	0.63	1.06
市 部		0.38	0.00	0.75	1.13	0.37	0.00	0.68	1.06	0.38	0.00	0.83	1.21
24	八王子市	0.37	0.00	0.75	1.13	0.36	0.00	0.68	1.04	0.38	0.00	0.83	1.22
25	立川市	0.38	0.01	0.88	1.28	0.35	0.01	0.80	1.16	0.42	0.01	0.97	1.40
26	武蔵野市	0.29	0.05	0.69	1.02	0.25	0.04	0.64	0.94	0.33	0.05	0.74	1.12
27	三鷹市	0.27	0.01	0.61	0.89	0.35	0.01	0.59	0.94	0.16	0.01	0.65	0.81
28	青梅市	0.25	0.00	0.71	0.95	0.23	0.00	0.58	0.81	0.27	0.00	0.85	1.12
29	府中市	0.25	0.00	0.71	0.96	0.26	0.00	0.69	0.95	0.23	0.00	0.74	0.97
30	昭島市	0.45	0.00	0.65	1.10	0.53	0.00	0.68	1.21	0.36	0.00	0.62	0.98
31	調布市	0.35	0.00	0.59	0.94	0.37	0.00	0.60	0.97	0.32	0.00	0.58	0.90
32	町田市	0.37	0.00	0.66	1.03	0.36	0.00	0.58	0.94	0.39	0.00	0.73	1.12
33	小金井市	0.39	0.00	0.72	1.11	0.40	0.00	0.76	1.16	0.37	0.01	0.67	1.05
34	小平市	0.34	0.02	0.91	1.27	0.31	0.01	0.75	1.08	0.38	0.03	1.11	1.52
35	日野市	0.21	0.01	0.57	0.80	0.17	0.01	0.52	0.70	0.26	0.02	0.63	0.91
36	東村山市	0.79	0.00	0.57	1.36	0.80	0.00	0.50	1.31	0.78	0.00	0.65	1.43
37	国分寺市	0.39	0.00	0.81	1.20	0.38	0.00	0.71	1.10	0.40	0.00	0.91	1.31
38	国立市	0.49	0.00	1.18	1.67	0.32	0.00	0.95	1.27	0.70	0.00	1.47	2.17
39	福生市	0.19	0.01	0.41	0.61	0.13	0.01	0.32	0.46	0.25	0.01	0.52	0.79
40	狛江市	0.45	0.00	0.72	1.18	0.42	0.00	0.51	0.93	0.49	0.00	0.95	1.43
41	東大和市	0.56	0.00	0.98	1.53	0.56	0.00	0.85	1.42	0.55	0.00	1.10	1.65
42	清瀬市	0.42	0.00	0.53	0.95	0.37	0.00	0.48	0.86	0.46	0.00	0.58	1.03
43	東久留米市	0.65	0.00	0.96	1.61	0.54	0.00	0.83	1.37	0.77	0.00	1.11	1.89
44	武蔵村山市	0.38	0.00	1.10	1.48	0.37	0.00	1.22	1.59	0.38	0.00	0.98	1.36
45	多摩市	0.35	0.00	0.62	0.97	0.39	0.00	0.65	1.04	0.31	0.00	0.59	0.90
46	稲城市	0.52	0.00	1.02	1.54	0.55	0.00	0.85	1.40	0.48	0.00	1.22	1.70
47	羽村市	0.22	0.00	0.71	0.93	0.24	0.00	0.53	0.77	0.20	0.00	0.88	1.08
48	あきる野市	0.38	0.00	1.13	1.51	0.48	0.00	1.05	1.53	0.28	0.00	1.20	1.48
49	西東京市	0.32	0.00	0.83	1.15	0.37	0.00	0.68	1.05	0.26	0.00	1.01	1.27
郡 部		0.81	0.00	0.95	1.76	0.63	0.00	0.85	1.48	1.01	0.00	1.06	2.08
50	瑞穂町	0.70	0.00	1.03	1.72	0.49	0.00	0.98	1.47	0.91	0.00	1.08	1.99
51	日の出町	1.23	0.01	0.96	2.21	1.10	0.00	0.69	1.79	1.41	0.02	1.31	2.73
52	檜原村	0.93	0.00	0.21	1.14	0.43	0.00	0.29	0.71	1.43	0.00	0.14	1.57
53	奥多摩町	0.26	0.00	0.30	0.57	0.21	0.00	0.43	0.64	0.33	0.00	0.11	0.44
島 部		0.60	0.01	0.91	1.51	0.62	0.00	0.73	1.35	0.56	0.01	1.12	1.69
54	大島町	1.11	0.00	0.63	1.74	1.45	0.00	0.64	2.09	0.72	0.00	0.62	1.34
55	利島村	0.00	0.00	0.50	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00
56	新島村	0.35	0.00	1.04	1.39	0.29	0.00	0.79	1.07	0.44	0.00	1.44	1.89
57	神津島村	0.41	0.00	1.27	1.66	0.15	0.00	1.31	1.46	0.78	0.00	1.22	2.00
58	三宅村	1.38	0.00	1.62	3.00	0.83	0.00	2.0	2.83	1.86	0.00	1.29	3.14
59	御蔵島村	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
60	八丈町	0.27	0.02	1.06	1.35	0.29	0.00	0.46	0.75	0.26	0.04	1.59	1.89
61	青ヶ島村	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
62	小笠原村	0.05	0.00	0.79	0.84	0.00	0.00	0.50	0.50	0.11	0.00	1.11	1.22
都立中学校・中等 教育学校(前期課程)		0.20	0.00	0.44	0.65	0.14	0.00	0.41	0.54	0.27	0.00	0.48	0.75
東 京 都		0.34	0.01	0.68	1.03	0.32	0.01	0.61	0.94	0.35	0.01	0.76	1.13

東京都の学校保健統計(平成25年度 DMFT)

平成25年4月～6月
DMFT指数

		中 学 校 第 1 学 年											
		総 数				男 子				女 子			
		一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数
区 部		0.28	0.01	0.58	0.88	0.26	0.01	0.52	0.79	0.32	0.01	0.65	0.98
1	千代田区	0.13	0.00	0.33	0.46	0.09	0.00	0.34	0.43	0.17	0.00	0.33	0.50
2	中央区	0.08	0.02	0.33	0.43	0.06	0.03	0.24	0.34	0.10	0.00	0.46	0.56
3	港区	0.11	0.02	0.37	0.50	0.13	0.02	0.38	0.54	0.10	0.01	0.35	0.46
4	新宿区	0.35	0.01	0.56	0.93	0.32	0.02	0.57	0.92	0.38	0.00	0.55	0.94
5	文京区	0.21	0.01	0.63	0.86	0.18	0.01	0.55	0.75	0.25	0.02	0.73	0.99
6	台東区	0.11	0.03	0.37	0.51	0.12	0.02	0.29	0.44	0.10	0.04	0.45	0.59
7	墨田区	0.35	0.00	0.69	1.04	0.32	0.00	0.59	0.91	0.38	0.00	0.79	1.17
8	江東区	0.22	0.01	0.53	0.76	0.21	0.01	0.45	0.66	0.24	0.01	0.63	0.88
9	品川区	0.22	0.01	0.50	0.73	0.19	0.01	0.40	0.59	0.25	0.02	0.62	0.89
10	目黒区	0.21	0.02	0.50	0.73	0.22	0.02	0.49	0.73	0.20	0.02	0.52	0.74
11	大田区	0.39	0.02	0.61	1.01	0.34	0.01	0.53	0.88	0.44	0.02	0.70	1.16
12	世田谷区	0.18	0.03	0.52	0.73	0.17	0.02	0.45	0.64	0.20	0.04	0.60	0.83
13	渋谷区	0.27	0.00	0.78	1.05	0.26	0.00	0.95	1.20	0.28	0.00	0.56	0.84
14	中野区	0.31	0.01	0.75	1.06	0.34	0.02	0.89	1.25	0.27	0.00	0.59	0.86
15	杉並区	0.26	0.00	0.60	0.87	0.27	0.00	0.55	0.82	0.26	0.00	0.66	0.92
16	豊島区	0.20	0.00	0.60	0.80	0.19	0.00	0.58	0.77	0.21	0.00	0.63	0.84
17	北区	0.27	0.02	0.60	0.89	0.24	0.01	0.50	0.76	0.31	0.02	0.72	1.05
18	荒川区	0.23	0.01	0.64	0.88	0.20	0.01	0.58	0.79	0.27	0.01	0.70	0.97
19	板橋区	0.19	0.00	0.66	0.85	0.16	0.00	0.59	0.75	0.23	0.00	0.74	0.96
20	練馬区	0.28	0.00	0.72	1.01	0.29	0.00	0.63	0.92	0.27	0.00	0.82	1.10
21	足立区	0.34	0.00	0.58	0.93	0.27	0.00	0.53	0.80	0.43	0.01	0.64	1.08
22	葛飾区	0.46	0.03	0.56	1.05	0.44	0.02	0.52	0.98	0.47	0.05	0.59	1.11
23	江戸川区	0.34	0.00	0.51	0.85	0.28	0.00	0.43	0.72	0.39	0.00	0.59	0.99
市 部		0.34	0.01	0.66	1.00	0.34	0.01	0.60	0.94	0.34	0.01	0.72	1.07
24	八王子市	0.30	0.00	0.63	0.93	0.30	0.00	0.55	0.86	0.30	0.00	0.70	1.01
25	立川市	0.35	0.01	0.76	1.12	0.38	0.02	0.62	1.01	0.31	0.01	0.91	1.24
26	武蔵野市	0.39	0.04	0.61	1.05	0.34	0.04	0.57	0.94	0.47	0.03	0.68	1.18
27	三鷹市	0.32	0.01	0.71	1.04	0.36	0.01	0.67	1.04	0.28	0.01	0.76	1.05
28	青梅市	0.24	0.00	0.60	0.84	0.21	0.00	0.59	0.80	0.26	0.00	0.62	0.88
29	府中市	0.24	0.01	0.61	0.86	0.27	0.01	0.60	0.87	0.21	0.01	0.62	0.84
30	昭島市	0.27	0.00	0.60	0.87	0.30	0.00	0.59	0.89	0.23	0.00	0.61	0.84
31	調布市	0.33	0.01	0.62	0.97	0.39	0.01	0.52	0.91	0.27	0.02	0.74	1.03
32	町田市	0.38	0.00	0.65	1.03	0.38	0.00	0.59	0.97	0.39	0.00	0.71	1.10
33	小金井市	0.38	0.01	0.63	1.01	0.32	0.00	0.52	0.85	0.44	0.01	0.74	1.19
34	小平市	0.39	0.01	0.78	1.17	0.32	0.01	0.73	1.06	0.46	0.00	0.83	1.29
35	日野市	0.14	0.02	0.42	0.58	0.13	0.01	0.40	0.55	0.14	0.03	0.44	0.61
36	東村山市	0.74	0.01	0.49	1.23	0.70	0.01	0.39	1.09	0.78	0.01	0.60	1.39
37	国分寺市	0.32	0.00	0.63	0.95	0.30	0.00	0.53	0.83	0.35	0.00	0.74	1.08
38	国立市	0.29	0.01	0.83	1.13	0.27	0.01	0.66	0.95	0.30	0.00	1.01	1.31
39	福生市	0.22	0.02	0.27	0.51	0.24	0.01	0.25	0.50	0.19	0.02	0.30	0.51
40	狛江市	0.38	0.00	0.79	1.18	0.30	0.01	0.70	1.01	0.48	0.00	0.91	1.39
41	東大和市	0.48	0.00	0.73	1.21	0.48	0.00	0.71	1.19	0.49	0.00	0.75	1.24
42	清瀬市	0.38	0.00	0.64	1.03	0.38	0.00	0.64	1.02	0.39	0.00	0.65	1.04
43	東久留米市	0.45	0.00	0.86	1.31	0.51	0.00	0.95	1.46	0.40	0.00	0.78	1.18
44	武蔵村山市	0.48	0.02	0.91	1.41	0.40	0.01	0.85	1.25	0.56	0.04	0.97	1.56
45	多摩市	0.22	0.00	0.57	0.79	0.24	0.00	0.49	0.73	0.20	0.00	0.66	0.86
46	稲城市	0.40	0.00	0.85	1.24	0.39	0.00	0.73	1.12	0.40	0.00	0.97	1.37
47	羽村市	0.11	0.00	0.64	0.75	0.13	0.00	0.65	0.78	0.10	0.00	0.62	0.72
48	あきる野市	0.44	0.00	1.05	1.50	0.42	0.00	0.96	1.37	0.47	0.00	1.17	1.64
49	西東京市	0.26	0.00	0.70	0.96	0.29	0.00	0.65	0.94	0.22	0.00	0.76	0.98
郡 部		0.68	0.00	1.00	1.68	0.55	0.00	0.86	1.42	0.82	0.00	1.15	1.98
50	瑞穂町	0.69	0.00	1.06	1.75	0.67	0.00	0.98	1.65	0.71	0.00	1.17	1.87
51	日の出町	0.67	0.00	0.81	1.48	0.28	0.00	0.57	0.85	1.05	0.00	1.05	2.10
52	檜原村	1.42	0.00	2.08	3.50	0.50	0.00	0.67	1.17	2.33	0.00	3.50	5.83
53	奥多摩町	0.23	0.00	0.69	0.92	0.29	0.00	0.93	1.21	0.17	0.00	0.42	0.58
島 部		0.46	0.00	0.98	1.44	0.52	0.00	0.99	1.51	0.41	0.00	0.96	1.38
54	大島町	0.50	0.00	1.11	1.61	0.66	0.00	1.19	1.84	0.37	0.00	1.05	1.42
55	利島村	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	...	...	...	...
56	新島村	0.33	0.00	0.20	0.53	0.83	0.00	0.50	1.33	0.00	0.00	0.00	0.00
57	神津島村	0.28	0.00	0.33	0.61	0.10	0.00	0.40	0.50	0.50	0.00	0.25	0.75
58	三宅村	0.43	0.00	0.93	1.36	0.75	0.00	1.25	2.00	0.00	0.00	0.50	0.50
59	御蔵島村	0.50	0.00	1.83	2.33	0.00	0.00	1.67	1.67	1.00	0.00	2.00	3.00
60	八丈町	0.60	0.00	1.19	1.79	0.63	0.00	1.08	1.71	0.59	0.00	1.26	1.85
61	青ヶ島村	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
62	小笠原村	0.29	0.00	0.92	1.21	0.23	0.00	0.85	1.08	0.36	0.00	1.00	1.36
都立中学校・中等 教育学校(前期課程)		0.11	0.00	0.40	0.51	0.10	0.00	0.39	0.49	0.13	0.00	0.40	0.53
東 京 都		0.31	0.01	0.61	0.93	0.29	0.01	0.55	0.85	0.32	0.01	0.68	1.01

東京都の学校保健統計(平成26年度 DMFT)

平成26年4月～6月
DMFT 指数

区 部		中 学 校 第 1 学 年											
		総 数				男 子				女 子			
		一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数
区 部		0.27	0.01	0.56	0.85	0.25	0.01	0.49	0.75	0.30	0.01	0.64	0.95
1	千代田区	0.14	0.00	0.56	0.70	0.12	0.00	0.45	0.58	0.15	0.00	0.68	0.83
2	中央区	0.14	0.00	0.24	0.39	0.15	0.01	0.21	0.37	0.14	0.00	0.27	0.41
3	港区	0.12	0.01	0.40	0.53	0.10	0.00	0.42	0.52	0.15	0.01	0.39	0.55
4	新宿区	0.31	0.05	0.57	0.93	0.33	0.03	0.52	0.88	0.29	0.07	0.63	0.99
5	文京区	0.23	0.01	0.62	0.86	0.23	0.00	0.56	0.79	0.23	0.02	0.70	0.94
6	台東区	0.13	0.01	0.47	0.61	0.11	0.00	0.37	0.48	0.15	0.02	0.57	0.74
7	墨田区	0.38	0.00	0.79	1.17	0.36	0.00	0.75	1.12	0.40	0.00	0.83	1.23
8	江東区	0.20	0.01	0.52	0.73	0.19	0.01	0.50	0.70	0.22	0.02	0.53	0.77
9	品川区	0.19	0.00	0.52	0.70	0.19	0.00	0.43	0.63	0.18	0.00	0.61	0.79
10	目黒区	0.17	0.02	0.52	0.71	0.15	0.02	0.46	0.63	0.20	0.02	0.60	0.81
11	大田区	0.39	0.01	0.58	0.98	0.36	0.01	0.56	0.92	0.44	0.01	0.60	1.04
12	世田谷区	0.17	0.02	0.50	0.68	0.16	0.02	0.41	0.58	0.18	0.03	0.60	0.80
13	渋谷区	0.32	0.00	0.64	0.97	0.27	0.00	0.69	0.96	0.38	0.00	0.60	0.98
14	中野区	0.29	0.01	0.65	0.95	0.30	0.01	0.51	0.82	0.29	0.01	0.81	1.11
15	杉並区	0.24	0.00	0.50	0.75	0.23	0.00	0.40	0.63	0.25	0.00	0.63	0.88
16	豊島区	0.22	0.02	0.68	0.92	0.23	0.01	0.57	0.81	0.20	0.02	0.82	1.04
17	北区	0.31	0.02	0.67	1.00	0.22	0.02	0.53	0.78	0.41	0.02	0.80	1.23
18	荒川区	0.46	0.00	0.80	1.26	0.44	0.00	0.74	1.18	0.47	0.00	0.86	1.33
19	板橋区	0.21	0.00	0.57	0.78	0.18	0.00	0.49	0.68	0.23	0.00	0.65	0.89
20	練馬区	0.24	0.02	0.62	0.88	0.22	0.02	0.51	0.75	0.26	0.02	0.74	1.02
21	足立区	0.21	0.00	0.51	0.73	0.21	0.00	0.43	0.65	0.22	0.00	0.59	0.82
22	葛飾区	0.51	0.01	0.53	1.05	0.47	0.01	0.45	0.92	0.56	0.01	0.62	1.20
23	江戸川区	0.32	0.03	0.54	0.89	0.26	0.03	0.48	0.77	0.38	0.03	0.61	1.01
市 部		0.32	0.01	0.61	0.94	0.31	0.01	0.56	0.88	0.34	0.00	0.67	1.01
24	八王子市	0.34	0.00	0.66	1.00	0.33	0.00	0.64	0.97	0.36	0.00	0.68	1.04
25	立川市	0.29	0.01	0.75	1.05	0.29	0.01	0.63	0.93	0.30	0.01	0.88	1.18
26	武蔵野市	0.26	0.03	0.54	0.83	0.29	0.04	0.45	0.78	0.21	0.02	0.66	0.89
27	三鷹市	0.22	0.01	0.70	0.94	0.26	0.01	0.65	0.93	0.18	0.00	0.76	0.94
28	青梅市	0.13	0.00	0.48	0.61	0.14	0.00	0.42	0.56	0.12	0.00	0.55	0.67
29	府中市	0.22	0.00	0.59	0.82	0.21	0.01	0.56	0.78	0.23	0.00	0.63	0.86
30	昭島市	0.29	0.00	0.53	0.82	0.32	0.00	0.59	0.91	0.25	0.00	0.47	0.73
31	調布市	0.35	0.01	0.54	0.90	0.31	0.00	0.41	0.73	0.39	0.03	0.69	1.11
32	町田市	0.40	0.00	0.63	1.02	0.35	0.00	0.55	0.91	0.44	0.00	0.70	1.14
33	小金井市	0.33	0.01	0.36	0.70	0.31	0.01	0.34	0.66	0.34	0.01	0.39	0.75
34	小平市	0.30	0.01	0.72	1.03	0.32	0.01	0.66	0.99	0.27	0.02	0.80	1.09
35	日野市	0.15	0.02	0.48	0.65	0.16	0.03	0.44	0.63	0.13	0.01	0.52	0.66
36	東村山市	0.58	0.02	0.56	1.15	0.49	0.02	0.48	0.98	0.67	0.01	0.64	1.32
37	国分寺市	0.38	0.00	0.58	0.96	0.36	0.00	0.53	0.88	0.41	0.00	0.63	1.04
38	国立市	0.21	0.00	0.49	0.71	0.17	0.00	0.37	0.53	0.26	0.00	0.62	0.88
39	福生市	0.27	0.01	0.34	0.62	0.35	0.02	0.26	0.63	0.19	0.00	0.43	0.62
40	狛江市	0.16	0.00	0.80	0.97	0.12	0.00	0.77	0.90	0.20	0.00	0.84	1.05
41	東大和市	0.58	0.00	0.73	1.32	0.48	0.01	0.60	1.09	0.69	0.00	0.86	1.55
42	清瀬市	0.31	0.00	0.44	0.75	0.34	0.00	0.38	0.71	0.28	0.01	0.51	0.80
43	東久留米市	0.44	0.00	0.80	1.24	0.34	0.00	0.73	1.08	0.57	0.00	0.88	1.45
44	武蔵村山市	0.56	0.00	0.82	1.38	0.54	0.00	0.74	1.28	0.58	0.00	0.89	1.48
45	多摩市	0.37	0.01	0.43	0.80	0.30	0.00	0.40	0.69	0.44	0.01	0.46	0.91
46	稲城市	0.44	0.00	0.82	1.26	0.41	0.01	0.92	1.33	0.46	0.00	0.73	1.19
47	羽村市	0.22	0.00	0.60	0.82	0.29	0.00	0.65	0.94	0.16	0.00	0.56	0.72
48	あきる野市	0.20	0.00	0.85	1.06	0.25	0.00	0.74	0.99	0.15	0.00	0.99	1.14
49	西東京市	0.26	0.00	0.51	0.76	0.28	0.00	0.49	0.77	0.23	0.00	0.53	0.76
郡 部		0.52	0.00	0.91	1.43	0.54	0.00	0.75	1.29	0.50	0.00	1.09	1.59
50	瑞穂町	0.55	0.00	0.83	1.38	0.55	0.00	0.68	1.23	0.55	0.00	1.01	1.57
51	日の出町	0.37	0.00	1.22	1.59	0.51	0.00	1.02	1.52	0.21	0.00	1.47	1.68
52	檜原村	1.29	0.00	1.14	2.43	1.00	0.00	1.33	2.33	1.36	0.00	1.09	2.45
53	奥多摩町	0.44	0.00	0.33	0.78	0.46	0.00	0.23	0.69	0.43	0.00	0.43	0.86
島 部		0.26	0.01	0.58	0.84	0.29	0.00	0.68	0.97	0.21	0.01	0.46	0.68
54	大島町	0.24	0.00	0.52	0.76	0.24	0.00	0.47	0.71	0.24	0.00	0.59	0.83
55	利島村	0.00	0.00	0.50	0.50	0.00	0.00	0.50	0.50	...	...	...	...
56	新島村	0.07	0.00	0.56	0.63	0.00	0.00	0.46	0.46	0.14	0.00	0.64	0.79
57	神津島村	0.39	0.00	0.22	0.61	0.55	0.00	0.36	0.91	0.14	0.00	0.00	0.14
58	三宅村	0.00	0.00	0.25	0.25	0.00	0.00	0.33	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
59	御蔵島村	5.00	0.00	0.00	5.00	5.00	0.00	0.00	5.00	...	...	...	...
60	八丈町	0.27	0.02	0.78	1.07	0.44	0.00	1.26	1.70	0.00	0.06	0.06	0.11
61	青ヶ島村	0.00	0.00	1.50	1.50	0.00	0.00	1.50	1.50	...	...	...	...
62	小笠原村	0.33	0.00	0.76	1.10	0.00	0.00	0.60	0.60	0.64	0.00	0.91	1.55
都立中学校・中等 教育学校(前期課程)		0.12	0.00	0.36	0.48	0.07	0.00	0.30	0.37	0.17	0.00	0.41	0.58
東 京 都		0.29	0.01	0.58	0.88	0.27	0.01	0.52	0.80	0.31	0.01	0.65	0.97

東京都の学校保健統計(平成27年度 DMFT)

平成27年4月～6月
DMFT 指数

		中 学 校 第 1 学 年											
		総 数				男 子				女 子			
		一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数
区 部		0.27	0.01	0.51	0.79	0.25	0.02	0.46	0.72	0.29	0.01	0.57	0.87
1	千代田区	0.14	0.01	0.24	0.39	0.16	0.00	0.26	0.41	0.13	0.01	0.22	0.36
2	中央区	0.07	0.00	0.28	0.35	0.07	0.00	0.23	0.30	0.07	0.00	0.34	0.41
3	港区	0.16	0.03	0.49	0.67	0.15	0.01	0.50	0.66	0.17	0.05	0.47	0.68
4	新宿区	0.23	0.05	0.71	0.99	0.23	0.04	0.64	0.91	0.24	0.06	0.79	1.08
5	文京区	0.15	0.00	0.62	0.76	0.13	0.00	0.54	0.67	0.16	0.00	0.69	0.85
6	台東区	0.13	0.02	0.32	0.46	0.15	0.01	0.30	0.47	0.10	0.02	0.33	0.46
7	墨田区	0.32	0.01	0.65	0.97	0.31	0.01	0.60	0.91	0.34	0.01	0.70	1.04
8	江東区	0.24	0.01	0.47	0.72	0.21	0.01	0.47	0.68	0.27	0.01	0.47	0.75
9	品川区	0.14	0.00	0.47	0.61	0.14	0.00	0.47	0.61	0.15	0.00	0.46	0.61
10	目黒区	0.18	0.04	0.53	0.75	0.14	0.04	0.44	0.62	0.21	0.05	0.63	0.90
11	大田区	0.39	0.02	0.50	0.91	0.36	0.01	0.45	0.82	0.42	0.03	0.56	1.01
12	世田谷区	0.16	0.03	0.43	0.61	0.14	0.02	0.37	0.53	0.17	0.03	0.50	0.71
13	渋谷区	0.36	0.00	0.44	0.80	0.31	0.00	0.30	0.60	0.43	0.00	0.61	1.04
14	中野区	0.23	0.02	0.54	0.79	0.22	0.01	0.47	0.71	0.24	0.02	0.62	0.88
15	杉並区	0.31	0.00	0.47	0.78	0.31	0.00	0.42	0.73	0.31	0.00	0.53	0.84
16	豊島区	0.22	0.01	0.57	0.80	0.18	0.01	0.51	0.70	0.27	0.01	0.63	0.91
17	北区	0.31	0.01	0.54	0.86	0.25	0.00	0.48	0.74	0.37	0.01	0.60	0.99
18	荒川区	0.30	0.01	0.67	0.98	0.28	0.00	0.64	0.92	0.32	0.01	0.71	1.04
19	板橋区	0.19	0.00	0.60	0.79	0.17	0.00	0.56	0.73	0.21	0.00	0.64	0.85
20	練馬区	0.20	0.01	0.51	0.71	0.20	0.01	0.41	0.62	0.19	0.00	0.61	0.81
21	足立区	0.26	0.00	0.50	0.77	0.22	0.00	0.44	0.67	0.31	0.00	0.56	0.87
22	葛飾区	0.52	0.06	0.49	1.08	0.47	0.10	0.49	1.05	0.59	0.02	0.49	1.10
23	江戸川区	0.32	0.01	0.51	0.85	0.34	0.01	0.43	0.78	0.31	0.01	0.60	0.92
市 部		0.28	0.00	0.58	0.86	0.26	0.00	0.51	0.77	0.30	0.01	0.66	0.96
24	八王子市	0.30	0.00	0.59	0.88	0.29	0.00	0.53	0.82	0.30	0.00	0.64	0.95
25	立川市	0.32	0.01	0.73	1.07	0.30	0.01	0.57	0.89	0.35	0.01	0.89	1.25
26	武蔵野市	0.14	0.00	0.33	0.47	0.13	0.00	0.28	0.42	0.14	0.00	0.39	0.53
27	三鷹市	0.25	0.00	0.63	0.88	0.24	0.00	0.51	0.75	0.26	0.00	0.77	1.04
28	青梅市	0.20	0.00	0.59	0.79	0.22	0.00	0.63	0.85	0.19	0.00	0.54	0.73
29	府中市	0.30	0.01	0.50	0.81	0.24	0.01	0.43	0.67	0.36	0.02	0.59	0.97
30	昭島市	0.27	0.00	0.46	0.73	0.20	0.00	0.40	0.60	0.36	0.00	0.52	0.88
31	調布市	0.23	0.01	0.51	0.75	0.21	0.01	0.41	0.63	0.26	0.01	0.62	0.89
32	町田市	0.26	0.00	0.49	0.75	0.26	0.00	0.44	0.70	0.26	0.00	0.54	0.81
33	小金井市	0.27	0.00	0.51	0.78	0.28	0.00	0.54	0.82	0.27	0.00	0.48	0.75
34	小平市	0.23	0.01	0.80	1.04	0.24	0.01	0.79	1.04	0.22	0.01	0.80	1.03
35	日野市	0.16	0.01	0.38	0.55	0.12	0.02	0.33	0.46	0.21	0.01	0.43	0.65
36	東村山市	0.42	0.01	0.37	0.80	0.26	0.00	0.30	0.56	0.56	0.02	0.43	1.01
37	国分寺市	0.28	0.00	0.75	1.03	0.28	0.00	0.69	0.97	0.27	0.00	0.81	1.09
38	国立市	0.30	0.00	1.01	1.31	0.38	0.00	0.94	1.31	0.23	0.00	1.08	1.30
39	福生市	0.19	0.02	0.44	0.65	0.21	0.01	0.41	0.63	0.16	0.04	0.49	0.68
40	狛江市	0.19	0.00	0.70	0.89	0.18	0.00	0.57	0.75	0.20	0.01	0.85	1.06
41	東大和市	0.51	0.00	1.06	1.57	0.47	0.01	0.83	1.31	0.55	0.00	1.25	1.81
42	清瀬市	0.34	0.00	0.49	0.83	0.27	0.01	0.44	0.73	0.42	0.00	0.53	0.95
43	東久留米市	0.30	0.00	0.77	1.07	0.30	0.00	0.65	0.95	0.29	0.00	0.91	1.20
44	武蔵村山市	0.48	0.00	0.72	1.19	0.47	0.00	0.61	1.08	0.49	0.00	0.82	1.31
45	多摩市	0.32	0.00	0.44	0.76	0.26	0.00	0.36	0.62	0.38	0.00	0.54	0.92
46	稲城市	0.42	0.00	0.59	1.01	0.40	0.00	0.42	0.82	0.44	0.00	0.79	1.23
47	羽村市	0.16	0.00	0.62	0.78	0.24	0.00	0.76	1.00	0.08	0.00	0.51	0.59
48	あきる野市	0.17	0.00	0.91	1.09	0.17	0.00	0.75	0.92	0.18	0.00	1.11	1.28
49	西東京市	0.24	0.00	0.52	0.76	0.25	0.00	0.37	0.62	0.23	0.00	0.67	0.90
郡 部		0.55	0.01	0.99	1.55	0.48	0.00	1.18	1.65	0.63	0.02	0.80	1.44
50	瑞穂町	0.49	0.01	0.99	1.49	0.39	0.00	1.19	1.58	0.58	0.03	0.79	1.40
51	日の出町	0.40	0.00	1.21	1.61	0.53	0.00	1.40	1.94	0.27	0.00	1.03	1.30
52	檜原村	0.93	0.00	0.53	1.47	2.00	0.00	0.80	2.80	0.40	0.00	0.40	0.80
53	奥多摩町	1.61	0.00	0.27	1.88	0.62	0.00	0.15	0.77	2.25	0.00	0.35	2.60
島 部		0.18	0.00	0.51	0.69	0.18	0.00	0.44	0.61	0.18	0.00	0.58	0.77
54	大島町	0.33	0.00	0.52	0.86	0.50	0.00	0.46	0.96	0.22	0.00	0.57	0.78
55	利島村	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
56	新島村	0.00	0.00	0.08	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.13
57	神津島村	0.05	0.00	0.67	0.71	0.00	0.00	0.45	0.45	0.10	0.00	0.90	1.00
58	三宅村	0.17	0.00	0.50	0.67	0.13	0.00	0.38	0.50	0.25	0.00	0.75	1.00
59	御蔵島村	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
60	八丈町	0.19	0.00	0.70	0.88	0.11	0.00	0.45	0.55	0.29	0.00	1.00	1.29
61	青ヶ島村	0.00	0.00	0.00	0.00	...	...	...	...	0.00	0.00	0.00	0.00
62	小笠原村	0.09	0.00	0.35	0.43	0.00	0.00	0.78	0.78	0.14	0.00	0.07	0.21
都立中学校・中等 教育学校(前期課程)		0.14	0.00	0.34	0.49	0.12	0.00	0.31	0.44	0.16	0.01	0.37	0.54
東 京 都		0.27	0.01	0.54	0.82	0.25	0.01	0.48	0.74	0.29	0.01	0.60	0.90

東京都の学校保健統計(平成28年度 DMFT)

平成28年4月～6月
DMFT 指数

区 部		中 学 校 第 1 学 年											
		総 数				男 子				女 子			
		一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数
		0.25	0.01	0.50	0.76	0.22	0.01	0.45	0.68	0.29	0.01	0.55	0.85
1	千代田区	0.14	0.00	0.17	0.31	0.09	0.00	0.00	0.09	0.19	0.00	0.36	0.55
2	中央区	0.05	0.03	0.34	0.42	0.06	0.07	0.27	0.41	0.03	0.00	0.41	0.44
3	港区	0.12	0.05	0.39	0.55	0.10	0.03	0.35	0.48	0.14	0.07	0.43	0.63
4	新宿区	0.24	0.04	0.64	0.91	0.12	0.04	0.53	0.69	0.38	0.03	0.76	1.17
5	文京区	0.16	0.01	0.82	0.99	0.14	0.00	0.77	0.90	0.18	0.02	0.89	1.09
6	台東区	0.08	0.01	0.36	0.46	0.09	0.02	0.35	0.45	0.08	0.01	0.37	0.46
7	墨田区	0.32	0.02	0.69	1.03	0.32	0.01	0.62	0.95	0.32	0.03	0.76	1.11
8	江東区	0.16	0.01	0.41	0.59	0.13	0.02	0.36	0.50	0.21	0.01	0.48	0.70
9	品川区	0.18	0.01	0.40	0.58	0.14	0.00	0.36	0.51	0.22	0.01	0.44	0.66
10	目黒区	0.23	0.03	0.42	0.68	0.25	0.04	0.37	0.65	0.21	0.02	0.49	0.72
11	大田区	0.31	0.01	0.50	0.82	0.28	0.01	0.42	0.71	0.35	0.01	0.59	0.95
12	世田谷区	0.17	0.02	0.44	0.62	0.16	0.01	0.41	0.58	0.17	0.04	0.47	0.68
13	渋谷区	0.42	0.01	0.64	1.06	0.41	0.01	0.58	0.99	0.44	0.00	0.70	1.14
14	中野区	0.26	0.01	0.57	0.84	0.25	0.01	0.42	0.68	0.28	0.00	0.74	1.02
15	杉並区	0.21	0.00	0.51	0.73	0.20	0.00	0.50	0.71	0.22	0.00	0.53	0.75
16	豊島区	0.17	0.01	0.53	0.72	0.17	0.01	0.49	0.67	0.17	0.01	0.58	0.77
17	北区	0.32	0.03	0.52	0.86	0.28	0.03	0.46	0.78	0.36	0.03	0.58	0.96
18	荒川区	0.26	0.00	0.61	0.87	0.26	0.00	0.61	0.87	0.27	0.00	0.61	0.87
19	板橋区	0.20	0.00	0.52	0.71	0.18	0.00	0.42	0.60	0.22	0.00	0.62	0.84
20	練馬区	0.21	0.01	0.55	0.77	0.19	0.01	0.51	0.71	0.24	0.01	0.59	0.84
21	足立区	0.25	0.00	0.49	0.74	0.24	0.00	0.47	0.71	0.25	0.00	0.51	0.77
22	葛飾区	0.52	0.02	0.49	1.02	0.39	0.01	0.46	0.86	0.65	0.03	0.52	1.19
23	江戸川区	0.32	0.01	0.46	0.79	0.28	0.02	0.41	0.70	0.37	0.01	0.50	0.88
市 部		0.29	0.01	0.56	0.86	0.28	0.01	0.51	0.80	0.30	0.01	0.61	0.92
24	八王子市	0.33	0.00	0.56	0.89	0.31	0.00	0.48	0.79	0.35	0.00	0.64	0.99
25	立川市	0.30	0.01	0.63	0.94	0.30	0.01	0.53	0.84	0.30	0.00	0.74	1.04
26	武蔵野市	0.21	0.00	0.36	0.58	0.13	0.01	0.24	0.37	0.29	0.00	0.47	0.76
27	三鷹市	0.30	0.00	0.56	0.86	0.30	0.00	0.40	0.71	0.29	0.00	0.75	1.04
28	青梅市	0.12	0.00	0.38	0.50	0.12	0.00	0.34	0.46	0.13	0.00	0.42	0.54
29	府中市	0.23	0.01	0.65	0.90	0.26	0.01	0.71	0.98	0.20	0.02	0.59	0.80
30	昭島市	0.17	0.00	0.38	0.55	0.16	0.00	0.36	0.52	0.19	0.00	0.39	0.58
31	調布市	0.20	0.01	0.49	0.70	0.24	0.01	0.49	0.73	0.16	0.02	0.48	0.66
32	町田市	0.33	0.07	0.42	0.81	0.34	0.09	0.39	0.83	0.31	0.04	0.44	0.79
33	小金井市	0.25	0.00	0.46	0.71	0.31	0.00	0.47	0.78	0.18	0.00	0.45	0.64
34	小平市	0.31	0.00	0.86	1.17	0.27	0.00	0.76	1.03	0.35	0.00	0.96	1.31
35	日野市	0.14	0.01	0.38	0.53	0.12	0.00	0.38	0.50	0.17	0.02	0.38	0.56
36	東村山市	0.46	0.01	0.42	0.88	0.41	0.00	0.34	0.75	0.50	0.02	0.50	1.02
37	国分寺市	0.26	0.00	0.43	0.69	0.25	0.00	0.34	0.59	0.27	0.00	0.54	0.81
38	国立市	0.22	0.00	0.61	0.83	0.14	0.00	0.61	0.74	0.31	0.00	0.62	0.93
39	福生市	0.12	0.03	0.29	0.44	0.16	0.03	0.34	0.53	0.08	0.04	0.24	0.35
40	狛江市	0.36	0.00	0.57	0.92	0.34	0.00	0.52	0.86	0.37	0.00	0.63	1.00
41	東大和市	0.50	0.01	0.81	1.31	0.46	0.00	0.74	1.21	0.53	0.01	0.88	1.42
42	清瀬市	0.33	0.00	0.46	0.79	0.39	0.00	0.44	0.83	0.27	0.00	0.48	0.75
43	東久留米市	0.17	0.00	0.71	0.88	0.18	0.00	0.57	0.75	0.16	0.00	0.88	1.04
44	武蔵村山市	0.48	0.02	0.79	1.29	0.38	0.01	0.81	1.21	0.57	0.02	0.77	1.37
45	多摩市	0.37	0.00	0.42	0.80	0.32	0.00	0.37	0.68	0.43	0.00	0.48	0.90
46	稲城市	0.45	0.00	0.64	1.09	0.39	0.00	0.58	0.97	0.53	0.00	0.70	1.23
47	羽村市	0.15	0.01	1.05	1.20	0.20	0.00	0.81	1.00	0.10	0.02	1.27	1.39
48	あきる野市	0.30	0.00	1.01	1.31	0.34	0.00	0.94	1.29	0.26	0.00	1.08	1.34
49	西東京市	0.31	0.00	0.60	0.91	0.29	0.00	0.57	0.86	0.32	0.00	0.62	0.95
郡 部		0.46	0.00	0.63	1.10	0.47	0.00	0.55	1.03	0.45	0.00	0.71	1.17
50	瑞穂町	0.58	0.00	0.58	1.16	0.63	0.00	0.47	1.09	0.54	0.00	0.69	1.23
51	日の出町	0.13	0.00	0.82	0.95	0.13	0.00	0.78	0.91	0.13	0.00	0.87	1.00
52	檜原村	1.00	0.00	2.00	3.00	1.00	0.00	2.00	3.00	1.00	0.00	2.00	3.00
53	奥多摩町	0.72	0.00	0.12	0.84	0.50	0.00	0.19	0.69	1.11	0.00	0.00	1.11
島 部		0.25	0.00	0.49	0.73	0.29	0.00	0.53	0.82	0.20	0.00	0.44	0.64
54	大島町	0.21	0.00	0.58	0.79	0.27	0.00	0.73	1.00	0.16	0.00	0.45	0.61
55	利島村	0.00	0.00	1.50	1.50	0.00	0.00	1.50	1.50	...	...	...	...
56	新島村	0.06	0.00	0.26	0.32	0.11	0.00	0.26	0.37	0.00	0.00	0.25	0.25
57	神津島村	0.17	0.00	0.72	0.89	0.30	0.00	0.60	0.90	0.00	0.00	0.88	0.88
58	三宅村	0.10	0.00	0.80	0.90	0.17	0.00	1.33	1.50	0.00	0.00	0.00	0.00
59	御蔵島村	2.00	0.00	1.00	3.00	...	...	...	...	2.00	0.00	1.00	3.00
60	八丈町	0.37	0.00	0.53	0.90	0.48	0.00	0.37	0.85	0.25	0.00	0.71	0.96
61	青ヶ島村	0.33	0.00	0.00	0.33	0.50	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00
62	小笠原村	0.36	0.00	0.09	0.45	0.25	0.00	0.25	0.50	0.43	0.00	0.00	0.43
都立中学校・中等 教育学校(前期課程)		0.10	0.00	0.45	0.54	0.08	0.00	0.50	0.58	0.12	0.00	0.39	0.51
東 京 都		0.27	0.01	0.52	0.80	0.25	0.01	0.47	0.73	0.29	0.01	0.57	0.87

東京都の学校保健統計(平成29年度 DMFT)

平成29年4月～6月
DMFT 指数

		中 学 校 第 1 学 年											
		総 数				男 子				女 子			
		一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数
区 部		0.23	0.01	0.47	0.71	0.20	0.01	0.42	0.63	0.26	0.01	0.54	0.81
1	千代田区	0.08	0.00	0.34	0.42	0.04	0.00	0.29	0.34	0.11	0.00	0.40	0.51
2	中央区	0.11	0.00	0.51	0.62	0.07	0.00	0.43	0.49	0.18	0.00	0.61	0.79
3	港区	0.11	0.01	0.43	0.55	0.08	0.00	0.36	0.44	0.14	0.01	0.53	0.68
4	新宿区	0.17	0.02	0.42	0.61	0.14	0.03	0.37	0.54	0.21	0.02	0.49	0.71
5	文京区	0.11	0.00	0.56	0.67	0.11	0.00	0.60	0.70	0.12	0.00	0.51	0.63
6	台東区	0.11	0.01	0.39	0.51	0.13	0.01	0.34	0.47	0.09	0.01	0.44	0.54
7	墨田区	0.29	0.00	0.68	0.97	0.28	0.00	0.53	0.81	0.30	0.00	0.85	1.15
8	江東区	0.22	0.00	0.46	0.68	0.18	0.00	0.42	0.60	0.26	0.00	0.50	0.77
9	品川区	0.22	0.01	0.39	0.61	0.19	0.00	0.32	0.52	0.24	0.01	0.45	0.70
10	目黒区	0.20	0.01	0.43	0.64	0.19	0.00	0.44	0.64	0.21	0.01	0.42	0.64
11	大田区	0.35	0.01	0.52	0.88	0.30	0.01	0.43	0.74	0.40	0.01	0.62	1.04
12	世田谷区	0.12	0.01	0.44	0.57	0.11	0.01	0.37	0.49	0.13	0.01	0.52	0.67
13	渋谷区	0.36	0.00	0.74	1.10	0.30	0.00	0.68	0.97	0.43	0.00	0.82	1.24
14	中野区	0.24	0.01	0.52	0.77	0.23	0.01	0.47	0.71	0.25	0.01	0.58	0.84
15	杉並区	0.22	0.00	0.44	0.67	0.20	0.00	0.41	0.60	0.25	0.01	0.49	0.74
16	豊島区	0.21	0.02	0.42	0.65	0.19	0.01	0.38	0.58	0.22	0.03	0.47	0.72
17	北区	0.26	0.04	0.45	0.75	0.18	0.02	0.36	0.56	0.35	0.06	0.55	0.97
18	荒川区	0.15	0.02	0.54	0.72	0.12	0.02	0.54	0.68	0.19	0.02	0.55	0.75
19	板橋区	0.16	0.00	0.43	0.59	0.13	0.00	0.39	0.53	0.19	0.00	0.47	0.66
20	練馬区	0.19	0.01	0.48	0.69	0.18	0.01	0.44	0.63	0.20	0.01	0.53	0.75
21	足立区	0.20	0.00	0.47	0.67	0.19	0.00	0.42	0.61	0.21	0.00	0.52	0.73
22	葛飾区	0.39	0.01	0.47	0.87	0.34	0.01	0.39	0.74	0.45	0.01	0.55	1.02
23	江戸川区	0.33	0.01	0.48	0.82	0.28	0.01	0.41	0.71	0.37	0.01	0.55	0.93
市 部		0.26	0.00	0.53	0.80	0.24	0.00	0.47	0.71	0.28	0.01	0.60	0.88
24	八王子市	0.30	0.00	0.53	0.83	0.31	0.00	0.47	0.78	0.29	0.01	0.59	0.88
25	立川市	0.25	0.00	0.69	0.93	0.24	0.00	0.63	0.87	0.25	0.00	0.74	0.99
26	武蔵野市	0.19	0.00	0.43	0.63	0.13	0.01	0.44	0.57	0.26	0.00	0.42	0.69
27	三鷹市	0.24	0.01	0.55	0.80	0.25	0.01	0.40	0.66	0.23	0.01	0.71	0.95
28	青梅市	0.16	0.00	0.58	0.74	0.12	0.00	0.49	0.61	0.20	0.00	0.68	0.88
29	府中市	0.25	0.00	0.55	0.80	0.22	0.00	0.59	0.82	0.28	0.01	0.49	0.78
30	昭島市	0.34	0.00	0.43	0.77	0.18	0.00	0.36	0.55	0.50	0.00	0.51	1.02
31	調布市	0.20	0.00	0.49	0.69	0.16	0.01	0.41	0.58	0.23	0.00	0.58	0.81
32	町田市	0.29	0.00	0.43	0.72	0.25	0.00	0.35	0.60	0.32	0.00	0.52	0.84
33	小金井市	0.13	0.00	0.34	0.47	0.13	0.00	0.32	0.45	0.14	0.00	0.36	0.50
34	小平市	0.22	0.02	0.81	1.04	0.20	0.01	0.75	0.96	0.23	0.02	0.88	1.13
35	日野市	0.12	0.00	0.33	0.45	0.10	0.00	0.31	0.41	0.13	0.01	0.35	0.49
36	東村山市	0.49	0.01	0.38	0.88	0.46	0.01	0.28	0.74	0.51	0.01	0.49	1.02
37	国分寺市	0.19	0.00	0.44	0.63	0.16	0.00	0.36	0.51	0.23	0.00	0.52	0.75
38	国立市	0.30	0.00	0.47	0.77	0.43	0.00	0.49	0.91	0.19	0.00	0.45	0.64
39	福生市	0.15	0.01	0.45	0.60	0.10	0.00	0.33	0.43	0.21	0.01	0.55	0.77
40	狛江市	0.24	0.00	0.49	0.73	0.16	0.00	0.44	0.61	0.30	0.00	0.53	0.83
41	東大和市	0.42	0.00	0.71	1.13	0.39	0.00	0.70	1.08	0.46	0.00	0.73	1.18
42	清瀬市	0.29	0.00	0.42	0.71	0.25	0.00	0.32	0.57	0.34	0.00	0.53	0.87
43	東久留米市	0.22	0.00	0.62	0.84	0.23	0.00	0.52	0.75	0.22	0.00	0.71	0.92
44	武蔵村山市	0.28	0.01	0.61	0.90	0.29	0.00	0.48	0.77	0.27	0.02	0.75	1.05
45	多摩市	0.26	0.01	0.51	0.77	0.23	0.00	0.46	0.69	0.28	0.01	0.56	0.85
46	稲城市	0.36	0.00	0.66	1.02	0.31	0.00	0.52	0.83	0.41	0.00	0.79	1.19
47	羽村市	0.19	0.01	0.73	0.93	0.28	0.01	1.01	1.29	0.12	0.01	0.51	0.65
48	あきる野市	0.28	0.01	0.81	1.10	0.27	0.01	0.68	0.96	0.30	0.01	0.93	1.23
49	西東京市	0.25	0.00	0.57	0.82	0.18	0.00	0.45	0.64	0.32	0.01	0.69	1.02
郡 部		0.42	0.00	0.64	1.06	0.28	0.00	0.61	0.89	0.57	0.00	0.67	1.23
50	瑞穂町	0.56	0.00	0.58	1.13	0.36	0.00	0.65	1.01	0.74	0.00	0.52	1.25
51	日の出町	0.11	0.00	0.77	0.89	0.09	0.00	0.59	0.68	0.14	0.00	1.02	1.16
52	檜原村	0.00	0.00	1.43	1.43	0.00	0.00	1.20	1.20	0.00	0.00	2.00	2.00
53	奥多摩町	0.52	0.00	0.35	0.87	0.59	0.00	0.18	0.76	0.33	0.00	0.83	1.17
島 部		0.30	0.00	0.57	0.86	0.24	0.00	0.47	0.70	0.36	0.00	0.68	1.05
54	大島町	0.47	0.00	0.40	0.88	0.44	0.00	0.34	0.78	0.52	0.00	0.48	1.00
55	利島村	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
56	新島村	0.21	0.00	0.37	0.58	0.00	0.00	0.11	0.11	0.40	0.00	0.60	1.00
57	神津島村	0.05	0.00	0.27	0.32	0.08	0.00	0.50	0.58	0.00	0.00	0.00	0.00
58	三宅村	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
59	御蔵島村	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
60	八丈町	0.20	0.00	0.85	1.05	0.07	0.00	0.64	0.71	0.32	0.00	1.03	1.35
61	青ヶ島村	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
62	小笠原村	0.52	0.00	0.91	1.43	0.50	0.00	0.79	1.29	0.56	0.00	1.11	1.67
都立中学校・中等 教育学校(前期課程)		0.07	0.01	0.47	0.55	0.06	0.01	0.50	0.57	0.09	0.01	0.44	0.53
東 京 都		0.24	0.01	0.50	0.75	0.21	0.01	0.44	0.66	0.27	0.01	0.56	0.84

東京都の学校保健統計(平成30年度 DMFT)

平成30年4月～6月
DMFT 指数

区 部		中 学 校 第 1 学 年											
		総 数				男 子				女 子			
		一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数	一人平均 D 歯 数	一人平均 M 歯 数	一人平均 F 歯 数	DMFT 指 数
区 部		0.23	0.01	0.43	0.67	0.21	0.01	0.37	0.59	0.24	0.01	0.50	0.75
1	千代田区	0.15	0.06	0.41	0.62	0.15	0.04	0.42	0.62	0.15	0.07	0.41	0.62
2	中央区	0.06	0.00	0.50	0.56	0.04	0.00	0.44	0.47	0.08	0.00	0.57	0.65
3	港区	0.14	0.03	0.33	0.50	0.08	0.04	0.34	0.47	0.20	0.02	0.31	0.53
4	新宿区	0.16	0.02	0.34	0.52	0.16	0.00	0.25	0.42	0.15	0.05	0.44	0.64
5	文京区	0.15	0.00	0.68	0.83	0.17	0.00	0.61	0.79	0.13	0.00	0.76	0.88
6	台東区	0.23	0.01	0.46	0.70	0.26	0.01	0.39	0.66	0.20	0.01	0.53	0.74
7	墨田区	0.25	0.01	0.75	1.00	0.25	0.00	0.73	0.97	0.25	0.01	0.77	1.03
8	江東区	0.21	0.02	0.50	0.73	0.18	0.02	0.42	0.62	0.25	0.02	0.59	0.85
9	品川区	0.19	0.00	0.35	0.54	0.18	0.00	0.28	0.47	0.20	0.00	0.42	0.62
10	目黒区	0.20	0.04	0.32	0.55	0.20	0.02	0.25	0.47	0.20	0.05	0.40	0.65
11	大田区	0.27	0.01	0.44	0.73	0.25	0.01	0.40	0.65	0.31	0.02	0.48	0.80
12	世田谷区	0.13	0.03	0.37	0.52	0.13	0.02	0.32	0.47	0.12	0.04	0.43	0.59
13	渋谷区	0.35	0.00	0.81	1.16	0.26	0.00	0.58	0.85	0.45	0.00	1.04	1.49
14	中野区	0.31	0.01	0.49	0.81	0.27	0.01	0.54	0.82	0.36	0.02	0.42	0.80
15	杉並区	0.17	0.00	0.37	0.54	0.17	0.00	0.33	0.49	0.16	0.00	0.43	0.59
16	豊島区	0.10	0.01	0.36	0.48	0.07	0.02	0.35	0.44	0.14	0.00	0.37	0.52
17	北区	0.24	0.01	0.36	0.60	0.18	0.00	0.25	0.43	0.30	0.01	0.47	0.78
18	荒川区	0.21	0.01	0.58	0.80	0.25	0.00	0.56	0.81	0.16	0.01	0.61	0.78
19	板橋区	0.20	0.00	0.47	0.67	0.21	0.00	0.42	0.63	0.19	0.00	0.52	0.72
20	練馬区	0.20	0.01	0.41	0.62	0.17	0.00	0.34	0.52	0.23	0.01	0.49	0.73
21	足立区	0.20	0.00	0.44	0.64	0.19	0.00	0.37	0.56	0.22	0.00	0.51	0.73
22	葛飾区	0.37	0.01	0.40	0.78	0.30	0.01	0.33	0.64	0.43	0.02	0.47	0.92
23	江戸川区	0.32	0.02	0.36	0.69	0.31	0.01	0.28	0.61	0.32	0.02	0.44	0.78
市 部		0.24	0.01	0.49	0.73	0.21	0.00	0.44	0.66	0.27	0.01	0.54	0.81
24	八王子市	0.29	0.01	0.48	0.78	0.26	0.01	0.42	0.69	0.32	0.02	0.54	0.87
25	立川市	0.27	0.00	0.63	0.90	0.25	0.00	0.60	0.85	0.29	0.00	0.66	0.95
26	武蔵野市	0.20	0.01	0.55	0.76	0.17	0.01	0.50	0.68	0.24	0.01	0.60	0.85
27	三鷹市	0.19	0.01	0.42	0.61	0.15	0.00	0.32	0.47	0.23	0.02	0.53	0.77
28	青梅市	0.16	0.00	0.43	0.59	0.16	0.00	0.39	0.55	0.16	0.00	0.46	0.62
29	府中市	0.14	0.02	0.38	0.54	0.13	0.01	0.38	0.51	0.15	0.02	0.39	0.56
30	昭島市	0.19	0.00	0.31	0.50	0.22	0.00	0.35	0.56	0.16	0.00	0.26	0.43
31	調布市	0.18	0.01	0.48	0.67	0.15	0.01	0.43	0.59	0.22	0.00	0.54	0.76
32	町田市	0.25	0.00	0.44	0.69	0.21	0.00	0.45	0.65	0.30	0.00	0.43	0.73
33	小金井市	0.16	0.04	0.54	0.74	0.16	0.04	0.48	0.69	0.16	0.03	0.62	0.81
34	小平市	0.23	0.00	0.79	1.02	0.21	0.00	0.78	1.00	0.26	0.00	0.79	1.05
35	日野市	0.09	0.00	0.29	0.38	0.08	0.00	0.23	0.32	0.10	0.01	0.35	0.45
36	東村山市	0.33	0.00	0.32	0.65	0.33	0.00	0.28	0.62	0.32	0.00	0.35	0.68
37	国分寺市	0.18	0.00	0.35	0.54	0.11	0.00	0.28	0.39	0.27	0.00	0.44	0.72
38	国立市	0.17	0.00	0.46	0.62	0.15	0.00	0.46	0.61	0.19	0.00	0.45	0.64
39	福生市	0.08	0.01	0.44	0.53	0.09	0.01	0.50	0.60	0.08	0.00	0.38	0.46
40	狛江市	0.25	0.00	0.34	0.59	0.18	0.00	0.27	0.45	0.33	0.00	0.42	0.76
41	東大和市	0.49	0.00	0.63	1.12	0.41	0.00	0.53	0.94	0.56	0.00	0.72	1.29
42	清瀬市	0.29	0.00	0.45	0.74	0.23	0.00	0.37	0.59	0.36	0.00	0.54	0.90
43	東久留米市	0.21	0.00	0.68	0.89	0.19	0.00	0.51	0.70	0.23	0.00	0.89	1.11
44	武蔵村山市	0.20	0.00	0.75	0.95	0.15	0.00	0.63	0.78	0.25	0.00	0.85	1.10
45	多摩市	0.29	0.01	0.50	0.80	0.28	0.01	0.48	0.77	0.31	0.01	0.53	0.85
46	稲城市	0.36	0.00	0.56	0.92	0.30	0.00	0.41	0.71	0.42	0.00	0.71	1.14
47	羽村市	0.14	0.00	0.94	1.08	0.23	0.00	0.84	1.07	0.04	0.00	1.05	1.09
48	あきる野市	0.20	0.00	0.66	0.86	0.15	0.00	0.56	0.71	0.25	0.00	0.75	0.99
49	西東京市	0.30	0.01	0.43	0.73	0.26	0.01	0.37	0.64	0.34	0.01	0.49	0.84
郡 部		0.34	0.01	0.72	1.07	0.42	0.02	0.60	1.04	0.24	0.00	0.86	1.10
50	瑞穂町	0.44	0.01	0.60	1.06	0.53	0.03	0.47	1.03	0.34	0.00	0.75	1.09
51	日の出町	0.13	0.00	0.96	1.09	0.19	0.00	0.81	1.00	0.07	0.00	1.12	1.19
52	檜原村	0.44	0.00	1.00	1.44	0.67	0.00	1.33	2.00	0.00	0.00	0.33	0.33
53	奥多摩町	0.46	0.00	0.46	0.92	0.47	0.00	0.53	1.00	0.44	0.00	0.33	0.78
島 部		0.20	0.00	0.62	0.81	0.20	0.00	0.64	0.84	0.19	0.00	0.60	0.79
54	大島町	0.05	0.00	0.44	0.49	0.05	0.00	0.55	0.60	0.05	0.00	0.32	0.37
55	利島村	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
56	新島村	0.04	0.00	0.48	0.52	0.00	0.00	0.55	0.55	0.08	0.00	0.42	0.50
57	神津島村	0.00	0.00	0.55	0.55	0.00	0.00	0.50	0.50	0.00	0.00	0.60	0.60
58	三宅村	0.63	0.00	0.50	1.13	1.67	0.00	0.00	1.67	0.00	0.00	0.80	0.80
59	御蔵島村	0.00	0.00	0.00	0.00	...	...	...	...	0.00	0.00	0.00	0.00
60	八丈町	0.40	0.00	0.93	1.33	0.30	0.00	1.04	1.33	0.50	0.00	0.82	1.32
61	青ヶ島村	0.00	0.00	0.50	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00
62	小笠原村	0.20	0.00	0.50	0.70	0.31	0.00	0.38	0.69	0.00	0.00	0.71	0.71
都立中学校・中等 教育学校(前期課程)		0.05	0.01	0.35	0.41	0.07	0.01	0.25	0.33	0.04	0.01	0.44	0.49
東 京 都		0.23	0.01	0.45	0.69	0.21	0.01	0.40	0.61	0.25	0.01	0.51	0.77

8

平成30年度の活動



平成30年度

歯・口の健康に関する 図画・ポスターコンクール

平成30年度「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」の東京都学校歯科医会による審査会が平成30年9月20日（木）に開催されました。このコンクールは、日本学校歯科医会が次の世代を担う子供たちの作品を対象として、口腔保健に関する理解と認識を高めることを目的に実施しているものです。そして、東京都学校歯科医会が中心となり、東京都教育委員会とも共催し東京都内の作品を集めたコンクールを実施しています。

審査会場には応募総数11,942作品の中から、地区学校歯科医会で選ばれた優秀作品として、保育所・こども園・幼稚園の部10作品、小学校低学年の部47作品、小学校高学年の部45作品、中学校の部33作品、高等学校の部4作品、特別支援学校の部6作品、合計145作品が集められました。会場の壁いっぱいに貼られた作品はどれも力作ばかりで、子供たちの熱い気持ちが伝わってくるようでした。

審査会は、一次審査さらに二次審査を行い、その結果各部門の1位から3位までの作品が選ばれました。画面いっぱいに大きな口が描かれた子供らしいのびのびとした作品や健康な生活をテーマに8020運動を取り上げた作品など、どれも甲乙つけがたい作品が多く、選ぶのに大変苦勞しました。特に学年が上がるにつれ、本コンクールの趣旨である歯科保健に関する理解と認識の高まりが作品に反映されており、幼児、児童、生徒の歯科衛生に対する意識の高さを実感しました。

一次審査、二次審査の間に、審査員長の国立大学法人東京学芸大学名誉教授 博士（教育学）増田金吾氏により、歯科保健を意識したアイデア、ポスターとしての伝達力、絵画としての美しさ等の視点を意識して評価をすると良いというお話をいただきました。

今回、各部門1位に選ばれた作品は日本学校歯科医会のコンクールに推薦されました。

本年度のコンクールにはたくさんの幼児・児童・生徒の皆さんに参加していただきました。これからも、歯や口の健康づくりに興味をもって様々な取組にチャレンジしてください。そして、生涯にわたって健康な生活を送ることができるように願っています。

平成30年度「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」審査員

〔審査員長〕

増田 金吾 国立大学法人東京学芸大学名誉教授
博士（教育学）

〔審査員〕

太田 誠一 東京都教育庁地域教育支援部長

山田 善裕 東京都教育庁地域教育支援部
歯科保健担当課長

石丸 雄二 東京都教育庁都立学校教育部
学校健康推進課長

久保田哲司 東京都教育庁指導部
指導企画課統括指導主事

勝俣 正之 公益社団法人東京都歯科医師会副会長

〔一般社団法人東京都学校歯科医会〕

末高 英世 会長

鈴木 博 副会長（学術担当）

長沼 善美 副会長（事業担当）

澤田 章司 専務理事

渡邊 実 理事（総務担当）

箭本 治 理理事（総務担当）

高橋 裕幸 理事（会計担当）

奥野 圭子 理事（広報担当）

酒井 克典 理事（事業部チーフ）

高橋 文夫 理事（表彰・大会担当）

清水 浩一 理事（表彰担当）

西村 健 理事（大会担当）

山崎 靖 理事（推進校担当）

（順不同・19名）

1 位入賞作品

画評：国立大学法人東京学芸大学名誉教授博士（教育学） 増 田 金 吾

保育所・こども園・幼稚園の部



私立玉川学園幼稚園(年中4歳) 鶴代 叶夢さん

歯科保健で最も重要な歯と歯ブラシがよく描けています。目の表情は、歯みがきをしっかりやろうという強い気持ちを感じさせると共に、見る人に歯みがきの大切さをうたえてきます。色使いは、単純ですが美しいですね。

小学校低学年の部



世田谷区立代沢小学校(3年) 山脇 宙桜さん

字と絵が合わさって、歯みがきの大切さを独創的に伝えています。口を開けて「あ〜」、歯を噛み合わせて「い〜」として標語中の「あい」につなげ、色彩面では、二人の「歯の白と唇(くちびる)の赤」を真ん中の文字の色(白と赤)でつなげています。

小学校高学年の部



文京区立礪川小学校
(5年) 来栖仙之介さん

単純な、形、色、標語によるポスターですが、歯科保健の重要性を明確に表現しています。歯やバイ菌を擬人化(ぎじんか)し、しかも、人物を含めてそれらを明るく生き生きと描いている点はたいへん魅力的です。色彩や配色も美しい作品です。

中学校の部



清瀬市立清瀬第二中学校
(3年) 芥川 瑠花さん

「歯っけよ〜いのこった!」というゆるやかな標語と、もう片方の一般的な標語が、ユニークでうまい絵とよく調和しています。配色も美しく、ゆるやかな中にも歯科保健の重要性が明確に示された、独創的で印象的な作品です。

高等学校の部



東京都立六郷工科高等学校
(2年) 佐藤ふぶきさん

標語や絵に、高校生らしい気高さを感じさせるポスターです。白い歯を前面に大きく描きながらも、単純化された表現のために人物などを圧迫せず、全体としてうまく調和しています。配色も工夫されており、美しい作品です。

特別支援学校の部



東京都立王子特別支援学校
(高等部3年)

林 澁さん

一度見たら忘れられない、独創的で印象的な作品です。輪郭線がしっかりと描かれ、明確な形を作っています。目を見開き、口もしっかりと開け、力強く歯みがきをしているところを描いて、「歯をきれいに」しよううたえています。

2位入賞作品

保育所・こども園・幼稚園の部



私立愛育幼稚園(年中5歳)

野地 美緒さん

小学校低学年の部



葛飾区亀が岡保育園(年長6歳)

齊藤 涼音さん

小学校低学年の部



港区立白金の丘小学校(3年)

江澤 栞怜さん

小学校低学年の部



品川区立第二延山小学校(3年)

薬王寺歌葉さん

小学校高学年の部



世田谷区立池之上小学校(6年)

恒吉 省吾さん

小学校高学年の部



小金井市立前原小学校(5年)

國吉 美涼さん

中学校の部



中央区立日本橋中学校(3年)

松村 芽紅さん

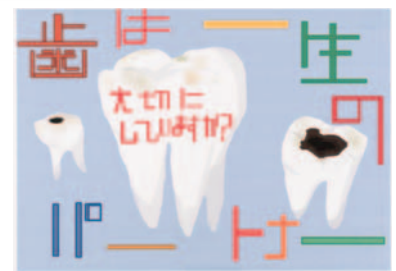
中学校の部



小金井市立小金井第一中学校(2年)

林 優花さん

高等学校の部



東京都立府中高等学校(2年)

室田 麗奈さん

特別支援学校の部



東京都立南大沢学園(3年5組)

石田 麻美さん

特別支援学校の部



東京都港区立本村小学校(5年)

堀江 義也さん

3位入賞作品

保育所・こども園・幼稚園の部



私立聖母の騎士幼稚園(年長5歳)
丸田 彩乃さん

保育所・こども園・幼稚園の部



江東区立もみじ幼稚園(年長5歳)
江口 圭太さん

保育所・こども園・幼稚園の部



港区たまち保育室(年長5歳)
小橋 奏太さん

小学校低学年の部



多摩市立東落合小学校(3年)
江頭ひまりさん

小学校低学年の部



江戸川区立東葛西小学校(3年)
田村羽舞姫さん

小学校低学年の部



世田谷区立深沢小学校(2年)
土谷 いりさん

小学校高学年の部



品川区立御殿山小学校(5年)
藤乗 有輝さん

小学校高学年の部



江戸川区立第二葛西小学校(5年)
徳永 ゆりさん

小学校高学年の部



武蔵村山市立第九小学校(5年)
高橋 杏南さん

中学校の部



大田区立雪谷中学校(3年)
関和 小菊さん

中学校の部



墨田区立竪川中学校(3年)
佐藤 菜絵さん

中学校の部



江東区立亀戸中学校(2年)
星 遥華さん

高等学校の部



東京都立豊島高等学校(2年)
長沼 瑞紀さん

高等学校の部



東京都立練馬工業高等学校(2年)
東 樹理さん

特別支援学校の部



東京都東大和市立第三小学校
(5学年)
棕田 心優さん

特別支援学校の部



東京都立小平特別支援学校(ブルーグループ)
(小学部6年2組)
與猶 柊心さん

特別支援学校の部



東京都立小金井特別支援学校
(小学部1年生)
廣田 准さん

パラリンピアンが考える スポーツの力

株式会社電通パブリックリレーションズ シニアコンサルタント

（公財）日本障がい者スポーツ協会理事

（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会 組織委員会顧問会議顧問

渋谷区教育委員会委員

大日方 邦子

皆さま、足元の悪い中、また研究大会の最後となる私の講演まで残っていただきまして、ありがとうございます。私からは、今日は、パラリンピアンがスポーツの力をどういうふうにとらえているのか、そのようなお話をさせていただきたいと思います。また自分自身の経験に基づき2020年の東京大会で、何を期待しているのかというようなお話もさせていただければと思っています。ずっと話していると飽きてしまうと思いますので、私自身の競技経験でうまくいったこと、うまくいかなかったことを、映像を見ながら振り返っていきたいと思っています。

まず、10年以上前なんですけど、私は1冊だけ本を出版させていただきました。タイトルが『壁なんて破れる』と、こういうことでありまして、帯に「人生には金メダルがいっぱいある」、こんな本を書かせていただきました。私が申し上げたいことを先に言ってしまいますと、壁なんて破れる、そういう力を持つこと、得ることができたのが、私にとってスポーツを通じた経験で一番大きなものなのではないかなと、そんなふうに思っています。

この私自身が書いた『壁なんて破れる』の意味には、実は3つの意味を込めております。当時、2006年にこの本を出版しておりますので、まだまだ現役の選手として、いろんな壁と向き合いながらやっておりました。技術面、それからもちろんスタートする前のドキドキする感じ、メンタル面ですね。そして競技環境、その当時はまだまだ日本でパラリンピックの選手が練習できる環境が、今ほど整っていませんでしたので、そういった競



技環境をどうやってつくっていくのか、いろんな壁に直面しながら、その一步一步を乗り越えていったり、時には打ち破ったりする、そんなことがあったなというふうに思います。

そして2つ目は、私自身が体に障害があることが、日常生活の中で感じるさまざまな、あえて社会の壁というふうに呼ばせていただくものです。健年では、壁というのは、どちらかというと、社会の側にあるというような考え方をされることが多くなっています。例えば、今日このステージに上がる時には、車いすのまま安全にフラットに移動していただくことができます。一方で、今日はそうではないですが、ステージに上がらなければいけないのに階段しかない、そのようなこともたくさんあります。こういったときに、私の足が悪いのが問題なのか、それとも階段のある方が問題なのか、どちらか壁になるのかみたいなことも、実は日常の中で感じられることではないかなというふうに思っています。



撮影者：堀切 功（Isao HORIKIRI）

そして最後、3つ目は、私自身が心の中に時々築いてしまう壁というものをどうやって打ち破ろうか、そんなようなこともあったと思います。皆さんもそうだと思いますけれども、相手に対して、自分のことは分かってもらえないとか、どうせこれはもう無理だよとか、どこかでそういつて諦めてしまう。自分自身で諦めて、こんなもんだろう、相手に望めるのは。あるいは自分自身で、まあ、こんなものでしょうがないかなみたいな、そういったことを感じてしまうと、ある種、諦めが心の壁というか、シャッターを自ら下ろしてしまふ、そんな瞬間ってあるのではないかなというふうに思います。

私自身も時々そんなように諦めてしまふとか、そういった自分の心の中で、これはちょっともう無理だよなんていう壁を自ら築いてしまふ。そういったものをどうやって破ろうかというようなことを考えながら、でも、壁なんて必ず破る方法がある、破れる、そんなことを信じてやってきました。それが私の、スポーツとの向き合い方です。

私自身のパラリンピックの競技経験というのは、もう皆さまのお手元の資料にあると思いますので詳しくここでは述べませんが、5大会のパラリンピックに出場をしています。とりわけ、21年前に開催されました、自国開催、自分の

国で開催された長野パラリンピックというものが、私にとって非常に大きな転機になったことを申し上げておきたいと思います。今日は、この5つの大会の中で、どのように競技に、そして自分自身に向き合ったのかということも少しお話ししていきたいと思います。

が、その前に、どうしてパラリンピックに挑戦したんだろうか、そんなことを皆さんにお話ししていきたいと思います。今日、恐らく、ここにいらっしゃる皆さん、学校関係者の方や保護者の方、先生方が多いというふうに思いますので、私が小学生あるいは中学生のころに何を考えていたのか、それがスポーツにどう生きたのかという話を少ししてみたいと思います。

これが、私が3歳のころの写真です。非常に活発な子供でありまして、これはブランコに乗って、大きな笑顔を見せているところですし、あるいは自転車に乗ったりする、こんなような写真ばかり残っているんです。とにかくとにかくアクティブな子供だったなと思っています。

実はこの写真を撮影してもらった半年ぐらい後に、私は交通事故に遭っています。3歳10カ月のときに交通事故に遭いまして、右足を失いました。そのときに、大きなダンプカーのタイヤに巻き込まれてしまったので、残ったほうの足にも大きな障害が残っております。歩いたり階段を上っ

たりというのもゆっくりだったらできますけれども、長距離移動するのには車椅子のほうが便利だということで、今はこうして、今日も車椅子を使った姿で登壇しております。

これがその交通事故に遭った後の写真です。私には弟が2人おりまして、2歳年下の双子の弟たちです。もうこのときには右足は義足ですが、こうやって木登りをしていました。このときの私と事故に遭う前の私と何が違っただろうか。皆さん、どんなように感じられるでしょうか。どちらも私にとっては、いずれもやんちゃで活発な子供であることは変わらなかったですし、自分自身もそう思っていました。

足を失って、母が言ってくれました。「あなたの足は一足先に天国に行ってしまったんだよ。だけど、新しい足がそのうちくるからね。義足っていう新しい足がくる。そうすればまた歩けるようになるから、頑張ろうね。」そんなふうに声をかけてくれていました。子供の私はそれを、そうだ、そのとおриだと思って、義足を使って歩けるようになったらまたやりたいことを、いろいろと一生懸命考えていたのを覚えています。

私が一番最初にやりたかったこと、歩けるようになってまたやりたかったことは、ブランコに乗ることです。人に乗せてもらって漕いでもらうというのはやっていたんですけれども、自分ではなかなか漕げなかった。それを自分で足を使って、立ち漕ぎですよ、あれをやりたいというのが私自身の大きな、そのころの夢だったんです。

こんなふうに、木登りをしたりブランコに乗ったりということをやらせてもらっていたことが、スポーツを始めるときには大きな大きな自分自身の力になったと思います。実はこの木は祖母の自宅のそばにあった梅の木で、すぐ下は小川なんです。これを撮影したのは父です。そばで見ていたのが母で、恐らく多くの親御さん、ここにいらっしゃる保護者の方あるいは先生方だったら、そんな危ないことしなくても、やめておきなさいって、多分言うのではないかなと思います。

でも、うちの両親はちょっと違まして、ハラハラドキドキはしながら、そばでは見守っていたけれども、子供がやりたいことをじっと我慢して見てくれていました。結果、義足で木に登るって

すごく実は難しいことで、なかなかするするとはいかないんですけれども、弟たちに引っ張ってもらったり、押し上げてもらったりしながら、ようやく上った。この写真では、ちょっと笑顔が見にくいかもしれないんですけれども、誇らしげに、子供なりに笑っているんです。

こんなことを繰り返し、繰り返しさせてもらっていたことで、私の中では、そうか、義足でも何でもできるんだ。やれることというのは何も変わらない、できないことがあれば周りの人に手伝ってもらったり、いろいろ工夫することでできるようになるんじゃないか。小さいながら、そんな成功体験を持つことができたというのが大きかったと思います。

幼稚園や小学校でも、運動会や水泳の授業にも参加をしていました。なかなかこういったものに参加することって、私にとっては難しかったんです。これは運動会の際の1枚の写真なんですけど、1人だけ、私、立って写っていますけれども、後ろに椅子があるのが分かりますでしょうか。実は私は床の上に座るのはすごく難しいんです。つまり、日本間で畳の上に座るとかって結構大変なんですね。とりわけ立ったり座ったり繰り返すのが難しいんだけど、運動会の中では、私が通っていた学校では、地面に座る、何かを敷いて座るのが普通だった。これだとうまくみんなと同じようにやるのは難しいということで、じゃあ椅子を教室から持って来れば、そこに座っていればすぐみんなと一緒に立ったり座ったりということができるようになるよねというような工夫をしていました。

これが私にとって、もう1つの大きな経験だったなというふうに思っています。できないから、例えば運動会、見学しますとか、極端な話、お休みしますということも選択肢としてはできたと思います。でも私は参加をしたかった。じゃあ、参加するためにはどうしたらいいか。テントの中で先生と見るのではなく、お友だちと一緒に運動会に参加するにはどうしたらいいか。じゃあ、椅子をこうやって持って来たら、みんなと同じように動きやすくなるんじゃないだろうかというような工夫をすることも学びました。

また、運動会の際には入場行進というのがあ

るんですよね。入場行進でみんな出てくるときに、右足、左足を揃えて歩くのが、義足を使っている私にとってはなかなか難しいことでした。そこでどうしたかという、さっきの弟たちがまた登場するんですが、自宅の庭で弟たちを相手に入場行進の練習をしてみたんです。右足、左足をできるだけ均等に出す、そういう練習をして、運動会で皆さんと一緒に入場行進ができるようにする。小さな小さなことなんですけれども、そんなことを繰り返しながらやってきたことというのが、スポーツの中で生きてきたなというふうに思います。

ところが、実は中学になると大きな壁にぶつかります。いわゆるいじめられた経験というのを持っています。きっかけは、この制服姿にありました。最近、ちょっとようやく話題に、そんな制服もあるよというので話題になっていますが、女子生徒もパンツスタイルでもスカートスタイルでも選べるようになってきているというニュースを、昨日、一昨日ぐらいに見て、ああ、時代が変わったなと思ったんです。私の時代はまだまだ女子はスカートと決まっていた中で、1人だけ私はパンツスタイルを選択していました。

というのは、スカートをはいて歩き回ると、義足の場合は何かに引っかけてしまうような危険性もあって、安全に学校で生活を送るのにはこっちのスタイルのほうが良いなと、そんなようなことで決断をしたんですが、制服がほかの人と違うのは変だよね、1人だけ違う、みんな一緒なのが本当はいいのに、1人だけ違う人がいる。いわゆる同調圧力というものがあったんじゃないかなというふうに思います。みんなと同じじゃなきゃいけない、同じであることがいいことだというような中で、1人だけ違うということがいじめにつながる1つの理由だったと思います。

また2つ目の理由は、障害のある人に対する、いわゆるステレオタイプな見方です。障害のある人はかわいそうな人だ。障害のある人は守ってあげなければいけない。障害のある人は隅のほうでじっとおとなしく聞いていれば、実際そんなことを言われました。障害者らしくしていればかわいがってあげるのに、生意気なんだよ、むかつくんだよみたいなことをすごく言われて、一体どうい

うことなんだろうと非常に戸惑いを覚えた時代でもありました。

そのときのことを振り返ると、学校の先生たち、あるいは保護者の方々、大人の方々の影響って大きいな、そんなふうに思います。大人の方たちが、障害があるんだから、かわいそうな人なんだから守ってあげなさいよなんていうことを、例えば子供に言っていたら、子供はそういうものだと思います。でも、そんなイメージと違う元気な人がいると、何かちょっとむかつく、期待するタイプと違うみたいなの、そんなように思ってしまったのではないかなと思っています。

こうした、非常にしんどいしんどい経験をしましたけれども、支えになったのは家族であり、また、そういった中でも、少ない中でも心を開くことができる友人、そういった人たちの存在は大きかったなというふうに思います。自分自身の気持ちを、言葉にしていって整理をつけていくことができた、あるいは自分自身、私ってどういう人なんだろうな、そんなことを自ら深く考え続けること、これもまた実はスポーツに挑戦していく中では、大きな壁にぶつかったとき、どうすればいいんだろうということを考えるとき、自分らしさって何かな、自分の強みって何だろうというようなことを自問していくこと、そこに非常に役に立つ経験だったな、そんなふうに考えています。

高校生のときに、偶然このチェアスキーと出会って、競技の道に入りました。1本のスキーの板の上にばねが付いていて、その上に椅子が付いている。これを見たときに、目から鱗だなというふうに思いました。私は、実は立って滑ることは難しいとお医者さんからは聞かされていました。君はスキーというスポーツはいろいろやりたいだろうけれども、できないよというふうに教えられていたの、そうか、片足でスキーするのは難しいのかというふうに思っていたんですが、これを見たときに、びびっとひらめきました。そうか、立って滑れないけれど、じゃあ座って滑ればいいんだ。そんなことを、まさに発想の転換だと教えてくれた。そして、好奇心に駆られまして、これはぜひやってみたいと思って、いろいろ問い合わせ、始めたというのが私自身のきっかけです。

体に障害があることは、私自身の個性なのではないかな、こんなように思っています。障害があるからこそいろんなことに気づくこともできたとし、私自身が自分のアイデンティティを考えると、義足で生活をしている、ときには車いすを使う、なかなか立って長距離を走るとかいうことはできないけれども、でも、それを車いすを使ったり、杖を使ったり、いろんな道具を工夫することのできるようになることはたくさんある。そんな中で、多くの人がなかなか気づけないようなことに気づくことができる、これは1つの自分の強みじゃないかなというふうに思っておりますし、人と違っていいんだ、むしろ人と違う方が自分自身の生き方、自分らしく生きるときには強いのではないかな。そんなことも考えたりすると、体に障害があるということは、私自身のアイデンティティであり、大切な大切な1つの個性なのではないかなと、そんなふうに思っています。

そういうふうにポジティブに思わせてくれる、思えることができたのも、またスポーツの力だと思います。皆さん、お気づきになっているかと思いますが、パラリンピック、ここに参加をする資格って何でしょうか。体に障害がある人じゃなければ、実はパラリンピックの選手にはなれません。視覚障害の選手を支えるガイドスキーヤーとか、一緒に走る伴走者、そういう方だと参加することもできるんですが、基本的にはパラリンピックに出場することができるのは、障害があるからこそなんです。これもまた、私の1つの強みじゃないかななんていうふうに思っています。パラリンピックがあったからこそ人生が豊かになった、そんなふうに思っています。

長野の話の少ししたいと思います。ここにいらっしゃる皆さんで、20年前の長野オリンピック、何となく記憶あるなという方って、どれくらいいらっしゃいますか。ほぼ皆さん。その中で、ちょっとそのまま手を挙げていてください。パラリンピックも覚えているという人、いらっしゃいますか。本当、少しで、ありがとうございます。でも、今日、多いほうかもしれないです。皆さん、大体オリンピックは100%覚えているんだけど、パラリンピックはなかなか記憶ないなという方のほうが大勢です。今日は少し多いかなと

と思いますが、皆さんのご記憶を呼び覚ましたいと思います。

こんなスポーツ新聞が、21年前、3月の7日です。もう間もなくですね。早春のころに出ました。パラリンピックで初めて金メダルを冬の大会で取ったよ、日本人がということで、大きな大きな話題にさせていただきました。皆さんこれを見て、今だはどう思われるのでしょうか。パラリンピックがだいぶ皆さんの中に広まってきたので、ああ、こういう人もいるんだぐらいで、そんなにインパクトがないかもしれませんが、当時はすごく話題になりました。なぜ話題になったか。新聞の一面の記事に、片足の人が。私、これを見ていただくと分かるんですが、義足を外して滑っている、足のない人がスポーツ新聞の1面に載った。そのことが話題になるような社会だったんですね。

これ、いいんだろうかというような議論にもなったそうです。でも、多くの人たちは、素晴らしいというふうに言ってくれました。パラリンピック、こんなふうに障害がある人も挑戦できるスポーツがあるんだ。あのオリンピックと同じコースを、このチェアスキーという道具を使って滑り降りてくる人たちがいるんだ。そして、何より選手がとても楽しそうだった。というようなことで、皆さんの心の中に大きく大きく残ってくれたんだと思います。

こんなふうに、たくさんの人たちに応援をしてもらうことができて、右の端の写真、ちょっと小さくて分かりづらいかもしれませんが、閉会式的一幕なんです。日本中から千羽鶴を折って送ってもらったんです。閉会式ではそれを使って、千羽鶴を皆さんで、選手同士でかけ合って、頑張ったねっていうのを讃え合う一つの演出というか、選手が楽しむそんな素敵な閉会式を、全国の人が千羽鶴を送ってくれたことで果たすことというのもできました。とてもとても盛り上がりました。

この20年前のパラリンピックで皆さんに残ったことというのは、まず、パラリンピックという大会があるということ、オリンピックの後にはこういう大会があるんだなということを知ってもらえたことも1つ大きかったと思いますし、大勢の

方々に、ああ、こういうスポーツもあるんだなと、そして障害がある人もやっぱり勝ちたいとか、競技で一番になりたいというように、スポーツの中に競技スポーツという一つの分野があるんだということを知ってもらえたんじゃないかな、そんなふうに思っています。

ここで金メダルを取りましたので、私自身は、次の大会も当然金メダルを狙いたい、そんなふうに思ってた4年間頑張ってきたんですが、残念ながら、次の2002年のソルトレイクシティで行われた大会では、金メダルを手にはできませんでした。すごく悔しかったです。そんな思いを抱えて、次にまた挑戦できるのは、今度また4年後しかないんです。オリンピック・パラリンピックの1つの難しさは、4年に一度のタイミングに自分自身のピークをどう合わせるのか、そんなことではないかなというふうに思いますし、メダルを取ることも、金メダルを取ることもやっぱり難しい、そんなことを痛感しながら、でも勝ちたい、勝てるはず、どうすれば勝てるかと自分自身に向き合いながらやってきた中で、ようやく取れたのが8年後のトリノ大会のときです。これがパラリンピック、金メダルを取ったときの写真なんですが、このときの映像を皆さんにご覧いただきたいと思います。

このように、勝利にこだわった結果、ちょっと間の抜けたインタビューを引き受けてしまったんですが、これが私の現役時代です。ローリーというライバルの選手との差、2位の選手との差は、100分の8秒しかありませんでした。100分の8秒というと、大体10センチとか15センチぐらいですね。わずかに、ちょっとだけ早くゴールを切ったと、そんなわずかなタイム差で競い合う中で一番難しかったこと、とにかく、私、実はあがり症なんです。こうやって皆さんの前で話ししているのが不思議なぐらい、今そんなに緊張しているわけではないんですが、この試合のときにスタートバーを切るときには、とてもとても緊張してしまって、体が全く動かなくなる、そんなことをたくさんたくさん経験してきました。

さっき申し上げた、『壁なんて破れる』の中に、メンタルという言葉があったと思うんですが、私の中では、試合になると別人になってしま

う自分とどう向き合うのか、それをどうやって克服していくのかというのも、大きな大きな競技の中で越えなければいけない壁だったなと、そんなふうに思っています。最後はどれだけ強い気持ちでやっていけるのか、自分自身を、やってきたことを信じられるのか、そんなことだったろうかなんていうふうに振り返っていますが。

実はもう1つお見せしたいものがあります。こんなふうにうまくいくことばかりではないというように事例です。その次のパラリンピックです。バンクーバーの大会なんですが、またもう一度、この大会でも金メダルを取ろう、2連覇したい、そんなような目標を掲げて臨んだ大会です。ちょっとご覧いただければと思います。

ここで、実はスキーの板とチェアスキーをつないでいる用具が外れてしまって、コントロールが不能になってしましまして、そのままトップスピード、時速100キロぐらい出ていたと思います。そこで転倒してしまったという。実はこんなシーンが私にとってのパラリンピックの最後の、選手としての最後の思い出だったりもします。結局この後、ヘリコプターがお迎えに来てくれて、けがをしていて、もしかしたら首を痛めている、脊髄、頸椎を痛めている危険性もあるので、ヘリコプターで収容をされたということなんです。

今、乗って行って、担架の中にいるのが私なんです。全くクリアに記憶がありまして、このときに何を考えていたかと申しますと、次の試合のことを考えていました。自分がまだそんなに大きなけがをしているとは思っていませんし、何とかして次の試合に出なきゃいけないなということを、どうすれば出られるだろうかというように考えていましたし、同時にもう1つ、ぼうっと思っていたことは、ああ、きれいな景色だなと、こんなことを実はコースを見ながら、離れながら考えていました。

これをお見せしたのも、いつもいつもスポーツはうまくいくわけではなく、たくさんの失敗をすること、そこからまた得られることが多くあるということだと思います。私のこの大きな転倒がきっかけになりまして、用具の、チェアスキーの道具の開発の仕方がちょっと変わったりというこ

とも日本の中では始まりました。こんなにスピードが出ると、こういう転倒の仕方をする選手というのはあまりいなかったんですね。なので、こういうことも起こり得るのかということで、また1つ時代が進化したということもありますし、私自身もこの経験を通じて、いつもうまくいくわけではない、でもやってよかったなというふうに思っています。

この動画の中で、周りの人がヒューって歓声を上げていただいたりしているところがあるんですけども、自分自身の中でもすごくうまくいった一瞬というのがあの中ではありました。思い切りいけたことで、やはり後悔していないな、そういうことも経験することができたななんていうことを思っています。

これで私自身のパラリンピック、選手としての挑戦は終了になったわけですが、5回のパラリンピックへの挑戦を通じて多くのことを得られたと思います。幸いなことに、私には強い好奇心がありました。チェアスキーと出会ったときに、やってみたい、競技と出会ったときに、あの競技をやってみよう、そういう好奇心があって、やってみようというのが全部の始まりだっただろうなと思います。そういう意味では、多くのお子さんたちにも挑戦する心、そのために好奇心を持つことを大切にしてほしいと思っています。

そして2つ目、「自己肯定感情の大切さ」と書きましたけれども、自分自身はいい存在なんだ、あるいはちょっとだけうまくいった、1個1個やれたことの成功体験、あるいは自分自身がここにいることが意味があることなんだ、そう思えることってというのが、結局、大きな大きな大会になったときに、自分自身を支える大きな感情になったと思っています。

そして3つ目は、何かうまくいかないときに、別のものの見方をすることの大切さというのを習いました。例えば、金メダルを取れたらそれはいいんですけども、銀や銅のメダルを取れたときに、メダルを獲得することができたというようにも見るができますが、一方で別の見方をすると、負けたということでもあるんですね。銀メダル、銅メダルは金メダルの選手には勝てなかった、そんなように多くの選手は見るができま

す。

あるいは4位だったとき、あとちょっとで次はうまくいく、そう思えるのか。3位に入れなくて残念だったと思うのか。それによって全く心の向き合い方、次への進め方って違うと思うんです。これを自分の中でコントロールして、こういう見方もある、でも別の人が見ればこういう見方もできるよねというような、違うものの視点というのを幾つも持ち、これはどう見たらいいんだろうと考える癖というのは、アスリートで現役の選手をやっている中で身につけてきた1つの癖だったのではないかなというふうに思っていて、今もこれはとても生きているんじゃないかと思っています。

皆さんにお伝えしたいことは、もう1つあります。パラリンピックの基本精神として、ルードヴィッヒ・グッドマンという創始者の方が日本に伝えてくれた言葉です。「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」、こんなふうに選手たちに伝えて励ましてくれたそうです。例えば私ですと、足は失いました。でも、手の機能は残っているし、それを支える背骨もちゃんと機能している。体幹ですね。体の幹になる部分という腹筋・背筋はちゃんと使える。足を使って立っては滑れないけれども、座ってだったらこうやって滑ることができる。そういうことを教えてくれたと思います。

この言葉は、また非常に普遍的な言葉であるとも思っています。失ったもの、皆さんにとってもたくさん多分、それぞれの長い人生の中であると思います。例えば過去を振り返って、何かがなくなっちゃった、これ失敗しちゃったとか、それはもう失ったものだと思います。でも、残されているものは今、そして未来であって、昔のことを後悔するのではなくて、今できること、これからやれること、そんなことを考えたほうがいいよねっていうことを指し示してくれている言葉ではないかな、そんなふうに考えています。

ここまでが私の選手としてのお話をさせていただきましたが、この後は今年のピョンチャン・パラリンピックの話を少しだけ、駆け足になりますが、していきたいと思います。私は団長として、参加をしました。去年のことなので、この写真は

覚えているよという方、いらっしゃいますかね。少しはいらっしゃいますか。長野パラリンピックよりは手が挙がってよかったです。一番前にいるのが旗手の村岡選手で、その2番目について行くのが選手団長としての私の仕事の1つでした。

団長って何するんだというお話ですが、こんなような仕事をしたなというのをまとめてみました。選手団のまとめ役、これはそうだなと思われると思うんですが、もう1つは、選手団の顔になること。選手たちは、メダル幾つ取れますかとか、メダル当然取れますよねみたいな、プレッシャーに実はすごくさらされていました。そういう中で、選手に過度にプレッシャーがかからないように、ときには私自身が団長としての目標を発表するというような配慮もやっていきました。

一番大切にしたのは、日本選手団の応援団長でいようということでした。選手を経験して、選手がどれだけパラリンピックにかける思いが大きいのかということを知っている立場として、元アスリートとして、誰よりもトップを切って応援できる人になろう、応援団長になろう、そんなふうに勝手に決めて臨んでいた大会でした。その中では、選手が自分自身が考えて、そして、自分自身で自分のやりたいことって何なんだろう、私はこうしたいということを決断できるような助言ができるといいななんていうことを考えながら大会に臨んでいました。

代表選手を発表するという経験も初めてで、やっぱり残念ながら選べなかった選手もいるんですが、私の中では、そういった選手のくやしさということも感じて、重い決断なんだな、パラリンピックに人生すごく大きくかけている人たちに対して、ちゃんと選手を選ばなければいけない、そんなような責任も強く感じた大会でしたし、こうやってお話がスムーズに昔よりはできるようになっているのも、こういう、やたらとごあいさつする機会とかが多くある、そんなことだったんじゃないかなというふうに思っています。

今、プレッシャーがすごかったという話をしましたが、これが競技中に選手を撮影するカメラマンの数です。日本からものすごい数の報道メディアの方が来てくれました。80人、100人という人がうわっと選手を取り囲むんです。全く見え

ないような状態になってしまう中で、なかなかパラリンピックで結果を出すことというのは、すごく実は難しいことでもあったりしました。私が何度も何度もそういったメディアの方々に言っていたのは、スポーツから共生社会をつくっていきたい、こんなことです。そのことについては、後ほどまたお話をさせていただきたいと思います。

これは旗手を務めた村岡選手とのツーショットの1枚なんですが、パラリンピックで、彼女は実はこの日、銀メダルを、3つ目のメダルを獲得したときだったんです。この中で、自分はどうしても金メダルが取りたいんだという話をされました。それを受けて私は、後悔しないことが一番、自分を信じたら絶対いけるはずだから、いってごらんなんていう話をちょっとさせてもらったら、翌日に金メダルを取ってくれて、やってよかったなど、そんなような経験もできました。

若い選手、これは初めてパラリンピックに出場した選手なんですが、最初の種目でスタートバーを切ったときに頭が真っ白になってしまって何も覚えていなかったというんですね。でも、少しずつ少しずつ大会に慣れて、一步一步成長をしていく中で、最後の日の試合のときには彼女が何と入賞を果たしてくれました。こんな成長を、短い時間でぐぐっと実現させてくれるのも、またパラリンピックという大きな舞台を経験できたからこそだろうというふうに考えています。

私自身にとって大きな成果だったと思うのは、先輩たち、私と一緒にパラリンピックを当時闘ってきた先輩であったり、あるいは仲間、ライバルであった人たちが、今、国際パラリンピック委員会という大きな舞台でそれを支える、運営する側になっている。支えられていた選手が支える側の立場で運営をしているという姿を見て、私ももっと頑張らなきゃいけないな、もっともっとできることってたくさんあるんじゃないかな、そんなことを感じることで、自分自身のモチベーションを高める上でも、とても素晴らしい経験をさせてもらえたなというふうに思っています。

そして、これはまたボランティアの方々の1枚です。アイスホッケーの会場なんですが、皆さんすごく、ボランティアの人たちが大会を楽しんでくれていました。ボランティアが自らノリノリで

楽しんでくれていることで、会場もうわっと盛り上がる。会場が盛り上がると選手の気持ちも盛り上がります。そんな応援上手な一面というのも韓国の人たちにはあって、こういうのをまた日本で2年後に、もう1年後ですね、にはできるんだなと思うと、すごくわくわくしましたし、学べることがたくさんあるななんていうことをお隣の国からも思いました。

また、この大会では、こんなふうに記者会見が開かれるわけですが、このひな壇にどうやって上がるかという、実は裏側に緩やかなスロープをつくるなんていう工夫もされていました。こういった細かい工夫がパラリンピックの大会の中で随所随所に見られます。2020年の東京大会でも、こういうバリアフリーのノウハウ、ある種のノウハウみたいなもの、こういうスロープを付けることが当たり前だよというような社会になってくれるといいななんて思っています。

最後です。東京パラリンピックの話をしていきたいと思います。2020年の東京大会って、一体何のために開かれる大会なんだろう、その開催意義って何なんだろうということを、最後に皆さんと考えていきたいと思っています。これが東京2020、「ニーマルニーマル」じゃなくて、「ニーゼロニーゼロ」と呼んでいただきたい、と組織委員会は言っています。2020大会の基本のコンセプトです。

3つありまして、そのうちの1つが「多様性と調和」という言葉が使われています。この「多様性と調和」、「あらゆる面での違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合うことで社会は進歩する。世界中の人々が多様性と調和の重要性をあらためて認識し、共生社会を育む契機となるような大会とする」。これが2020大会が目指しているコンセプトなんです。

「互いに認め合う」、「多様性と調和の重要性を認識する」、ああ、そうなんだ、難しいなと感じるかもしれません。そもそも共生社会を育む、一体、共生社会ってどんなものなんだろう？ ちょっとそんなことをこの後、考えてみたいと思います。また、国際パラリンピック委員会もこのような目標を掲げています、「インクルーシブな社会を創出すること」。共生社会、インクルー

シブな社会、一体どんなものなんでしょうか。ということで、ちょっとだけ難しい話をする、内閣府や文部科学省はこんなふうに表現をしているんですね。「多様なあり方を相互に認めあえる社会」と。ううん、何かちょっと分からないですね。

少し飛ばして話をしたいと思います。その1つのヒントになるんじゃないかなという映像をこれからお見せしたいと思います。実は東京大会が目指している大会、どんな大会にしたいかという目標を関係者にたずねると、2012年のロンドンのオリンピック・パラリンピック、あの成功を超える、特にパラリンピック、それよりもいい大会にしようという声があがります。そのロンドン大会がなぜいい大会だったか。人々の障害のある人々への意識が変わり、行動を変えることができるようなインパクトのある大会だったからというふうに言われています。

では、その人々の行動を変えるほどのインパクトはなぜあったんだろうかというときに大きいのが、「4」と書いてありますが、実はテレビ局の影響が大きかったというふうに言われています。ロンドンの大会の前に、パラリンピックを放送する権利を持っているチャンネル4というテレビ局が、繰り返し繰り返しパラリンピックの選手のこんなところがすごいんだとか、そんな軽やかな映像を流して大反響を呼びました。そして2016年のリオでももっとすごい、さらにびっくりするような映像をつくって発表しました。これをちょっと皆さんに見ていただきたいなというふうに思います。

こんな映像を繰り返し繰り返しイギリスでは、リオの大会のときですね、これは流されていました。皆さんの中にもちょっと心に残ったかもしれませんが、テーマは「Yes, I can」です。やればできる、これがパラリンピックを象徴する言葉なのではないかなというふうに私自身も思っています。私の言葉ですと、これが「壁なんて破れる」ということになるんですけれども、パラリンピアンたちはこんなふうに自分自身の経験を通じてしゃべっていることではないかなというふうなまとめをしたいと思います。

一見できないことってたくさんありますよね。

冒頭の話で、私は木登りしていました。木登りできないよね、と諦めることは簡単です。でも、弟たちの力を借りたらできた。自分なりに頑張ったと思います。努力もした。工夫もした。チェアスキーという道具、立っては滑れないけれども、その道具を、開発された技術を使ってスキーができるようになった。あるいは周りの人たちの協力があればできるようになる、できないことと思われることも実はできることが、こんなにたくさんあるんだ。そんなことを示しているのがパラリンピックだなというふうに思っています。

もう1つだけ事例をお見せしたいと思います。これはソチのパラリンピックの閉会式のときです。閉会式の会場にいきなり出てきた、テトリスのようなこの演出、「Impossible」と書いてあるんですね。「できないよ」と書いてある。ところがこれが演出が進む中で、「I」のブロックが1個落ちてきた。そうすると出来上がったのが、「I'm possible」。やればできるじゃん、そういうことです。ちょっとだけ工夫をすればできる、1つできなかったことができるようになる、そんなことを示したんじゃないかなんていうふうに思っています。

マルクス・レームという走り幅跳びの選手がおりますけれども、彼は義足で8メートル47センチを跳びます。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、オリンピックに出場することもできるほどの距離を跳べるロングジャンパー、世界的に有名な選手です。彼がオリンピックにも実は出たいと言っています。何で出たいんでしょうとそんな話をしたときに、すべてのアスリートと観客の人たちに対して、人生に不可能なんてないんだということを自分は伝えたいから、だからオリンピックに出てみたい、そんなように話をしてくれました。

パラリンピック、間もなく1年後に来ます。一人ひとりが実は共生社会って何なんだろうというようなことを考えることが、共生社会に近づける一番の近道なのではないかと思います。共生社会、つまり誰もが安心して暮らせる社会になるには、一人ひとりが何ができるだろうと、皆さん一人ひとり、今日ここにいらっしゃる一人ひとりに考えていただきたいです。

これは1つの事例です。例えば、エスカレーターにどんなふうに乗っているでしょうか。恐らくこの中には、忙しいから、たっただと駆け上がる、日常的にそんなことをしている方、きっといらっしゃると思います。あえて手を挙げてとは言わないので、安心していただきたいんですが。

そんなときに実は私、すごく困った問題だなと思っています。私は左手に杖をついて歩きます。歩くときですね。なので、関東流の左側によけて乗る、右側を空けるといのは実はすごく難しいんです。大阪のほうで、そういう意味では楽にエスカレーターを使えます。なぜなら、右側にみんながいるのが常識だからです。こうやって一番右の写真のように、たっただと駆け上がる人もいでしょう。でも、そのときに、それはやむを得ないかもしれないけれど、ぜひ、右側にしか立ってない人、立ちにくい人がいるということを思っていたきたい。舌打ちをするのではなく、忙しいんだよと咳払いをするのではなく、そのときは諦めていただきたいなというふうに思いますし、できれば、皆さん一人ひとりができること、ちょっと左側じゃなくて、若干真ん中に立っていただけるといいななんていうふうにも思っています。特に私のように右側に何らかの理由で立っている人がいたときに、周りの人がちょっとだけ真ん中に立ってみようかな、そんなふうにブロックしてくれたりすると、すごくうれしいななんていうふうに思っていたりもします。

皆さん一人ひとりが考える共生社会はどのようなのでしょうか。互いに思いやり合えること、互いを尊重し合えること、違いを認め合えること、そんな思いを行動にして、一人ひとりが実践していってくれることで、共生社会は実現すると思いますし、そしてアスリートたちが示すスポーツの力、「やればできる」「Yes, I can」「壁なんて破れる」、そんな前向きな力を皆さんの中にも、2020年の大会のときには選手たちはきっと届けてくれると思います。それが2020年大会の開催意義でもあり、スポーツの力なのではないかなというふうに私自身は考えています。ご清聴ありがとうございました。

小児期の口腔機能と 歯列・咬合の育成

神奈川歯科大学大学院 口腔統合医療学講座 小児歯科学分野

教授 木本茂成

はじめに

小児を対象とした齲蝕や歯周疾患の予防、歯冠修復処置や歯内療法処置を含めた保存的治療や外科的処置、さらに保険を含めた咬合誘導処置など小児歯科領域の臨床での対応はすべて健全な口腔機能の獲得をめざした小児歯科学の理念に基づいている。近年の疾病構造の変化に伴い、小児患者における歯科受診の希望も歯列・咬合の診査や口腔の機能に関するものが増加しており、形態的な異常を伴う症例の他、実際には機能的な異常を伴う症例も多々見受けられる。理想的な歯列形態や咬合状態は乳歯列期からの正常な口腔機能によって獲得されるものであり、正常な口腔機能は理想的な顎・顔面の成長過程における学習によって獲得されるものが主体となっている。このように、生体組織の形態と機能の営みは表裏一体といえるべき存在である。これからの小児歯科医療の主体をなすと考えられる咬合誘導においては口腔機能の発達を考慮した対応が必要である。

1. 形態と機能の関連

人間は出生前に基本的形態を遺伝的形質として獲得しているが、出生前においても形態形成には、母胎という人生で最初の環境要因によりかなりの影響を受けており、各個体における出生時の形態は遺伝的因子と環境的因子とがともに関わりながら決定される。

出生後の成長発育は成育環境にしたがって、各発育段階における形態を獲得していく。その成長発育の過程における正常な機能の獲得が、成長方向を決定する最も重要な環境要因として作用して

いると考えられる。すなわち正常な機能の獲得が理想的な形態の獲得に必要な不可欠であるといえる。

生体の機能も基本的形質と同様に出生時には生存に必要な基本的機能を獲得している。生まれつき保有している機能に加えて、生後学習によって得られた機能が順次付加されてその機能の営みの過程で成長方向が決定される。それらの機能の獲得の場となるのが生体の置かれた環境に他ならない。環境要因には母胎環境と生後の成育環境（習癖や食習慣などの学習によって獲得されるものを含む）があり、このうち我々小児歯科専門医が主として関与すべき対象は成育環境であるといえる（図1）。

2. 顎顔面部の成長発育

骨の成長はその骨に関連をもつすべての軟組織系によって確立される機能に反応して起こるとして、Mossはこれを“functional matrix”と名付けた^{1,2)}。また、Ten Cateは下顎骨の成長過程は

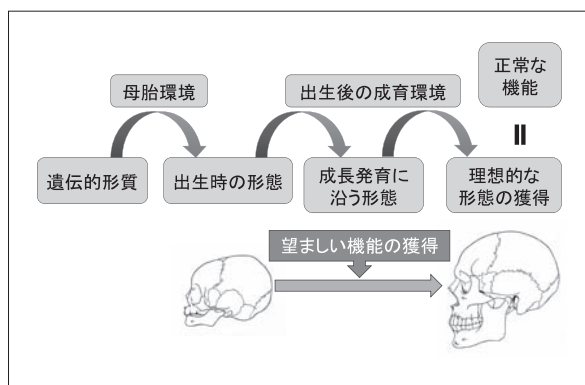


図1 形態と機能の相互関係

フィードバックメカニズムを有しており、成長環境に持続的な変化を与える多くの要因（生理学的変化、軟組織の増大、生体力学的な力、生体電気的な変化、ホルモンなど）が下顎枝と下顎頭の成長を調節すると述べている³⁾。現在では軟組織の機能により骨の成長がコントロールされることは一般的に広く認識されている（図2）。

3. 乳幼児期に獲得すべき機能

人間として基本的な口腔機能を獲得するのは乳幼児期であり、定型発達を示す小児においては以下のような機能を獲得する。

- 1) 捕食機能（食物を口で捕らえる機能）：口唇の感覚と運動機能の発達（離乳の過程で習得）
- 2) 嚥下機能：乳児型嚥下から成熟型嚥下へ移行する（1歳以降に発達）。
- 3) 咀嚼機能：離乳から卒乳を経て乳歯列期に発達する。
- 4) 構音機能：乳歯の萌出完了後、5歳の終わり頃までに完成する。

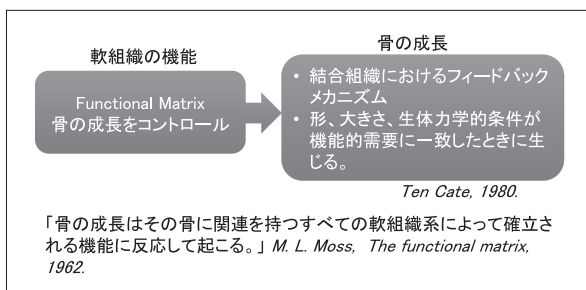


図2 Functional Matrix

これらの機能獲得は脳神経系組織の発育と並行して行われ、基本的な粗大運動、微細運動を獲得する6歳ころまでにはほぼ完了する。

4. 摂食機能の発達

人間を含めた動物にとって、摂食機能は生命の維持に必要な行為であるが、哺乳類にみられる出生直後からみられる哺乳は、本能的に備わっている反射によるものである。自分の意思とは無関係に、唇に触れたものに吸い付き母乳やミルクを飲む。これは原始反射と呼ばれるものの1つで、通常生後3～5か月頃には自然に消失し、「離乳」という過程を経て徐々に固形食の摂取が可能となる（図3）。この離乳の過程は固形の食品を歯で噛んですりつぶし（咀嚼）、唾液と混ぜ合わせて飲み込める状態にして舌の上を喉の奥に送り込んで飲み込む（嚥下）行為を学ぶ学習によって獲得する過程である（図4、5）。従って、哺乳から

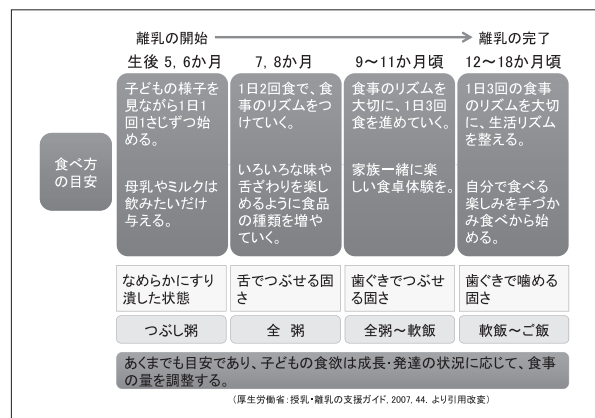


図3 離乳の過程

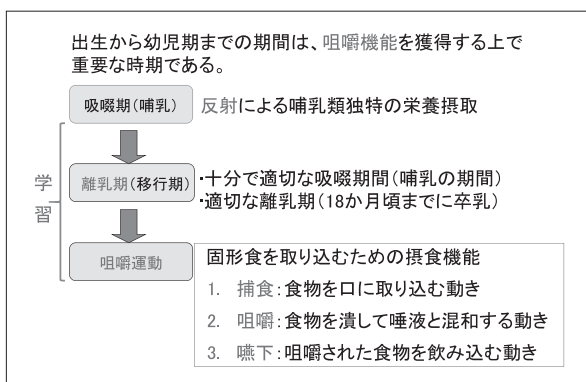


図4 咀嚼機能の獲得

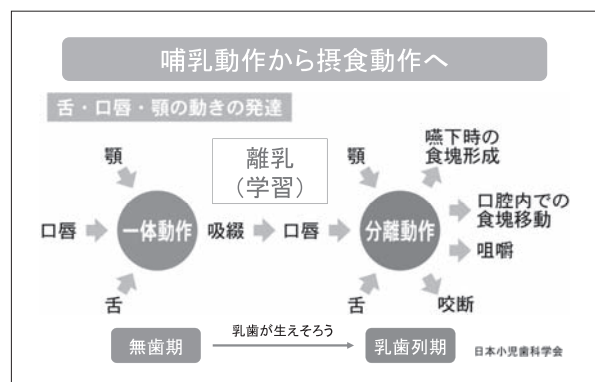


図5 食べる機能は「学習」により発達する！

固形食を食べる行為へは一足飛びには移行できない。子供の発達状況や、乳歯の萌出を含めた口腔の状態に合わせた離乳食の与え方が適切でないと(誤った学習)、固形食を食べる機能はうまく身につかないことになる。

一方、嚥下の様式は、生後、母乳またはミルクという液体だけを飲み込んでいた乳児特有の嚥下から生後1年(上下の乳歯切歯の萌出が完了する頃)を過ぎると、成人と同様の固形食を飲み込む嚥下様式への移行を開始し、第一乳臼歯が咬合する1歳半頃には、ほぼ成人型嚥下様式に移行する。さらに乳歯列が完成する3歳頃には、様々な食品を咀嚼できるようになり幼児食を食べる機能が完成する(図6)。

5. 「口腔機能発達評価マニュアル」と「口腔機能発達不全症」

1) 口腔機能発達評価マニュアル作成の経緯

近年、歯科医療機関にいて、いわゆる定型発達を示す小児の保護者からの食の問題に関する訴えを受けることは珍しくない。子供の食事の仕方が気になる」、具体的には「噛み方がおかしい」、「食事に時間がかかる」、「食べる量が少ない」、「口にいったものをなかなか飲み込まない」、「食べたものを噛まずに丸飲みする」、「食べこぼす」等の相談を受ける歯科医院が珍しくない。特に小児歯科を標榜する歯科医院においては、子供の歯列・咬合の異常に関する相談の

みならず、咀嚼や嚥下、食行動、吸指癖や口呼吸を含む口腔習癖、さらに構音に関する相談など、保護者の訴える口腔機能に関する問題点は多岐にわたっている。

このような背景から、日本歯科医学会では平成25年に重点研究委員会を設置し、子供の食に関する問題について調査研究に着手した。同委員会では平成26年に小児歯科を標榜する全国の歯科医師(約1,000名)、さらに未就学児をもつ保護者(約1,000名)を対象として子供の食の問題に関して、質問紙による調査を実施した⁴⁾。その報告によれば、子供の食の問題への心配ごとをもっている保護者は全体の半数以上であり、子供の食の問題について相談を受けている歯科医師は全体の約6割であった(図7、8)。全体の8割以上の歯科医師は子供の食の問題について、歯科において改善に向けた取り組みをすべきであると考えていたが、実際には何らかの対応を行っていた歯科医院は4割強にすぎず、半数以上の歯科医院では子供の食の問題について未対応の状況であった(図9)。

この調査報告から、保護者が求めている食の問題に対して歯科医療関係者の適切な対応をとることの重要性が問われていることが明確となった。また、子供の食の問題は経過を観察すれば良いレベルのもの、アドバイスが必要なものと、さらに医療的な介入が必要なものと、いくつかの段階に分かれるため、歯科医師が摂食嚥下機能に関する専門的な知識を持ち、個別に対応できる技能が必要である。以上のような課題への対応から、口腔機能発達不全の認められる小児に対し、歯科医療関係者が適切な評価、検査、そして対応を可能とすることを目的として、「小児の口腔機能発達評価マニュアル」⁵⁾を作成するに至った(図10)。

口腔機能の発達は全身の健康と密接なかわりがあり、またその発達には個人差がある。そのため多様な支援が必要であるが、従来の歯科保険医療の範囲では支援が困難な状況にある小児は少なくない。このマニュアルは歯科医療の

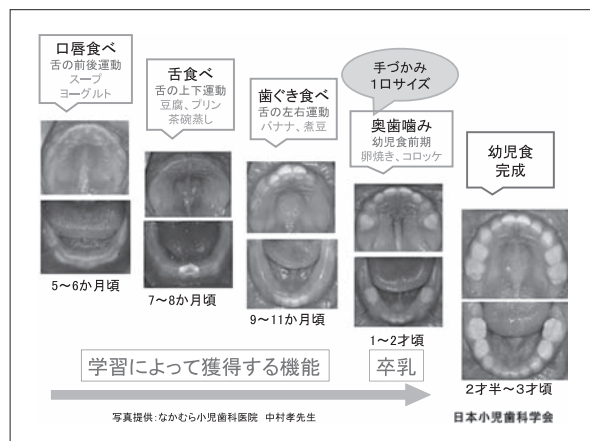


図6 乳歯の生え方と咀嚼機能の発達

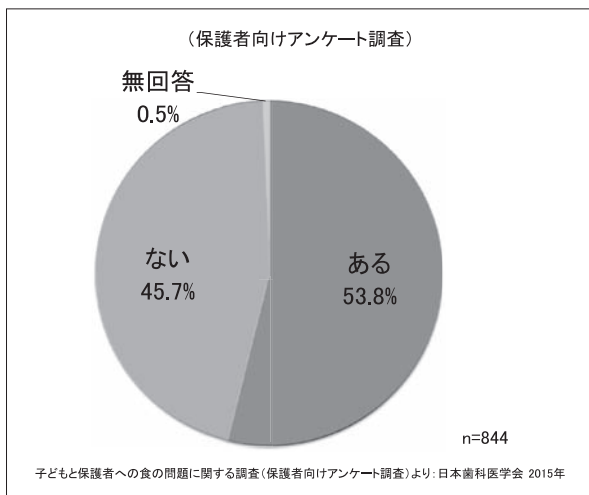


図7 子供の食事についての心配事について

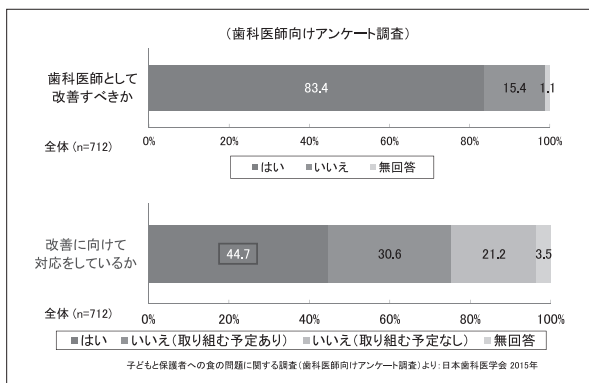


図9 子供の食の問題について歯科医師としての改善に向けた対応

質の均てん化を図り、保健分野や保育所、幼稚園、学校歯科との連携を行いながら、支援を必要とするより多くの小児とその家族の健康に寄与することを目的としている。

同マニュアルは、5つの発達ステージ別に構成されており(図11)、「食べる機能」、「話す機能」、「呼吸する機能」の3つの機能に関して、その評価と対応について記載されている。特に「食べる機能」は、1)咀嚼機能、2)嚥下機能、3)栄養、4)食行動に分類され、それぞれに対する評価と対応が記載されている。また、マニュアルの後半部分には評価を行うための目安となる口唇閉鎖力や舌圧の検査方法の例や栄養スクリーニングのための資料が記載されている。さらに、このマニュアルは歯科医療関

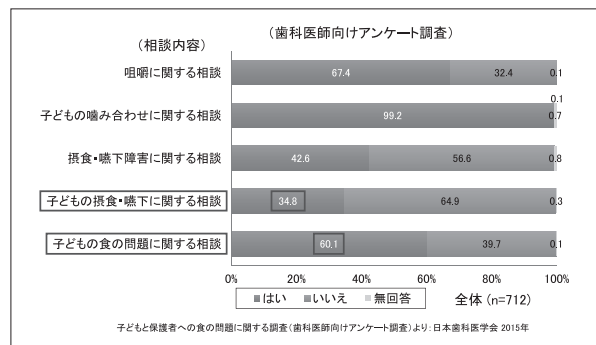


図8 歯科医師に対する食に関連する相談の有無

1. 実際に保護者が感じている食の問題の中から、歯科の専門性が高いと感じている内容について選んで相談している。
2. 保護者は、子どもの食行動や調理・栄養、口腔機能、アレルギー、歯磨きなど実に多様な疑問や心配を抱えている。
3. 歯科医師は、食育や嚥下・歯列、口腔機能、嚥下困難など、親の多様な質問や相談に応えきれない不安感や、それに伴う連携や情報共有の必要性を感じている。

子どもの口の機能の発達を評価するための指標が必要である

図10 「子どもの食の問題に関する調査」報告を受けて

- ・ステージ1:乳児期
- ・ステージ2:幼児期初期
- ・ステージ3:幼児期中期
- ・ステージ4:幼児期後期
- ・ステージ5:学童期

ステージ	年齢	歯列の状態	歯列の状態
1	乳児期	出生～4か月頃	無歯期
		5か月～12か月	乳切歯萌出
2	幼児期初期	12か月～1歳6か月	乳切歯萌出完了～第一乳臼歯萌出完了
3	幼児期中期	1歳6か月～3歳	第一乳臼歯萌出完了～乳歯列完成
4	幼児期後期	3～6歳	乳歯列期
5	学童期	6～12歳	混合歯列～永久歯列

図11 口腔機能発達評価マニュアルのステージ構成

係者のみならず、保護者、保育関係者、教育関係者が、子供の機能の問題に気付くための指標として、巻末に各ステージに対応する口腔内の状態に関する写真と兆候、評価、対応について一覧できる表が添付されている。また、同マ

ニュアルは日本歯科医学会のホームページにおいて公開されている⁵⁾。

2) 「口腔機能発達不全症」について

いわゆる定型発達を示すとされる子供の中に、口腔機能の発達に何らかの問題を有する者が少なくない。前述の口腔機能発達評価マニュアルは、多職種（保健分野や保育所、幼稚園、学校歯科など）との連携を行いながら、支援を必要とするより多くの小児とその家族の健康に寄与することを目指すことを目的としている。一方、口腔機能の発達は全身の健康と密接なかわりがあり、またその発達には個人差がある。そのため多様な支援が必要であるが、従来の健康保険による歯科治療の範囲では支援が困難な小児は少なくない。

これまで、障害と認定されている場合の摂食機能療法は公的医療保険の対象となっていたが、このような定型発達児の機能獲得の遅れに関する指導や管理はこれまでの公的医療保険の対象となっておらず、健康保険外のいわゆる自費治療として行われてきた。そこで、『「食べる機能」、「話す機能」、または「呼吸する機能」が十分に発達していないか、正常（定型的）に機能獲得が出来ていない状態で、明らかな摂食機能障害の原因疾患を有さず、口腔機能の定型発達において個人因子あるいは環境因子に専門的な関与が必要な状態』を「口腔機能発達不全症」という疾患名として提案するに至った⁶⁾。

平成30年4月の診療報酬改定において、「口腔機能発達不全症」とともに新病名として「口腔機能低下症」が収載された。この口腔機能低下症は、成人、特に高齢期において摂食嚥下機能の低下した状態であり、いわゆるオーラルフレイルの前兆として位置づけられるが、この病名の診断に必要な検査において、20～30代であっても基準値を下回るケースも見受けられる。したがって、成長発育期における機能の獲得が遅延しあるレベルまで達しない場合には、高齢期において口腔機能低下症となるリスクが増加すると考えられる⁷⁾(図12)。

6. 歯科における口腔機能の発達支援

成人において完成された機能が、加齢により減退し機能障害を生じた場合に、その機能の維持・回復のために行われるリハビリテーションに対して、成長発育期の正常な機能の獲得過程はハビリテーションという概念に基づいている(図13)。口腔周囲の筋肉の力は、歯列の形態や咬合状態に影響を与える。特に成長発育期にある小児において、口腔周囲筋の機能の不調和は本来の正常な成長を阻害する重要な因子となるため、早期に筋の機能を正常な状態に改善する必要がある。現在、小児歯科臨床において行われている口腔筋機能療法(MFT: Oral Myofunctional Therapy)は行動変容法の一つの技法として筋の訓練を行うことにより、口腔周囲筋を正常に機能させることを目

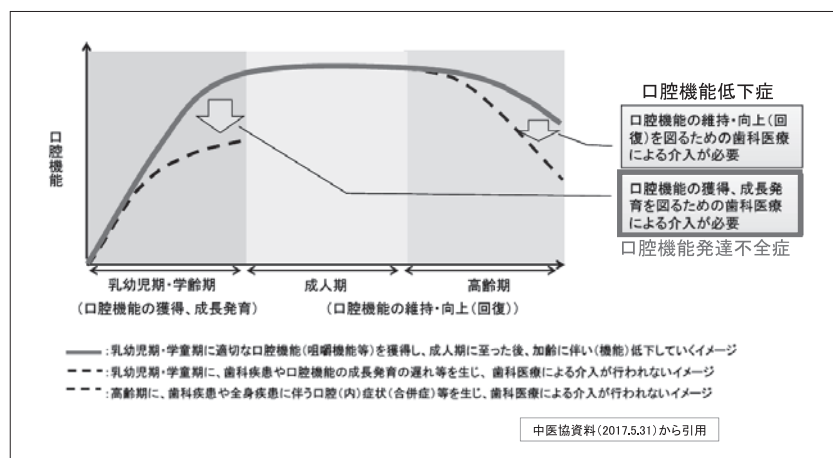


図12 加齢による口腔機能の変化のイメージ

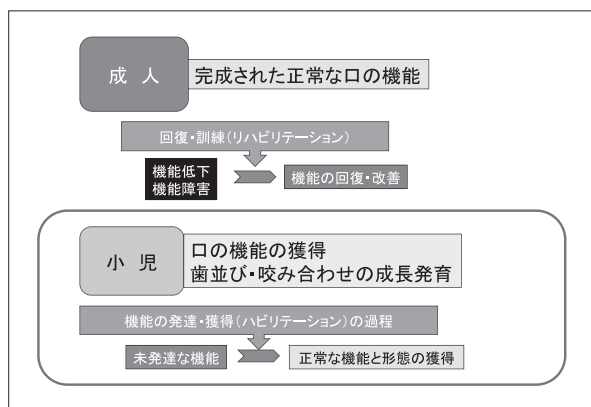


図13 リハビリテーションとハビリテーション

的としている。

小児期における MFT の対象としては、1) 口腔習癖、2) 摂食異常、3) 異常嚥下、4) 構音異常、5) 低位舌、6) 口唇閉鎖不全などがあり、口腔機能発達不全症として診断される基準の項目が含まれる。代表的な例として、乳歯列期の前歯部開咬の原因となる吸指癖や前歯部の重症齲

蝕、外傷による乳前歯の早期喪失を放置した場合、嚥下時に舌が前方に突出する乳児型嚥下様式の残存がある。この異常嚥下を放置した場合に永久歯列期の前歯部開咬を生じる(図14、15)。このような状態を生じる兆候として、幼児期後半から学童期において、嚥下時の口腔周囲筋の緊張(図16)があるが、長期間にわたり経過観察のみを継続すると骨格的な歯列・咬合の異常を招くことも珍しくない。このような機能的な異常に対し、早期にその兆候を発見し指導、管理を行うことで、歯列や咬合の成長方向を軌道修正することが可能である(図17、18)。

一方、幼児期の終わりに発音の異常を主訴として来院する小児の中には、舌小帯の付着異常が原因となっていることが珍しくない。一般的に定型発達児では、5歳の終わり頃までに幼児性の発音から成人と同様の発音に移行する。一方、舌小帯の付着位置は成長にともない、舌の先端から徐々に後退して短くなっていく。この短縮が生じない場合、「舌小帯短縮症」という異常(図19)となり、舌の運動障害、発音障害、構音障害を生じている場合、舌小帯の切除を行う(乳歯列期でも適

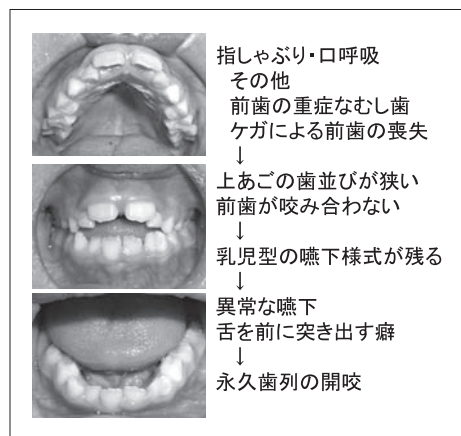


図14 口腔習癖、口呼吸、異常嚥下の歯列・咬合への影響



図15 乳児型の嚥下様式の残存 舌が前方に突出し、上下の歯列間に介在している。



図16 口唇閉鎖時、嚥下時の口輪筋・オトガイ筋の緊張



舌を持ち上げる訓練



舌の先の正しい位置を認識させる訓練

図17 舌の挙上訓練



図18 口唇閉鎖力の訓練

応となる)。しかし、舌小帯を切除し、物理的に舌の運動障害を改善しただけでは、正常な構音の獲得は咀嚼時の舌の運動は獲得できない。したがって、通常は舌小帯切除が必要な小児に対しては、切除に先行して舌の挙上訓練（図17）を行い、舌小帯の伸展を確認した後に切除を実施する。また、切除後1週間で舌の挙上訓練を開始することにより、正常な舌の運動機能の獲得が可能となる。

おわりに

健康長寿社会の実現に向けて成長発達期の口腔機能の育成が、重要な鍵となる（図20）。歯科医師が子供の食の支援者となるには、歯科医師自身が摂食機能向上の担い手であることを、広く国民に啓発する必要がある。また、子供の口腔機能の発達と歯列・咬合の育成は表裏一体であり、ライフステージを通して食生活全般の支援を行う多職

種による連携体制が必要である。そして、保護者が抱えている子供食に関する問題を多角的に捉え、的確な支援を行うため、子育ての支援者となる多職種が連携することが重要である。

参考文献

- 1) Moss, L., M.: The functional matrix, Kraus, B.S. and Reidel, R.(editors), Vistas in orthodontics, Lea & Febiger, Philadelphia, 1962, pp. 85 - 98.
- 2) Moss, L., M. and Salentijn, L.: The primary role of functional matrices in facial growth, Am. J. Orthodontics, 55 : 566 - 577, 1969.
- 3) Ten Cate, A. R.: Oral histology: development, structure, and function, Mosby Co., St. Louis, 1980, pp. 390 - 449.
- 4) 日本歯科医学会重点研究委員会: 「子どもの食の問題に関する調査」報告書 (http://www.jads.jp/activity/search/shokunomondai_report.pdf)、東京、2015.
- 5) 日本歯科医学会: 小児の口腔機能発達評価マニュアル、(<http://www.jads.jp/date/20180301manual.pdf>)、東京、2018.
- 6) 日本歯科医学会: 口腔機能発達不全症に関する基本的考え方 (<http://www.jads.jp/basic/pdf/document-180328-03.pdf?180329-2>)、東京、2018.
- 7) 厚生労働省: 中央社会保険医療協議会第352回総会資料 (<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000166451.pdf>)、東京、2017.



図19 舌小帯短縮症

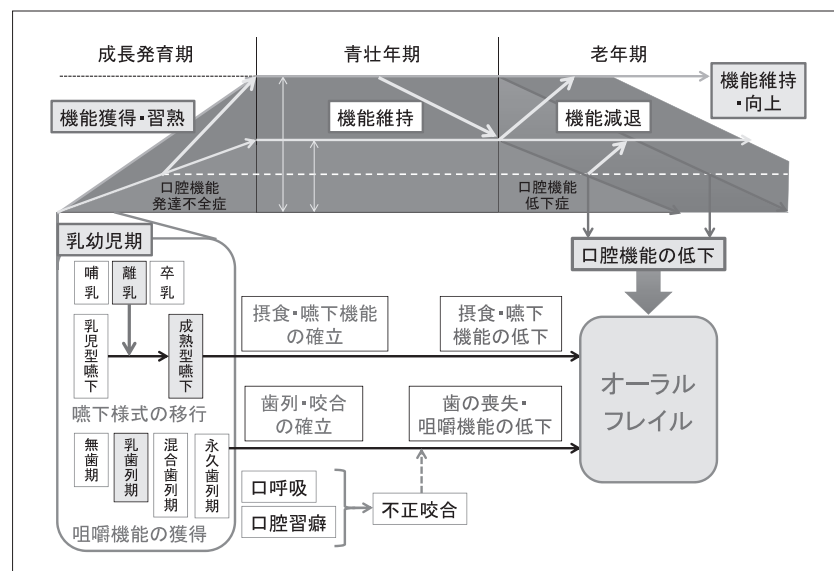


図20 口腔機能の発達・維持・向上に関するライフコースアプローチ

望ましい生活習慣の形成を目指す歯・口の健康づくりと歯・口の外傷の防止

台東区立東浅草小学校

学校歯科医 久保和彦
主任養護教諭 菊池えり子

1. 活動計画

(1) むし歯や歯周病の予防方法の理解と実践

本校の学校目標でもある「自分やみんなを大切にする子」の具現化を目指し、心身ともに大切にすることで、生涯にわたって健康で安全な生活や健全な食生活を送ることができるよう実践に取り組んでいる。このことを踏まえ、歯科保健に関わる目標を以下のように設定した。

<歯科保健目標>

「歯・口の健康づくりを通して、生涯にわたる健康づくりに自律的に取り組むための基礎を培う」

短期目標「むし歯や歯周疾患の成り立ちと予防について理解させる」

長期目標「歯科保健を通じて児童の健康観を培い、問題解決できる児童を育てる」

児童の健康意識の向上を図るとともに、口腔環境の向上、さらに保護者の健康的な生活への意識の向上を目指し、児童自身が歯の大切さや衛生について理解し、自ら実践できるように体験的な活動を取り入れた年間指導計画を作成している。

<歯科保健計画>

日常的な指導

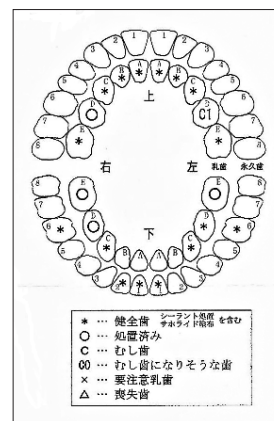
- 給食後の歯みがき…年間を通じて、給食後実施（歯ブラシ、コップの持参）
- フッ化物洗口…4月全児童に「歯科保健活動希望調査」実施後、希望者に年間30回実施（希望者からフッ化物洗口代、写真代、ファイル代を集金）

健康診断時の指導

- 「歯の健康ノート」の作成…歯科保健活動希望者に4月の定期健康診断時に撮影した口腔内写真を添付したファイルを作成し、秋の歯科健診の結果を記入し、配布・回収
- 歯科プリントの配布…健診結果報告書（治療勧告書）に歯式を添付し、治療が必要な箇所を記入し、配布

歯科校医による指導

- 歯科保健指導…6月～12月に各学年、クラスごとに歯科保健指導を実施。実施後には、保護者向けのお便りを配布
- 個別ブラッシング指導（10月）…秋の健診で、口腔状態の改善がみられ



<図1>

ない児童を給食後の歯みがきの時間に保健室でブラッシング指導を実施

- 1年生保護者会（4月）での学校歯科医講話…歯科保健活動（フッ化物洗口、歯の健康ノート）、歯科保健指導についての講話を実施

学校活動での指導

- 教科…1年図画工作（歯のポスター作成）
6年体育保健領域「病気の予防」（「むし歯」についての調べ学習）
- 委員会活動…児童保健給食委員会（保健集会の実施、歯みがき・フッ化物洗口の呼びかけ・手伝い、「からだにいいおやつづくり」調理実習）

(2) 学校生活における歯・口のけがの防止と安全な環境づくり

歯・口の外傷のみならず、学校生活において、けがを防止することは重要な目標であり、課題である。体を動かすのが大好きな時期でもあり、身体能力や危険予知能力の不足のため、学童期のけがは避けられないものもある。

しかし、ふざけや不注意によるけがや施設の管理不備によるけがをなくしていくために、従来の本校の安全対策、安全教育の取り組みに児童自らの活動を取り入れた。

<安全教育の目標>

児童の危機回避能力や行動選択能力の向上等を目指し、地域社会の中で自他の安全に目を向け、交通のマナーなど他人への心配りもできる資質や能力を育てる。

日常的な指導

- 「安全教育プログラム」を活用し、学級活動で事故防止の指導
- 集団生活のルール、「生活のきまり」「遊びのきまり」を繰り返し指導

○学習用具や遊具の扱い方、後片付けについての指導

- 教職員による休み時間・放課後の見守り
- 教職員による日々の安全点検
- 教職員複数による毎月の安全点検
- 教職員の研修、毎週木曜の「児童理解協議会」で共通理解
- 地域の見守り隊や巡回パトロールなど地域や保護者による見守り

学校活動での指導

- ヘルス&セーフティ教室（学校保健安全教室）の実施
- 児童委員会による「けが予防集会」の実施
- 児童委員会による「校内安全マップ」の作成
- 児童委員会による「安全ポスター」の作成、掲示
- 「生活のきまり」「遊びのきまり」について保護者会等での周知
- 所管警察署のスクールサポーターとの連携
- 所管警察署交通安全課による各学年への交通安全指導の実施

(3) 食べる機能や食べ方の発達支援を通しての実践的な歯・口の健康づくり

小学校は、乳歯から永久歯に生え変わる時期でもあり、1年生と6年生では発達に違いがある。そこで、咀嚼と唾液の関係や食事姿勢と消化、マナーや食べ方について、また、五感を働かせた食事の摂り方などについて系統的に指導することとした。また、生活習慣病や感染症、心の病気等の予防に向けて、食習慣、清潔習慣（歯みがき）、運動習慣、メンタルヘルスなどについても指導していきたい。

<食に関する指導目標>

- ・食事の重要性、食事の喜びや楽しさを理解する。〔食事の重要性〕
- ・心身の成長や健康の保持増進の上で望

ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。

〔心身の健康〕

- ・正しい知識や情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。

〔食品を選択する力〕

- ・食物を大切にし、食物の生産などにかかわる人々へ感謝する心を育む。

〔感謝の心〕

- ・食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。〔社会性〕
- ・各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。

〔食文化に関する理解〕

日常的な指導

○給食指導

＜ねらい＞成長期にある児童の心身の健全な発達のために、正しい食事の在り方や、望ましい食習慣を身に付けると共に、食事を通して好ましい人間関係を育てる。

※児童委員会による給食放送の実施

※カムカムデーの設定

栄養士・養護教諭・食育担当教諭による学級指導

＜食育指導活動計画＞

- ・6月～12月に各学年、クラスごと1時間（12時間）学級活動扱い
- ・指導内容

1年	2年	3年
箸の使い方	好き嫌い、箸の使い方	味覚、箸の使い方
4年	5年	6年
噛む、箸の使い方	マナー、箸の使い方	感謝、箸の使い方

2. 計画と実践の状況

(1) むし歯や歯周病の予防方法の理解と実践

○歯科保健指導

学校歯科医による指導を全学年に実施し、発達段階に合わせた指導や児童が興味・関心をもち、考え、参加する授業を目指し、話し合う活動を取り入れた。

また、指導後には、家庭との共通認識を高めるため、保護者向けに「事後お便り」を配布した。

(平成30年度指導内容)

1年「フッ素ってなあに？」フッ素の働きとブラッシング指導

2年「むし歯になりやすい食べ物、なりにくい食べ物」

むし歯になりやすい食べ物の特徴、ブラッシング指導

3年「自分の口の中を知ろう」RDテストまたはカムチェックガム、ブラッシング指導

4年「歯肉炎」学童歯みがき大会
歯肉炎、フロスの使い方

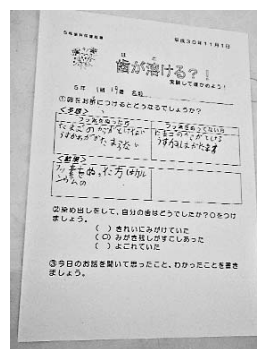
5年「歯が溶ける！？」卵の実験、フッ素の働き、ブラッシング指導

6年「歯リーポッター」

ウォークラリー形式（カムチェックガム、染め出し、歯のクイズ）



＜2年＞



＜5年＞卵の実験・ワークシート



＜3年＞
ワークシート



＜6年＞

(2) 学校生活における歯・口のけがの防止と安全な環境づくり

○保健給食委員会での活動

「校内安全マップの作成」

委員会活動の時間に、校内のけがが起こりそうな場所をグループで点検し、校内図に示した。「物にぶつかりそうな場所」、「人にもぶつかりそうな場所」、手などを「はさみそうな場所」、「すべりそうな場所」を調べ、その他の危険な場所はどこか、委員会の児童に考えさせたところ、「走ってしまいそうな場所」も調べてみようということになった。



また、今年度、廊下歩行について、廊下・階段に矢印の表示を貼り、右側通行を呼びかけた。

「安全ポスターの作成・掲示」

けがの起こりやすい場所に掲示し、注意を促した。

「けが予防集会」

学校の中でけがが起こりやすい4つの場面を想定し、紙芝居形式で紹介した。「どこをなおしたらいいかな？」と全校児童に問いかけ、危険予知のために「想像してみよう」と呼びかけた。

この他に、測定前の保健指導において「けがの予防」について指導したり、校庭で遊ぶ場所を学年ごとに決めたりした。また、頭部打撲の重症化を防ぐため、帽子（校帽や紅白帽）をかぶるよう指導することで、けがの防止に取り組んでいる。



(3) 食べる機能や食べ方の発達支援を通しての 実践的な歯・口の健康づくり

栄養士、養護教諭、そして食育担当教諭が各教室で、学年に合わせた指導を行うため、動画やスライド、絵本などを使用して指導した。使用したワークシートには「おうちの人からの感想」欄を設け、指導内容を子供から聞いて記入する形にした。また、歯科保健指導同様、事後便りを配布し、感想の記入のお願いし、指導内容の共通理解を図った。

(平成30年度指導内容)

1年「めざせ! おはしの金メダルシール」
2年「なんでも食べて元気になろう」
3年「いろいろな味を見つけよう」
4年「よくかんで、味わって食べよう」
5年「食事のマナー」
6年「食事をいただくこと」



<4年>

<3年>
事後だより

平成30年9月26日
台東区立東浅草小学校
保健給食部

～著・食育指導を行いました～

18日と25日に『いろいろな味を見つけよう』というテーマで「味覚」の学習をしました。「砂糖」「塩」「レモン汁」「ココア」の味を見る活動を通して、「あまい」「すっぱい」「しょっぱい」「にがい」の4つの基本味について、仮訳栄養士からお話を聞きました。

その後、味を感じる力＝味覚についてお話をしました。「味覚」の他に五感で味わうという話では、うんうんと頷いている人もいました。

3. 成果と課題

(1) 成果

歯科衛生への社会的な意識の向上、また、歯科保健指導の継続によって「食べたらかみがかく」「歯みがきをすると気持ちがいい」「むし歯はゼロ」「フッ素は歯にいい」という児童の意識、保護者の意識が高まってきている。

児童委員会が行った「けがの防止集会」では、いつも目になっている学校の中で、児童の活動の様子を映像で紹介したことで、真剣に聞き、自分のこととして捉えられていた。



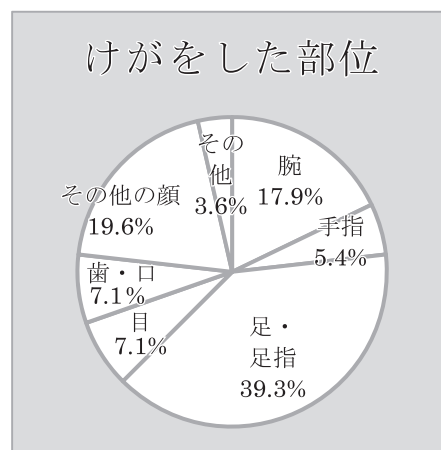
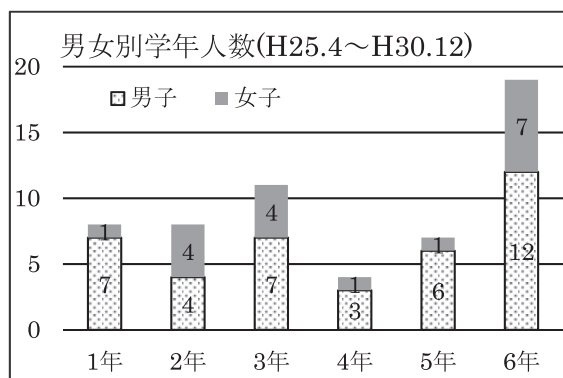
<2年>食育指導
ワークシート

歯が発達する時期が8～12歳であること、その時期に感覚を育てようとお話すると、「味わって食べよう」「苦手なものを食べてみよう」「よく噛んで食べてみよう」という意見がでました。

最後に「歯の正しい持ち方」について、三点支持法を使用して確認しました。動画を見ながら、一生懸命練習する姿がみられました。

- 歯は歯肉と人差し指の3点で支える
- 箸は人差し指の3点で支える
- 箸のすくは上側だけです
- 箸の持ち手の横に添えます
- 箸の持ち手の横に添えます
- 箸の持ち手の横に添えます

★ワークシートにおうちの人のコメントのご協力をお願いいたします。



食べる面からの指導では、普段の食事づくりや健康管理を考えている保護者から「苦手なものも1口食べてみると言っています」「テレビを消して味わって食べるようにします」とのコメントが寄せられるなど児童以上に興味をもっていることが分かった。

(2) 今後の課題と対策

家庭環境によって、口腔衛生状況や食環境は異なるが、健康的な生活、成長のため、家庭との連携が必要となる。

けがによる受診件数（平成25年4月～平成30年12月本校調べ）では、男女別では7：3の割合で男子のけがが多く、男子の活発さや

衝動性によるものとも考えられる。学年別では、6年生が3割を超え最も多くなっている。運動能力の向上と運動が高度になり、受診するようないけがにつながることも多いと考えられる。

歯や口のけがでの受診は7.1%と1年間0.8件となっている。保健室の対応で済むけががほとんどであるが、破折や裂傷などは大学病院等に受診しなければならない事例も発生している。

自分の能力に合わない行動に挑戦し、けがをすることが多いことから、効果的な指導の方法を考えていきたい。

平成30年度全日本学校歯科保健優良校表彰受賞校

(順不同・敬称略)

学 校 名	学 校 長 名	住 所
○ 府中市立みどり幼稚園	山 田 順 子	183-0006 府中市緑町1-8
目黒区立緑ヶ丘小学校	若 林 研 司	152-0034 目黒区緑ヶ丘2-13-1
○ 豊島区立朝日小学校	門 脇 伸 也	170-0002 豊島区巣鴨5-33-1
豊島区立巣鴨北中学校	平 本 浩 実	170-0001 豊島区西巣鴨4-9-1
東京都立大山高等学校(定時制)	小 山 秀 高	173-0037 板橋区小茂根5-18-1
東京都立石神井特別支援学校	山 本 和 彦	177-0045 練馬区石神井台8-20-35

○日本学校歯科医会会長賞

平成30年度東京都学校歯科保健功労者表彰者

(順不同・敬称略)

曾 根 涼 子	東京都立水元特別支援学校主任養護教諭
齋 藤 敦 子	元 東京都歯科衛生士会理事
奥 山 美 佳	品川区立浅間台小学校主幹養護教諭
東 真理子	足立区立六木小学校養護教諭
大 竹 雅 夫	元 多摩市教育委員会学校教育部学務課学校保健係係長
佐 草 佐恵子	東京都養護教諭研究会会長
代々木至誠こども園	

平成30年度「歯の作文」優秀入選者氏名一覧表

小学校の部

優秀は10名、◎は最優秀

	題 名	学 校 名	氏 名	学年
◎	「小さな歯がつくる輝く笑顔」	文京区立明化小学校	中 村 紋百佳	6
	歯の大切さとその美しさの秘訣	港区立白金小学校	竹 田 亜 弥	6
	胃を助けるヒーロー	文京区立湯島小学校	高 山 響 子	6
	もうむし歯はつくらない	江東区立南砂小学校	白 石 こゆき	5
	歯の健康のために	江東区立第二大島小学校	井 上 聡 美	5
	きれいな歯をつくる	板橋区立高島第二小学校	坂 本 風 帆	6
	「おばあちゃんになっても」	足立区立西保木間小学校	田 村 紬	6
	健康な歯と脳	町田市立忠生小学校	豊 吉 風 乃	6
	未来のぼくの歯	日野市立東光寺小学校	尾 原 蓮	6
	「むし歯ゼロ」は私の誇り	多摩市立東落合小学校	古 澤 佑 果	6

中学校の部

優秀は5名、◎は最優秀

	題 名	学 校 名	氏 名	学年
◎	「歯に対する感謝の気持ち」	目黒区立第九中学校	柿 崎 良 太	3
	歯とアレルギーの関係	新宿区立落合第二中学校	小 関 梨 沙	3
	「歯と口の安全を守る人」	文京区立茗台中学校	田 村 琉 依	3
	自分に今できることとは	豊島区立巣鴨北中学校	杉 本 姫 麗	1
	茜色に染まった空	練馬区立中村中学校	山 尾 海	2

平成30年度

「歯の作文」 優秀作品

例年、「歯の作文」に応募頂いた児童生徒の作品の内、優秀作品15点を東京都学校歯科保健研究大会要項に掲載しておりますが、多くの会員および保健関係者にもお読み頂けるよう、本会誌に再録いたしました。

応募状況等詳細は大会要項をご参照ください。

「小さな歯がつくる輝く笑顔」

文京区立明化小学校 6年 中村紋百佳

私は、幼稚園の年長から約二年間、矯正治療をしてきた。夜寝ている間に、リテーナーという装置を口の中に装着し、せまいあごを少しずつ広げ、歯と歯の間のスペースを作ることで歯並びを良くしようとする方法だ。

歯、それは一つ一つとても小さい。皆誰もが持っているものだが、誰一人として同じ色、形、並び、治療をしている人はいない。だから身元不明の死体が、歯の治療跡を調べることで、誰かと特定することができる時がある。

小さな歯は、実はとても存在感のあるもので、人の個性を表すものなのである。

前歯の、上下が前後ともガタガタに生えていた私の歯は、治療をはじめて十ヶ月頃から、ほんの少しずつお行儀よく、徐々にそろいはじめた。お母さんは嬉しそうな様子。歯医者さんも満足そう。しかし、本人の私は、ガタガタがそんなに变なのか、そろってきた歯がそんなに喜ばしいことなのか、よくわからなかった。言えることは、歯磨きがしやすくなったことだった。それと気付いたことは、歯磨きに関するテレビのCMに映し

出された人の歯に似ていることだった。

鏡の前で思いっきり歯を見せて笑ってみた。顔の表情がかわっていた。そうなのだ、歯は食べ物をかむことや、むし歯になることに気を付けるものだけではなく、顔の表情を変えることができるもの。特別に付け足したかざりではなく、元々人々が持っているどれ一つとして同じものが存在していない、天然のアクセサリーなのである。こわれてしまえば治療する。おいしいものを何でも食べられるじょうぶな歯は健康な体をつくる。よごれてしまった歯はクリーニングすればまた、口元から白い歯をのぞかせる。そう考えれば、一つ一つ小さい歯を一日一日はていねいに磨いてあげたくなる。どれ一つとして欠けてほしくない大事なもののなのである。

やえ歯をかわいいと言う人もいれば、嫌いな人もいる。そろった歯だけが美しいというのではなく、自分に自信を持って生活するための、表情を豊かにし印象を変えることができる、歯は一つのパーツと考えれば良いのではないだろうか。

歯の大切さとその美しさの秘訣

港区立白金小学校
6年 竹田 亜弥

私は、歯みがきが少し苦手です。でも、毎日しっかりみがいている理由が三つあります。

一つ目は、私のお父さんの歯の問題です。お父さんは、三十五才の時にひどいむし歯になってしまいました。そのせいで歯を抜き、それからは左下の奥歯が一本ありません。この夏には、右上の奥歯も二本抜くみたいです。私たちが食べる美味しいお肉も、今はかみにくくなってしまい、昔より美味しく感じなくなってしまったそうです。お父さんは、若い頃にしっかりと歯みがきをしなかったことをとても後悔しています。私は、まだむし歯になったことがないからわからないけれど、痛いだけでなく、人生の喜びの一つである食べる喜びを失ってしまうのはとても悲しく思いました。反省したお父さんは、今は毎日だいたい五分間ていねいにみがいています。

二つ目は、私の家の犬についてです。犬が病気になったときに動物病院へ連れて行った時、犬もむし歯になってそこから体調をくずすことがあると聞いたので、インターネットで調べてみると、むし歯が原因で黒い歯になり骨がとけてしまっている犬の画像がたくさん見つかりました。びっくりした私は、歯みがきが自分でできない犬のほうが、むし歯になる確率が人間より高いのではないかと疑問に思いました。私はかっている犬がむし歯になり、痛い思いをするのは嫌なので、毎日歯をみがいてあげています。ペットへの愛情の中には、健康を管理してあげることも大切なこととしてあるので、歯をみがいてあげるのと同時に、私自身が歯をみがいて、かっている犬のお手本になりたいです。

三つ目は、私の将来の夢に関係します。私は、

将来、舞台に立って演技をし、見ている人たちを笑顔にしたいと思っています。みんなを笑顔にするためには、自分もつねに笑顔でいなければならないので、そのときにみんなに見てもらえるような白い歯を心がけています。私の歯は、あと一本ですべて大人の歯に生え変わりますが、全部真っ直ぐになってきれいな歯並びになりたいです。書き初めなど字を書くとき、気持ちが真剣で真っ直ぐだと、字も真っ直ぐ書けるように、歯も気持ちが素直で真っ直ぐだと、真っ直ぐ生えてくれるような気がします。自分の歯はいつまでたっても自分の歯だから、一本一本の歯を大切にしていかなければならないと思います。最後に、私は四字熟語が好きなので、歯に関する言葉を一つ挙げたいと思います。それは、「明眸皓歯」という四字熟語です。はじめの二文字の明眸は、美しく、すき通った目のことです。そして、後ろの二文字の皓歯がきれいに整った白い歯という意味です。これは世界三大美女の一人である楊貴妃という女性の美しさをほめた言葉です。

この女性は、今から千二百年以上も昔のお姫様のような人だったそうです。私はこの言葉から、美しさは古い時代からずっと、スタイルとか足の長さとかかみ型よりも歯の美しさだったということが分かりました。私も、楊貴妃みたいな白いきれいな歯をもてるように毎日しっかりとお手入れをしたいと思います。そして、美しさは心や内面も大切なのでペットに歯みがきをしてあげながら、思いやりを学び、心も体も真っ直ぐ澄んだきれいなものとなるように毎日を過ごしていきたいです。

平成30年度 歯の作文

優秀作品 ● 小学校の部

胃を助けるヒーロー

文京区立湯島小学校
6年 高山 響子

私は、五年生の時に胃潰瘍になりかけました。つまり胃があまり正常に動かなくなるということです。

その時にお医者さんから
「これからはよくかんで食べてね。」
と言われました。

しかし、私は言われたことを忘れてしまい、給食などもいつも通りに食べていました。すると、食べたあと一時間ぐらいたった後に、決まって激痛が走るようになりました。だから食べることがとても怖くなりました。

その時に、ふとお医者さんの言葉を思い出しました。
「よくかんで食べてね。」

そして、なぜよくかまなければいけないのかが不思議になり、図書館の本で調べてみました。

すると、「口の中でよくかみ、ある程度食べ物が消化されていると、そのあとの消化が楽になります」と書いてありました。それを見て、私は一口で三十回ぐらいかむことを心がけました。すると、痛みはあるものの以前よりも楽になりました。

さらに本で調べてみると、食べ物をかみ、舌やあごが動くとき唾液が出て、消化をしてくれるということです。つまり、唾液は、よくかむことでたくさん出てくるということです。

よくかむために必要なものとして、『歯』があります。歯があるから、食べ物をかんで食べられると思います。

そんな大切な『歯』を、私は傷つけてしまったことがあります。

ある日の体育の時間、私は跳び箱をやっている

した。そして、次の自分の番を待っていると男の子が私にぶつかって来ました。

「痛い！」

その時に運悪く歯と頭がぶつかり、歯から血が出ました。私は、痛いのと歯が折れないかどうか心配でした。

保健室に行って先生に診てもらった。
「歯が折れることはないと思うけれど、一応今日は早退して歯医者さんへいくべきだね。」
と言われました。そして歯医者さんに診てもらった。

「今のまま安静にしていれば、血も止まって物も食べられるようになるよ。」
と言われました。その言葉を聞いただけで、私はとてもほっとしました。

『歯』は、ほかの臓器を助けてくれるし、もちろんものをかんでくれます。また、永久歯はこれから一生使うものです。この大事な永久歯を私は八十歳で二十本残しておく、八〇二〇運動に積極的に協力したいです。そのために、毎日の歯磨きをしっかりと、夜には、あまり甘いものを食べないようにしていきたいです。そして今まで活躍してくれた乳歯に、
「ありがとう。」
という気持ちでいっぱいです。

もうむし歯はつくらない

江東区立南砂小学校
5年 白石こゆき

居間になりひびく、おばあちゃんがくちゃくちゃと、ごはんを食べる音。私はその音を不自然に思い、聞いてみた。

「どうして、おばあちゃんが、ごはんを食べる時は、くちゃくちゃ音になるの。」

そしたら、おばあちゃんが、

平成30年度 歯の作文

優秀作品 ● 小 学 校 の 部

「おばあちゃんの歯はね、入れ歯なの。」
と答えた。まだ、その時、おさなかつた私は入れ歯というものを知らなかつた。
「入れ歯ってなに。」

すると、おばあちゃんが口を開けて歯と歯ぐきが、つながつたようなものをはずし始めた。その行動に私は、おどろきをかくしきれなかつた。そして、おばあちゃんが口からはずしたものを見せながら、
「おばあちゃんの、無くなつてしまった歯の代わりなんだよ。」

と説明してくれた。私は、歯が勝手に無くなつてしまつたのかと思い、再び聞いてみた。
「歯はどこにいつちやつたの。」

するとおばあちゃんは、少しニコツとして、言つた。
「おばあちゃんの歯はね、むし歯で、ぬけちやつたの。あんたも、おばあちゃんみたいにならないように気をつけなさい。」

それ以来、私は大きくなつても、毎日、歯みがきをするようになった。しかし、ある日ごはんを食べていた時の事。かんだ時に歯がいたくて、ズキズキした。次の日、歯科医院に行つて、ちりょうを受けた。それもまた、いたかつた。私は、おばあちゃんが、こんなたいい思ひをしていたんだと思うと、つらかつただろうなと感じた。私はもう、こんな思ひをするのは、イヤだけど、どうして、しっかり歯みがきをしているつもりだつたのに、むし歯になつてしまつたのか、不思議に思つた。なので、歯科医院に置いてあつた、「歯みがきのポイント」と書かれたパンフレットを手にとつた。中を見ると歯みがきのポイントが書いてあつた。一つ目は、歯ブラシの毛先を歯と歯ぐきのさかい目、歯と歯の間に、きちんとあてる事。二つ目は、軽い力で動かす事。三つ目は、小さくみに動かす事、と書かれていた。私は、これまで歯だけをみがいていて、歯ぐきに歯ブラシが、あ

たつていなかつたから一つ目のポイントを特に気をつけたいと思つた。

私は、八十才まで二十本の歯を残す事を目標に、毎日歯をみがき続けたいと思う。

歯の健康のために

江東区立第二大島小学校

5年 井上 聡美

これまで私は、むし歯になつて痛い思ひをしたことがあります。歯医者さんに行つて治りょうしてもらい、歯も白くピカピカにしてもらいました。その時に歯のみがき方を教えてもらい、それからは、歯みがきの時に思ひ出しながらみがいています。

それと一週間に一回デンタルフロスを使つています。もう二度と、むし歯になりたくないから、みがき残しがないようにがんばつています。

全国小学生歯みがき大会に参加して、歯肉炎になると歯ぐきにサインが出たり、軽い力でみがくといひことが初めて分かりました。

サインは4つで、色が赤くなり、形が丸くなり、かたさはやわらかくなり、出血します。私の歯ぐきも形が少し丸くなつたことがありました。それがサインだつたと分かり、今思うとこわいです。それから、歯肉炎はなつたとしても治せる病気であることも分かりました。

私は、歯並びがあまりよくありません。だから、きれいにみがきにくくてむし歯になりやすいです。大会では歯並びにあわせたみがき方も教えてもらいました。歯ブラシをたてに使つたり、細かく動かしてみがくとよいことが分かりました。自分の歯ならびに合わせてみがけるように練習していきたいと思います。

歯の健康のためには、歯みがきだけでなく、食事もう気を付けたほうがいいと思ひました。おかし

平成30年度 歯の作文

優秀作品 ● 小学校の部

をダラダラと食べ続けると口の中がむし菌さんの好む状態になるので、時間を決めて食べるようにしたいです。食べ終わったらうがいや歯ブラシをして、むし菌の原因をへらしていこうと思います。

そして、だえきも大切です。だえきは、歯を強くしたり、きんをたおす役割があります。だからだえきがたくさん出るようによくかんで食べようと思います。

これからもていねいに歯みがきをして、むし菌や歯肉炎にならないように気を付けていきたいです。そして、おやつや食事に気を付けて、むし菌を作らないように努力していきます。

きれいな歯をつくる

板橋区立高島第二小学校
6年 坂本 風帆

私は今、矯正の治りょうをしています。

それは、小学校の歯科検診でかみ合わせを指摘されたのがきっかけです。歯医者さんに行くとかみ合わせ以外にも問題があるとわかりました。それは、本来六歳ではえてくるはずの六歳臼歯がはえてきていないということです。私は歯の成長がおそかったのでその後も六歳臼歯はなかなかはえてきませんでした。でも、歯医者さんにかよって、かみ合わせをなおしたり歯のみがき方も教わりながら経過をみていくと少しずつはえてきていることはわかりました。それから歯みがきをもっとていねいにすることを心がけていましたが、今度は、上にはえてきていた六歳臼歯がななめに、となりの乳歯のほうにはえているということです。歯医者さんからは、乳歯をぬくか、歯ぐきを少し切って装置をつけるかどちらかの方法を使うと言われました。私は、歯ぐきを切るのもこわかったけれど、まだぬけそうでもない歯をぬくほ

うがもっとこわかったので、お母さんとも相談して、装置をつけるほうを選びました。その後、私は歯医者さんに自分の歯に合う装置をつくってもらい、それをつけて生活するようになりました。私は、食べ物が装置にはさまってしまったり、お母さんにしあげみがきをしてもらわなくてはいけなかったり、外からつけているのが見えて、「矯正はじめたの？」などと言われて正直、少しいやな気持ちになることがありました。でも、歯ぐきは切らずに済んだし、たくさんお金がかかったり、家族の協力があることはわかっていたので、ていねいに歯みがきをして大人になったときのことを考えて早く治そうと努力しました。そのおかげで3月下旬のバレエの発表会までには、装置をはずすことができました。私はそれまで少し、満面の笑みを見せたりするのをためらっていましたが、私が習っているバレエの発表会や今は、きれいな歯で笑うということがたくさんできるようになっています。

私は矯正の治りょうを経験してみて、自分の歯をきれいにすることや、そのことによって家族にもかかることの大変さを知りました。そして、それと同時に、自分の歯を清潔に保つこと、その歯で笑ったり、ものが食べられるということの良さや大切さがよくわかりました。これからも、毎日、ていねいに歯をみがいて、健康な歯でものを食べたり、思いきり笑っていきたいです。

「おばあちゃんになっても」

足立区立西保木間小学校
6年 田村 紬

私は、今までむし歯になった事が一度もありません。なぜなら、おばあちゃんや、お母さんの歯がとてもきれいで、お母さんは、むし歯が一本もありません。

平成30年度 歯の作文

優秀作品 ● 小学校の部

私が、赤ちゃんの頃からお母さんは毎日とてもきれいに私の歯をみがいてくれました。自分で歯みがきができるようになってからは、歯みがき粉の味にも少しこだわることになり、お母さんとドラッグストアにお買い物に行った時にドラッグストアの歯ブラシコーナーで歯みがき粉を選んでみると、私が小さい頃に使っていた歯ブラシが売っていてとても小さく感じ今使っている歯ブラシと比べてみたら歯も生きているから成長しているんだなと思いました。

しかし、小学校高学年になってから宿題が増えたり、やらなければならない事がたくさんあって、お母さんに歯みがきをしなさいと言われてもめんどくさくなって口をすすぐだけの時もありました。

そんな時、学校で歯科検診があって私は歯・口の健康の賞に選ばれました。その時お母さんは、すごく喜んでいました。でも私は、本当はうれしい気持ちもありましたが、歯みがきをさぼっていた事にこうかいをしました。今まで私の事を思って歯を大切にしなさいときびしく教えてくれたお母さんのおかげでもらえた賞だと思うので、これからは、自分の努力で歯を大切にしていきたいと思います。最近の子供の歯が抜けて新品の永久歯が生えてきたので、年をとってもいつまでも、私のおばあちゃんのように笑顔で美味しい物をたくさん食べられる健康な歯を目指して毎日の歯みがきを、さぼらずにしっかりやっていきたいと思います。

そして、おばあさんになった時にまた、歯・口の健康の賞に選ばれる事を考えて、朝、昼、夜一日三回の歯みがきを楽しくやっていこうと思います。

健康な歯と脳

町田市立忠生小学校

6年 豊吉 風乃

私は母に、「朝ご飯はよく噛んで食べてねっ。」とよく言われます。なぜかと聞くと「よく噛まないで頭がボーッとして学校の授業に集中できないでしょ。」と理由を教えてくださいました。そこで噛む事と、脳について調べてみました。

歯は食べ物を噛むのに大切な器官ですが、噛むことでさらに私達の身体に重要な役目を果たします。たとえば朝、ご飯を食べると体が温まって頭がスッキリしたり、学校で授業を受ける時、頭の回転が良くなったりするなどのメリットがあると考えられます。つまり噛むという運動が脳に直接的に刺激を与え、脳の発達をうながし活性化をしているのです。上下の歯をかみ合わせる事による刺激は、たえず脳に送られています。この刺激は、歯の根の外側についている歯根膜によって脳に伝わります。歯根膜にはセンサーがついており、このセンサーが噛む刺激をキャッチして脳に送ると、脳細胞は歯で多く噛むことで細胞が増え、ストレスが解消されて心が安定するという効果があります。特に大事なのは、脳が成長する時期の歯や顎の動きです。脳は赤ちゃんがお母さんのお腹にいるころから成長を始め六歳ころまでに九割が完成します。六歳は、ちょうど乳歯から永久歯に生えかわり始める時期です。つまり乳歯の時代によく噛んで食べる習慣が、脳の成長に欠かせない刺激になっているのです。もしもこの時期に、ほ乳ビンでミルクを飲み、その後も軟らかいものばかり食べていたらどうでしょうか。当然、脳に伝わる刺激は弱くなり、脳の成長を遅らせることにもなりかねません。つまり、歯や顎の発達と脳の成長は「噛む」という刺激を通して、同時進行しているということになります。また、噛む

平成30年度 歯の作文

優秀作品 ● 小学校の部

ことは脳の血流量を増やし、脳の活動を活発にします。このように脳の成長期である乳幼児期は、脳がたくさん量の酸素を必要としているのです。ところが、その時期によく噛まないで脳に血液が十分に送られず、脳は酸素不足になってしまいます。これでは脳の活動はにぶくなり、成長もうながされません。もちろん歯と脳の関係の大切さは、乳幼児期だけとはかぎりません。それをはっきりと表しているのが認知症のお年よりです。認知症のお年よりを調べると、歯が少なくなっている人や、かみ合わせが悪い人が多いのです。逆に元気なお年よりには、自分の歯がたくさん残り、かみ合わせも正常な人が多いです。自分の歯でしっかり噛むことが、脳の老化を防いでいるというわけです。このことから歯は、脳の活性化や脳の成長、そして、心の安定や健康な体に欠かせないものとなっている事が分かりました。私はこのことを調べてご飯を食べる時はよく噛んで食べ、よく歯をみがいて健康な歯でおばあちゃんになるまで元気でいようと思いました。

未来のぼくの歯

日野市立東光寺小学校
6年 尾原 蓮

ぼくの小さい頃の歯はむし歯だらけでした。小さかったのでよくおぼえていないのですが、母に聞いてみたところ、当時は歯医者さんに行ってもどんどん進行してしまうむし歯がすごくこわかったそうです。なぜ、むし歯がたくさんできてしまったのか…むし歯がいけないことだとかこわいこと、未来のぼくの歯や健康にまでえいきょうをおよぼすとは小さいぼくにはわかりませんでした。

でも歯医者さんと話していると、ぼくが好き

だったチョコレートや炭酸飲料やいちごジュースを好きな時に食べたり飲んだりするのは、歯にとって良くないことだということがわかり、それらを制限しました。全て永久歯に生えかわった今、むし歯は無くなりました。

もう生えかわることのないこの歯を健康に保つにはどうすればいいでしょう。

歯医者さんに教わったのは、ていねいに歯をみがくこと、食事の時はゆっくりよくかむのが大切だということです。さらにぼくは、もっと歯のことを知りたいと思いました。

ぼくは今健康委員会の委員長をしています。先日、学校で「歯みがき週間」があったので委員会のみんなでどうしたら全校児童に歯みがきの大切さを伝えられるか考えました。そのためにぼくはまず、歯の勉強をしました。

『歯の表面をおおっている、体の中で一番硬いエナメル質は酸などによって溶かされてしまいます。むし歯の原因となるミュータンス菌は、食べ物や飲み物に含まれる糖分により増え、酸を作り出します。それがエナメル質を溶かしてしまうのです。エナメル質の内側にある象牙質までむし歯が進行すると、冷たい物がしみるようになります。さらにその内側にある歯髄には歯の神経が通っているので、ここまで進行すると痛みを感じます。』

このことを低学年にもわかりやすいように歯の構造を図にしてほけんだよりの記事にのせ、むし歯菌が歯のエナメル質を溶かすとむし歯になってしまうので歯みがきをしっかりとしましょうと伝えました。少しでもみんなに歯みがきの大切さが伝わればいいなと思いました。

歯について勉強していると、一生を共にする自分の歯を本気で守っていかなければいけないと感じました。

むし歯になると、歯を見られたくないので手でかくしたり、笑顔になれず暗くなってしまいま

平成30年度 歯の作文

優秀作品 ● 小学校の部

す。そうならないために、むし菌になってしまってから歯医者さんで治してもらうより、むし菌にならないように歯医者さんに定期的に診てもらうことが大事です。

ぼくは、小さい頃にむし菌になってからずっと同じ歯医者さんに診てもらっていて、もう七年になります。色々なことを教えてもらえるし、ぼくの歯のことをだれよりもわかってくれているというのは安心します。

「歯の健康を保つためには努力を欠かしてはいけません」のです。その努力をするかしないかで、未来の自分の歯がどうなるか決まるのではないのでしょうか。

ぼくは乳歯の時むし菌だらけになりましたが、永久歯に生えかわる時に一度だけチャンスがありました。ゲームのように、リセットすれば何度でも元通りになるわけではありません。

このチャンスが無駄にしないように、これからも一本一本ていねいに歯みがきをして、定期的にいつもの歯医者さんに行き合格をもらいたいです。

未来のぼくの歯のために、むし菌にならない努力を欠かさず続けたいと思います。

「むし菌ゼロ」は私の誇り

多摩市立東落合小学校
6年 古澤 佑果

六年生の歯科検診。

次が自分の番という時、私は、自分の名前が呼ばれるのを、とてもドキドキしながら待っていた。いよいよ私の番になった。大きく開けた私の口を、暗号のような言葉を言いながら、歯科校医さんが見ていく。あっという間に終わった。

「あれ、なんかみんなと比べると早いな。」と思い不安になっていると、そばにいた保健の先生

が、

「ゆうちゃん歯がキレイだね！むし菌ゼロだよ。」

と言ってくれた。その言葉を聞いて、私は心の中で「よっしゃ!!」と叫んだ。

私は、これまで一度もむし菌になったことがない。生まれてから十二年間、そのことを深く考えたことはなかった。しかし、「なぜむし菌がないのだろう」と改めて考えてみると、二つのことがうかんだ。

一つ目は、私自身の生活習慣だ。私は小さい頃から白米が大好きで、三度の食事は、しっかり食べたいと思っていた。そのため、おなかがいっぱいにならないように、五時以降は、お菓子やジュースを一切口にしなかった。自分からも、甘い物やお菓子を自然と口にしなくなっていた。そして、歯みがきは、朝、夜欠かさず行っていた。それは、私の「毎日の当たり前」のことだった。そのような生活習慣が、むし菌ゼロにつながっていたのではないかと思う。

二つ目は、定期的に歯科医院に行き、歯のチェックをしてもらっている事だ。夏休みや冬休み等の長い休みの時には、必ず行くことにしている。それは、「歯の治りょうはだれでも不安になるから、歯医者には、むし菌になる前に行ってほしい。」という母の思いからだった。歯科医院では主に、歯の汚れを取ってもらっている。特に、歯の裏は汚れがたまっていることが多くあり、念入りに行なってくれる。歯のクリーニングをした後は、まるで、からをむいたゆで卵のように、歯の表面がつるつるになっている。それはとても気持ちがいい。自分でも、時々フロスを使って、汚れを取っている。歯の汚れを取ることは、むし菌を予防できる上に、口の中もさっぱりして、良い事がたくさんある。

これらの小さな事の積み重ねが、むし菌ゼロにつながっていたのではないかと思う。

平成30年度 歯の作文

優秀作品 ● 小学校の部

私は自律神経の乱れの病気のため、毎朝起きる事がとてもつらく、学校に遅れて行くことも多い。そのため、大変な事や、あきらめなくてはならない事もたくさんあった。気力がわかず、ボーっとしてしまう日もある。生活リズムがくずれると、歯みがきは、いい加減になりがちだ。しかし、私は歯みがきを、決して忘れることはなかった。どんなに起きるのが遅い朝でも、歯はみがいていた。それは、汚れを取らないと、口の中が気持ち悪いという感覚が、育っていたからだと思う。そのおかげか、今年も、むし歯ゼロでいる

ことができた。

むし歯ゼロは、私の誇りだ。

朝起きると、体が思うように動かず、「なんで、こんな思いしなくてはならないの！」

と思ったことも多くある。しかし、その中で、むし歯ゼロでいられたことは、健康面に不安がある私にとって、大きな自信となった。だから私は、これからも、「むし歯ゼロ」を私の誇りとして、歯の健康を守りぬきたい。そして、自分なりの健康を築けるよう、がんばっていこうと思う。

「歯に対する感謝の気持ち」

目黒区立第九中学校 3年 柿崎 良太

僕にとって歯磨きをすることとは、歯に対する感謝を伝えることだと思います。人が食べ物を食べれば、その分だけ歯は汚れていきます。そんな歯を歯磨きもしないで放っておけば歯が病気にかかってしまうのは当然です。そのようなことにならないように、毎日頑張ってくれている歯に僕は感謝の気持ちを込めて、歯磨きをします。歯の磨き方は、沢山あります。部分によって磨き方を使い分けることで、歯はより健康で丈夫に保つことができます。そうすることによって、同時に私たちの健康も保たれていくことになります。ですが、現代の人々の社会にはむし歯や歯周病、歯肉炎といった歯の病気がたくさんあり、昔と比べて歯に何らかの問題を抱えている人も少なくはないと思います。食生活にもだいぶ変化が起こり、柔らかい食べ物が増えたため、歯での噛み方も変わり、人はよく噛んで食べるということをあまりしなくなりました。噛むということは単純な動作にすぎないですが、あごが強くなるばかりではなく、脳を活性化する働きがあり、とても重要な動

作です。しかし、ただ噛むといっても、そこに自分の健康な歯が無ければ、物を噛むことさえできなくなってしまいます。今はきれいで健康な歯でも、自分でしっかり守っていかなければ、将来、おいしい食事ができなくなってしまうかもしれません。人の歯が生え変わるのは、たった一度だけです。そんな貴重な歯を「あって当たり前」などと思わずに、「いつもありがとう」という気持ちを持ち続けて、歯磨きをしていきたいと思います。今ある歯をきれいなまま一生保てるかは自分たち次第です。一人一人が歯の大切さをちゃんと認識し、そして大事にしていけば、歯もずっと健康なままでいられるでしょう。自分の歯を守るのは自分だけです。いつまでたっても健康な歯は、私たちの大切な宝物であり、この宝物たちは僕たちの体や笑顔を守り、そして楽しい毎日をプレゼントしてくれると思います。そのためにも、僕は日々の食生活、歯磨きを今まで以上に意識していきたいと思います。

歯とアレルギーの関係

新宿区立落合第二中学校

3年 小関 梨沙

落花生、クルミ、アーモンド…。私には小さいころからナッツ類の食物アレルギーがありました。しかし、少し前に試しにアーモンドを食べてみたら…アレルギー反応が出なかったのです！

どうして大丈夫になったのか、気になっていくつかの文献を調べていくうちに、あることに気づきました。それは、「食物アレルギーのことを書いている歯医者さんが多い」ということです。歯と食物アレルギーには、いったいどのような関係があるのでしょうか。

文献によると、食物アレルギーの一番の予防方法は、実は「よく噛むこと」でした。そして、食物アレルギーには、主に2パターンあると考えられています。

一つ目のパターンは、幼児期に発症するパターンです。私はこのパターンで、幼稚園生時代からつい最近まで、ナッツ類を食べられませんでした。小さな子どもは腸の機能が未発達なうえに、噛んでから食べるのが難しいので、アレルギーの原因物質が分解されず、アレルギー反応を起こしてしまうことがとても多いのだそうです。アレルギーの発症率は、乳幼児が9割以上を占めるとのデータもあります。

二つ目のパターンは、成人してから発症するパターンです。このパターンの原因は、生活習慣、公害、ストレスなどの環境的要因と言われています。しかし、これらもよく噛むことで改善できるとのことでした。

この二つのパターンからわかるように、「噛むこと」は素晴らしいことです。消化しやすくするだけでなく、免疫力を高めることができるのです。よく噛んで食べればアレルギーになりにくく

なるうえに、他の病気から自分の体を守ることでもあります。

また、私はナッツ類だけでなく、キウイフルーツにもアレルギーがあるのですが、これにも歯医者さんとの関係があることがわかりました。歯医者さんに行ったとき、問診票でアレルギーについて質問している項目がありましたが、実はフルーツにアレルギー反応がある人は、歯医者さんがつけるゴム手袋にアレルギー反応を起こすことがあるそうです。

私はまったく気がつかなかったのですが、歯科校医の先生はゴム手袋を使わず、ミラーを一人2本使って検診されていることを、養護の先生が教えてくださいました。衛生面のこともあると思いますが、アレルギーのことも関係しているのかもしれない。

一度食物アレルギーになってしまうと、私のように十年以上自然に治るのを待つか、もしくは少量ずつ食べてだんだん耐性をつけていくしかありません。治るまでの期間、「ナッツが入っているからダメ」と言われ続けることは、悲しかったし寂しいことでした。しかし、家族も私の気持ちを考え、食事にナッツ類を出すことはなく、私でも安全に食べられるものだけを作ってくれていました。

私は自分が食物アレルギーだったからこそ「噛むことの大切さ」を知りました。そして、噛むことは食物アレルギーを防ぐだけでなく、様々な病気の予防につながることに気づきました。

食物アレルギーの予防のために大切なのは、よく噛んで食べること。そして、よく噛むためには健康な歯が必要です。歯医者さんにほめられるような健康な歯でいること、それがこれからも好きなものを食べ続けたい、食べることが大好きな食いしんぼうの私の目標です。

「歯と口の安全を守る人」

文京区立茗台中学校
3年 田村 琉依

私は歯科医院に一度しか行ったことがない。何故かというとしし歯になったことがないからだ。

私は中学一年生で初めて行くまでは歯科医院に対して良い印象を持っていなかった。歯科医院といえば聞かれていたら「痛い」と答えるだろう。だから毎日、朝と夜にしっかり歯磨きをしていた。しし歯になって痛い治療をしないように。

だが頑張って歯磨きをしていたのにと悲しく思うことが起こる。あくびをするとき、ご飯を食べるときにガクッと鳴る、元に戻すときもガクッと鳴る。調べてみると顎関節症だと分かった。口は生活しているとき何回も使う、だからとても大変だった。おっくうに開けなければガクッと鳴ってしまう。そして少し痛い。でも「口を開けるとガクッと鳴る」と言っても大きい音ではないので「そうなんだ、大変だね」という感じで分かってもらえないのがしょっちゅうだった。だから、口を大きく開けすぎないように気をつけた。すると、ガクッという音も気にならなくなり、一年経つと普通に口を開けてもガクッという音は鳴らなくなった。

でも、今度は奥歯に違和感を覚えた。私は奥歯がしし歯になったのではないかと思い、とても怖かった。奥歯は根が深いから神経までいったら治すときにとても痛いと言ったことがあるからだ。母にみてもらおうと歯が生えていると言われた。それを言われると私は安心した。しし歯じゃなかった。歯が生えているときに違和感を感じるのは当たり前だと思った。

私は風邪をひいてしまった。すると奥歯あたりが腫れてとても痛かった。お腹がすいているのに食べられないのは辛かった。そして、母から「歯

医者さんに診てもらおう」と言われた。

歯科医院に行き、歯医者さんに診てもらった。そのときは、第二臼歯が生えてきていた。だが風邪によって免疫が下がり炎症を起こしていたそうだった。説明を聞いてから薬を炎症しているところにつけてもらった。しかし、それは今までで一番痛いもので驚いた。家までの道中、「だったら行かない方が良かったのではないか」「やっぱり痛い」とずっと思っていた。

でも歯医者さんは痛みや顎関節症のことも詳しく説明してくれた。私は歯科医院というものは検査や治療だけをするところだと思っていたが違っていた。あんなに痛かった歯も薬をつけてもらおうと気づいたころには腫れは引いていた。

私は歯科医院に初めて行き、改めて歯は大切だと思った。今回はしし歯ではなかったものの痛い思いをした。このような思いを歯磨きを欠かさないことで防げるものならば努力していきたい。きれいな歯でお年寄りになっても自分の歯で食事をしたい。また、自分の歯を自分で守るという意識が一人一人にあれば、歯科医院はそれをサポートする役割となり、一人一人がきれいな歯で生きることができると思う。

私は作文の始めに、「歯科医院に対しての印象は痛い」だったと書いた。でも今は違う。口の健康を守ってくれる、警察のようだと思う。私がまだ歯の痛さを知らず、歯科医院に行けていなかったら歯の大切さと共に歯科医院の重要さに気づけていなかっただろう。今はコンビニエンスストアよりも多いといわれる歯科医院。私たちの歯と口の安全を守ろうとしてくれていると思えばこれまでの私のようなネガティブな印象を与えないのではない。歯科医院は怖くない。私たちがきれいな歯でいられる味方なのだ。

自分に今できることは

豊島区立巣鴨北中学校

1年 杉本 姫麗

歯磨きを真面目にする意味とはなんだろう。今まで私は歯磨きなんて、めんどくさいから適当にやっておけばいいと思っていた。だから、歯ブラシで軽く磨いてフロスもしなくて良いと間違った判断をしていた。

しかし、その考えを覆される出来事が起きた。今まで私は、そのような雑な磨き方をしていても学校で行われていた歯科検診では異常なしだった。だが、私は表の面しか見ていなかった。歯が抜けたときに、抜けた歯をよく見てみると、茶色くくぼんだ穴があった。それを見たときに初めて「むし歯だ。」と絶望した。それは、その後も抜けた歯全てにあった。

それだけではない。学校で行われる歯磨き指導のとき、私はいつも通りに早く終わらせようと歯ブラシを大きく強く当てて磨いていた。すると講師の先生に「だめよ！そんな磨き方じゃ！」と怒られた。言われた瞬間は私のことかと思うほど何のことかさっぱり分からなかった。講師の方やその後自分で調べたことによると、大きく強く磨くのではなく、細かく優しく磨かないと歯垢（プラーク）は取れないそうだ。また、前歯をしっかりと磨けているかのチェックは舌で前歯をなめ、ヌルヌル・ザラザラしていないかを確認することでできるという。フロスを使うなど、まだまだたくさんの注意点があったが、むし歯があったこと、歯磨きがきちんとできていなかったことへの怒り、悲しさ、恥ずかしさ、憤りなどがバネとなって歯磨きをきちんとしようと思えるようになった。

それからの私は、自分でも驚くほど変わった。自分で調べた情報によると、歯磨きは一日三回短

時間で磨くよりも、一日一回ていねいに磨いた方が、歯の汚れを落とすことができるそうだ。しかし、それでは物足りないと思い、より一層、むし歯予防につなげるために、一日三回歯磨きをし、その内の一回は必ずていねいに磨くという目標を立てた。初めはなかなか続かず、忘れてしまう日がたくさんあったが、徐々に意識が高まり、続いていくようになった。そうすると、磨くことがゲーム感覚になり、磨いていることが楽しくなった。以前の私には考えられないような進歩だった。努力したことは歯磨きだけではない。食事についても見直しをした。私は食べることが大好きで一日のうちに三食の他にも昼食と夕食の後に間食をしていた。またそのときはビスケットやアイス、果物など糖分が多いものばかり食べていた。間食や甘いものを食べすぎることは歯にとって良いことではない。そのため、昼食後の間食は二日に一回、夕食後の間食はなしにした。当初はこのようなことが自分にできるかと不安でいっぱいだったが、慣れれば二日間間食しなくてもへっちゃらな日もあった。その後中学校での歯科検診ではいつも通り、異常なしだ。私はその結果が嬉しかった。いつものことだがいつも以上に嬉しく、自らの努力が報われたような気がした。このときはもう全ての歯が生え変わっていたため歯の全体を見ることはできなかったが、今もむし歯はないことを願っている。

歯が入れ歯になると、違和感を感じたり、食べ物がおいしく感じなくなったり、ものを噛む力が低下したりと、天然の歯と比べて良いところがない。だから、私は自分の歯で生きていきたい。

歯磨きを真面目にする意味とはなんだろう。それは何十年後かに年をとったときに、どれだけ自分の歯で毎日健康で楽しく過ごせるかに関わってくる。私はこの作文を読んでいる子どもたちに伝えたい。今、歯磨きをしっかり行わないと、何十年後かに後悔するのは自分であると。今の努力が

未来の喜びへと変わる。これからも私は健康な白い歯で、笑顔いっぱいの毎日を過ごしていく。

茜色に染まった空

練馬区立中村中学校
2年 山尾 海

私の曾祖父の猫・空^{そら}は、歯の病気だった。

『野良猫だから、しかたなか』

庭にある空の墓の前で、曾祖父は独り言のようにつぶやいた。

その歯の病気というのは、どんどん歯が使えなくなっていく病気だったらしい。最後は体重が二分の一ほどになり、おかゆのようなやわらかい物しか食べることができなくなっていたという。ある日、曾祖父が出掛け誰もいなかった昼、丸まって亡くなっていた。空手の大会が終わって疲れていた私は空を一目見ることもなく寝てしまった。夜、そのことを知った私は墓の前で静かに涙を流した。空の温もり、灰色と白色の毛、青い首輪は私にとって忘れがたい物だった。

あれから二年。曾祖父は九十一歳になった。今は家の近くの病院に入院している。何歳になっても変わらない、力強い握手に安心した。十二月に、一時年を越せるかどうか危ぶまれた時があったが、その片鱗を少しも見せず笑っていた。

「久しぶり、元気？」

『びんびんしとるけん。大丈夫よ。』

そう言った曾祖父のベッドの横には空の写真が置いてあった。それに気づいたのか、曾祖父は、笑って言った。

『九〇年生きてきたけん。失って大切だったと気付いたものはたくさんある。』

曾祖父は、第二次世界大戦のとき特攻隊で敵の基地に突っこむ二日前に戦争が終わったと言った。長崎に帰ると、そこは一面焼け野原だったそ

うだ。七〇年前は、こんな未来になるとは予想もしていなかった。曾祖父はぼつりと言った。私は、曾祖父が生きていたから生まれたんだな、と思った。今私が持っている日常、この体は、多大な人の歴史の上に成り立っているのだと、幼い私でも、そう考えずにはいられなかった。

『生き物は、誰だって生きるときには病にかかると。しかたんなかときも、自業自得のときもある。それを背負いながら、皆生きてるけんね。』

「限りある命を大切にしろってこと？」

私は数多くの歴史を刻んできたひとみを見つめた。

『海、八〇二〇運動って知ってる？』

突然の問いに、私は四つの数字の意味を探った。腕をくんでだまってしまった私に、曾祖父は笑って言った。

『八〇二〇運動はな、要するに八〇年まで歯を二〇本保つとけばいいというもんよ。』

「それって、けっこう難しいと思うけど。」

私がそう言うと、曾祖父は机にあった空の写真を手を取った。

『誰だって生きてるときゃ、食べ物をお口から入れる。力強い体、骨をつくるためには歯でかんで飲み込む栄養が大事けん。』

私は、いつも睡魔と戦いながら歯をみがいていることを思い出した。

「あなたは歯肉炎なんだから、どれだけ眠くても直さないと歯が抜け落ちるわよ。」

うるさいと思っていた母の言葉はとても大切なことだった。

『空は、病気があっても生き抜いたよ。自分たちは、空の分まで病気せず、あと一〇年は生きる事だと思っけん。』

そう言った曾祖父は今ではもう数える程しかない歯を見せて軽快に笑った。いつのまにか茜色に染まった空に、猫の泣き声が響きわたったような気がした。

平成30年度「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」入賞者

〈保育所・こども園・幼稚園の部 図画・ポスター〉

順位	氏 名	学 校 名	年 齢
1位	鶴 代 叶 夢	私立玉川学園幼稚部	年中4歳
2位	野 地 美 緒	私立愛育幼稚園	年中5歳
2位	齊 藤 涼 音	葛飾区亀が岡保育園	年長6歳
3位	小 橋 奏 太	港区たまち保育室	年長5歳
3位	江 口 圭 太	江東区立もみじ幼稚園	年長5歳
3位	丸 田 彩 乃	私立聖母の騎士幼稚園	年長5歳
佳作	湯 悉 萌	私立二番町ちとせ保育園	年長5歳
〃	青 井 圭 佑	私立二番町ちとせ保育園	年長5歳
〃	佐 野 由珠果	品川区立東中延保育園	年長5歳
〃	川 瀬 優 月	荒川区立汐入こども園	年長5歳

〈小学校低学年の部 図画・ポスター〉

順位	氏 名	学 校 名	学 年
1位	山 脇 宙 桜	世田谷区立代沢小学校	3
2位	江 澤 栞 怜	港区立白金の丘小学校	3
2位	薬王寺 歌 葉	品川区立第二延山小学校	3
3位	土 谷 い り	世田谷区立深沢小学校	2
3位	田 村 羽舞姫	江戸川区立東葛西小学校	3
3位	江 頭 ひまり	多摩市立東落合小学校	3
佳作	蓮 見 優 空	千代田区立九段小学校	3
〃	瀧 上 賀 恵	千代田区立千代田小学校	3
〃	山 崎 蓮	中央区立阪本小学校	3
〃	渡 邊 真 帆	中央区立明正小学校	3
〃	地 引 颯 馬	港区立赤坂小学校	2
〃	谷 合 累	新宿区立余丁町小学校	3
〃	高 村 玲 音	新宿区立落合第四小学校	2
〃	諏 訪 良 太	文京区立礪川小学校	3
〃	横 田 陸 杜	台東区立浅草小学校	2
〃	柏 原 英 司	台東区立平成小学校	2
〃	吉 田 陽 香	墨田区立錦糸小学校	1
〃	森 本 香 凜	墨田区立八広小学校	3
〃	島 津 歌 七	江東区立明治小学校	3
〃	安 東 ありす	品川区立第三日野小学校	3
〃	藤 原 周 平	目黒区立不動小学校	3
〃	松 村 和 瑚	大田区立入新井第四小学校	3
〃	北 島 ちひろ	渋谷区立猿楽小学校	3
〃	塩 川 翔 子	杉並区立大宮小学校	3
〃	中 村 優 芽	豊島区立目白小学校	3
〃	前 田 貴華人	北区立王子第一小学校	3
〃	光 山 あいか	荒川区立瑞光小学校	3

順位	氏 名	学 校 名	学 年
佳作	小 畑 仁 寧	板橋区立向原小学校	3
〃	高 野 杏	練馬区立光が丘春の風小学校	3
〃	岡 田 奈 桜	足立区立長門小学校	3
〃	木 村 泰 雅	葛飾区立葛飾小学校	2
〃	古 里 心ノ華	八王子市立加住小中学校小学部学校	1
〃	井 口 柑 奈	武蔵野市立第四小学校	1
〃	木 村 眞	三鷹市立第三小学校	1
〃	五十嵐 真 夢	府中市立南白糸台小学校	3
〃	圓 谷 琴 羽	昭島市立成隣小学校	3
〃	秋 元 羽 葉	調布市立若葉小学校	3
〃	城 所 杏 莉	町田市立南成瀬小学校	2
〃	小 町 彩 寧	小金井市立緑小学校	3
〃	杉 村 結 衣	小平市立小平第二小学校	3
〃	境 彩 羽	東村山市立化成小学校	3
〃	池 本 友 唯	東大和市立第十小学校	2
〃	寺 村 美 輝	清瀬市立芝山小学校	3
〃	宇 貫 哲 史	東久留米市立第二小学校	3
〃	児 玉 未 咲	武蔵村山市立第三小学校	3
〃	岩 永 樹 凜	瑞穂町立瑞穂第三小学校	3
〃	松 林 浩太郎	小笠原村立小笠原小学校	2

〈小学校高学年の部 図画・ポスター〉

順位	氏 名	学 校 名	学 年
1 位	來 栖 仙之介	文京区立礪川小学校	5
2 位	恒 吉 省 吾	世田谷区立池之上小学校	6
2 位	國 吉 美 涼	小金井市立前原小学校	5
3 位	藤 乗 有 輝	品川区立御殿山小学校	5
3 位	徳 永 ゆ り	江戸川区立第二葛西小学校	5
3 位	高 橋 杏 南	武蔵村山市立第九小学校	5
佳作	光 山 京 那	中央区立阪本小学校	4
〃	添 田 琴 子	中央区立城東小学校	6
〃	茅田 ロミオ 金之助	港区立東町小学校	4
〃	野 地 眞 緒	港区立白金小学校	4
〃	三箇島 沙 良	新宿区立津久戸小学校	5
〃	櫻 井 凱 英	新宿区立落合第一小学校	6
〃	田 村 亮 祐	台東区立富士小学校	4
〃	鈴 木 脩 斗	台東区立大正小学校	6
〃	木 島 航 平	墨田区立二葉小学校	5
〃	森 田 愛 菜	墨田区立第三吾嬬小学校	6
〃	本 田 彩 瑛	江東区立第二大島小学校	6
〃	吉 崎 み く	品川区立大原小学校	6
〃	渡 邊 琴 子	大田区立小池小学校	5
〃	林 夏 央	世田谷区立等々力小学校	5

順位	氏 名	学 校 名	学 年
佳作	伊 東 京 花	渋谷区立猿楽小学校	6
〃	北 原 周太郎	杉並区立西田小学校	4
〃	佐久川 政 海	豊島区立要小学校	4
〃	橋 本 麻 央	北区立王子第一小学校	6
〃	橋 本 実 歩	北区立西ヶ原小学校	6
〃	中 澤 悠 吾	荒川区立尾久宮前小学校	5
〃	佐 藤 葵	板橋区立向原小学校	4
〃	高 野 桜 桃	練馬区立光が丘春の風小学校	6
〃	松 野 花 保	足立区立梅島第一小学校	4
〃	佐々木 陽 斗	葛飾区立二上小学校	6
〃	新 堀 優 衣	八王子市立横山第二小学校	6
〃	水 野 谷 凜	武蔵野市立第一小学校	6
〃	阿 部 日葉子	三鷹市立東台小学校	5
〃	宮 田 亜 衣	府中市立住吉小学校	6
〃	須 磨 諒 珈	調布市立若葉小学校	5
〃	岩 見 怜 泉	町田市立成瀬台小学校	6
〃	小 林 穂 波	小平市立小平第三小学校	4
〃	久 野 実 花	東村山市立化成小学校	6
〃	平 坂 朱 梨	狛江市立狛江第一小学校	5
〃	内 山 瑠 唯	東大和市立第二小学校	5
〃	吉 村 心 葵	清瀬市立芝山小学校	4
〃	松 尾 叶 芽	東久留米市立第六小学校	6
〃	小 隈 花 恵	多摩市立聖ヶ丘小学校	6
〃	小 林 花 琳	稲城市立稲城第四小学校	6
〃	矢 作 愛 菜	瑞穂町立瑞穂第三小学校	4

〈中学校の部 ポスター〉

順位	氏 名	学 校 名	学 年
1 位	芥 川 瑠 花	清瀬市立清瀬第二中学校	3
2 位	松 村 芽 紅	中央区立日本橋中学校	3
2 位	林 優 花	小金井市立小金井第一中学校	2
3 位	佐 藤 菜 絵	墨田区立堅川中学校	3
3 位	星 遥 華	江東区立亀戸中学校	2
3 位	関 和 小 菊	大田区立雪谷中学校	3
佳作	三 浦 千 華	中央区立晴海中学校	2
〃	三 神 レ ラ	港区立青山中学校	1
〃	林 英 資	文京区立音羽中学校	2
〃	石 田 桃 葉	台東区立御徒町台東中学校	2
〃	小野原 光 彩	墨田区立吾嬬立花中学校	1
〃	川 崎 伊 織	品川区立小中一貫校荏原第六中学校	3
〃	東 桜 子	品川区立小中一貫校伊藤学園	3
〃	清 水 美 波	渋谷区立渋谷本町学園（小中一貫校）	3
〃	重栖舞 クリスティナ	豊島区立巣鴨北中学校	2

順位	氏 名	学 校 名	学 年
佳作	迫 田 凜	荒川区立第七中学校	1
〃	松 尾 真 希	板橋区立中台中学校	2
〃	茂 田 里 夏	練馬区立八坂中学校	2
〃	河 野 桃 果	葛飾区立四ツ木中学校	2
〃	石 崎 優 衣	江戸川区立小松川第一中学校	1
〃	白 須 麻 優	東京都立南多摩中等教育学校	3
〃	田 中 美紗希	武蔵野市立第六中学校	3
〃	加 藤 里 穂	府中市立府中第四中学校	3
〃	樽 井 ことみ	調布市立第五中学校	3
〃	渡 辺 茜 里	小平市立小平第三中学校	3
〃	山 口 寿々音	東村山市立東村山第四中学校	2
〃	新 井 紅 緒	国分寺市立第四中学校	1
〃	岩 坂 梨 乃	狛江市立狛江第一中学校	2
〃	山 田 健 太	武蔵村山市立第三中学校	2
〃	吉 田 新之助	多摩市立聖ヶ丘中学校	2
〃	岸 口 珠 姫	瑞穂町立瑞穂第二中学校	1
〃	黒 米 未菜海	大島町立第一中学校	2
〃	川 島 信 元	大島町立第一中学校	2

〈高等学校の部 ポスター〉

順位	氏 名	学 校 名	学 年
1 位	佐 藤 ふぶき	東京都立六郷工科高等学校	高 2
2 位	室 田 麗 奈	東京都立府中高等学校	高 2
3 位	長 沼 瑞 紀	東京都立豊島高等学校	高 2
3 位	東 樹 理	東京都立練馬工業高等学校	高 2

〈特別支援学校の部 図画・ポスター〉

順位	氏 名	学 校 名	学 年
1 位	林 灘	東京都立王子特別支援学校	高等部3年生
2 位	堀 江 義 也	東京都港区立本村小学校	5 年生
2 位	石 田 麻 美	東京都立南大沢学園	3 年 5 組
3 位	廣 田 准	東京都立小金井特別支援学校	小学部1年生
3 位	與 猶 柊 心	東京都立小平特別支援学校（ブルーグループ）	小学部6年2組
3 位	椋 田 心 優	東京都東大和市立第三小学校	5 学年

平成30年度「歯・口の健康啓発標語コンクール」応募者

標 語	学 校 名	氏 名	学年
歯みがきは 奥歯も前歯も しっかりと	港区立白金小学校	安 藤 駿	小6
はみがきは えがおをうみだす きゅうせいしゅ	江東区立東陽小学校	中 沢 彰	小5
歯みがきで 今も未来も きれいな歯	目黒区立緑ヶ丘小学校	田 中 心	小6
○ きれいな歯 百年いっしょの パートナー	杉並区立大宮小学校	渡 部 純太郎	小5
みがこうよ 明日のために 未来のために	葛飾区立奥戸小学校	上 田 拓 海	小6
いつまでも 一緒に暮らす 大事な歯	府中市立本宿小学校	中 島 裕 貴	小6
かがやく歯は、笑顔の太陽	調布市立杉森小学校	中 山 莉 緒	小4
自分の歯 一生の宝 大切に	小金井市立前原小学校	三 橋 佳 菜	小6
真っ白な 歯を見せにっこり 笑おうよ	小平市立小平第十五小学校	田 實 麻 有	小6
はみがきは みらいにのこす パートナー	東大和市立第八小学校	高 橋 美 華	小1
歯みがきで むし歯 No!No! きれいな歯	多摩市立瓜生小学校	磯 崎 灯	小6
守ろうよ 死ぬまでつかう 大事な歯	奥多摩町立氷川小学校	築 館 舞 桜	小4
大人の歯 一生使うぞ シャカシャカシャカ	神津島村立神津小学校	土 谷 菜 月	小5
むし歯ゼロ、今だけでなく、この先も	港区立青山中学校	五十嵐 ひ な	中2
歯並びを なおす価値あり 笑顔増す	品川区立小中一貫校 荏原平塚学園	須 藤 亮太朗	中3
歯みがきは 自分のための 三分間	荒川区立第七中学校	大 湖 葵	中1
自分の歯は自分で守ろう！	江戸川区立小松川第一中学校	森 さくら	中1
自分の歯 生まれた時から 宝物	武蔵村山市立第三中学校	野 口 茉 歩	中3
歯みがきで 笑顔と 健康 守ろうよ	稲城市立第四中学校	小 泉 彩 和	中1
歯は一生のパートナー 大切にしていますか？	東京都立府中高等学校	室 田 麗 奈	高2

○東京都学校歯科医会会長賞

平成29年度収支決算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
特定資産運用収入	[3,000]	[2,748]	[252]	
特定資産利息収入	3,000	2,748	252	運営基金積立預金利息等
会費収入	[51,800,000]	[51,725,000]	[75,000]	
正会員会費収入	51,775,000	51,725,000	50,000	25,000円×2,069人
賛助会員会費収入	25,000	0	25,000	
事業収入	[400,000]	[400,000]	[0]	
都学保受託収入	400,000	400,000	0	ブロック別研修会
補助金等収入	[1,018,400]	[1,017,600]	[800]	
都歯助成金収入	30,000	30,000	0	
日学歯交付金収入	828,400	827,600	800	400円×2,069人
日学歯助成金収入	100,000	100,000	0	
都学保助成金収入	60,000	60,000	0	学校保健(学校歯科医)研修会
雑 収 入	[451,000]	[446,063]	[4,937]	
受取利息収入	1,000	163	837	普通預金利息等
雑 収 入	450,000	445,900	4,100	広告収入及び冊子収入等
事業活動収入計	53,672,400	53,591,411	80,989	
2 事業活動支出				
事業費支出	[29,137,293]	[27,836,624]	[1,300,669]	
普及事業費支出	(8,930,000)	(8,469,961)	(460,039)	
優良校表彰費支出	650,000	671,108	△21,108	
作文図画ポスター 関係費支出	1,200,000	1,215,228	△15,228	
島嶼特別支援対策費 支出	400,000	256,012	143,988	大島学校歯科保健支援等
会誌広報費支出	5,500,000	5,255,181	244,819	広報、ホームページメンテナンス等
功労者表彰費支出	530,000	539,220	△9,220	記念品、退職者賞状
歯科保健広報費支出	500,000	500,690	△690	ポスター作成等
教材費支出	100,000	32,522	67,478	書籍等購入
雑 支 出	50,000	0	50,000	
研究事業費支出	(12,694,800)	(12,694,800)	(0)	
大会費支出	5,000,000	4,918,304	81,696	第52回都学歯大会
講習会費支出	460,000	263,340	196,660	学校保健(学校歯科医)研修会等
ブロック別研修費支出	700,000	768,824	△68,824	
各種大会参加費支出	1,786,000	1,635,898	150,102	全国学校歯科保健研究大会等
地区交付金支出	2,071,000	2,047,000	24,000	1,000円×2,047人

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
負担金支出	130,000	100,554	29,446	健康づくりフォーラム等
雑給与支出	{ 2,304,000 213,800	2,956,540	△ 438,740	
雑 支 出	30,000	4,340	25,660	
調査研究事業費支出	(6,460,000)	(5,619,370)	(840,630)	
活動費支出	1,850,000	1,229,826	620,174	ブロック支援・推進校支援等
学研究費支出	1,560,000	2,071,802	△ 511,802	学校歯科医の資料教材作成等
渉外費支出	3,000,000	2,301,742	698,258	
雑 支 出	50,000	16,000	34,000	
その他の目的達成 事業費支出	(1,052,493)	(1,052,493)	(0)	
その他の目的達成 事業費支出	{ 908,000 144,493	1,052,493	0	各種委員会等
管理費支出	[27,368,000]	[25,853,510]	[1,514,490]	
役員報酬支出	2,520,000	2,160,000	360,000	役員18名
実費弁償支出	1,600,000	1,044,000	556,000	
給料手当支出	10,570,000	10,450,970	119,030	職員2名
福利厚生費支出	1,800,000	1,592,671	207,329	社会保険料等
会議費支出	450,000	325,509	124,491	役員会、総会、代議員会
旅費交通費支出	3,138,000	2,943,840	194,160	役員会、総会、代議員会等
通信運搬費支出	900,000	882,387	17,613	
消耗什器備品費支出	150,000	184,582	△34,582	
消耗品費支出	250,000	203,022	46,978	文房具等
修繕費支出	100,000	96,120	3,880	
賃借料支出	1,920,000	2,130,050	△210,050	コピー機等リース代
印刷製本費支出	400,000	355,908	44,092	代議員会資料等
共益費支出	350,000	346,032	3,968	
慶弔費支出	150,000	164,560	△14,560	香典代、生花代
諸謝金支出	980,000	923,948	56,052	税理士法人顧問料等
租税公課支出	70,000	70,000	0	都民税（均等割）
役員退職金支出	1,800,000	1,800,000	0	
雑 支 出	220,000	179,911	40,089	振込手数料等
事業活動支出計	56,505,293	53,690,134	2,815,159	
事業活動収支差額	△2,832,893	△98,723	△2,734,170	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
特定資産取崩収入	[1,800,000]	[1,800,000]	[0]	
役員慰労退職引当 資産取崩収入	1,800,000	1,800,000	0	
投資活動収入計	1,800,000	1,800,000	0	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
2 投資活動支出				役員18名
特定資産取得支出	[2,437,460]	[2,437,460]	[0]	
退職給付引当資産取得支出	837,460	837,460	0	
特別事業積立資産取得支出	500,000	500,000	0	
役員退職慰労引当資産取得支出	1,100,000	1,100,000	0	
投資活動支出計	2,437,460	2,437,460	0	
投資活動収支差額	△637,460	△637,460	0	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ 予備費支出	[539,411 △358,293]	[-]	[181,118]	
当期収支差額	△3,651,471	△736,183	△2,915,288	
前期繰越収支差額	3,651,471	5,030,530	△1,379,059	
次期繰越収支差額	0	4,294,347	△4,294,347	

平成30年度収支予算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科 目	30年度予算	29年度予算	差 異	備 考
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入	(3,000)	(3,000)	(0)	
特定資産利息収入	3,000	3,000	0	預金利息
②会費収入	(51,750,000)	(51,800,000)	(△ 50,000)	
正会員会費収入	51,725,000	51,775,000	△ 50,000	25,000円×2,069名
賛助会員会費収入	25,000	25,000	0	
③事業収入	(400,000)	(400,000)	(0)	
都学保受託収入	400,000	400,000	0	ブロック別研修会分
④補助金等収入	(917,600)	(1,018,400)	(△ 100,800)	
都歯助成金収入	30,000	30,000	0	
日学歯交付金収入	827,600	828,400	△ 800	400円×2,069名
日学歯助成金収入	0	100,000	△ 100,000	隔年支給
都学保助成金収入	60,000	60,000	0	学校歯科医研修会分
⑤雑 収 入	(451,000)	(451,000)	(0)	
受取利息収入	1,000	1,000	0	預金利息
雑 収 入	450,000	450,000	0	広告収入他
事業活動収入計	53,521,600	53,672,400	△ 150,800	
2. 事業活動支出				
(1)事業費支出	(41,008,000)	(28,779,000)	(12,229,000)	
①普及事業費支出	(8,315,000)	(8,930,000)	(△ 615,000)	
優良校表彰費支出	650,000	650,000	0	
作文図画ポ関係費支出	1,200,000	1,200,000	0	図画ポ事業(大会にて表彰)
島嶼支援対策費支出	400,000	400,000	0	島嶼学校へ普及啓発
会誌広報費支出	4,885,000	5,500,000	△ 615,000	
功労者表彰費支出	530,000	530,000	0	記念品・退職者賞状・東京都学校歯科保健功労者
歯科保健広報費支出	500,000	500,000	0	ポスター作成等
教材費支出	100,000	100,000	0	本・DVD・CD 購入
雑 支 出	50,000	50,000	0	
②研究事業費支出	(23,189,000)	(12,481,000)	(10,708,000)	
大会費支出	5,000,000	5,000,000	0	第53回都学歯大会
周年記念事業費支出	10,000,000	0	10,000,000	
講習会費支出	770,000	460,000	310,000	学校保健(学校歯科医)研修会
ブロック別研修会費支出	700,000	700,000	0	
各種大会参加費支出	1,730,000	1,786,000	△ 56,000	
地区交付金支出	2,069,000	2,071,000	△ 2,000	1,000円×2,069名

科 目	30年度予算	29年度予算	差 異	備 考
負担金支出	130,000	130,000	0	都庁健康フォーラム・日学保 パート職員
雑給与支出	2,760,000	2,304,000	456,000	
雑 支 出	30,000	30,000	0	
③調査研究事業費支出	(8,668,000)	(6,460,000)	(2,208,000)	ブロック支援・教材資料作成等 学術研究委員会 冊子発行
活動費支出	1,850,000	1,850,000	0	
学術研究事業費支出	3,768,000	1,560,000	2,208,000	
渉外費支出	3,000,000	3,000,000	0	
雑 支 出	50,000	50,000	0	
④その他の目的達成 事業費支出	(836,000)	(908,000)	(△ 72,000)	各種委員会費用
その他の目的達成 事業費支出	836,000	908,000	△ 72,000	
(2)管理費支出	(25,968,000)	(27,368,000)	(△ 1,400,000)	役員22名→18名
役員報酬支出	2,160,000	2,520,000	△ 360,000	
費用弁償費支出	1,600,000	1,600,000	0	正職員 2 名
給料手当支出	10,860,000	10,570,000	290,000	
福利厚生費支出	1,920,000	1,800,000	120,000	115,344円×12ヶ月(都歯) サーバー・ネットセキュリティ1台
会議費支出	450,000	450,000	0	
旅費交通費支出	2,850,000	3,138,000	△ 288,000	役員退職慰労金(隔年)18名 28,836円×12ヶ月(都歯)
通信運搬費支出	900,000	900,000	0	
消耗什器備品費支出	100,000	150,000	△ 50,000	税理士法人顧問料・公益法 人設立費用他
消耗品費支出	250,000	250,000	0	
修繕費支出	100,000	100,000	0	都民税(法人都民税)
賃借料支出	1,900,000	1,920,000	△ 20,000	
印刷製本費支出	400,000	400,000	0	振り込み手数料他 役員賠償保険
役員退職金支出	0	1,800,000	△ 1,800,000	
共益費支出	350,000	350,000	0	都民税(法人都民税)
慶弔費支出	150,000	150,000	0	
諸謝金支出	1,738,000	980,000	758,000	振り込み手数料他 役員賠償保険
租税公課支出	70,000	70,000	0	
雑 支 出	170,000	220,000	△ 50,000	
事業活動支出計	66,976,000	56,147,000	10,829,000	
事業活動収支差額	△13,454,400	△ 2,474,600	△10,979,800	
Ⅱ. 投資活動収支の部			0	
1. 投資活動収入			0	
特定資産取崩収入			0	
運営基金引当資産 取崩収入	2,000,000	0	2,000,000	

科 目	30年度予算	29年度予算	差 異	備 考
学術研究引当資産 取崩収入	2,500,000	0	2,500,000	役員22名→18名
特別事業積立基金 取崩収入	10,000,000	0	10,000,000	
役員退職慰労金 引当資産取崩収入	0	1,800,000	△ 1,800,000	
投資活動収入計	14,500,000	1,800,000	0	
2. 投資活動支出				
退職給付引当資産 取得支出	1,073,320	837,460	235,860	
役員退職慰労金 引当資産取得支出	900,000	1,100,000	△ 200,000	
学術研究引当資産 取得支出	0	0	0	
運営基金引当資産 取得支出	0	0	0	
名簿作成引当資産 取得支出	0	0	0	
特別事業積立基金 取得支出	0	500,000	△ 500,000	
投資活動支出計	1,973,320		2,437,460	
投資活動収支差額	12,526,680		△ 637,460	
Ⅲ. 財務活動収支の部	13,164,140			
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ. 予備費支出	451,339	539,411	△ 88,072	
当期収支差額	△ 1,379,059	△ 3,651,471	2,272,412	
前期繰越収支差額	1,379,059	3,651,471	△ 2,272,412	
次期繰越収支差額	0	0	0	

編集後記

東京都学校歯科医会創立70周年・法人化40周年記念大会・祝賀会、末高執行部一丸のもと成功裡のうちに終わり、おめでとうございます。特別講演・式典・祝賀会等すべてが記憶に残る1日でした。

明治39年文部省は学校歯科医法を公布、大正7年東京市内9か所で学童歯牙検診がおこなわれ、昭和2年6月「東京市学校歯科医会」設立総会が開催されました。先人達のご尽力による経時的経緯のもと、一般社団法人東京都学校歯科医会が輝いております。

「To have smooth sailing」

(委員長 草柳英二)

10年に一度の記念式典が無事に終了し、関係の皆様ご苦勞様でした。この次の10年後、日本又世界はどのような状態でしょうか。空飛ぶタクシーが、もうじきできると聞いていますが、便利が本当に良いのでしょうか。楽しみな反面怖い感じもあります。日本では、人の寿命が伸びていますが、人が暮らしていく地球の寿命は、短くなっているような気がします。とにかく、10年後、平和な日本で元気にいたいものです。

(委員長代理 氷見育夫)

このたび、光栄にも創立70周年記念誌の編集に関わらせていただくことができました。作業の中で、過去の記念誌を振り返り、その歴史と業績の重みを感じる一方で、10周年ごとの成果と成長に、先輩諸先生方のご尽力の集大成を拝見しました。とくに今回、スマホ対応ページの開設は、東京都学校歯科医会の公益法人化と合わせて、私たち学校歯科医の活動の周知はもちろんのこと、その社会貢献活動の成功に、一層の弾みをつけるものと思われま。次号記念誌はいよいよペーパーレスかもしれません。10年後が楽しみです。

(柘植琢磨)

東京都学校歯科医会創立70周年記念号に各地区から多数の原稿が寄せられました。校正作業を通して各地区で様々な創意工夫にあふれた取り組みがなされ、児童・生徒の歯科保健向上に尽くされている事に触れ自然と頭が下がりました。

私事ですが昨秋に入院して手術を受け、広報委員会も何回か欠席しご迷惑をおかけしました。会員の皆様のご健康に留意されて子供たちの為に思う存分ご活躍頂けるよう願っています。

(河奈文彦)

昭和23年、東京都学校歯科医会が創立されて、70年という長い年月が経過し、今回の70周年記念誌の発刊となりました。この間に多くの学校歯科医会先輩諸先生方の日々のたゆみない努力により、「平成30年度 12歳 DMF 指標0.74」という素晴らしい成果をあげました。記念誌の編集に関わる事により先輩諸先生方の様々な活動を知り得た事は、私にとって大変有意義な経験となりました。

(黒岩 一)

広報委員を任命されて、2回目の編集後記。地区の学校歯科医の執務の中では、経験できないことを体験させていただきました。昨年度のアジア大会、今年度の沖縄全国大会では、多くの先生と同じ時間を共有できたことは、有意義でした。特に第53回東京都学校歯科保健研究大会、創立70周年・法人化40周年記念式典・祝賀会の記念誌の編集は、委員長をはじめ、広報委員の先輩たちの記念誌にかける情熱に熱いものを感じました。写真の撮る内容・構図は多岐にわたり、皆さんにやっとなついていく状態でした。残りの任期を全うできるように祈るばかりの今日この頃です。

(矢野 章)

広報担当理事として四年、ホームページのスマホ対応で見やすくなりましたでしょうか？ 広報、会誌も優秀な委員各位の意見や記事で少しずつ読みやすくなってきていると思います。皆様の投稿、ご意見お待ちしております。

(担当理事 奥野圭子)

東京都学校歯科医会会誌第82号

創立70周年・法人化40周年記念特別号

平成31年3月 発行

発行者 末 高 英 世

発行所 一般社団法人 東京都学校歯科医会

東京都千代田区九段北4-1-20

電話 03 (3261) 1675

FAX 03 (3222) 6528

印刷所 一世印刷株式会社

東京都新宿区下落合2-6-22

電話 03 (3952) 5651

FAX 03 (3953) 7751